



Agile Product Lifecycle Management

Product Collaboration ユーザー・ガイド

v9.2.2.3

部品番号 E06153-01

2008 年 5 月

著作権および商標について

Copyright © 1995, 2008, Oracle. All rights reserved.

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社には所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空、大量輸送、医療あるいはその他の本質的に危険を伴うアプリケーションで使用されることを意図しておりません。このプログラムをかかえる目的で使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、Agile は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の登録商標です。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

目次

著作権および商標について	ii
アイテム	1
アイテム オブジェクト	1
ライフサイクル フェーズ	3
[タイトル ブロック] タブ	3
[変更] タブ	5
[BOM] タブ	5
[製造元] タブ	9
[拠点] タブ	10
[価格] タブ	10
[品質] タブ	10
[適合性] タブ	10
[サプライヤ] タブ	11
[関係] タブ	11
[添付ファイル] タブ	11
[履歴] タブ	12
アイテムのリビジョンを処理する	12
他のリビジョンを表示する	13
初版リビジョン	13
空白のリビジョン	14
リビジョン リストの機能	14
リビジョンと添付ファイルの機能	14
リビジョン リストおよび拠点リストの決定方法	16
保留中のリビジョンを処理する	16
保留中のリビジョンの添付ファイル	16
Agile アイテムを作成する	18
Java クライアントでアイテムを作成する	18
Web クライアントでアイテムを作成する	19
[名前を付けて保存] を使用してアイテムを作成する	20
追加コマンドでアイテムを作成する	21
Agile オブジェクトを削除する	22
Agile アイテムを編集する	26

未リリース アイテムを編集する	26
リリース済みアイテムを編集する	27
アイテムのサブクラスを変更する	28
Agile アイテムをリリースする	28
アイテムを未リリースにする	29
アイテムを確定する、未確定にする	29
ファイル フォルダと添付ファイルの概要	30
確定の概要	30
アイテムを事前確定する	31
アイテムを確定する	31
アイテムを未確定にする	31
[使用箇所] タブ	32
拠点と [使用箇所] タブ	33
アイテムのタブを印刷する	33
拠点および分散型製造	35
拠点とは	35
拠点の使用方法	36
拠点ごとに異なる AML	36
拠点ごとに異なる BOM	36
拠点ごとに異なる有効日および対応策	37
拠点の機能	37
BOM および AML 上の拠点情報	37
アイテムの [拠点] タブ	37
変更と拠点	38
拠点へのアクセスを管理する	38
BOM/AML の共通セクション	38
拠点に関する記載箇所	38
拠点オブジェクト	39
[一般情報] タブ - 拠点	40
[添付ファイル] タブ	42
[履歴] タブ	43
拠点を作成する	43
製造拠点を作成する	44
[名前を付けて保存] 機能を使用して拠点を作成する	44
拠点をアイテムに関連付ける	44
[拠点] タブのフィールド	44
[拠点] タブに拠点を追加する	45
[拠点] タブから拠点を削除する	46
拠点オブジェクトを削除する	46

拠点を編集する.....	46
拠点を印刷する.....	47
製造オブジェクト.....	49
Agile AML とは.....	49
Agile AML の機能.....	49
製造オブジェクトについて.....	50
Agile AML における多対一の関係.....	50
拠点と AML データ.....	51
製造データを設定する.....	51
製造オブジェクト: 製造元と製造元部品.....	52
製造オブジェクトのタブ.....	52
製造元について.....	54
製造元部品について.....	55
製造オブジェクトを作成および管理する.....	56
製造元を作成する.....	56
[名前を付けて保存] 機能を使用して製造元を作成する.....	57
製造元部品を作成する.....	58
[名前を付けて保存] 機能を使用して製造元部品を作成する.....	62
製造オブジェクトを変更する.....	64
製造オブジェクトを削除する.....	64
アイテムの [製造元] タブ.....	65
[製造元] タブのボタン.....	65
[製造元] タブのフィールド.....	65
拠点ごとに AML 情報を表示する.....	66
製造元部品を対応するアイテムに関連付ける.....	66
製造元オブジェクトを使用する際の重要な注意事項.....	67
プレリミナリ アイテムの製造データを使用する.....	67
[製造元] タブに製造元部品を追加する.....	67
[製造元] タブから製造元部品を削除する.....	68
[製造元] タブの製造元部品を変更する.....	69
[レッドライン] タブから製造データを変更する.....	69
製造元データのレッドラインの概要.....	70
[製造元のレッドライン] タブ.....	70
[製造元のレッドライン] タブに製造元部品を追加する.....	72
[レッドライン] タブに存在しない製造元部品を追加する.....	72
[レッドライン] タブから製造元部品を削除する.....	72

[製造元のレッドライン] タブの製造元部品情報を編集する	72
[製造元のレッドライン] テーブルの変更を元に戻す	73
製造オブジェクトと AML を印刷する	74
部品構成表 (BOM)	75
部品構成表 (BOM) について	75
[BOM] タブ	75
Agile 管理者が管理する内容について	76
[BOM] タブのボタン	76
BOM テーブルのフィールド	78
BOM の共通および拠点別の部分	79
拠点ごとに BOM を表示する	80
BOM のアイテムを開く	80
[BOM] タブから部品、アセンブリ、ドキュメントを開く	81
アセンブリを展開、縮小する	81
BOM ジャンプを使用する	82
BOM のリビジョン表示	84
ECO の影響を受けるアイテムの BOM	84
BOM テーブルの変更について	84
プレリナリ アイテムの BOM で拠点別の部分を変更する	85
プレリナリ アイテムの BOM テーブルにアイテムを追加する	85
プレリナリ アイテムの BOM テーブルを変更する	93
アイテムを BOM テーブルから削除する	94
参照指示を使用する	94
参照指示を表示する	94
参照指示を追加する	96
参照指示を削除する	102
参照指示を変更する	103
リリース済みアイテムの BOM をレッドラインする	104
BOM レッドラインの概要	104
[BOM のレッドライン] タブ	104
レッドライン BOM テーブルにアイテムを追加する	105
レッドライン BOM テーブルからアイテムを削除する	106
レッドライン BOM テーブルのアイテム情報を編集する	106
[BOM のレッドライン] テーブルの変更を取り消す	108
BOM データを印刷する	108
変更	109
変更クラス	109
変更サブクラス	109

変更オブジェクト	110
[カバー ページ] タブ	111
[対象アイテム] タブ	114
[ワークフロー] タブ	115
[関係] タブ	117
[添付ファイル] タブ	118
[履歴] タブ	118
ワークフロー ルーティング受信トレイ	120
変更と製造拠点	120
変更によって影響を受ける拠点の情報	121
拠点と ECO	121
拠点と MCO	122
拠点毎変更	122
変更とアイテムのリビジョンとの関係	123
変更を作成する	124
拠点毎変更 (SCO) での名前を付けて保存	124
変更を修正する	124
Agile 変更管理ワークフロー	125
ECO、MCO、SCO によってレッドラインする	125
ECO によってレッドラインする	126
MCO をレッドラインする	126
SCO によってレッドラインする	126
変更を削除する	126
変更の削除を取り消す	126
変更のタブを印刷する	127
ルーティング管理者: 変更分析者とコンポーネント エンジニア	127
変更の対象アイテム	129
[対象アイテム] タブ	129
[対象アイテム] タブのボタン	130
[対象アイテム] タブのフィールド	132
製造拠点別の対象アイテム	136
拠点別の値が許可されるフィールド	136
拠点別の有効日と破棄日	136
ECO (設計変更) または SCO (拠点毎変更) の部品の処分を表示する	137
[対象アイテム] タブにアイテムを追加する	137
対象アイテム追加ウィザードを使用する	137

一括変更を実行する	138
対象アイテム テーブルを使用する	145
ECO (設計変更) に関する特記事項	145
MCO (製造元変更) に関する特記事項	146
SCO (設計変更) に関する特記事項	147
ECR (設計変更依頼) に関する特記事項	148
期限付き設計変更に関する特記事項	148
出荷停止に関する特記事項	149
[対象アイテム] タブからアイテムを削除する	149
[対象アイテム] タブの行を編集する	150
Java クライアントで [対象アイテム] タブの行を編集する	150
Web クライアントで [対象アイテム] タブの行を編集する	152
対象アイテムのレッドラインを表示する	153
製品レポートとプロセス レポートを使用する	155
Agile レポートについて	155
製品レポートとプロセス レポートについて	155
製品レポートとプロセス レポートにアクセスする	156
Agile 製品レポート	157
アセンブリ コスト (アイテム マスター) レポート	157
BOM 比較レポート	159
BOM 展開レポート	160
統合 BOM レポート	161
有効な BOM 展開レポート	163
アイテムの状況レポート	164
アイテム製造元レポート	164
製造元 BOM レポート	165
使用箇所レポート	167
Agile プロセス レポート	168
変更状況レポート	168
変更バックログ レポート	169
変更サイクル時間レポート	171
変更メトリックス レポート	172
変更パッケージ レポート	173
IP 転送レポート	175
パワー ユーザーのためのヘルプ	177
[ディスカバリ] 権限と [読み取り] 権限の詳細について	177
表示不可能なフィールドを表示する	178
部品とドキュメントの区別	178

アイテムのサブクラスを変更する	179
ワークフローの条件基準について	180
BOM 上のリビジョン表示の詳細	182
スマート オブジェクト URL を使用した Agile オブジェクトへの簡易アクセス	183
Agile 生成の簡易アクセス オブジェクト URL	183
ユーザー生成スマート オブジェクト URL のフォーマット	183
簡易アクセス オブジェクト URL を使用する	184

はじめに

Oracle|Agile マニュアル セットには Adobe® Acrobat™ PDF ファイルが含まれます。[Oracle Technology Network \(OTN\) Web サイト](http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html) (<http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html>) には、Oracle|Agile PLM の最新版の PDF ファイルがあります。この Web サイトのマニュアルは、その場で表示することもダウンロードして使用することもできます。また、使用しているネットワーク上の Oracle|Agile マニュアル フォルダに Oracle|Agile マニュアル (PDF) ファイルが格納されている場合もあります。詳細は、Agile 管理者にお問い合わせください。

注意 PDF ファイルを表示するには、Adobe Acrobat Reader™ のバージョン 7.0 以降 (無料) を使用する必要があります。このプログラムは、[Adobe 社の Web サイト](http://www.adobe.com) (<http://www.adobe.com>) からダウンロードできます。

[Oracle Technology Network \(OTN\) Web サイト](http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html) (<http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html>) は、Agile Web クライアントと Agile Java クライアントのいずれの場合も、[ヘルプ]>[マニュアル] の順に選択してアクセスできます。さらに疑問点がある場合やサポートが必要な場合は、[サポート](http://www.oracle.com/agile/support.html) (<http://www.oracle.com/agile/support.html>) にお問い合わせください。

注意 Oracle|Agile PLM マニュアルに関する問題について Agile サポートにお問い合わせいただく前に、タイトル ページにある完全な部品番号をご準備ください。

Oracle サポート サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート サービスへ 24 時間年中無休でテキスト電話 (TTY) アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800) 446-2398 にお電話ください。アメリカ国外からの場合は、+1-407-458-2479 にお電話ください。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

Readme

Oracle|Agile PLM の最新情報は、すべて [Oracle Technology Network \(OTN\) Web サイト](http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html) (<http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html>) にある Readme ファイルに記載されています。

Agile トレーニング支援

Agile トレーニングの講義内容詳細については、[Oracle University Web ページ](http://www.oracle.com/education/chooser/selectcountry_new.html) (http://www.oracle.com/education/chooser/selectcountry_new.html) にアクセスしてください。

ドキュメント内のサンプル コードのアクセシビリティについて

スクリーン リーダーは、ドキュメント内のサンプル コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかしスクリーン リーダーは括弧だけの行を読まない場合があります。

外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

アイテム

扱うトピックは次のとおりです。

■ アイテム オブジェクト	1
■ アイテムのリビジョンを処理する	12
■ Agile アイテムを作成する	18
■ Agile オブジェクトを削除する	22
■ Agile アイテムを編集する	26
■ Agile アイテムをリリースする	28
■ アイテムを確定する、未確定にする	29
■ [使用箇所] タブ	32
■ アイテムのタブを印刷する	33

アイテム オブジェクト

アイテムとは部品またはドキュメントのことです。一般に、ドキュメントが製品の一部として出荷されるか製品に関連するコストがある場合、部品オブジェクトとして作成します。ドキュメントが社内の文書、手順、または参考資料である場合、ドキュメントはドキュメント オブジェクトとして作成します。(場合によっては、ドキュメントを部品として作成するほうが適切な場合もあります。)詳細は、178 ページの「[部品とドキュメントの区別](#)」を参照してください。

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [ライフサイクル フェーズ](#) (3 ページ)
- [\[タイトル ブロック\] タブ](#) (3 ページ)
- [\[変更\] タブ](#) (5 ページ)
- [\[BOM\] タブ](#) (5 ページ)
- [\[製造元\] タブ](#) (9 ページ)
- [\[拠点\] タブ](#) (10 ページ)
- [\[価格\] タブ](#) (10 ページ)
- [\[品質\] タブ](#) (10 ページ)
- [\[適合性\] タブ](#) (10 ページ)
- [\[サプライヤ\] タブ](#) (11 ページ)
- [\[関係\] タブ](#) (11 ページ)
- [\[使用箇所\] タブ](#) (32 ページ)
- [\[添付ファイル\] タブ](#) (11 ページ)
- [\[履歴\] タブ](#) (12 ページ)

アイテムを検索して開くには、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』にある手順に従います。

Java クライアントでアイテムを表示した場合、アイテムについての情報はアイテム ウィンドウ内のタブに表示されます。

Web クライアントでアイテムを表示した場合、アイテムについての情報は右側のウィンドウに表示されます。

次の表に、アイテム タブを表示します。

Agile 管理者はタブやセクションを追加できます。これらは、デフォルトでは [ユーザー定義 1]、[ユーザー定義 2] という名前になっています。これらのタブやセクションには、管理者が定義したカスタム フィールドが含まれています。

アイテム タブ名	タブ情報の内容
[タイトル ブロック] タブ (3 ページ)	アイテムの一般情報、Agile 管理者が定義した固有のクラスおよびサブクラス フィールド
[変更] タブ (5 ページ)	アイテムに対する保留中またはリリース済みの変更
[BOM] タブ (5 ページ)	アイテムの部品構成表 (BOM)
[製造元] タブ (9 ページ)	部品のソースに関する製造元と製造元部品情報
[拠点] タブ (10 ページ)	アイテムを使用する製造拠点
[価格] タブ (10 ページ)	アイテムに関連付けられた価格 Product Cost Management(PCM) の詳細は、『Product Cost Management ユーザー・ガイド』を参照してください。
[品質] タブ (10 ページ)	このアイテムに関連付けられている Product Quality Management (PQM) オブジェクトに関する情報。製品サービス依頼 (PSR) は、そのアイテムに関する PR (問題レポート) または NCR (不具合レポート) です。 PQM の詳細は、『Product Quality Management ユーザー・ガイド』を参照してください。
[適合性] タブ (10 ページ)	アイテムに関連する材料規定の適合性に関する情報です。 Product Governance & Compliance (PG&C) の詳細は、『Agile Product Governance & Compliance ユーザー・ガイド』をご覧ください。 注意: [適合性] タブは Web クライアントでのみ表示されます。Agile PG&C は Web クライアントベース ソリューションです。
[サプライヤ] タブ (11 ページ)	アイテムの承認済みサプライヤに関する情報です。このタブは、PG&C と PCM 両方のソリューションで使用されます。 PG&C の詳細は、『Agile Product Governance & Compliance ユーザー・ガイド』を参照してください。 PCM の詳細は、『Product Cost Management ユーザー・ガイド』を参照してください。 注意: [サプライヤ] タブは Web クライアントでのみ表示されます。Agile PG&C と Agile PCM は Web クライアントベース ソリューションです。

アイテム タブ名	タブ情報の内容
[関係] タブ (11 ページ)	[関係] タブでは、他の Agile オブジェクトとの関係、および現在のアイテム オブジェクトと他の送信可能なオブジェクト間の依存関係を作成できます。 関係の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』のビジネス オブジェクトの使用に関する章を参照してください。
[使用箇所] タブ (32 ページ)	アイテムの使用箇所
[添付ファイル] タブ (11 ページ)	添付図面とファイル
[履歴] タブ (12 ページ)	アイテムに対して実行されたアクション (たとえば添付ファイルの追加/削除)

ライフサイクル フェーズ

アイテムのオブジェクト ウィンドウの右上にあるライフサイクル フェーズ名は、そのアイテムの製造ライフサイクル フェーズを示します。(Agile 管理者が組織用にライフサイクル名をカスタマイズした場合は、異なる名前が表示されることがあります。)

ライフサイクル フェーズ名は、アイテムの [タイトル ブロック] タブの [ライフサイクル フェーズ] フィールドにも表示されます。3 ページの「[\[タイトル ブロック\] タブ](#)」を参照してください。

次の表にデフォルトのライフサイクル フェーズを示します。

ライフサイクル フェーズ名	ライフサイクルの定義
プレリミナリ	アイテムはリリースされていません。保留中の変更が存在する可能性があります。
プロトタイプ	アイテムは試験用として限られた数量だけ組み立てるためにリリースされています。
パイロット	アイテムは限られた初期数量だけ組み立てるためにリリースされています。
製造	アイテムは通常の製造のためにリリースされています。
停止	アイテムは一時的に使用されておらず、再開される可能性があります。
破棄	アイテムは使用されていません。

[タイトル ブロック] タブ

[タイトル ブロック] タブには、一般的な書類でタイトル ブロックに記載されるような情報を入力するフィールドが表示されます。一部のフィールドは自動的に入力されるため、残りを入力します。一部のフィールドの内容は編集できない場合があります。割り当てられている役割と権限によって、編集可能なエントリが決定されます。

アイテムの編集の詳細は、26 ページの「[未リリース アイテムを編集する](#)」と 27 ページの「[リリース済みアイテムを編集する](#)」を参照してください。

[タイトル ブロック] フィールドの詳細は、4 ページの「[\[タイトル ブロック\] タブのフィールド](#)」を参照してください。

[タイトル ブロック] タブのフィールド

デフォルトでは、アイテム オブジェクトの [タイトル ブロック] タブには次の表に示すフィールドが含まれます。Agile 管理者は [タイトル ブロック] タブで使用可能および表示可能にするフィールドを決定します。

Web クライアントでは、[タイトル ブロック] に [ユーザー定義 1] と [ユーザー定義 2] と呼ばれるセクションをデフォルトで追加することができます。Java クライアントでは、これらは別々のタブとなります。Agile 管理者はカスタム クラス フィールドを [ユーザー定義 1] セクションに追加したり、顧客のサブクラス フィールドを [ユーザー定義 2] セクションに追加できます。Agile 管理者は、これらのセクションを有効化するかどうか、何と呼ぶかを決定します。

フィールド	定義
番号	アイテムの番号です。アイテムが作成されると入力されます。Agile システムの設定によって、番号が自動生成されるか、ユーザーが番号を入力します。
説明	アイテムを説明するテキストです。デフォルトでは、説明は 240 文字以内で、空白と改行もカウントされます (改行は空白 2 文字としてカウント)。
サイズ	図面のサイズです。リストから選択します。
製品ライン	アイテムが属する製造グループです。リストから選択します。
ライフサイクル フェーズ	「プロトタイプ」、「製造」などの、表示されているリビジョンのアイテムのライフサイクル フェーズです。詳細は、3 ページの「 ライフサイクル フェーズ 」を参照してください。
リビジョン確定日	アイテムが確定された日です。アイテムが確定されると自動的に入力されます。
リビジョン リリース日	アイテムがリリースされた日です。アイテムがリリースされると自動的に入力されます。
部品タイプ	アイテムのサブクラスです。アイテムが作成されると入力されます。Agile システムの設定によって、[部品タイプ] フィールドに自動入力されるか、ユーザーが部品タイプを選択します。詳細は、28 ページの「 アイテムのサブクラスを変更する 」を参照してください。
部品カテゴリ	アイテムを含むカテゴリです。リストから選択します。
有効日	リビジョンが有効になる日付を表示します。この日付は、リビジョンをリリースした変更の [対象アイテム] タブで指定します。122 ページの「 拠点別の有効日と破棄日 」も参照してください。
出荷可能アイテム ロールアップから除外 適合判定日付 部品ファミリ 質量 全体適合性	これらのフィールドは Agile PG&C に関連しています。Product Governance & Compliance (PG&C) の詳細は、『Agile Product Governance & Compliance ユーザー・ガイド』をご覧ください。 また、『Agile 管理者ガイド』と『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』もご覧ください。

[変更] タブ

アイテム オブジェクトの [変更] タブには、表示しているアイテムに関連する変更のリストが 2 つのテーブルに表示されます。このタブの情報は自動的に入力されます。並び替えの条件にする列見出しをクリックすると、テーブルを並び替えることができます。たとえば、説明別に並べ替えるには、[説明] という列の見出しをクリックします。

注意 変更のディスカバリ権限がない場合、その変更は [変更] タブには表示されません。表示されない変更の数を示すメッセージが表示されます。詳細は、177 ページの「[ディスカバリ権限と読み取り権限の詳細について](#)」を参照してください。ディスカバリ権限または読み取り権限について質問がある場合は、Agile 管理者に問い合わせてください。

上の表「保留中の変更」には、中断されている変更を含む保留中の変更が表示されます。下の表「変更履歴」には、リリース済み変更とキャンセル済み変更が表示されます。

[拠点] 欄には、変更の [対象アイテム] タブに入力されている拠点が表示されます。[対象アイテム] タブに複数の拠点が表示されている場合は、変更は拠点ごとに一度表示されます。

注意 名前は類似していますが、[履歴] タブにはアイテムに対して実行されたアクションが表示され、[変更] タブの [変更履歴] テーブルにはアイテムのリリース済み変更とキャンセル済み変更が表示されます。

[変更] タブの変更を開くには

- Java クライアントで、今すぐ変更をダブルクリックします。
- Web クライアントで、変更番号をクリックします。

変更が開き、[カバー ページ] タブが最前面に表示されます。

[BOM] タブ

[BOM] タブでは、部品構成表 (BOM) にあるすべてのアイテムが一覧されます。[BOM] タブの詳細は、75 ページの「[部品構成表 \(BOM\)](#)」を参照してください。

注意 アイテムのディスカバリ権限がない場合、そのアイテムは [BOM] タブに表示されません。表示されないアイテムの数を示すメッセージが表示されます。詳細は、177 ページの「[ディスカバリ権限と読み取り権限の詳細について](#)」を参照してください。

BOM に拠点別アイテムがある場合、共通アイテムと拠点別アイテムと一緒にグループ化されます。共通アイテムが最初にリストされ、共通アイテムの [拠点] 欄は空白となります。拠点別アイテムの [拠点] 欄には、関連する拠点名が表示されます。

注意 新規にアイテムを作成し、そのアイテムが変更の対象アイテムテーブルに追加される前であれば、BOM テーブルを直接編集することができます。6 ページの「[共通 BOM を作成する](#)」および 7 ページの「[拠点別の BOM を作成する](#)」を参照してください。

BOM の共通セクションには、親アイテムが関連付けられているすべての拠点に関連したアイテムが一覧表示されます。BOM の共通セクションは、リビジョン変更でのみ変更することができます。

BOM の拠点セクションには、選択された拠点に固有のアイテムが一覧表示されます。BOM の拠点セクションは、リビジョン変更または SCO (拠点毎変更) でのみ変更することができます。拠点を BOM のセクションに表示させるには、そのサイトが親アイテムに関連付けられていなければなりません。

注意 各拠点到色を割り当てることで、[BOM] タブの拠点セクションをカラー コードすることができます。

すべての拠点のコンポーネントをすべて表示する場合は、[拠点] ドロップダウン メニューから [すべて] を選択します。

[BOM] タブに表示されたアイテムを開くには:

- **Java** クライアントで、今すぐアイテムをダブルクリックします。アイテムが開き、[タイトル ブロック] タブが手前に表示されます。

または、アイテム行を右クリックして [開く] を選択し、タブを選択します。アイテムが開き、選択したタブが最前面に表示されます。
- **Web** クライアントで、アイテム番号をクリックします。アイテムが開き、[タイトル ブロック] タブが手前に表示されます。

共通 BOM を作成する

新規にアイテムを作成し、そのアイテムが変更の対象アイテムテーブルに追加される前であれば、アイテム オブジェクトの BOM テーブルを直接編集することができます。

Java クライアントを使用して共通 BOM を作成するには

アイテムを BOM テーブルに追加するには

1. [BOM] タブで [追加] ドロップダウン メニューをクリックし、BOM へコンポーネントを追加するメニュー オプションを選択します。
2. 選択したメニューに基づき、以下のいずれかを実行します。
 - 検索 - 1 つ以上の既存アイテムを検索します。[BOM を追加] ダイアログ ボックスで、検索方法を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、[検索] をクリックします。さらに、詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、ブックマークや最近開いたアイテム (ショートカット) を選択することもできます。(検索の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。)検索結果で、目的のアイテムを選択し、[拠点] ドロップダウン リストで [共通] を選択し、[OK] をクリックします。[選択されたアイテム] リストのすべてのアイテムは、BOM に追加されます。

注意 選択したアイテムに必要な拠点の関連付けがない場合は、拠点を選択したアイテムに追加するよう求めるメッセージが表示されます。警告を受け入れると、選択したアイテムが **BOM** に追加されます。

- 既知の番号の入力 - 1 つ以上の既存のアイテム番号を入力し、[拠点] ドロップダウン リストで [共通] を選択し、[追加] をクリックします。

注意 存在しない番号を入力してプレースホルダ行を追加することができます。その番号が存在しないというメッセージが表示されたら、警告を受け入れて、プレースホルダ行を **BOM** に追加します。

- 作成 - [タイプ] ドロップダウン リストからタイプを選択します。適切な場合は、オブジェクトの番号を入力し、必須フィールドを完了します。[拠点] ドロップダウン リストで [共通] を選択します。[OK] をクリックします。共通拠点が、新たに作成されたアイテムに自動的に追加されます。

注意 すでにアイテムの [拠点] ドロップダウン リストで [すべて] を選択している場合、[共通] が [検索]、[既知の番号の入力]、または [作成] ダイアログで事前に選択された状態となっています。

Java クライアントを使用して共通 BOM の空の行を作成するには

1. アイテムの [拠点] ドロップダウン リストで [すべて] を選択します。
2. [BOM の追加] メニューで、[空の行の追加] を選択します。

[空の行の追加] の順に選択すると、BOM テーブルに空の行が追加されます。この行は、後で入力することができます。

[拠点] の欄は空白となり、アイテムは BOM に割り当てられたすべての拠点に関連付けられていることを意味します。

Web クライアントを使用して共通 BOM を作成するには

1. [BOM] タブで [追加] ボタンをクリックし、ドロップダウン メニューで、BOM へコンポーネントを追加するメニュー オプションを選択します。
2. 選択したメニューに基づき、以下のいずれかを実行します。
 - 検索 - 1 つ以上の既存アイテムを検索します。[BOM アイテムを追加] ダイアログ ボックスで、検索方法を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、[検索] をクリックします。さらに、詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、ブックマークや最近開いたアイテム (ショートカット) を選択することもできます。(検索の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。) 検索結果で、目的のアイテムを選択し、[拠点の追加] ドロップダウン リストで [共通] を選択し、[OK] をクリックします。[選択されたアイテム] リストのすべてのアイテムは、BOM に追加されます。

注意 選択したアイテムに必要な拠点の関連付けがない場合は、拠点をアイテムに追加するように求めるメッセージが表示されます。警告を受け入れると、選択したアイテムが BOM に追加されます。

- 既知の番号の入力 - 1 つ以上の番号を入力し、[拠点の追加] ドロップダウン リストで [共通] を選択し、[追加] をクリックします。

注意 存在しない番号を入力してプレースホルダ行を追加することができます。その番号が存在しないというメッセージが表示されたら、警告を受け入れて、プレースホルダ行を BOM に追加します。

- 新規作成 - [タイプ] ドロップダウン メニューから、タイプを選択します。適切な場合は、オブジェクトの番号を入力し、必須フィールドを完了します。[拠点の追加] ドロップダウン リストで [共通] を選択し、[OK] をクリックします。共通拠点が、新たに作成されたアイテムに自動的に追加されます。

注意 すでにアイテムの [拠点] ドロップダウン リストで [すべて] を選択している場合、[共通] が [検索]、[既知の番号の入力]、または [新規作成] ダイアログで事前に選択された状態となっています。

Web クライアントを使用して共通 BOM の空の行を作成するには

1. アイテムの [拠点] ドロップダウン リストで [すべて] を選択します。
2. [BOM の追加] メニューで、[空の行] を選択します。

[空の行] の順に選択すると、BOM テーブルに空の行が追加されます。この行は、後で入力することができます。

[拠点] の欄は空白となり、アイテムは BOM に割り当てられたすべての拠点に関連付けられていることを意味します。

拠点別の BOM を作成する

新規にアイテムを作成し、そのアイテムが変更の [対象アイテム] テーブルに追加される前であれば、アイテム オブジェクトの BOM テーブルを直接編集することができます。

注意 拠点別の BOM を作成するための拠点が [拠点] リストに表示されていない場合は、アイテムの [拠点] タブを通して、アイテムをその拠点に関連付ける必要があります。

Java クライアントを使用して拠点別の BOM を作成するには

1. アイテムの [拠点] ドロップダウン リストで任意の拠点を選択します。

アイテムを BOM テーブルに追加するには

1. [BOM] タブで [追加] ドロップダウン メニューをクリックし、BOM へコンポーネントを追加するメニュー オプションを選択します。
2. 選択したメニューに基づき、以下のいずれかを実行します。
 - 検索 - 1 つ以上の既存アイテムを検索します。[BOM を追加] ダイアログ ボックスで、検索方法を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、[検索] をクリックします。さらに、詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、ブックマークや最近開いたアイテム (ショートカット) を選択することもできます。(検索の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。) 検索結果で、目的のアイテムを選択し、[拠点] ドロップダウン リストで [共通] を選択し、[OK] をクリックします。[選択されたアイテム] リストのすべてのアイテムは、BOM に追加されます。

注意 選択したアイテムに必要な拠点の関連付けがない場合は、拠点を選択したアイテムに追加するように求めるメッセージが表示されます。警告を受け入れると、選択したアイテムが BOM に追加されます。

- 既知の番号の入力 - 1 つ以上の番号を入力し、[追加] をクリックします。

注意 存在しない番号を入力して、プレースホルダ行を追加することができます。その番号が存在しないというメッセージが表示されたら、警告を受け入れて、プレースホルダ行を BOM に追加します。

- 作成 - [タイプ] ドロップダウン リストからタイプを選択します。適切な場合は、オブジェクトの番号を入力し、必須フィールドを完了します。[OK] をクリックします。拠点は、新たに作成されたアイテムに自動的に関連づけられます。

注意 すでにアイテムの [拠点] ドロップダウン リストで目的の拠点を選択している場合、その拠点は [検索]、[既知の番号の入力]、または [作成] ダイアログで事前に選択された状態となっています。

ステップ 1 で、アイテムの [拠点] ドロップダウン リストで [すべて] を選択した場合、目的の拠点を選択してからダイアログを完了してください。

Java クライアントを使用して拠点別の空の BOM を作成するには

1. アイテムの [拠点] ドロップダウン リストで任意の拠点を選択します。
2. [BOM の追加] メニューで、[空の行の追加] を選択します。

[空の行の追加] の順に選択すると、BOM テーブルに空の行が追加されます。この行は、後で入力することができます。

[拠点] の欄には、関連付けられた拠点として、[拠点] リストで選択された拠点が自動的に入力されます。

Web クライアントを使用して拠点別の BOM を作成するには

1. アイテムの [拠点] ドロップダウン リストで任意の拠点を選択します。

注意 アイテムの [拠点] ドロップダウン リストで [すべて] を選択している場合、以下のステップ 3 で [検索]、[既知の番号の入力]、または [作成] ダイアログで任意の拠点を選択することができます。

2. [BOM] タブで [追加] ボタンをクリックし、ドロップダウン メニューで、BOM へコンポーネントを追加するメニュー オプションを選択します。

3. 選択したメニューに基づき、以下のいずれかを実行します。

- 検索 - 1 つ以上の既存アイテムを検索します。[BOM アイテムを追加] ダイアログ ボックスで、検索方法を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、[検索] をクリックします。さらに、詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、ブックマークや最近開いたアイテム (ショートカット) を選択することもできます。(検索の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。) 検索結果で、目的のアイテムを選択し、[拠点の追加] ドロップダウン リストで [共通] を選択し、[OK] をクリックします。[選択されたアイテム] リストのすべてのアイテムは、BOM に追加されます。

4. 選択したアイテムに必要な拠点の関連付けがない場合は、拠点をアイテムに追加するよう求めるメッセージが表示されます。警告を受け入れると、選択したアイテムが BOM に追加されます。

- 既知の番号の入力 - 1 つ以上の番号を入力し、[追加] をクリックします。

注意 存在しない番号を入力して、プレースホルダ行を追加することができます。その番号が存在しないというメッセージが表示されたら、警告を受け入れて、プレースホルダ行を BOM に追加します。

- 新規作成 - [タイプ] ドロップダウン メニューから、タイプを選択します。適切な場合は、オブジェクトの番号を入力し、必須フィールドを完了します。[OK] をクリックします。拠点は、新たに作成されたアイテムに自動的に関連づけられます。

注意 すでにアイテムの [拠点] ドロップダウン リストで目的の拠点を選択している場合、その拠点は [検索]、[既知の番号の入力]、または [新規作成] ダイアログで事前に選択された状態となっています。

ステップ 1 で、アイテムの [拠点] ドロップダウン リストで [すべて] を選択した場合、目的の拠点を選択してからダイアログを完了してください。

Web クライアントを使用して拠点別の空の BOM を作成するには

1. アイテムの [拠点] ドロップダウン リストで任意の拠点を選択します。
2. [BOM の追加] メニューで、[空の行] を選択します。

[空の行] の順に選択すると、BOM テーブルに空の行が追加されます。この行は、後で入力することができます。

[拠点] の欄には、関連付けられた拠点として、[拠点] リストで選択された拠点が自動的に入力されます。

[製造元] タブ

[製造元] タブには、拠点別の製造元部品などの、アイテムで使用される製造元部品が表示されます。このタブの情報は、関連する製造オブジェクトから作成されます。Agile の AML 機能を使用していて、適切な権限がある場合、このタブでアイテムの承認済み製造元リスト (AML) を作成することができます。

[製造元] タブでは、並べ替え可能なテーブルに次の情報が表示されます。

- その部品を製造した製造元
- 製造元が供給する製造元部品 (以下を含む)
 - 製造元部品が推奨部品かまたは代替部品か
 - 製造元が現在その部品のアクティブな製造元であるか
 - Agile PLM の部品に対応する製造元の部品番号
- 製造元部品が適用される製造拠点 (製造元部品は適用可能な拠点ごとに表示されます)。[製造元] タブの [AML 分割] 欄では、選択した拠点の AML に割り当てるパーセント (%) を定義できます。

注意 製造元に対し [ディスカバリ] 権限がない場合、[製造元] タブに表示されません。表示されない製造元の数を示すメッセージが表示されます。詳細は、177 ページの「[ディスカバリ権限と読み取り権限の詳細について](#)」を参照してください。

[製造元] タブから製造元部品を表示する

アイテム オブジェクトの [製造元] タブから製造元部品を開くには:

- Java クライアントで、今すぐ製造元部品をダブルクリックします。
または、製造元部品行を右クリックして [開く] を選択し、タブを選択します。製造元部品が開き、選択したタブが最前面に表示されます。
- Web クライアントで、製造元部品番号をクリックします。

[拠点] タブ

アイテムの [拠点] タブには、そのアイテムを使用する製造拠点や、そのアイテムに関連する拠点固有の情報を含む製造拠点がすべて一覧表示されます。

アイテムを拠点別 BOM および AML で使用可能にするには、該当する拠点をそのアイテムの [拠点] タブに追加する必要があります。たとえば、India 拠点のユーザーが部品の拠点固有の情報を追加できるようにするには、その部品の [拠点] タブに「India」を追加します。必要な権限があれば、[拠点] タブの情報を追加、編集、削除することができます。

[拠点] タブの使用方法など、製造拠点の詳細は、44 ページの「[拠点をアイテムに関連付ける](#)」を参照してください。

[価格] タブ

アイテム オブジェクトの [価格] タブには、そのアイテムに関連付けられた価格に関する情報が表示されます。

価格管理と [価格] タブの詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』または『Product Cost Management ユーザー・ガイド』をご覧ください。

[品質] タブ

アイテム (部品またはドキュメント) の [品質] タブには、そのアイテムを参照する製品サービス依頼 (PSR) が一覧表示されます。PSR には、不具合レポート (NCR) と問題レポート (PR) が含まれます。ただし、企業の Agile 管理者によって、これら以外のタイプの PSR が定義されている場合があります。このタブは自動的に入力されます。[品質] タブおよび PQM 機能の詳細は、『Product Quality Management ユーザー・ガイド』を参照してください。

[適合性] タブ

アイテム オブジェクトの [適合性] タブは Agile PG&C と関連しており、アイテムに関連する適合性のデklarレーションを表示します。詳細は、『Agile Product Governance & Compliance ユーザー・ガイド』を参照してください。

注意 [適合性] タブは Web クライアントでのみ表示されます。Agile PG&C は Web クライアントベースソリューションです。

[サプライヤ] タブ

アイテム オブジェクトの [サプライヤ] タブは Agile PG&C に関連しており、サプライヤとアイテムを関連付けることができます。詳細は、『Agile Product Governance & Compliance ユーザー・ガイド』を参照してください。

注意 [サプライヤ] タブは Web クライアントでのみ表示されます。Agile PG&C は Web クライアント ベース ソリューションです。

[関係] タブ

アイテム オブジェクトの [関係] タブでは、他のビジネス オブジェクト (ライフサイクル オブジェクトと送信可能なオブジェクトの両方) との関係を作成できます。関連オブジェクトが送信可能なオブジェクトの場合、関係にルールを指定して、現在のアイテムと送信可能なオブジェクトとの間の依存関係を作成できます。関係にルールが指定されている場合、送信可能なオブジェクトのワークフローの進捗は、現在のアイテム オブジェクトのライフサイクル フェーズの影響を受けます。

関係にルールが指定されていない場合、関連する送信可能なオブジェクトのワークフローの進捗が制限されたり、影響を受けたりすることはありません。ルールが指定されていない関係を使用すると、現在のアイテムと関連はあるが、依存関係はないオブジェクトを記録できます。

注意 他のライフサイクル フェーズ (非ルーティング可能) オブジェクトとのアイテム関係にルールを指定することはできません。

関係およびこのタブの使用の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』のビジネス オブジェクトの使用に関する章をご覧ください。

[添付ファイル] タブ

[添付ファイル] タブはすべてのオブジェクトにあります。[添付ファイル] タブでは、ファイル フォルダ オブジェクト内のファイルと URL を参照することによって、ファイルと URL をオブジェクトに添付できます。[添付ファイル] タブでは、適切な権限があれば、添付ファイルの表示、コピー (取り出し)、または印刷が可能です。

添付された個々のファイルは、ファイル フォルダ オブジェクトに保存され、複数のオブジェクトに添付することができます。ファイル フォルダ オブジェクトのファイルには、図面、スキャンした画像、ドキュメント、表示できないファイル、圧縮ファイルなどがあります。




フォルダ オブジェクトの使用、および [添付ファイル] タブの詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

確定済みのアイテムの [添付ファイル] タブは変更できません。確定済みアイテムの詳細は、29 ページの「[アイテムを確定する、未確定にする](#)」を参照してください。


アイテムの [添付ファイル] タブの操作 (追加、削除、編集) はリビジョン ベースとなっています。添付ファイルは特定の ECO 作成リビジョン アイテム (リビジョン A、リビジョン B など) へ追加または削除されます。ECO 作成アイテム リビジョンには、添付ファイル機能があります。MCO や SCO は特定のアイテム リビジョンに基づいていますが、それぞれ独自のリビジョンは持っていないため、添付ファイル機能はありません。アイテム リビジョンと添付ファイルの詳細は、14 ページの「[リビジョンと添付ファイルの機能](#)」を参照してください。

注意 添付ファイルは、アイテムのすべての製造拠点に適用されます。拠点別の添付ファイルはありません。

Java クライアントで共通の [添付ファイル] タブを操作するには:

- **Viewer** でのファイルの表示 - [添付ファイル] テーブルで行を選択し、[ファイルの表示] ボタン  をクリックします。
- ネイティブ アプリケーションでのファイルの表示 - [添付ファイル] テーブルで行を選択し、[ファイルを開く] ボタン  をクリックします。
- ファイルのローカル コピーの取り出し - [添付ファイル] テーブルで行を選択し、[ファイルの取り出し] ボタン  をクリックします。

Web クライアントで共通の [添付ファイル] タブを操作するには:

- **Viewer** でのファイルの表示 - ファイル名のリンクをクリックします。添付ファイルが **Viewer** で表示できない場合、ファイルを作成したアプリケーションがコンピュータにインストールされていれば、そのアプリケーションで開きます。
- ファイルのローカル コピーの取り出し - ファイルの行で [取り出し] ボタン  をクリックします。

[履歴] タブ

[履歴] タブには、そのオブジェクトに対して実行されたアクションの要約 (アクションの説明、アクションを実行したユーザー、日付、その他) が表示されます。

注意 オブジェクトの読み取り権限がない場合、[履歴] タブのフィールドの内容を表示することはできません。177 ページの「[ディスカバリ権限と読み取り権限の詳細について](#)」を参照してください。

アイテムについて記録されるアクションのタイプは、次のとおりです。

- アイテムの作成
- 添付ファイルに関するアクション: [添付ファイル] タブの表示、開く、追加、削除、取り出し、チェックイン、チェックアウト、チェックアウトのキャンセル、確定、未確定、フィールド変更
- 名前を付けて保存
- 送信
- 印刷
- リリース済みアイテムのサブクラスまたはフィールドの変更
- 確認通知の変更と共有

リリースされていないプレリミナリ アイテムのフィールドの変更は、[関係] タブおよび [添付ファイル] タブへの変更についてのみ記録されます。他のプレリミナリ アイテムのフィールドへの変更は、記録されません。

リリース済みアイテムへの変更については、リビジョン情報が [リビジョン] 列の履歴テーブル行に記載されます。

アイテムのリビジョンを処理する

アイテム タブの上にある [拠点] と [リビジョン] フィールドには、製造拠点およびリビジョンに基づいたアイテム情報を表示できます。

アイテムを開いたとき、[リビジョン] フィールドには最新のリリース済みバージョンが表示されます。

注意 設計変更の [対象アイテム] タブからアイテムを開くと、その設計変更に関連するリビジョンが表示されます。

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [他のリビジョンを表示する](#) (13 ページ)
- [初版リビジョン](#) (13 ページ)
- [空白のリビジョン](#) (13 ページ)
- [リビジョン リストの機能](#) (14 ページ)
- [リビジョン リストおよび拠点リストの決定方法](#) (16 ページ)
- [保留中のリビジョンを処理する](#) (16 ページ)
- [保留中のリビジョンの添付ファイル](#) (16 ページ)

他のリビジョンを表示する

他のリビジョンを表示するには:

1. 特定の製造拠点に関連するリビジョンを表示するには、その拠点を [拠点] ドロップダウン リストから選択します。

注意 [拠点] ドロップダウン リストから [すべて] を選択した場合、[リビジョン] リストのデフォルト値は、そのアイテムの最新のリリース済み変更になります。

2. タブの上部にある [リビジョン] ドロップ ダウン リストからリビジョンを選択します。リビジョンを選択すると、対応する有効日が表示されます。

他のリビジョンを選択すると、選択したリビジョンの情報がすべてのタブに表示されます。たとえば、[BOM] タブでリビジョン C をリビジョン B に変更すると、他のタブにもリビジョン B の情報が表示されます。

注意 すべてのタブがリビジョン固有なわけではありません。たとえば、[使用箇所] タブと [履歴] タブはリビジョン固有ではありません。リビジョン固有でないタブを表示する場合、[リビジョン] ドロップ ダウン リストは無効化されています。

初版リビジョン

アイテムの最初のリビジョン (新しく作成された、リリースされていないアイテムのリビジョン) は、「初版」と表示されます。初版リビジョンに対する変更はなく、リビジョン文字は割り当てられていません。初版段階のアイテムは変更管理下にならないため、直接変更することができます。

初版リビジョンは、リリース済みリビジョンと同様に扱われます。初版リビジョンは、[使用箇所] および [オブジェクト] の検索、[使用箇所] タブ、変更、[名前を付けて保存] 機能では、基本リビジョンと見なされます。

[初版] は最も古いバージョンですので、リスト下方の [リビジョン] ドロップダウン リストに表示されます。これは、リストの中で唯一、変更に関係していないバージョンです。

14 ページの「[リビジョン リストの機能](#)」も参照してください。

空白のリビジョン

「初版」ではないがリビジョン文字が割り当てられていないリビジョンがリストに表示されることがあります。これらを「空白のリビジョン」と呼びます。

空白のリビジョンは、あるアイテムを ECO がリリースする前にそのアイテムに対して MCO がリリースされた場合に表示されます。リリースする MCO によって、空白のリビジョンが作成されます。同様に、新しい ECO リビジョンが作成される前に行われた後続の変更によっても、空白のリビジョンが作成されます。[リビジョン] リストには、リビジョン文字ではなく、MCO 番号が表示されます。次の例では、[リビジョン] リストに MCO M00001 によって作成された空白のリビジョンが表示されています。

```
(A)  C00004
      M00001
初版
```

リビジョン リストの機能

上で説明したように、[リビジョン] リストの [初版] というリビジョンは、保留中の変更がない、オブジェクトの最初のリビジョンを示します。オブジェクトが変更時に一覧表示されると、リビジョンの文字が順番に表示されます。

リリース済みリビジョンの場合、リリースする ECO の番号が、該当するリビジョンの横に表示されます。(アイテムは ECO によってのみ改訂できません)。たとえば、ある部品の ECO E54321 がリビジョン C のリリースであるとする、[リビジョン] ドロップダウン リストでリビジョン C が読み取られます。

```
C    E54321
```

括弧内のリビジョン番号または文字は、そのリビジョンが保留中でありまだリリースされていないことを示します。

```
(A)  C00004
```

「初版」ではないがリビジョン文字が割り当てられていないリビジョンがリストに表示されることがあります。これらを「空白のリビジョン」と呼びます。

空白のリビジョンは、あるアイテムを ECO がリリースする前にそのアイテムに対して MCO がリリースされた場合に表示されます。リリースする MCO によって、空白のリビジョンが作成されます。同様に、新しい ECO リビジョンが作成される前に行われた後続の変更によっても、空白のリビジョンが作成されます。[リビジョン] リストでは、リビジョン文字のかわりに MCO の番号が表示されます。

```
M00001
```

MCO と SCO はアイテム リビジョンに基づいていますが、どちらも部品の新しいリビジョンを作成することはできず、それゆえに、どちらも添付機能は持っていません。[リビジョン] ドロップダウン リストで選択可能な MCO と SCO の変更は、それが基本となっている ECO 作成リビジョンまたは初版リビジョンの添付ファイルを継承します。

[リビジョン] ドロップダウン リストの対応するリビジョンの横に MCO または SCO 番号が表示されます。たとえば、部品のリビジョン B に対して保留中の MCO M12345 がある場合、[リビジョン] ドロップダウン リストのリビジョン B の表示は「(B) M12345」になります。

リビジョンと添付ファイルの機能

アイテム添付ファイルの操作 (追加、削除、編集) はリビジョン ベースとなっています。添付ファイルは、ECO 作成リビジョンまたは初版リビジョンからのみ追加または削除が可能です。MCO や SCO はアイテム リビジョンに基づいていますが、それぞれ独自のリビジョンは持っていないため、添付ファイル機能はありません。

[リビジョン] ドロップダウン リストで選択可能な MCO と SCO の変更は、それが基本となっている ECO 作成リビジョンまたは初版リビジョンの添付ファイルを継承します。

注意 ECO 作成リビジョンまたは初版リビジョンが確定していない場合、添付ファイルを追加または削除することはできず、添付ファイル テーブルを編集することはできません。アイテムの確定の詳細は、29 ページの「[アイテムを確定する、未確定にする](#)」を参照してください。

11 ページの「[添付ファイル タブ](#)」も参照してください。添付ファイルとファイル フォルダの詳細は、『Agile PLMユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「添付ファイルの使用」に関する章をご覧ください。ECO レッドラインの添付ファイルについては、『Agile Viewer 付録』をご覧ください。

下表は、アイテムの [リビジョン] ドロップダウン リストにおける異なるエントリに対する添付ファイルの機能 (追加、削除、編集) を示しています。

リビジョン リスト エントリ	添付ファイル機能
(C) ECO-356	はい、これは保留中の ECO 作成リビジョンであるため、添付ファイル機能があります。
B SCO-444	いいえ、添付ファイル機能はありません。これは、リビジョン B がベースになっており、リビジョン B の添付ファイルを継承しています。
B ECO-233	はい、これは ECO 作成リビジョンであるため、添付ファイル機能があります。
A MCO-888	いいえ、添付ファイル機能はありません。これは、リビジョン A がベースになっており、リビジョン A の添付ファイルを継承しています。
A ECO-222	はい、これは ECO 作成リビジョンであるため、添付ファイル機能があります。
初版	はい、これは初版リビジョンであるため、添付ファイル機能があります。初版リビジョンには、ECO 作成リビジョンと同じ機能があります。13 ページの「 初版リビジョン 」を参照してください。

リビジョン リスト エントリ	添付ファイル機能
(B) MCO-934	いいえ、添付ファイル機能はありません。保留中の MCO は、リビジョン B がベースになっており、リビジョン B の添付ファイルを継承しています。
B ECO-572	はい、これは ECO 作成リビジョンであるため、添付ファイル機能があります。
A SCO-444	いいえ、添付ファイル機能はありません。これは、リビジョン A がベースになっており、リビジョン A の添付ファイルを継承しています。
A MCO-788	いいえ、添付ファイル機能はありません。これは、リビジョン A がベースになっており、リビジョン A の添付ファイルを継承しています。
A ECO-333	はい、これは ECO 作成リビジョンであるため、添付ファイル機能があります。
MCO-766	いいえ、添付ファイル機能はありません。これは、初版リビジョンがベースになっており、初版リビジョンの添付ファイルを継承しています。
初版	はい、これは初版リビジョンであるため、添付ファイル機能があります。初版リビジョンには、ECO 作成リビジョンと同じ機能があります。13 ページの「 初版リビジョン 」を参照してください。

リビジョン リストおよび拠点リストの決定方法

すべてのリビジョンは、デフォルトの拠点や拠点へのアクセスに関係なく、すべてのユーザーに対して表示されます。ただし、アイテムを開いたとき、[リビジョン] ドロップダウン リストは、デフォルトの拠点に対して最後に行われた変更に関連付けられています。

表示されるアイテムのデフォルトのリビジョンは、デフォルトの拠点に基づきます。[拠点] ドロップダウン リストから別の拠点を選択した場合でも、デフォルトのリビジョンにはデフォルトの拠点の情報が反映されたままになります。

保留中のリビジョンを処理する

アイテムについて保留中のリビジョンを作成することができます。アイテムに対して ECO を作成すると、その ECO によってアイテムの保留中のリビジョンが作成されます。保留中リビジョンにより、その BOM テーブルおよび製造元テーブルを変更するレッドラインを含め、変更管理の下でアイテムを変更することができます。保留中リビジョンの添付ファイル マークアップを作成することもできます。

保留中のリビジョンには、(A) のように [リビジョン] フィールドのリビジョン番号に括弧が付いています。

保留中アイテム リビジョンの確定については、29 ページの「[アイテムを確定する、未確定にする](#)」を参照してください。

保留中のリビジョンの添付ファイル

デフォルトでは、保留中のリビジョンが作成されると、現在のデフォルトのリビジョンに添付されているものと同じ添付ファイル リストが継承されます。その後、現在のデフォルトのリビジョンにファイルが追加されるか、ファイルが削除されると、それらの変更は保留中のリビジョンの [添付ファイル] タブには反映されません。添付ファイルとアイテムのリビジョン レベルに関する追加情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

149 ページの「[対象アイテム タブからアイテムを削除する](#)」も参照してください。

CopyFilesToRev SmartRule の効果

CopyFilesToRev ([リビジョンリストにファイルをコピー]) スマートルール設定は、保留中リビジョンのアイテム添付ファイルがどのように作成および参照されるかを決定します。Agile 管理者は、新しい保留中リビジョンへの添付ファイル リストのコピー、警告付きコピー、参照、警告付き参照、またはコピー禁止を設定します。

アイテムを保留中 ECO の [対象アイテム] テーブルに追加すると、アイテムの保留中リビジョンが作成されます。Agile PLM の [リビジョンリストにファイルをコピー] スマートルール設定により、保留中リビジョンの添付ファイルは次のように処理されます。

- コピー - アイテムの新しい保留中リビジョンに対して、Agile は新規ファイル フォルダを作成し、添付ファイルの新しいコピーを作成し、これを新規ファイル フォルダに保存します。
- 参照 - Agile は既存のファイル フォルダを使用し、新しい保留中リビジョンの [添付ファイル] タブにこのファイル フォルダに対する新規参照を作成します。
- 不可 - 新しいアイテムの保留中リビジョンが添付ファイルなしで作成されます。
- 警告付きでコピー - コピーの設定と同じで、新しい保留中リビジョンに添付ファイルを選択しないというオプションがあります。

アイテムを保留中 ECO に追加すると、追加している各アイテムの行が記載された警告ダイアログが表示されます。

- アイテムを追加して添付ファイルをコピーするには、[追加] と [添付ファイル] チェック ボックスの両方を選択します。
 - 添付ファイルなしでアイテムを追加するには、[追加] チェック ボックスのみを選択します。
- 警告付きで参照 - 参照の設定と同じで、新しい保留中リビジョンに添付ファイルを選択しないというオプションがあります。

アイテムを保留中 ECO に追加すると、追加している各アイテムの行が記載された警告ダイアログが表示されます。

- アイテムを追加して既存の添付ファイルを参照するには、[追加] と [添付ファイル] チェック ボックスの両方を選択します。
- 添付ファイルなしでアイテムを追加するには、[追加] チェック ボックスのみを選択します。

スマートルールが [参照] または [警告付きで参照] に設定されていて、添付ファイルに複数のバージョンがある場合は、最新バージョンに対する参照のみが保留中リビジョンの新しい参照に使用されます。

たとえば、[部品 456] に対する ECO を作成する場合、[リビジョン C] (これによって、保留中 [リビジョン D] を作成)、[リビジョン C] に添付されたすべての添付ファイルは保留中 [リビジョン D] にも添付されます (リリース済み [リビジョン C] の [添付ファイル] タブでは参照用のファイルとファイル フォルダが保留中 [リビジョン D] の [添付ファイル] タブで複製されます)。ECO の作成後に [リビジョン C] または [リビジョン C] [添付ファイル] 変更 (たとえば、ファイル フォルダ バージョン番号を変更) の [添付ファイル] タブに追加された添付ファイルはすべて、保留中 [リビジョン D] にコピーされません。

注意 オブジェクトが変更に関連付けられた後に (それにより、[リビジョン A] がリリース済みになります) [初版] リビジョンに追加された添付ファイルはそれ以降のリビジョンにコピーされません。MCO (製造元変更) と SCO (拠点毎変更) には独立した新しいリビジョンが作成されないため、このスマートルールは MCO と SCO には影響しません。

保留中のリビジョンを作成する

あるアイテムに対して保留中の ECO を作成すると、そのアイテムの保留中のリビジョンが作成されます。保留中のリビジョンには、(A) のように [リビジョン] フィールドのリビジョン番号に括弧が付いています。

保留中のリビジョンを作成するには:

1. アイテムを作成します。
2. ECO を作成します。
3. アイテムを変更の [対象アイテム] タブに移動します。
4. 対象アイテムにリビジョン番号を付けます。

注意 SCO は拠点別の変更のみを対象としています。SCO が共通の拠点情報に影響を与えることはなく、リビジョン番号を進めることもありません。SCO を使用して、まだリリースされていない、新規に作成されたアイテムの保留中のリビジョンを作成することはできません。

変更の作成の詳細は、109 ページの「[変更](#)」を参照してください。

保留中のリビジョンを変更する



保留中のリビジョンは、他のオブジェクトと同様に変更します。保留中のリビジョンを変更すると、リリース済みリビジョンに影響する可能性があるため、[タイトル ブロック]、[ユーザー定義 1]、[ユーザー定義 2] フィールドを変更するための権限が必要です。プレリミナリ アイテムを変更する権限を持つユーザーは、アイ


テムの保留中リビジョンのフィールドを変更できます。リリース済みアイテムを変更する権限のみを持ち、プレリナリ アイテムの変更権限を持たない場合、アイテムの保留中リビジョンのフィールドを変更できません。割り当てられている変更権限について質問がある場合は、Agile 管理者に問い合わせてください。

27 ページの「[リリース済みアイテムを編集する](#)」も参照してください。

Agile アイテムを作成する

アイテムを作成するには、アイテムの作成権限が必要です。

Java クライアントでは、[ファイル]-[新規作成]-[アイテム] コマンド、または [新規オブジェクト] ボタン  を使ってアイテムを作成することができます。または、[その他のアクション] メニュー (オブジェクト ウィンドウ上部で [その他] ボタン  をクリック) およびショートカット メニューを右クリックして、[名前を付けて] コマンドから作成することもできます。

Web クライアントでは、[作成]-[アイテム] コマンド 、または [アクション]-[名前を付けて保存] コマンドによって、変更を作成できます。

親アイテムの [BOM] タブまたは変更の [対象アイテム] タブに追加して、アイテムを作成することもできます。

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [Java クライアントでアイテムを作成する](#) (18 ページ)
- [Web クライアントでアイテムを作成する](#) (19 ページ)
- [\[名前を付けて保存\] を使用してアイテムを作成する](#) (20 ページ)
- [\[追加\] コマンドでアイテムを作成する](#) (21 ページ)


アイテムの最初のリビジョン (新しく作成された、リリースされていないアイテムのリビジョン) は、「初版」と表示されます。初版リビジョンの詳細は、13 ページの「[初版リビジョン](#)」を参照してください。

一度アイテムを作成すると、そのアイテムは削除するまで残ります。新規アイテムを作成した後で不要になった場合は、必ず削除してください。削除しないと、そのアイテムはデータベースに残り、番号が再利用できません。22 ページの「[Agile オブジェクトを削除する](#)」を参照してください。

Java クライアントでアイテムを作成する

新規オブジェクトを作成するプロセスには、主に 2 つの手順があります。まず空のオブジェクトを作成してから、そのオブジェクトに固有の情報をオブジェクトのタブに入力します。

Java クライアントでアイテムを作成、完成するには:

1. [ファイル] メニューから、作成するオブジェクト クラスを選択します。例:
[ファイル]-[新規作成]-[アイテム]-[部品]
[ファイル]-[新規作成]-[アイテム]-[ドキュメント]
2. [新規作成] ダイアログ ボックスで、[タイプ] ドロップダウン リストを使用して、作成するアイテムのタイプ (サブクラス) を選択します。
3. アイテムに番号を割り当てます。これには、提供された自動採番号を使用するか、または [自動採番] ボタン  を押して次の番号を使用するか、または番号を入力します。

複数の自動採番形式が使用できる場合は、[自動採番] ボタンをクリックしたときに、使用可能な自動採番

形式がリスト内に表示されます。使用する自動採番形式を選択します。

自動採番フォーマットとシーケンスは、Agile 管理者が決定します。また、自動採番の使用が必須であるかオプションであるかも、Agile 管理者が決定します。

4. 必須フィールドを入力します。

5. [OK] をクリックします。

新規のアイテムが [タイトル ブロック] タブに表示されます。

6. 必要に応じて、アイテムのタブに情報を入力します。

[変更] タブ、[使用箇所] タブ、[履歴] タブには情報を入力しません。これらのタブは自動的に入力されます。

19 ページの「[Web クライアントでアイテムを作成する](#)」、20 ページの「[\[名前を付けて保存\] を使用してアイテムを作成する](#)」および 21 ページの「[追加コマンドでアイテムを作成する](#)」も参照してください。

Web クライアントでアイテムを作成する

ウィザードを使用すると、プロセスを追ってアイテムを作成し、BOM、製造拠点、製造元、添付ファイルを指定することができます。


Web クライアントでアイテムを作成、完成するには:


1. [作成] メニューから、作成するオブジェクト クラスを選択します。例:



作成 | アイテム | 部品


作成 | アイテム | ドキュメント

2. [作成] ダイアログ ボックスで、[タイプ] ドロップダウン リストを使用して、作成するアイテムのタイプ (サブクラス) を選択します。

3. アイテムに番号を割り当てます。これには、提供された自動採番番号を使用するか、または [自動採番] ボタン  を押して次の番号を使用するか、または番号を入力します。

アイテム番号を入力するために [自動採番] ボタン  をクリックすると、自動採番の選択肢のリストが表示されることがあります。自動採番フォーマットとシーケンスは、Agile 管理者が決定します。また、自動採番の使用が必須であるかオプションであるかも、Agile 管理者が決定します。

4. [作成] ウィザードを使ってアイテムの各タブの情報を入力する場合、[ウィザードで作成  を継続] チェックボックスを選択し、[続行] ボタンをクリックします。画面の指示に従って、ウィザードを完了します。
5. アイテムをすぐに作成し、表示する場合は、[ウィザードで作成  を継続] チェックボックスを解除し、[完了] をクリックします。新規のアイテムが [タイトル ブロック] タブに表示されます。必要に応じて、アイテムのタブに情報を入力します。

注意 Agile PLM は、すべての [作成] ダイアログにおける、最近の [ウィザードで作成  を継続] チェックボックスの選択状態を記憶し、[作成] のダイアログ ボックスで選択をそのままにしておきます。

[変更] タブ、[使用箇所] タブ、[履歴] タブには情報を入力しません。これらのタブは自動的に入力されます。

18 ページの「[Java クライアントでアイテムを作成する](#)」、20 ページの「[\[名前を付けて保存\] を使用してアイテムを作成する](#)」、および 21 ページの「[追加コマンドでアイテムを作成する](#)」も参照してください。

[名前を付けて保存] を使用してアイテムを作成する

[名前を付けて保存] 機能により、既存のアイテムに似たアイテムを簡単に作成することができます。

拠点別アイテムの場合、元のアイテムの製造拠点が新規アイテムにコピーされます。[BOM] タブおよび [製造元] タブの共通部分と拠点別部分にあるすべてのコンポーネントおよび製造元部品もコピーされます。(権限がない拠点はコピーされません)。[拠点] ドロップダウン リストと [名前を付けて保存] で特定の拠点を選択している場合、選択した拠点のデータのみが新たに作成されたアイテムにコピーされます。

注意 一般に、クラスやサブクラス (タイプ) が元のオブジェクトと異なるオブジェクトを作成する場合は、[名前を付けて保存] は使用しないでください。クラスやサブクラスが違っていると、タブや定義されるフィールドが異なる場合があります、新しく作成したオブジェクトの一部のデータにアクセスできなくなることがあります。

たとえば、部品には通常 [BOM] タブがあります。デフォルトでは、ドキュメントに [BOM] タブはありません。部品をドキュメントとして保存すると、Agile 管理者がドキュメントで BOM を許可するようにシステムを設定していないかぎり、保存したドキュメントには部品の BOM を表示できません。

注意 既存のアイテムの BOM リスト上のアイテムに対するディスカバリ権限がない場合、[名前を付けて保存] を使って、検索できない BOM リスト アイテムを含め、新規アイテムを作成することができます。また、新たに作成されたアイテム上で、これらの BOM リスト アイテムを検出することはできません。

Agile 管理者によって適切な属性が設定されている場合、オプションの [ユーザー定義 1] セクションと [ユーザー定義 2] セクションのフィールドが新規アイテムにコピーされます。使用中の Agile PLM システムにおける [ユーザー定義 1] フィールドと [ユーザー定義 2] フィールドの動作については、Agile 管理者にお問い合わせください。


アイテムに 1 つ、または複数の添付ファイルがある場合、新規アイテムの添付ファイルは Agile 管理者が Agile システム プリファレンスで指定した方法により作成されます。

- [ファイルの新規コピーを作成] - Agile は新規ファイル フォルダを作成し、添付ファイルの新しいコピーを作成し、これを新規ファイル フォルダに保存します。
- [既存ファイルを参照] - Agile は既存のファイル フォルダを使用し、新規アイテムの [添付ファイル] タブにこのファイル フォルダに対する新規参照を作成します。
- ファイルをコピーしない - 新しいアイテムは添付ファイルなしで作成されます。
- [プロンプト] - 前述の 3 つの方法のいずれかを選択するよう指示されます。アイテムに添付ファイルがない場合、プロンプトは表示されません。

[名前を付けて保存] では、既存のオブジェクトのフィールドから新規オブジェクトの同じフィールドにデータがコピーされます。既存のオブジェクトのフィールドまたはリストの値が新規オブジェクトで使用できない場合、そのフィールドまたはリストの値は新規オブジェクトにコピーされません。

拠点を使用するアイテムの場合

- 元のアイテムに複数の拠点が合った場合でも、新規アイテムには、新規アイテムに関連付けられたデフォルトの拠点しかありません ([名前を付けて保存] 操作の実行時に [拠点] ドロップダウン リストで選択した拠点)。新規アイテムに新たな拠点が必要な場合は、手動で追加する必要があります。
- 元のアイテムの [拠点] ドロップダウン リストから [すべて] を選択して [名前を付けて保存] 操作を実行すると、元のアイテムのすべての拠点が新規アイテムにコピーされます。
- 元のアイテムにデフォルトの拠点がいない場合、[名前を付けて保存] 操作によって作成された新規アイテムにもデフォルトの拠点はありありません。

Java クライアントでは、[ファイル]-[名前を付けて保存] コマンド、[その他のアクション] メニューの [名前を付けて保存] コマンド (オブジェクト ウィンドウ上の [その他] ボタン  をクリック)、またはショートカット メニューを右クリックして、アイテムを作成することができます。

Web クライアントでは、[アクション]-[名前を付けて保存] コマンドを使用してアイテムを作成することができます。


[名前を付けて保存] を使用してアイテムとその他のオブジェクトを作成する方法の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

18 ページの「[Java クライアントでアイテムを作成する](#)」、19 ページの「[Web クライアントでアイテムを作成する](#)」および 21 ページの「[追加コマンドでアイテムを作成する](#)」も参照してください。

追加コマンドでアイテムを作成する

アイテムや変更の特定のタブ ([対象アイテム] タブや [BOM] タブなど) で [追加] ボタンをクリックすると、新規アイテムが作成されタブに追加されます。

Java クライアントでアイテムを作成してタブに追加するには:

1. 新規アイテムを追加するタブで、[追加] ドロップダウン メニューをクリックし、[作成] オプションを選択します。[新規オブジェクト] ダイアログが開きます。
2. 拠点を選択します。アイテムを作成して [BOM] の共通部分に追加するには、[共通] を選択します。
すでにアイテムの [拠点] ドロップダウン リストで拠点を選択している場合、ダイアログでは事前を選択された状態となっています。
3. [タイプ] ドロップダウン リストから [タイプ] を選択します (サブクラス)。
4. アイテムに番号を割り当てます。これには、提供された自動採番号を使用するか、または [自動採番] ボタン  を押して次の番号を使用するか、または番号を入力します。
複数の自動採番形式が使用できる場合は、[自動採番] ボタンをクリックしたときに、使用可能な自動採番形式がリスト内に表示されます。使用する自動採番形式を選択します。
5. 必須フィールドを入力します。
6. [OK] をクリックします。
新規アイテムが BOM テーブル内に表示されます。
7. 新しいアイテムの他のタブに情報を入力するには、アイテムを開きます。

Web クライアントでアイテムを作成してタブに追加するには:

1. 拠点別アイテムを BOM タブに追加する場合は、アイテムの [拠点] ドロップダウン リストで拠点を選択します。
2. 新規アイテムを追加するタブで、[追加] ドロップダウン メニューをクリックし、[新規作成] オプションを選択します。[新規オブジェクト] ダイアログが開きます。
3. 拠点を選択します。アイテムを作成して [BOM] の共通部分に追加するには、[共通] を選択します。
すでにアイテムの [拠点] ドロップダウン リストで拠点を選択している場合、ダイアログでは拠点が事前を選択された状態となっています。
4. [タイプ] ドロップダウン リストからタイプを選択します (サブクラス)。
5. アイテムに番号を割り当てます。これには、提供された自動採番号を使用するか、または [自動採番] ボ

タン 123 を押して次の番号を使用するか、または番号を入力します。

複数の自動採番形式が使用できる場合は、[自動採番] ボタンをクリックしたときに、使用可能な自動採番形式がリスト内に表示されます。使用する自動採番形式を選択します。

6. 必須フィールドを入力します。

7. [追加] をクリックします。

新規アイテムが BOM テーブル内に表示されます。

8. 新しいアイテムの他のタブに情報を入力するには、アイテムを開きます。

18 ページの「[Java クライアントでアイテムを作成する](#)」、19 ページの「[Web クライアントでアイテムを作成する](#)」、および 20 ページの「[\[名前を付けて保存\] を使用してアイテムを作成する](#)」も参照してください。

保留中のリビジョンを作成する

あるアイテムに対して保留中の ECO を作成すると、そのアイテムの保留中のリビジョンが作成されます。保留中のリビジョンには、(A) のように [リビジョン] フィールドのリビジョン番号に括弧が付いています。

保留中のリビジョンを作成するには:

1. アイテムを作成します。
2. ECO を作成します。
3. アイテムを変更の [対象アイテム] タブに移動します。
4. 対象アイテムにリビジョン番号を付けます。

注意 SCO は拠点別の変更のみを対象としています。SCO が共通の拠点情報に影響を与えることはなく、リビジョン番号を進めることもありません。SCO を使用して、まだリリースされていない、新規に作成されたアイテムの保留中のリビジョンを作成することはできません。

変更の作成の詳細は、109 ページの「[変更](#)」を参照してください。

保留中のリビジョンを変更する

保留中のリビジョンは、他のオブジェクトと同様に変更します。保留中のリビジョンを変更すると、リリース済みリビジョンに影響する可能性があるため、[タイトル ブロック]、[ユーザー定義 1]、[ユーザー定義 2] フィールドを変更するための権限が必要です。プレリミナリ アイテムを変更する権限を持つユーザーは、アイテムの保留中リビジョンのフィールドを変更できます。リリース済みアイテムを変更する権限のみを持ち、プレリミナリ アイテムの変更権限を持たない場合、アイテムの保留中リビジョンのフィールドを変更できません。割り当てられている変更権限について質問がある場合は、Agile 管理者に問い合わせてください。

27 ページの「[リリース済みアイテムを編集する](#)」も参照してください。

Agile オブジェクトを削除する

Java クライアントと Web クライアントでは、「ソフト」および「ハード」削除がサポートされています。クライアント上でオブジェクトをソフト削除しても、完全に削除されたわけではありません。ソフト削除されたオブジェクトはデータベースで「削除済み」のマークが付けられ、オブジェクト番号は保存されます。ソフト削除されたオブジェクトと同じタイプおよび同じ番号の別のオブジェクトを作成することはできません。

注意 適切な権限がある場合には、ソフト削除されたオブジェクトに対して削除取消を実行することができます。削除取消を実行する必要があるにもかかわらず権限がない場合には、Agile 管理者にお問い合わせください。

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [オブジェクトをソフト削除する](#) (25 ページ)
- [オブジェクトの削除を取り消す](#) (25 ページ)
- [オブジェクトをハード削除する](#) (25 ページ)

検索を実行する場合、ソフト削除されたオブジェクトは検索結果テーブルに表示されません。ソフト削除されたオブジェクトを検索するには、[削除済みオブジェクト検索] フォルダで、定義済みの削除されたオブジェクトの検索を実行する必要があります。

注意 ユーザー プロファイルの [検索] フィールドに [削除済みオブジェクト検索] があれば、[削除済みオブジェクト検索] フォルダへのアクセス権限が付与されています。適切な権限が付与されている場合、ユーザー プロファイルを編集して [削除済みオブジェクト検索] を [検索] フィールドの検索リストに追加することができます。ユーザー プロファイルの [検索] フィールドの変更権限がない場合は、Agile 管理者にユーザー プロファイルの変更を依頼してください。

ハード削除されたオブジェクトは、データベースから完全に削除されます。

注意 ハード削除されたオブジェクトの削除を取り消すことはできません。

オブジェクトを削除するには、次の表に示す条件を満たしてする必要があります。

注意 オブジェクトを削除するには、その関係と確認通知をすべて削除しておく必要があります。


オブジェクトのクラスまたは基本クラス	オブジェクトの削除条件 (オブジェクトの種類別)
アイテム	<ul style="list-style-type: none"> □ アイテムにリリース済みの変更がないこと。 □ アイテムが保留中の変更の [対象アイテム] タブに表示されていないこと。(アイテムを削除する前に、保留中の変更の [対象アイテム] タブからアイテムを削除する必要があります。) □ アイテムの [BOM] タブに、現在のリビジョンまたは保留中リビジョンのコンテンツがありません。 □ アイテムの [製造元] タブに、現在のリビジョンまたは保留中リビジョンのコンテンツがありません。 □ アイテムは他のアイテムの部品構成表 (BOM) では使用されていないため、削除対象アイテムは親アイテムの最新リリース済みリビジョン、以前のリリース済みリビジョンまたは保留中リビジョンを含め、親アイテム リビジョンの [BOM] タブの子アイテムではありません。

オブジェクトのクラスまたは基本クラス	オブジェクトの削除条件 (オブジェクトの種類別)
変更	<ul style="list-style-type: none"> 変更の作成者、または Agile 管理者によって変更の削除権限が与えられた変更分析者またはコンポーネント エンジニアであること。 変更が「保留」ステータスまたは「未割当」ステータスであること。 [対象アイテム] テーブルのアイテムに対する [ディスカバリ] 権限と [読み取り] 権限を持っていること。ない場合は、変更を削除できません。 <p>注意 リリース済みの変更を削除するには、まず未リリースの状態にする必要があります。[ワークフロー] タブで変更を別のステータスに切り替えて未リリースにするには、適切な権限が必要です。</p>
製造元	<ul style="list-style-type: none"> アイテムの [製造元] タブに表示されていないこと。(製造オブジェクトの [使用箇所] タブを確認してください。) オブジェクトが製造元の場合、その製造元に製造元部品が関連付けられていないこと。 <p>注意 製造元に関連付けられているすべての製造元部品が削除された場合、その製造元も削除することができます。ただし、ソフト削除された製造元オブジェクトの削除が取り消されるまで、ソフト削除された製造元部品の削除を取り消すことはできません。</p>
拠点	<p>注意 他の Agile オブジェクトとは異なり、拠点オブジェクトはソフト削除はできますが、ソフト削除された拠点は削除を取り消したりハード削除することができません。拠点をもはや使用しない場合、Agile ではその拠点を無効にするようにお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> どのアイテムの [拠点] タブにも表示されていないこと。 他の Agile オブジェクトに関連付けられていないこと。 拠点のライフサイクルが「無効」であること。 <p>注意 前述の条件を満たしていれば、ユーザーのプロファイルの [拠点] または [デフォルトの拠点] フィールドのリストに含まれている場合でも、無効の拠点をソフト削除できます。削除された拠点は、表示されているすべてのユーザー プロファイルの [拠点] リストから自動的に削除されます。</p> <p>拠点到アイテムを関連付けると、ステータスを「無効」に変更することはできますが、その拠点を削除することはできなくなります。</p>
パッケージ	<ul style="list-style-type: none"> 自分が作成者であること。または、自分がプログラム管理者で、Agile 管理者によりパッケージを削除するための適切な権限を与えられていること。 パッケージが [保留] ステータスまたは [未割当] ステータスであること。
転送	<ul style="list-style-type: none"> 自分が作成者か、または Agile 管理者によって転送の削除に必要な権限が与えられていること。 転送が [保留] ステータスまたは [未割当] ステータスであること。
PSR または QCR	<ul style="list-style-type: none"> 自分が作成者であること。また、自分が変更分析者またはコンポーネント エンジニアで、Agile 管理者によって PSR または QCR の削除に必要な権限を与えられていること。 PSR または QCR が [保留] ステータスまたは [未割当] ステータスであること。 [対象アイテム] テーブルのアイテムに対するディスカバリ権限と読み取り権限を持っていること。ない場合は、PSR または QCR を削除できません。 <p>注意 リリース済みの PSR または QCR を削除するには、まず未リリースの状態にする必要があります。[ワークフロー] タブで PSR や QCR を別のステータスに切り替えて未リリースにするには、適切な権限が必要です。</p>

オブジェクトの クラスまたは 基本クラス	オブジェクトの削除条件 (オブジェクトの種類別)
見積依頼	<ul style="list-style-type: none"> 見積依頼変更リリース済みの変更がないこと。

オブジェクトをソフト削除する

Java クライアントでオブジェクトをソフト削除するには

- 削除するオブジェクトを選択し開きます。
- [削除] ボタン  をクリックし、削除を確認するメッセージが表示されたら [はい] をクリックします。

オブジェクトがソフト削除されます。これでその PSR は使用できなくなります。ただし、オブジェクトの番号や名前は、オブジェクトがハード削除されるまで Agile データベース内に保管されるため、他で使用することはできません。

Web クライアントでオブジェクトをソフト削除するには

- 削除するオブジェクトを選択し開きます。
- [アクション]>[削除] の順に選択し、削除を確認するメッセージが表示されたら [OK] をクリックします。


オブジェクトがソフト削除されます。これでその PSR は使用できなくなります。ただし、オブジェクトの番号や名前は、オブジェクトがハード削除されるまで Agile データベース内に保管されるため、他で使用することはできません。

22 ページの「[Agile オブジェクトを削除する](#)」、25 ページの「[オブジェクトの削除を取り消す](#)」および 25 ページの「[オブジェクトをハード削除する](#)」も参照してください。

オブジェクトの削除を取り消す

ソフト削除されたオブジェクトに対して削除取消を実行することができます。

Java クライアントでオブジェクトの削除を取り消すには

- [削除済オブジェクト検索] フォルダから、該当する [削除済み]<オブジェクト>検索を実行します。
- 削除されたオブジェクトの中で復元するものを開きます。
- [削除取消] ボタン  をクリックします。

Web クライアントでオブジェクトの削除を取り消すには

- [削除済オブジェクト検索] フォルダから、該当する [削除済み]<オブジェクト>検索を実行します。
- 削除されたオブジェクトの中で復元するものを開きます。
- [アクション]>[削除取消] の順に選択します。


22 ページの「[Agile オブジェクトを削除する](#)」、25 ページの「[オブジェクトをソフト削除する](#)」および 25 ページの「[オブジェクトをハード削除する](#)」も参照してください。

オブジェクトをハード削除する

オブジェクトは、ソフト削除してもデータベースに残っています。オブジェクトを完全に削除するには、ハー

ド削除する必要があります。ソフト削除が適用されただけのオブジェクトは、削除を取り消すことができます。
[削除済オブジェクト検索] フォルダから、該当する [削除済み] オブジェクト検索を実行します。

ソフト削除されたオブジェクトを Java クライアントでハード削除するには (適切な権限がある場合)

1. [削除済オブジェクト検索] フォルダから、該当する [削除済み] <オブジェクト>検索を実行します。
2. オブジェクトを開きます。
3. [オブジェクトの削除] ボタン  をクリックし、削除を確認するメッセージが表示されたら [はい] をクリックします。

ソフト削除されたオブジェクトを Web クライアントでハード削除するには (適切な権限がある場合)

1. [削除済オブジェクト検索] フォルダから、該当する [削除済み] <オブジェクト>検索を実行します。
2. オブジェクトを開きます。
3. [アクション]>[削除] の順に選択し、削除を確認するメッセージが表示されたら [OK] をクリックします。

22 ページの「[Agile オブジェクトを削除する](#)」、25 ページの「[オブジェクトの削除を取り消す](#)」および 25 ページの「[オブジェクトをソフト削除する](#)」も参照してください。

Agile アイテムを編集する

プレリナリ アイテムとリリース済みアイテムは、異なる方法で編集できます。プレリナリ アイテムは直接編集できますが、リリース済みアイテムは変更により編集します。

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [未リリース アイテムを編集する](#) (26 ページ)
- [リリース済みアイテムを編集する](#) (27 ページ)
- [アイテムのサブクラスを変更する](#) (28 ページ)

未リリース アイテムを編集する


アイテムが未リリースの場合、アイテムの [タイトル ブロック] タブの番号やその他の多くの情報を編集することができます。未リリース アイテムの編集の詳細は、16 ページの「[保留中のリビジョンを処理する](#)」と 84 ページの「[BOM テーブルを変更するには](#)」を参照してください。

注意 別のアイテムの子である部分の番号を変更しても、親と子の関連は保持されています。親アイテムがリリースされている場合、続行するかどうかを尋ねる警告が表示されます。

アイテムがリリース済みか未リリースかに関係なく、[使用箇所] タブ、[変更] タブ、[履歴] タブなどの、自動的に入力されるアイテム タブは編集することができません。

たとえば、Java クライアントを使用して未リリースのアイテムの番号を変更するには以下の操作を実行します。

1. アイテムを開きます。
2. [番号] フィールドの番号を選択して、新規番号を入力します。

または、 をクリックして自動的に新しい自動採番を割り当てます。
3. 変更が完了したら、[保存] をクリックして変更を保存するか、[閉じる] をクリックして変更を保存せずにオブジェクト ウィンドウを閉じます。

他のフィールドも同様の方法で変更します。

たとえば、Web クライアントを使用して未リリースのアイテムの番号を変更するには以下の操作を実行します。

1. アイテムを開きます。
2. [編集] をクリックします。
3. [番号] フィールドの番号を選択して、新規番号を入力します。

または、123 をクリックして自動的に新しい自動採番を割り当てます。

4. 変更が完了したら、[保存] をクリックして変更を保存するか、[キャンセル] をクリックして変更を保存せずに [編集] ページを閉じます。

他のフィールドも同様の方法で変更します。

リリース済みアイテムを編集する

十分な権限がある場合、アイテムのリリース後であっても、アイテム オブジェクトの [タイトル ブロック] タブのほとんどのフィールドを編集することができます。次に例を示します。

- [番号] フィールド

26 ページの「[未リリース アイテムを編集する](#)」を参照してください。

- [説明] フィールド

27 ページの「[リリース済みアイテムの \[説明\] フィールドを編集する](#)」(リリース済みアイテムの [説明] フィールドを編集する) を参照してください。

リリース済みアイテムの編集の詳細は、104 ページの「[リリース済みアイテムの BOM をレッドラインする](#)」を参照してください。

適切な権限があれば、アイテムのリリース後に添付ファイルを追加または変更することもできます ([添付ファイル] タブで)。

注意 権限について質問がある場合は、Agile 管理者にお問い合わせください。

リリース済みアイテムの [説明] フィールドを編集する

注意 Agile 管理者が、設計変更の [対象アイテム] タブからのみリリース済みアイテムの [説明] フィールドに変更を加えられるよう、Agile PLM を設定している可能性があります。

十分な権限がある場合、アイテムの最新リリース済みリビジョンまたは保留中 ECO リビジョンの [説明] フィールドを編集できます。

- リリース済みアイテムの [説明] フィールドを編集する場合、アイテムの最新リリース済みバージョンにのみ、新しい説明が表示されます。
- [説明] フィールドが何回も変更されている場合、一番最近の変更のみがアイテムの [説明] フィールドに表示されます。
- アイテムに保留中リビジョンがある場合、警告メッセージが表示され、新しい説明を保留中リビジョンにもコピーするかどうかを選択できるようになります。

注意 保留中リビジョンの設計変更 [対象アイテム] タブに [古いアイテムの説明] (最新リリース済みバージョン) と [新しいアイテムの説明] (保留中リビジョン) の両方が表示される場合、[対象アイテム] テーブルの [古いアイテムの説明] は、最新のリリース済みバージョンにおける実際のアイテム説明を反映して更新されます。[対象アイテム] テーブルの [新しいアイテムの説明] (保留中リビジョン) は未変更のままとなります。

- 保留中リビジョンの [説明] フィールドを変更するには、次のいずれかの方法を使用します。Agile システムで利用可能な方法は、Agile 管理者がどのように Agile システムを設定し、あなたにどのような権限が与えられているかにより異なります。
 - アイテムを開き、[リビジョン] ドロップダウン リストで保留中リビジョンを選択します。[説明] フィールドを編集し、編集を保存します。(適切な権限が必要です。)
 - 設計変更の [対象アイテム] タブを使用します。[対象アイテム] テーブルのアイテムの行を選択し、[編集] をクリックします。(新しい) アイテムの説明フィールドを編集し、内容を保存します。(適切な権限が必要です。)
- [説明] フィールドへの変更は、アイテムがリリースされた後、アイテムの [履歴] タブに記録されます。

重要 アイテムの [説明] フィールドは MCO からの変更できません。MCO は新規アイテム リビジョンを作成しません。MCO は ECO リビジョンまたは初版リビジョンから、そのベースとなっている [説明] フィールドを使用します。

アイテムのサブクラスを変更する

管理者が追加サブクラスを作成した場合、適切な権限があれば、アイテムのサブクラスを変更することができます。たとえば、あるドキュメントのサブクラスを含有基準からデータ シートに変更することができます。

アイテムのサブクラスの変更方法は、179 ページの「[アイテムのサブクラスを変更する](#)」を参照してください。


Agile アイテムをリリースする

アイテムが直接リリースされて製造フェーズに切り替えられるわけではありません。そのかわりに、アイテムに対する変更 (ECO) が作成され、その変更が変更管理プロセスを経てリリースされます。詳細は『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』を参照してください。ECO およびその他の Agile 変更の詳細は、109 ページの「[変更](#)」を参照してください。

アイテムをリリースするには:

1. 124 ページの「[変更を作成する](#)」の手順に従って、アイテムをリリースするための ECO を作成します。
2. 109 ページの「[変更](#)」の説明に従って ECO を送信します。
3. 必要なステータスを変更が通過すると、リリース可能な状態となります。通常、少なくとも 1 つの「レビュー」ステータス タイプで、ユーザーが変更をサインオフします。

自動昇格が設定されている場合、変更がサインオフされてリリースの有効化に必要なすべての値が入力されると、自動的にリリースされます。

自動昇格が設定されていない場合、[次のステータス] ボタン (Java クライアントでは ) をクリックして変更をリリースします。

注意 適切な権限があれば、[ワークフロー] タブを使用して、変更を直接ワークフローの「リリース済み」ステータス タイプに移動することができます。

変更がリリースされると、アイテムもリリースされます。

ワークフローの処理の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

アイテムを未リリースにする

適切な権限があり、ワークフローで許可されていれば、リリース済みアイテムを未リリースにすることができます。

注意: Agile ChangeCAST または Agile Content Service (ACS) を使用する場合は、アイテムを未リリースにしないでください。

アイテムを未リリースにするには:

1. アイテムを開きます。
2. [変更] タブをクリックします。
3. アイテムをリリースした変更を開きます。

(アイテムに対してその後変更があった場合、それらの変更を作成順とは逆の順番で未リリースにする必要があります。)

4. [ワークフロー] タブのステータス チャートで、[保留中] ステータス タイプを選択します。

注意 一度 [リリース済み] ステータスとなった変更のワークフローを、リリース前のステータスタイプにすると、変更が未リリースとなります。変更が未リリースとなり、アイテムも未リリースとなります。変更のステータス フローチャートに選択可能ステータスとしてそのようなステータス ([保留中]、[提出]、[レビュー] または [中断] タイプ) が表示されない場合は、そのステータスを選択して変更を未リリースにするために必要な権限がないか、変更のワークフローで変更を未リリースにする動作が許可されていないかのどちらかです。(ワークフローの一連のステータスを表示する方法の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』のワークフローについての章を参照してください。)

[ステータス変更] ダイアログ ボックス (Java クライアント) またはページ (Web クライアント) が開きます。

5. [通知] フィールドに情報を入力します。
6. [コメント] フィールドにコメントを入力します。
7. [OK] をクリックします。

アイテムを確定する、未確定にする

適切な権限があれば、アイテムを確定することができます。アイテムを確定すると、添付ファイルがロックされ、許可なく変更できなくなります。添付ファイルのないアイテムを確定した場合、添付ファイルは追加できません。

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [ファイル フォルダと添付ファイルの概要](#) (30 ページ)
- [確定の概要](#) (30 ページ)
- [アイテムを事前確定する](#) (31 ページ)
- [アイテムを確定する](#) (31 ページ)
- [アイテムを未確定にする](#) (31 ページ)

ファイル フォルダと添付ファイルの概要

注意 添付ファイルとファイル フォルダ オブジェクトの詳細は、『Agile PLMユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「添付ファイル进行操作する」と「ファイル フォルダ进行操作する」をご覧ください。「[添付ファイル] タブ」と 14 ページの「[リビジョンと添付ファイルの機能](#)」も参照してください。

[添付ファイル] タブはすべてのオブジェクトにあります。[添付ファイル] タブでは、ファイル フォルダ オブジェクト内のファイルや URL を参照することによって、ファイルや URL をアイテムに添付できます。添付された個々のファイルは、ファイル フォルダ オブジェクトに保存され、複数のオブジェクトに添付することができます。アイテムの [添付ファイル] タブを開くと、各添付ファイル テーブルにファイル フォルダ バージョンが表示されます。アイテムの [添付ファイル] タブからチェックアウトまたはチェックインするたびに、ファイル フォルダ バージョンは 1 つずつ増えていきます。適切な権限があれば、添付ファイル テーブルを編集し、またファイル フォルダの特定バージョンを選択することもできます。

アイテムを含む複数のオブジェクトが同じファイル フォルダを参照できるため、異なるアイテムが同じファイル フォルダの異なるバージョンを参照することもあります。アイテム 123 はファイル フォルダの FF444 のバージョン 3 を参照し、アイテム 987 は FF444 のバージョン 6 を参照することが考えられます。

確定の概要

アイテム バージョンを確定する場合、アイテムの添付ファイルを、現在アイテムの [添付ファイル] タブに表示されている特定のファイル フォルダ バージョンにロックすることができます。確定は、アイテム オブジェクトにのみ適用されるアクションです。アイテム以外のビジネス オブジェクト (ファイル フォルダ オブジェクトを含む) は確定できません。

注意 確定できるのは、ECO によって作成されたリビジョンおよび初版リビジョンのみです。添付ファイルとアイテム リビジョンの詳細は、14 ページの「[リビジョンと添付ファイルの機能](#)」を参照してください。

たとえば、アイテムの添付ファイルが SPEC.doc というファイルであり、FF004 に保存されているとします。アイテムの [添付ファイル] タブのファイル フォルダ バージョンはバージョン 3 です。このアイテムを確定すると、アイテムの添付ファイルは FF004 のバージョン 3 にロックされます。同じように、アイテムの [添付ファイル] タブで選択されたバージョンが [最新-4] の場合、このアイテム バージョンを確定すると、ファイル フォルダ バージョンはバージョン 4 に戻り、確定されたアイテムのバージョンにロックされます。アイテムが複数のファイル フォルダに複数の添付ファイルを持っている場合、確定を実行すると、すべてのファイル フォルダ バージョンはロックされます。

重要 ファイル フォルダにいくつのバージョンがあっても、アイテム バージョンを一度確定すると、常にロックされたファイル フォルダ バージョンを参照するようになります。

同じファイル フォルダを参照するすべてのオブジェクト [添付ファイル] タブから、チェックアウトやチェックイン アクションを実行することができ、またファイル フォルダ オブジェクト自身の [ファイル] タブでもチェックアウトやチェックイン アクションを実行できるため、ファイル フォルダが変更され、追加のファイル フォルダ バージョンが作成される可能性もあります。

アイテムが一度確定されると、その添付ファイルをアイテムの [添付ファイル] タブからチェックアウトできなくなります。添付ファイルのコピーを作成し、表示および使用することはできますが、未確定にすることなく、アイテムのそのバージョンで添付ファイルを変更することはできません。(アイテムの添付ファイルの変更には、添付ファイルの追加や削除、添付ファイル テーブルで表示されたファイル フォルダ バージョンの変更を含みます。)同様に、ファイルが 1 つでもチェックアウトされているアイテムは確定できません。

確定済みアイテムに添付ファイルや、確定済みアイテムに参照されているファイル フォルダ バージョンを追加したり添付ファイルを編集したりする前に、アイテムを未確定にする必要があります。変更を行った後、アイテムを再び確定済みにできます。アイテムを確定または未確定にするには、適切な権限が必要です。

[確定済み] および [未確定] ステータスは、特定のリリースのアイテムのすべての添付ファイルに適用されます。アイテムを確定すると、当該リリースとその添付ファイルのみが確定されます。たとえば、あるアイテムに 3 つの未確定リリースがある場合 (リリース C、D、E)、リリース D を確定すると、リリース C と E は未確定のままとなります。

添付ファイルとファイル フォルダ オブジェクトの詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

29 ページの「[アイテムを確定する、未確定にする](#)」も参照してください。

アイテムを事前確定する

保留中の変更があるアイテムは、リリースする前に確定できます。その場合、アイテムは「事前確定済み」となります。アイテムを事前確定することによって、リリースを暫定完了と指定し、添付ファイルのチェックアウトを「凍結」することができます。(添付ファイルのコピーを「取り出す」ことはできますが、確定済みアイテム リビジョンに添付されたファイルは変更できません。)


事前確定は確定と同様に行いますが、未リリースのアイテムに対して実行します。手順は、31 ページの「[アイテムを確定する](#)」を参照してください。

29 ページの「[アイテムを確定する、未確定にする](#)」も参照してください。

アイテムを確定する

添付ファイルが 1 つでもチェックアウトされているアイテムは確定できません。

Java クライアントを使用してアイテムを確定するには:

1. アイテムを開きます。
2. オブジェクト ウィンドウ情報の [その他] ボタン  をクリックして [その他のアクション] を表示し、[確定] を選択します。
または、ウィンドウを右クリックし、ショートカット メニューから [確定] を選択します。

Web クライアントを使用してアイテムを確定するには:

1. アイテムを開きます。
2. [アクション] - [確定] の順に選択します。


アイテムがリリースされる前に確定されると、確定プロセスは同様に実行されますが、その場合は事前確定と呼ばれます。31 ページの「[アイテムを事前確定する](#)」を参照してください。

29 ページの「[アイテムを確定する、未確定にする](#)」も参照してください。

アイテムを未確定にする

アイテムを未確定にすると、その特定のリリースのみが未確定になります。

Java クライアントを使用してアイテムを未確定にするには:

1. アイテムを開きます。
2. オブジェクト ウィンドウ情報の [その他] ボタン  をクリックして [その他のアクション] を表示し、[未確定] を選択します。
または、ウィンドウを右クリックし、ショートカット メニューから [未確定] を選択します。

Web クライアントを使用してアイテムを未確定にするには:

1. アイテムを開きます。
 2. [アクション]-[未確定] の順に選択します。
- 29 ページの「[アイテムを確定する、未確定にする](#)」も参照してください。

[使用箇所] タブ

アイテム オブジェクトの [使用箇所] タブには、そのアイテムを使用するすべてのアセンブリが一覧表示されます。このタブの情報は自動的に入力されます。

[使用箇所] タブには、2 つのテーブルが含まれています。

- [使用箇所] - アイテムが使用されているアセンブリの最新リリース済みのリビジョンを表示します。アセンブリがリリースされていない場合は、初版リビジョンが表示されます。詳細は、13 ページの「[初版リビジョン](#)」を参照してください。
- 使用箇所変更の保留中 - 関連する変更番号を含め、アイテムが使用されているアセンブリの保留中のリビジョンを表示します。

[使用されている箇所で保留中変更] の表示/非表示を切り替えるには:

[表示] ドロップダウン リストを使用して、[保留中を表示] または [保留中を非表示] を選択します。

注意 [使用箇所] タブを最初に表示するとき、[使用されている箇所で保留中変更] テーブルはデフォルトで非表示になっています。

Java クライアントを使用して [使用箇所] タブからアイテムを表示するには:

アイテムの行をダブルクリックします。

Web クライアントを使用して [使用箇所] タブからアイテムを表示するには:

アイテム番号をクリックします。

注意 アイテムのディスカバリ権限がない場合、そのアイテムは [使用箇所] タブには表示されません。表示されないアイテムの数を示すメッセージが表示されます。詳細は、177 ページの「[ディスカバリ権限と読み取り権限の詳細について](#)」を参照してください。

[使用箇所] テーブルに表示される拠点情報の詳細は、32 ページの「[拠点と \[使用箇所\] タブ](#)」を参照してください。


拠点と [使用箇所] タブ

アイテム オブジェクトの [使用箇所] テーブルには、そのアイテムを使用するすべてのアセンブリが表示されます。アセンブリは、拠点ごとに一度、複数回表示されることがあります。[使用箇所] テーブルの [拠点] 欄には、そのアイテムが含まれている BOM の共通部分 (空白) と拠点別の部分が表示されます。

[使用箇所] テーブルの詳細は、32 ページの「[\[使用箇所\] タブ](#)」を参照してください。

アイテムのタブを印刷する

Agile PLM システムから、オブジェクトのタブやその他のデータを印刷することができます。現在のタブまたはすべてのタブを印刷できます。添付ファイルは、ファイルが作成されたアプリケーションまたは **Viewer** から印刷します。

Java クライアントでは、オブジェクトを開いた状態で [印刷] ボタン  を使用します。

Web クライアントでは、オブジェクトを開いた状態で、[アクション] - [印刷] を選択します。

オブジェクトの印刷の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

拠点および分散型製造

扱うトピックは次のとおりです。

▪ 拠点とは.....	35
▪ 拠点の使用方法.....	36
▪ 拠点の機能.....	37
▪ 拠点に関する記載箇所.....	38
▪ 拠点オブジェクト.....	39
▪ 拠点を作成する.....	43
▪ 拠点をアイテムに関連付ける.....	44
▪ 拠点オブジェクトを削除する.....	46
▪ 拠点を編集する.....	46
▪ 拠点を印刷する.....	47

拠点とは

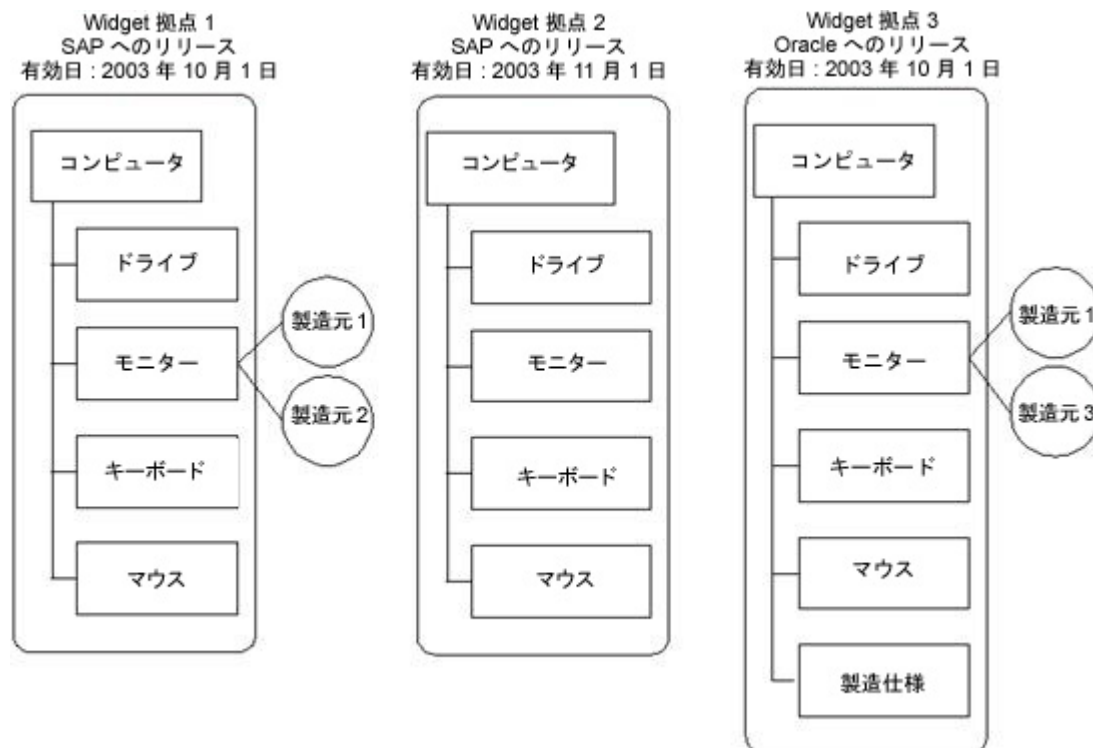
Agile PLM では、拠点オブジェクトは製造拠点を表します。分散型製造を実践している企業は、自社の製品を複数箇所の製造拠点で製造しています。たとえば、Widget Corporation は自社製品を本社所在地のテキサス州オースティンで製造していますが、台湾、シンガポール、メキシコシティ、およびカリフォルニア州ミルピタスの製造工場でも製造しています。

拠点オブジェクトにより、製造のニーズに関連した情報のみが確実に各 ERP に含まれるようになります。たとえば、企業は社内製造/購入拠点の関連付けにおいて、各社内 ERP または下請業者に送付されるものを管理できます。

拠点オブジェクトにより、ある製造拠点から別の製造拠点への製造の移行が容易になります。たとえば、Widget Corporation が、台湾のプロトタイプ拠点からメキシコシティの製造拠点に製品全体を移行するとします。そのためには、台湾の BOM にある部品でメキシコシティの BOM にはない部品すべてに対して製造拠点の関連付けを追加してから、その BOM を設計変更 (ECO) または拠点毎変更 (SCO) によってメキシコシティに送付します。

また、拠点オブジェクトにより、提案された有効日変更 (SCO) をユーザーが部品のリビジョンに対して作成できるようにし、拠点有効プロセスを正式なものにすることもできます。たとえば、拠点製造日を変更して遅らせる必要がある場合は、その部品に対する SCO により、有効日変更の承認と理由に関する簡単な記録が作成されます。

次の図は、Agile PLM での拠点の使用方法を示しています。この図に示されている 3 つの拠点では、ERP システム、有効日、製造元が異なります。また、拠点 3 では拠点固有の製造手順が追加されています。



拠点の使用方法

拠点を使い、拠点別の AML、BOM、および有効日を記録および管理することができます。

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [拠点ごとに異なる AML](#) (36 ページ)
- [拠点ごとに異なる BOM](#) (36 ページ)
- [拠点ごとに異なる有効日および対応策](#) (37 ページ)

拠点ごとに異なる AML

多くの場合、製造する製品が同じであっても、拠点が異なれば、使用する製造元や製造元部品も異なります。このような違いが生じる理由としては、コスト (近くの製造元を利用したほうがその拠点にとって費用効果が高い場合など) や製造元のステータスなどがあげられます。1 つのアセンブリの AML には、多様な製造拠点向けに異なる製造元部品を含めることができます。

37 ページの「[拠点の機能](#)」も参照してください。

拠点ごとに異なる BOM

1 つのアセンブリの BOM には、特定の拠点だけに関連するアイテムを含めることができます。共通の BOM には、コア アセンブリを構成するすべてのアイテムがリストされます。その BOM はすべての拠点で同じで

すが、各製造拠点に割り当てられた適切なユーザーは、拠点別アイテムをその BOM に追加することができます (この操作により、BOM の拠点別の部分が作成されます)。多くの場合、追加のアイテムはドキュメントであり、拠点での製造方法に固有のアセンブリ手順などが例としてあげられます。

37 ページの「[拠点の機能](#)」も参照してください。

拠点ごとに異なる有効日および対応策

アイテムの有効日と対応策は、拠点ごとに異なるものとすることができます。これにより、たとえば、オースティン拠点ではあるアイテムのリビジョン B の使用を開始する一方、シンガポール拠点では在庫がなくなるまでリビジョン A の使用を継続するということが可能になります。

有効日および対応策は、ECO や SCO の [対象アイテム] タブで指定します。新しい有効日または対応策を割り当てる際に新規リビジョンを作成する場合は、ECO を使用します。リビジョンを進めずに拠点別の有効日および対応策を割り当てるには、SCO を使用します。

37 ページの「[拠点の機能](#)」も参照してください。

拠点の機能

拠点オブジェクトには、製造元オブジェクトと同様に、各拠点の情報が保持されます。適切な権限のあるユーザーは、追加の拠点を作成することができます。

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [BOM および AML 上の拠点情報](#) (37 ページ)
- [アイテムの \[拠点\] タブ](#) (37 ページ)
- [変更と拠点](#) (38 ページ)
- [拠点へのアクセスを管理する](#) (38 ページ)
- [BOM/AML の共通セクション](#) (38 ページ)

BOM および AML 上の拠点情報

アイテムの BOM または AML ([製造元] タブ) を表示する場合、すべての拠点のものを表示するか特定の拠点のものを表示するかを選択できます。特定の拠点の BOM または AML を表示した場合、共通の BOM または AML がリストに含まれます。

37 ページの「[拠点の機能](#)」、80 ページの「[拠点ごとに BOM を表示する](#)」および 66 ページの「[拠点ごとに AML を表示する](#)」も参照してください。

アイテムの [拠点] タブ

各アイテムには [拠点] タブがあります。[拠点] タブには、そのアイテムを使用できる拠点のリストが表示されます。ある拠点が、あるアイテムの [拠点] タブに表示されていない場合、そのアイテムが BOM 内のその拠点固有の部分に表示されることはありません。親 BOM のすべての拠点が、あるアイテムの [拠点] タブに表示されていない場合、そのアイテムが BOM 内の共通部分に表示されることはありません。詳細は、38 ページの「[BOM/AML の共通セクション](#)」を参照してください。

37 ページの「[拠点の機能](#)」と 36 ページの「[拠点の使用方法](#)」も参照してください。

変更と拠点

アイテムのすべての拠点または特定の拠点を対象として、変更を反映することができます。[対象アイテム] タブで、対象アイテムを追加する際に対象となる拠点を選択できます。また、拠点毎変更 (SCO) を使用して、リビジョンを変更せずにアイテムに対する拠点別の変更を作成することができます。

37 ページの「[拠点の機能](#)」、120 ページの「[変更と製造拠点](#)」および 122 ページの「[拠点毎変更](#)」も参照してください。

拠点へのアクセスを管理する

拠点の使用は、組織のライセンス、役割、権限、およびデフォルトの拠点プロパティ (デフォルトで表示される拠点を決定します) によって管理されます。また、拠点は、望む数だけ作成することができます。

組織によっては、ユーザーが特定の拠点に関する情報のみにアクセスできるように、拠点を設定している場合があります。

ユーザー プロファイルの [拠点] リストは、どの拠点オブジェクトを Agile データベースで検出できるか、またそのアイテム拠点関連の行 ([BOM] タブ、[製造元タブ]) を検出できるかを管理します。拠点オブジェクト属性を読み取る能力は、[読み取り] 権限で管理されます。

管理者権限のあるユーザーは、ユーザーの [ユーザー プロファイル] 属性を変更する際に、すべての拠点を割り当てることができます。ただし、Web クライアントまたは Java クライアントで拠点を検索する際、管理者ユーザーがディスカバリできるのは自分のユーザー プロファイルの [拠点] リストに表示されている拠点のみです。

36 ページの「[拠点の使用方法](#)」と 37 ページの「[拠点の機能](#)」も参照してください。

BOM/AML の共通セクション

BOM の共通セクションは、アイテムの [拠点] タブに表示されているすべての拠点間で共有される情報を識別します。あるアセンブリの BOM の共通セクションにあるすべての部品は、そのアセンブリの [拠点] タブに表示されているすべての拠点を、部品の [拠点] タブに表示させているはずで、それらの部品は拠点を共有していることになります。

たとえば、アセンブリ 234 の BOM の Milpitas 固有の部分に部品 300 を表示させる場合、部品 300 とアセンブリ 234 の両方の [拠点] タブに拠点「Milpitas」と表示されていなければなりません。アセンブリ 234 の [拠点] タブに 3 つの拠点 (Milpitas、India、San Jose) がある場合に、アセンブリ 234 の BOM の共通部分に部品 300 が表示されるようにするには、部品 300 の [拠点] タブにも少なくともそれら 3 つの拠点 (Milpitas、India、San Jose) が含まれていなければなりません。つまり、2 つの部品は 3 つの拠点を共有しなければならないことになります。(部品 300 の [拠点] タブには、アセンブリ 234 に関連のない拠点を追加することもできます。)リリース時に Agile でアイテムの BOM コンポーネントの拠点の関連付けが適切かどうかをチェックするか否かが、スマートルール (初回リリース アイテム) によって制御されます。ECO、SCO、または MCO がアセンブリをリリースする際には、スマートルールへの準拠が確認されます。また、変更 [検証リリース] 機能によって、リリース前にスマートルールへの準拠を確認することもできます。

6 ページの「[共通 BOM を作成する](#)」と 7 ページの「[拠点別の BOM を作成する](#)」も参照してください。

拠点に関する記載箇所

拠点に関する情報は、以下のセクションに記載されています。

トピック	セクションまたは章
拠点オブジェクト	この章の残りの部分
アイテムの [拠点] タブ	この章および第 1 章「 アイテム 」 (1 ページ)
拠点別情報の表示	次の章: 第 1 章「 アイテム 」 (1 ページ) 第 4 章「 部品構成表 (BOM) 」 (75 ページ) 第 6 章「 変更の対象アイテム 」 (129 ページ) 第 3 章「 製造オブジェクト 」 (49 ページ)
拠点別 BOM	第 4 章「 部品構成表 (BOM) 」 (75 ページ)
拠点別 AML	第 3 章「 製造オブジェクト 」 (49 ページ)
SCO	第 5 章「 変更 」 (109 ページ) および第 6 章「 変更の対象アイテム 」 (129 ページ)
拠点に対する変更の反映	第 5 章「 変更 」 (109 ページ) および第 6 章「 変更の対象アイテム 」 (129 ページ)
拠点別情報のレッドライン	第 6 章「 変更の対象アイテム 」 (129 ページ)
拠点別の有効日および対応策	第 6 章「 変更の対象アイテム 」 (129 ページ)

拠点オブジェクト

拠点オブジェクトには、拠点に関する一般的な情報が含まれます。アイテムとは異なり、拠点はリリース プロセスを通過する必要はありません。

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [\[一般情報\] タブ - 拠点](#) (40 ページ)
- [\[添付ファイル\] タブ](#) (42 ページ)
- [\[履歴\] タブ](#) (42 ページ)

アイテムを検索して開くには、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』にある手順に従います。

次の表に、拠点のタブを表示します。

Agile 管理者によって、[タイトル ブロック] または [一般情報] タブにセクションが追加されている場合があります。これらは、デフォルトでは [ユーザー定義 1]、[ユーザー定義 2] (Web クライアント) という名前になっています。Java クライアントでは、これらは別々のタブとなります。これらのタブやセクションには、管理者が定義したカスタム フィールドが含まれています。

拠点のタブ名	タブ情報の内容
一般情報	拠点に関する一般情報
添付ファイル	添付された図面、ファイル、および拠点に関連する URL
履歴	拠点に対して実行されたアクション (たとえば添付ファイルの追加/削除)

[一般情報] タブ - 拠点

[一般情報] タブには、拠点についての基本情報を含むフィールドがあります。一部のフィールドは自動的に入力されるため、残りを入力します。一部のフィールドの内容は編集できない場合があります。

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [\[一般情報\] タブのフィールド - 拠点](#) (40 ページ)
- [拠点のライフサイクル フェーズ](#) (41 ページ)
- [\[購入に AML が必須\] フィールド](#) (41 ページ)
- [\[拠点 AML の許可\] フィールド](#) (41 ページ)

[一般情報] タブのフィールド - 拠点

拠点オブジェクトの [一般情報] タブには、デフォルトで、次の表に示すフィールドが含まれます。

フィールド	定義
名前	拠点の名前。このフィールドには固有の値を入力する必要があります。
タイプ	拠点オブジェクトのサブクラス (タイプ)
ライフサイクル フェーズ	拠点の現在の状態: 「有効」または「無効」。
拠点の ERP コード	拠点で使用されている ERP システム (該当する場合)。
住所、所在地、都道府県、国/地域、市町村、郵便番号、電話番号、URL、ファックス	拠点の連絡先情報。
担当者	拠点の担当者の名前。
電子メール	連絡先担当者の電子メール アドレス。
パイヤー	その拠点におけるアイテムのパイヤー コード。拠点に割り当てられているコードのリストからいずれかのコードを選択します。
プランナー	その拠点におけるアイテムのプランナー コード。拠点に割り当てられているコードのリストからいずれかのコードを選択します。
色	その拠点に関連付けた色。色のリストから選択します。この色は、共通アイテムを拠点別アイテムと区別するために [BOM]、[製造元] および [対象アイテム] タブで使用します。複数の拠点に同じ色を使用できます。
拠点 AML の許可	「購入」と指定されているアイテムに関して、拠点固有の製造元の値が必須、可、不可のいずれであるかを示します。
購入に AML が必須	その拠点に対してアイテムが「購入」（反対は「製造」）と指定されている場合に、そのアイテムで製造元の値が必須かどうかを示します。アイテムが「購入」か「製造」かは、そのアイテムの [拠点] タブの [内製/購入] フィールドに表示されます。

39 ページの「[拠点オブジェクト](#)」、41 ページの「[拠点のライフサイクル フェーズ](#)」、41 ページの「[\[購入に AML が必須\] フィールド](#)」および 41 ページの「[拠点 AML の許可](#)」も参照してください。

拠点のライフサイクル フェーズ

- 拠点は、以下のいずれかの状態になります。これは、拠点の [一般情報] タブの [ライフサイクル フェーズ] フィールドに表示されます。
- 有効 - 拠点が有効の場合、ユーザーは拠点自体のすべての拠点プロパティを定義できます。また、拠点をアイテムに関連付け、アイテム - 拠点プロパティを定義し、拠点別の BOM および AML を作成し、拠点別アイテムに対して変更を作成することも可能です。
- 無効 - 拠点が最初に作成されたときにすべての拠点が無効になります。拠点が無効の場合、ユーザーは拠点別の BOM、AML、変更を作成することができません。ただし、拠点が無効になっている場合でも、検索結果やレポートには表示されます。無効にされた拠点を含む進行中の変更はすべてリリースを通して続行を許可されますが、ユーザーは無効にされた拠点の拠点別 [対象アイテム] テーブル行を編集できず、また拠点が無効にされている場合、進行中の変更に対してレッドラインの追加や変更を行うこともできません。

拠点のライフサイクル フェーズを変更するには、ドロップダウン リストからライフサイクル フェーズを選択します。

40 ページの「[\[一般情報\] タブのフィールド - 拠点](#)」も参照してください。

[購入に AML が必須] フィールド

拠点の [購入に AML が必須] フィールドは、アイテムが特定の拠点に対して「購入」と指定されている場合に、そのアイテムで AML が必須かどうかを決定します。

注意 アイテムが「購入」と指定されているかどうかは、そのアイテムの [拠点] タブの [内製/購入] フィールドの値によって決まります。

アイテムがリリースされると、そのアイテムがどの拠点に対してリリースされているのかがシステムによって確認されます。これは、リリースする変更の [対象アイテム] タブに表示されています。次に、アイテムの [拠点] タブの [内製/購入] フィールドがチェックされ、「購入」と指定されている拠点がいないかどうか確認されます。あるアイテムがすべての拠点に対して「製造」と指定されている場合、このルールは無視されます。

[購入に AML が必須] の値として使用できるのは、[はい] または [いいえ] (デフォルト) です。

- [いいえ] - リリースされているアイテムに共通の AML があるか、そのアイテムの「購入」拠点として指定されている拠点に固有の AML があるかが確認されます。リリース時に、システムはアイテムに拠点の AML があるかどうかを確認しません。この場合でも、アイテムをリリースすることは可能です。
- [はい] - リリースされているアイテムには、共通の AML か、そのアイテムの「購入」拠点として指定されている拠点に固有の AML のどちらかが必要です。

[購入に AML が必須] が [はい] に設定されている場合、自動昇格によってアイテムのリリースが試行 (変更を介して) されたとしても、適切な拠点の拠点別 AML がそのアイテムにないと、昇格は失敗し、担当者に通知されます。

40 ページの「[\[一般情報\] タブのフィールド - 拠点](#)」も参照してください。

[拠点 AML の許可] フィールド

このフィールドは、アイテムが特定の拠点に対して「購入」と指定されている場合に使用され、アイテムの AML が以下のいずれの状態になるかを決定します。

- 拠点に固有でなければならない
- 特定の拠点に対して変更できる
- 共通拠点 AML のみを使用できる

注意 アイテムが特定の拠点に対して「購入」と指定されているかどうかは、そのアイテムの [拠点] タブの [内製/購入] フィールドの値によって決まります。

アイテムがリリースされると、そのアイテムがどの拠点に対してリリースされているのかがシステムによって確認されます。これは、リリースする変更の [対象アイテム] テーブルに表示されています。次に、拠点の [拠点 AML の許可] フィールドがチェックされ、拠点別 AML のためにそれらの拠点のいずれかが必須であるか、または許可されているかが確認されます。

[拠点 AML の許可] の値として使用できるのは、[可] (デフォルト)、[必須] および [不可] です。

- [可] - リリースされているアイテムにはその拠点用の拠点別 AML が許可されていますが必須ではありません。アイテムはリリースできます。
- [必須] - リリースされているアイテムには、そのアイテムの「購入」拠点として指定されている拠点用の拠点別 AML が必要です。この条件が満たされるまで、アイテムはリリースできません。
自動昇格によってアイテムのリリースが試行 (変更を介して) されたとしても、適切な拠点の拠点別 AML がそのアイテムにない場合には、昇格は失敗し担当者に通知されます。
- [不可] - リリースされているアイテムは、その拠点用の拠点別 AML を持つことはできません。アイテムに拠点別 AML がある場合にはリリースできません。
自動昇格によってアイテムのリリースが試行 (変更を介して) されたとしても、アイテムに拠点別 AML がある場合には、昇格は失敗し担当者に通知されます。

AML の変更またはレッドラインによってアイテムに拠点別 AML が作成される場合、アイテムがリリースされると、拠点の [拠点 AML の許可] フィールドがシステムによってチェックされ、[拠点 AML の許可] が [不可] に設定されている拠点がいないかどうかを確認されます。ある拠点が [不可] の場合、ユーザーはその拠点の拠点別 AML をリリースできません。

40 ページの「[\[一般情報\] タブのフィールド - 拠点](#)」も参照してください。

[添付ファイル] タブ

[添付ファイル] タブはすべてのオブジェクトにあります。[添付ファイル] タブでは、ファイル フォルダ オブジェクト内のファイルと URL を参照することによって、ファイルと URL をオブジェクトに添付できます。[添付ファイル] タブでは、適切な権限があれば、添付ファイルの表示、コピー (取り出し)、または印刷が可能です。

添付された個々のファイルは、ファイル フォルダ オブジェクトに保存され、複数のオブジェクトに添付することができます。ファイル フォルダ オブジェクトのファイルには、図面、スキャンした画像、ドキュメント、表示できないファイル、圧縮ファイルなどがあります。

フォルダ オブジェクトの使用、および [添付ファイル] タブの詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

39 ページの「[拠点オブジェクト](#)」も参照してください。

[履歴] タブ

[履歴] タブには、そのオブジェクトに対して実行されたアクションの要約 (アクションの説明、アクションを実行したユーザー、日付、その他) が表示されます。

注意 オブジェクトの読み取り権限がない場合、[履歴] タブのフィールドの内容を表示することはできません。177 ページの「[ディスカバリ権限と読み取り権限の詳細について](#)」を参照してください。

拠点について記録されるアクションのタイプは、次のとおりです。

- 拠点の作成
- 添付ファイルに関するアクション: 表示、開く、追加、削除、取り出し
- 名前を付けて保存
- 送信
- 印刷
- サブクラスの変更
- 拠点の任意のフィールドの変更



39 ページの「[拠点オブジェクト](#)」も参照してください。


拠点を作成する

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [製造拠点を作成する](#) (44 ページ)
- [\[名前を付けて保存\] 機能を使用して拠点を作成する](#) (44 ページ)

拠点を作成するには、拠点の作成権限が必要です。

Java クライアントでは、[ファイル]-[新規作成]-[拠点] コマンド、または [新規オブジェクト] ボタン  を使って拠点を作成することができます。または、[その他のアクション] メニュー (オブジェクト ウィンドウ上部で [その他] ボタン  をクリック) およびショートカット メニューを右クリックして、[名前を付けて] コマンドから作成することもできます。

Web クライアントでは、[作成]>[拠点] コマンド  または [アクション]-[名前を付けて保存] コマンドにより、拠点を作成することができます。

注意 拠点番号が拠点に固有であるのと同じように、拠点名は、拠点に固有である必要があります。

共通アイテムを拠点別アイテムと区別するために [BOM]、[製造元] および [対象アイテム] タブで使用する色を選択します。Java クライアントでは、拠点の色はアイテムの [使用箇所] タブと [変更] タブにも表示されます。拠点の色の詳細は、40 ページの「[\[一般情報\] タブのフィールド - 拠点](#)」を参照してください。

拠点を作成すると自動的に、その拠点に固有の情報にアクセスできるようになります。新規の拠点は、ユーザープロファイルの [拠点] フィールドに入れられます。

製造拠点を作成する

新規オブジェクトを作成するプロセスには、主に 2 つの手順があります。まず空のオブジェクトを作成してから、そのオブジェクトに固有の情報をオブジェクトのタブに入力します。拠点とその他のオブジェクトの作成方法の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

43 ページの「[拠点を作成する](#)」も参照してください。

[名前を付けて保存] 機能を使用して拠点を作成する

[名前を付けて保存] 機能により、既存の拠点到似た拠点を迅速に作成することができます。

すべての [一般情報] および [ユーザー定義1] フィールド値および [ユーザー定義2] (Agile システム設定によります) フィールド値は新しい拠点到コピーされます。新規拠点のライフサイクル フェーズは「無効」になります。[添付ファイル] は、Agile 管理者が選択した推奨方法を使用して作成されます (新規作成、既存を参照、ファイルをコピーしない、または昇格を使用。詳細は 20 ページの「[\[名前を付けて保存\] を使用してアイテムを作成する](#)」を参照)。元の拠点の [履歴] タブには、元の拠点から新規拠点がコピーされたことが反映されます。

[名前を付けて保存] を使用して拠点を作成する方法の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

43 ページの「[拠点を作成する](#)」も参照してください。

拠点をアイテムに関連付ける

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [\[拠点\] タブのフィールド](#) (44 ページ)
- [\[拠点\] タブに拠点を追加する](#) (45 ページ)
- [\[拠点\] タブから拠点を削除する](#) (46 ページ)

アイテムを拠点別 BOM で使用可能にするには、拠点をそのアイテムの [拠点] タブに追加する必要があります。ある拠点が、あるアイテムの [拠点] タブに表示されていない場合、そのアイテムの拠点別 BOM または AML を定義することはできません。1 つの拠点は、[拠点] タブに一度だけ表示できます。

[拠点] タブは変更管理下にはないため、このテーブルの情報を修正するために変更を作成する必要はありません。

[拠点] タブのフィールド

次の表には、アイテムの [拠点] タブにあるデフォルトのフィールドが一覧されています。

フィールド	定義
拠点の名前	拠点の名前。[拠点] タブから編集することはできません。
バイヤー	その拠点におけるアイテムのバイヤー コード。拠点到割り当てられているコードのリストからいずれかのコードを選択します。
プランナー	その拠点におけるアイテムのプランナー コード。拠点到割り当てられているコードのリストからいずれかのコードを選択します。
内製/購入	その拠点がアイテムを製造するか購入するかを示します。

フィールド	定義
コスト	「はい」または「いいえ」。この拠点については、アイテムに関連付けられたコストがあるかどうかを示します。
見積形式	リストから選択。拠点については、アイテムの見積形式 (たとえばアセンブリやコンポーネント) が表示されます。
通貨	この拠点のデフォルトの通貨。
標準コスト	アイテムに対するこの拠点の標準コスト。
目標コスト	アイテムに対して設定された、この拠点の目標コスト。
最初のリリース済みの変更	この拠点に対し最初にアイテムをリリースした変更。アイテムのリリース時に自動入力されます。[拠点] タブから編集することはできません。
拠点のライフサイクル フェーズ	拠点の現在の状態: 「有効」または「無効」。[拠点] タブから編集することはできません。
拠点のタイプ	拠点のサブクラス。[拠点] タブから編集することはできません。

45 ページの「[\[拠点\] タブに拠点を追加する](#)」と 46 ページの「[\[拠点\] タブから拠点を削除する](#)」も参照してください。

[アイテムの拠点] タブの [内製/購入] フィールドを変更する

適切な変更権限を持っている場合、アイテムがリリース済みの場合であっても、アイテムの [拠点] テーブルで [内製/購入] フィールドを変更できます。ただし、[内製/購入] の設定はリビジョン固有ではありません。任意のアイテム リビジョンの [内製/購入] の設定を変更すると、すべてのリビジョンの設定が変更されます。[内製/購入] の設定を変更する際、次の制約が適用されます。

- アイテムが設計変更の対象アイテム テーブルに含まれる場合、リリースの検証で、そのリビジョンについて拠点の [拠点 AML の許可] および [購入に AML が必須] の設定とアイテムの [拠点] タブの [内製/購入] の設定が検証されます。以前のリビジョンは検証されません。(設計変更のリリース時には、リリース検証が自動的に実行されます。)
- [内製/購入] の設定はリビジョン固有ではなく、設計変更を使用せずに変更できるため、[内製/購入] の変更による検証違反があった場合、違反はアイテムの最新のリリース済みリビジョンに残され、次回アイテムが設計変更追加され、その設計変更がリリース検証されるまで検出されない可能性があります。



詳細は、41 ページの「[\[購入に AML が必須\] フィールド](#)」と 41 ページの「[\[拠点 AML の許可\] フィールド](#)」を参照してください。

[拠点] タブに拠点を追加する

アイテムの [拠点] タブに拠点を追加するときは、リストから拠点を選択します。リストには、アクセスできるすべての有効な拠点 (ユーザー プロファイルの [拠点] フィールドに含まれている、ライフサイクル フェーズが「有効」の拠点) が表示されます。「無効」の拠点は、アイテムの [拠点] タブに追加できないため、リストには表示されません。

アイテムの [拠点] タブに拠点を追加した後は、[拠点] テーブルから拠点を選択して編集し、[拠点] テーブルの他のフィールドに値を入力することができます。[拠点] テーブルの [拠点の名前] の値は変更できません。リストに表示される拠点を変更するには、拠点を削除し、新しい拠点を追加します。

Java クライアントで [拠点] タブに拠点を追加するには:

1. アイテムの [拠点] タブでは、2 とおりの方法で [追加] ボタンを使用できます。
 - [追加] ボタン  をクリックしてダイアログ ボックスを表示します。ここでは複数の拠点を選択できます。選択が完了したら、[OK] をクリックします。
 - [追加] ボタン  のドロップダウンの矢印部分をクリックして、ドロップダウン リストから拠点名を選択します。

Web クライアントで [拠点] タブに拠点を追加するには:

1. アイテムの [拠点] タブで、[追加] ボタンをクリックします。
選択項目のダイアログ ボックスが表示されます。
2. 希望の拠点を [利用可能な値] リストから [選択された値] リストへと移動します。完了したら、[OK] をクリックします。


46 ページの「[\[拠点\] タブから拠点を削除する](#)」も参照してください。

[拠点] タブから拠点を削除する

アイテムが拠点に対してリリースされておらず、ユーザーに適切な権限があるかぎり、アイテムの [拠点] タブから拠点を削除することができます。[拠点] タブから拠点を削除しても、拠点オブジェクトはデータベースから削除されません。

拠点別 BOM または AML によって参照されている拠点を削除しようとする、警告が表示されます。そのような拠点を削除すると、対応する拠点別 BOM または AML、および拠点別 [対象アイテム] テーブル行と変更時の拠点別レッドラインも削除されます。

Java クライアントでアイテムの [拠点] タブから拠点を削除するには:

1. 削除する拠点を選択します。
2. [拠点] タブの [削除]  ボタンをクリックします。

Web クライアントでアイテムの [拠点] タブから拠点を削除するには:

1. 削除する拠点を選択します。
2. [拠点] タブの [削除] ボタンをクリックします。

45 ページの「[\[拠点\] タブに拠点を追加する](#)」も参照してください。

拠点オブジェクトを削除する

拠点オブジェクトの削除の詳細は、22 ページの「[Agile オブジェクトを削除する](#)」を参照してください。

拠点を編集する

必要な権限を持つユーザーは、拠点に入力された値を変更することができます。拠点は変更管理プロセスを通過する必要があるため、すべての変更はすぐに適用されます。

Java クライアントで拠点を編集するには:

1. 拠点の [一般情報] タブを表示します。
2. 必要な変更を加えます。
3. [保存] をクリックします。

Web クライアントで拠点を編集するには:

1. 拠点の [一般情報] タブを表示します。
2. [編集] をクリックします。
3. 必要な変更を加えます。
4. [保存] をクリックします。


[一般情報] タブの一部のフィールドについては、次の点に注意してください。

- [名前] - 拠点名を変更すると、その拠点が表示されているアイテムの [拠点] タブ、およびその拠点が表示されている [BOM] タブなどの他のタブに、変更が反映されます。拠点名を別の拠点と同じ名前に変更することはできません。
- [バイヤー] または [プランナー] - アイテムの [拠点] テーブルに表示されている場合、バイヤーまたはプランナーは削除できません。
- [購入に AML が必須] および [拠点 AML の許可] - [購入に AML が必須] または [拠点 AML の許可] を編集しても、リリース済みのアイテムは影響を受けません。新しいアイテムおよび新たにリリースされた変更には、新しい値が使用されます。

43 ページの「[拠点を作成する](#)」も参照してください。

拠点を印刷する

Agile PLM システムから、オブジェクトのタブやその他のデータを印刷することができます。現在のタブまたはすべてのタブを印刷できます。添付ファイルは、ファイルが作成されたアプリケーションまたは **Viewer** から印刷します。

Java クライアントでは、オブジェクトを開いた状態で [印刷] ボタン  を使用します。

Web クライアントでは、オブジェクトを開いた状態で、[アクション] - [印刷] を選択します。

オブジェクトの印刷の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

製造オブジェクト

扱うトピックは次のとおりです。

▪ Agile AML とは	49
▪ 製造データを設定する	51
▪ 製造オブジェクト: 製造元と製造元部品.....	52
▪ 製造オブジェクトを作成および管理する	56
▪ 製造オブジェクトを削除する	64
▪ アイテムの [製造元] タブ	65
▪ 拠点ごとに AML 情報を表示する	66
▪ 製造元部品を対応するアイテムに関連付ける	66
▪ 製造元オブジェクトを使用する際の重要な注意事項	67
▪ プレリナリ アイテムの製造データを使用する	67
▪ [レッドライン] タブから製造データを変更する	69
▪ 製造オブジェクトと AML を印刷する	74

Agile AML とは

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- [Agile AML の機能](#) (49 ページ)
- [製造オブジェクトについて](#) (50 ページ)
- [Agile AML における多対一の関係](#) (50 ページ)

Agile 承認済み製造元リスト (AML) ソリューションを使用すると、組織で製造元や製造元部品に関連する情報を管理できます。

Agile AML の機能

Agile PLM では、アイテムと製造元の関係を追跡し、承認済み製造元リスト (AML) を作成することができます。つまり、特定の部品を製造している製造元、その部品に対する ID 情報、部品がどこで使用されるか、製造元の連絡先情報などを即座に検索することができます。

アイテムの AML は、そのアイテムの [製造元] タブにある行情報で表されます。各行が各製造元部品を表します。65 ページの「[アイテムの \[製造元\] タブ](#)」を参照してください。

さらに、MCO (製造元変更) を使用して製造データを変更することができます。

注意 拠点別の製造データを変更するには、拠点毎変更 (SCO) を使用します。

製造オブジェクトについて

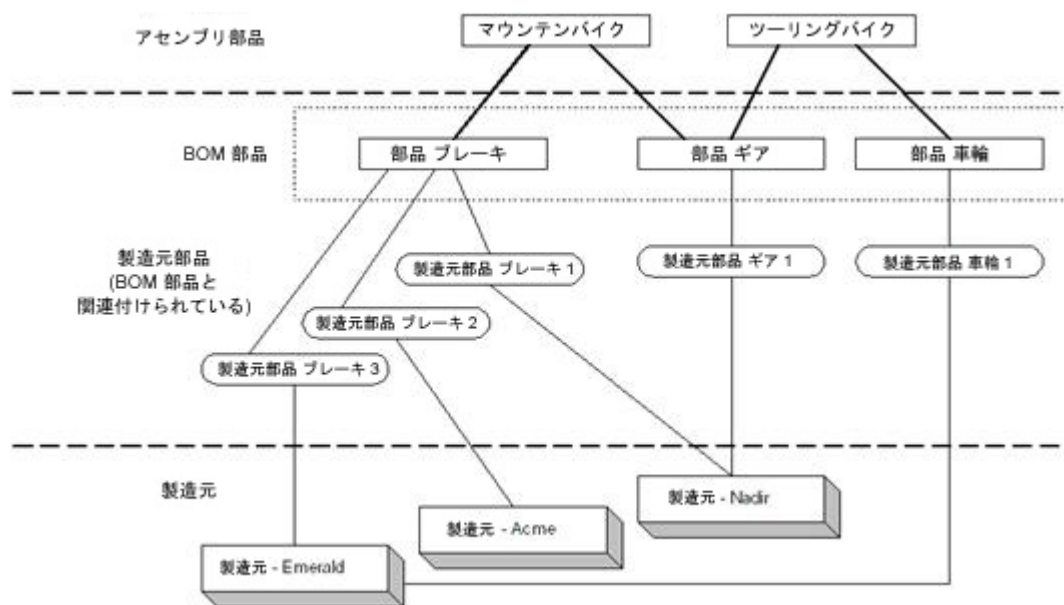
AML 機能を使用すると、以下の製造オブジェクトを扱うことができます。

- 製造元 - このオブジェクトには連絡先情報や、アセンブリのどこでそれらの部品が使用されるかなど、製品の製造元についてのデータが保存されています。
- 製造元部品 - このオブジェクトでは製品部品が製造元の観点から説明されています。提供される情報には、製造元での部品番号や部品名、アセンブリのどこでその部品が使用されるか、その製造元部品の製造拠点の場所などがあります。

製造オブジェクトの詳細は、52 ページの「[製造オブジェクト: 製造元と製造元部品](#)」を参照してください。

Agile AML における多対一の関係

AML 機能を使用すると、複雑な多対一の関係を追跡することができます。次の図は、実際の製造でよく見られるより複雑な状況の例を示しています。



この例では、1 つの部品が複数の製造元部品で構成されています。また、一部の製造元は複数の製造元部品を提供しています。

注意 [製造元部品に複数アイテム] スマートルールの Agile 管理者設定によっては、製造元部品を 1 つのアイテムの [製造元] タブにのみ追加できるように Agile PLM システムが設定されていることがあります。複数のアイテムに関連付けられる製造元部品について質問がある場合は、Agile 管理者にお問い合わせください。

拠点と AML データ

製造元部品は、製品の組立を行う拠点が複数でも 1 つでも、すべての製造拠点で利用される可能性があります。AML リストの AML 情報の共通部分は、そのアイテムを扱うすべての拠点で共有します。各拠点で、拠点固有の製造情報（近くにあるという理由でその拠点が使用している製造元など）を AML テーブルに追加することができます。また、ある拠点で「推奨」とされている製造元部品が、他の拠点では「代替」とされることもあります。複数の拠点で使用する製造元部品は、AML タブでは複数回、各拠点に対しては一度、表示されます。

拠点の [購入に AML が必須] フィールドでは、あるアイテムが特定の拠点で「購入」と指定された時に、そのアイテム用に製造元部品が必要かどうかを決定します。[購入に AML が必須] フィールドの詳細は、41 ページの「[購入に AML が必須](#)」フィールドを参照してください。

注意 アイテムが「購入」と指定されているかどうかは、そのアイテムの [拠点] タブの [内製/購入] フィールドの値によって決まります。

製造データを設定する

Agile PLM で製造データを追跡するには、まずデータベースに製造元を設定して、次にアセンブリで使用する（製造元が製造する）製造元部品を作成する必要があります。

この場合、順序が重要です。製造元部品は、対応する製造元を作成した後で初めて作成できます。

処理は、次の順序で実行します。

1. 製造元を作成します。
たとえば、「Acme」という製造元を作成します。
2. 製造元部品を作成します。
Acme を製造元として指定して、製造元部品番号 AM230PS を作成します。
3. 製造元部品を社内部品の [製造元] タブに追加します。
たとえば、部品 P001232 の [製造元] タブに移動して Acme AM230PS を追加します。

一度関係が確立されると、製造データの動きを簡単に追跡することができます。

この時点から、製造データをレッドライン プロセスを通じて管理することができます。これについては、125 ページの「[ECO、MCO、SCO によってレッドラインする](#)」に説明されています。

注意 製造オブジェクトは変更管理プロセスの対象ではなく、必要な権限を持つすべてのユーザーが作成、編集、削除できます。これらの変更はすぐに有効になります。

データベースに製造データを設定するには:

1. 製造元を作成します。これは、購入部品の製造元です。
56 ページの「[製造オブジェクトを作成および管理する](#)」を参照してください。
2. 製造元部品を作成します。これは、その製造元が製造した部品です。
56 ページの「[製造オブジェクトを作成および管理する](#)」を参照してください。

3. アイテムの [製造元] タブに製造元部品を追加して、製造元部品と対応するアイテムを一致させます。
- 67 ページの「[\[製造元\] タブに製造元部品を追加する](#)」を参照してください。

製造オブジェクト：製造元と製造元部品

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- [製造オブジェクトのタブ](#) (52 ページ)
- [製造元について](#) (54 ページ)
- [製造元部品について](#) (55 ページ)

製造オブジェクトのタブ

製造オブジェクトにはアイテムと同じタブ ([使用箇所]、[添付ファイル] および [履歴]) がありますが、異なるものもあります。たとえば、[タイトル ブロック] タブのかわりに [一般情報] タブがありますが、[変更] タブまたは [BOM] タブはありません。

下の表はこれら 2 つの製造オブジェクトのタブにあるデフォルトのフィールドを示しています。

Agile 管理者はタブ (Java クライアント) やセクション (Web クライアント) を追加できます。これらは、デフォルトでは [ユーザー定義 1] と [ユーザー定義 2] という名前になっています。これらのタブやセクションには、管理者が定義したカスタム フィールドが含まれています。

製造元		製造元部品	
タブ	フィールドの内容	タブ名	フィールドの内容
[一般情報] タブ	[名前]、[ライフサイクル フェーズ]、[製造元タイプ]、[連絡先]、[URL]、[D-U-N-S 番号]、[連絡先情報]	[一般情報] タブ	[製造元名]、[製造元部品番号]、[説明]、[製造元部品タイプ]、[ライフサイクル フェーズ] 以下のフィールドは Agile PG&C に関連しています。詳細は『Agile Product Governance & Compliance ユーザー・ガイド』を参照してください。 [適合判定日付]、[部品ファミリー]、[質量]、[全体適合性]。

製造元		製造元部品	
タブ	フィールドの内容	タブ名	フィールドの内容
[使用箇所] タブ (53 ページ)	[アイテム番号]、[アイテムの説明]、[製造元部品番号]、[製造元部品ライフサイクル フェーズ]	[使用箇所] タブ (53 ページ)	[使用箇所] タブの内容 [アイテム拠点]、[アイテム番号]、[アイテムの説明]、[[製造元]タブ推奨ステータス]、[[製造元]タブ参照メモ] 保留中の変更の [使用箇所:] テーブルには、以下も含まれます。 [保留中の変更]
[添付ファイル] タブ	[添付ファイル番号]、[添付ファイルの説明]、[ファイル名]、[ファイルのバージョン]、[ファイル サイズ]、[ファイル タイプ]、[変更日]、[最終表示日]、[チェックアウトしたユーザー]、[チェックアウト日付]、[チェックアウト フォルダ]	[添付ファイル] タブ	[添付ファイル番号]、[添付ファイルの説明]、[ファイル名]、[ファイルのバージョン]、[ファイル サイズ]、[ファイル タイプ]、[変更日]、[最終表示日]、[チェックアウトしたユーザー]、[チェックアウト日付]、[チェックアウト フォルダ]
[履歴] タブ	[アクション]、[ユーザー]、[ローカル クライアント タイム]、[ユーザー アクション タイム] (オプション)、[コメント]、[詳細]	[履歴] タブ	[アクション]、[ユーザー]、[ローカル クライアント タイム]、[ユーザー アクション タイム] (オプション)、[コメント]、[詳細]
		[価格] タブ	このタブは Agile PCM に関連しています。 詳細は、『Product Cost Management ユーザー・ガイド』を参照してください。
		適合性タブ サプライヤの タブ	これらのタブは Agile PG&C に関連しています。 詳細は、『Agile Product Governance & Compliance ユーザー・ガイド』を参照してください。

[使用箇所] タブ

製造元の [使用箇所] タブには、製造元部品が使用している製造元およびアイテムのすべての製造元部品番号が表示されます。このタブの情報は自動的に入力されます。

製造元部品の [使用箇所] タブには、その製造元部品を使用するすべてのアイテムが表示されます。このタブの情報は自動的に入力されます。

[使用箇所] タブには、2 つのテーブルが含まれています。

- [使用箇所] - 製造元部品が使用されているアイテムの最新リリース済みのリビジョンを表示します。

- 使用されている箇所では保留中変更 - 関連する変更番号を含め、製造元部品が使用されているアイテムの保留中のリビジョンを表示します。

[使用されている箇所では保留中変更] の表示/非表示を切り替えるには:

[表示] ドロップダウン リストを使用して、[保留中を表示] または [保留中を非表示] を選択します。

注意 [使用箇所] タブを最初に表示するとき、[使用されている箇所では保留中変更] テーブルはデフォルトで非表示になっています。

Java クライアントを使用して [使用箇所] タブからアイテムを表示するには:

アイテムの行をダブルクリックします。

Web クライアントを使用して [使用箇所] タブからアイテムを表示するには:

アイテム番号をクリックします。

拠点と製造元部品の [使用箇所] タブ

製造元部品の [使用箇所] タブには、アイテム番号と製造拠点に応じて使用箇所情報がテーブルに表示されます。拠点順にテーブルの並び替えを行うには、アイテム拠点のカラム ヘッダをクリックしてください。

37 ページの「[拠点の機能](#)」も参照してください。

[製造元部品価格] タブ

注意 企業に必要なライセンスがあり、必要な権限が与えられている場合は、ここに説明されている [価格] タブのプロセスを実行することができます。

[価格] タブには、製造元部品の価格情報が表示されます。このタブの情報は自動的に入力されます。価格オブジェクト番号 ([番号] 列内) をクリックすると、その価格オブジェクトが開きます。詳細は、『Product Cost Management ユーザー・ガイド』を参照してください。

[使用箇所] タブとディスカバリ権限

アイテム、拠点、または製造オブジェクトのディスカバリ権限を持っていない場合、そのオブジェクトは [使用箇所] タブには表示されません。Agile 管理者は、いくつかのオブジェクトが表示されていないかを伝える警告メッセージを表示するかどうかを指定することができます。(拠点については、製造元部品の [使用箇所] タブにのみ適用されます。製造元の [使用箇所] タブには、拠点情報の欄は含まれていません。) 詳細は、177 ページの「[ディスカバリ権限と読み取り権限の詳細について](#)」を参照してください。

読み取り権限

読み取り権限とフィールド レベルでの読み取り実行権限によって、表示できるフィールドが決定されます。詳細は、177 ページの「[ディスカバリ権限と読み取り権限の詳細について](#)」を参照してください。

製造元について

製造元オブジェクトには、組織が提携する製造元についての情報が含まれています。

Agile PLM データベースに新しい製造元部品を追加するには、まず製造元を作成する必要があります。製造元を作成した後で、その製造元に関連する製造元部品を作成します。製造元部品をアイテムに関連付けると、製造元の [使用箇所] タブに製造元部品が反映されます。

必要な権限があれば、いつでも製造元オブジェクトを直接変更することができます。製造元は変更管理下にありません。

Agile PLM データベース内の製造元は、他のオブジェクトと同様のプロセスで検索できます。検索の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

55 ページの「[製造元のライフサイクル フェーズ](#)」および 55 ページの「[D-U-N-S 番号](#)」も参照してください。

製造元のライフサイクル フェーズ

製造元のライフサイクル フェーズは、製造元オブジェクトの [一般情報] タブのライフサイクル フェーズ フィールドによって表されます。次の表にデフォルトの製造元のライフサイクル フェーズを示します。Agile PLM 管理者は、ユーザーの Agile PLM システム用にカスタマイズされたライフサイクル リストを定義することができます。

ライフサイクル名	ライフサイクルの定義
承認済み	承認済みの製造元を示します。
不適格	適格な製造元として使用できないことを示します。
破棄	製造元として使用できないことを示します。

56 ページの「[製造元部品のライフサイクル フェーズ](#)」も参照してください。

D-U-N-S 番号

[D-U-N-S 番号] フィールドを使用して、サプライヤの DUNS リストをシステム内に作成することができます。

DUNS は Data Universal Numbering System (データ ユニバーサル ナンバリング システム) の略称です。DUNS 番号は固有の 9 桁配列の番号で、組織を特定します。

52 ページの「[製造オブジェクトのタブ](#)」も参照してください。

製造元部品について

製造元部品オブジェクトには、製造元の部品番号、ライフサイクル フェーズ、使用箇所、製造元部品を対象としたアクションの履歴など、特定の製造元によって製造される部品についての情報が表示されます。

製造元名と製造元部品番号の組み合わせは、対象の製造元部品に固有である必要があります。つまり、同じ製造元に対して同じ製造元部品番号を使用して、別の製造元部品を作成することはできません。ただし、Agile PLM は、異なる製造元による同一の部品番号の使用をサポートしています。

必要な権限があれば、いつでも製造元部品オブジェクトを直接変更することができます。製造元部品は変更管理下にありません。

Agile PLM データベース内の製造元部品は、他のオブジェクトと同様のプロセスで検索できます。検索の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

製造元部品の作成後は、対応する部品の [製造元] タブに追加することができます。製造元部品の取り扱いの詳細は、56 ページの「[製造オブジェクトを作成および管理する](#)」を参照してください。

製造元部品のライフサイクル フェーズ

製造元部品のライフサイクル フェーズは、製造元部品オブジェクトの [一般情報] タブのライフサイクル フェーズ フィールドによって表されます。次の表にデフォルトの製造元部品のライフサイクル フェーズを示します。Agile PLM 管理者は、ユーザーの Agile PLM システム用にカスタマイズされたライフサイクル リストを定義することができます。

ライフサイクル名	ライフサイクルの定義
アクティブ	製造元部品が使用できることを示します。
破棄	製造元部品が使用できないことを示します。



55 ページの「[製造元のライフサイクル フェーズ](#)」も参照してください。

製造オブジェクトを作成および管理する

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- [製造元を作成する](#) (56 ページ)
- [製造元部品を作成する](#) (58 ページ)
- [製造オブジェクトを変更する](#) (64 ページ)

製造元を作成する

Java クライアントでは、[ファイル]-[新規作成]-[製造元] コマンド、または [新規オブジェクト] ボタン  を使って製造元を作成することができます。または、[その他のアクション] メニュー (オブジェクト ウィンドウ上部で [その他] ボタン  をクリック) およびショートカット メニューを右クリックして、[名前を付けて] コマンドから作成することもできます。

Web クライアントの場合は、[作成]-[製造元] コマンドまたは [アクション]-[名前を付けて保存] コマンドで製造元を作成することができます。

アイテムとは異なり、製造元はリリース プロセスを通過する必要はありません。すぐに使用できるようになります。

注意 アイテム番号がアイテムに固有であるのと同じように、製造元名は、製造元に固有である必要があります。

異なる製造元が同じ製造元部品番号を使用することはできますが、製造元と製造元部品番号の組み合わせは、1 つの製造部品に対して固有でなければなりません。



新規オブジェクトを作成するプロセスには、主に 2 つの手順があります。まず空のオブジェクトを作成してから、そのオブジェクトに固有の情報をオブジェクトのタブに入力します。


Java クライアントを使用して製造元を作成および入力するには:

1. [ファイル]-[新規作成]-[製造元] の順に選択します。
2. [新規作成] ダイアログ ボックスで、[タイプ] のドロップダウン リストから作成する製造元のタイプ (サブクラス) を選択します。
3. 製造元の固有の名前を入力します。
4. 必須フィールドを入力します。

5. [OK] をクリックします。
新しい製造元が [一般情報] タブに表示されます。
6. [製造元] タブに適宜情報を入力してください。
[使用箇所] タブおよび [履歴] タブには情報を入力しません。これらのタブは自動的に入力されます。

Web クライアントを使用して製造元を作成するには:


1. [作成] - [製造元] の順に選択します。
2. [新規作成] ダイアログ ボックスで、[タイプ] のドロップダウン リストから作成する製造元のタイプ (サブクラス) を選択します。
3. 製造元の固有の名前を入力します。
4. 必須フィールドを入力します。
5. [作成] ウィザードを使って製造元の各タブの情報を入力する場合、[ウィザードで作成  を継続] のチェックボックスを選択し、[続行] ボタンをクリックします。画面の指示に従って、ウィザードを完了します。
6. 製造元をすぐに作成し、表示する場合は、[ウィザードで作成  を継続] チェックボックスを解除し、[完了] をクリックします。新しい製造元が [一般情報] タブに表示されます。[製造元] タブに適宜情報を入力してください。

注意 Agile PLM は、すべての [作成] ダイアログにおける、最近の [ウィザードで作成  を継続] チェックボックスの選択状態を記憶し、[作成] のダイアログ ボックスで選択をそのままにしておきます。

64 ページの「[製造オブジェクトを変更する](#)」も参照してください。

[名前を付けて保存] 機能を使用して製造元を作成する

[名前を付けて保存] 機能により、既存の製造元と類似の製造元を簡単に作成することができます。

Java クライアントでは、[ファイル] - [名前を付けて保存] コマンド、[その他のアクション] メニューの [名前を付けて保存] コマンド (オブジェクト ウィンドウ上の [その他] ボタン  をクリック)、またはショートカット メニューを右クリックして [名前を付けて保存] を選択し、製造元を作成することができます。

Web クライアントでは、[アクション] - [名前を付けて保存] コマンドを使用して製造元を作成することができます。

一般に、クラスやサブクラス (タイプ) が元のオブジェクトと異なるオブジェクトを作成する場合は、[名前を付けて保存] は使用しないでください。クラスやサブクラスが違っていると、タブや定義されるフィールドが異なる場合があります、新しく作成したオブジェクトの一部のデータにアクセスできなくなることがあります。

Java クライアントで [名前を付けて保存] コマンドを使用して製造元を作成するには:

1. 既存の製造元を選択して開きます。
2. [ファイル] - [名前を付けて保存] の順に選択します。
3. 必要に応じて、リストから他の製造元のタイプ (サブクラス) を選択します。
4. 新規製造元名を入力します。
5. 必須フィールドを入力します。

6. [OK] をクリックします。

新規製造元が [一般情報] タブの上に表示されます。

Web クライアントで [名前を付けて保存] コマンドを使用して製造元を作成するには:


1. 既存の製造元を選択して開きます。
2. [アクション]-[名前を付けて保存] の順に選択します。
3. 必要に応じて、リストから他の製造元のタイプ (サブクラス) を選択します。
4. 新規製造元名を入力します。
5. 必須フィールドを入力します。
6. [保存] をクリックします。

新規製造元が [一般情報] タブの上に表示されます。

- 64 ページの「[製造オブジェクトを変更する](#)」も参照してください。

製造元部品を作成する

製造元部品を作成するには、製造元部品作成権限が必要です。

Java クライアントの場合は、[ファイル]-[新規作成]-[製造元部品] コマンド、または [新規オブジェクト] ボタン  を使用して製造元を作成することができます。また、製造元部品が開いている場合は [ファイル]-[名前を付けて保存] コマンドを使用することもできます。

Web クライアントの場合は、[作成]-[製造元部品] コマンドを使用して、製造元部品を作成することができます。開いた製造元オブジェクトから、[アクション]-[製造元部品の作成] コマンドで、製造元部品を作成することができます。また、製造元部品が開いている場合は [アクション]-[名前を付けて保存] コマンドを使用することもできます。

アイテムの [製造元] タブに情報を追加して、製造元部品を簡易作成することもできます。

アイテムとは異なり、製造元部品はリリース プロセスを通過する必要はありません。すぐに使用できるようになります。

注意 異なる製造元が同じ製造元部品番号を使用することはできますが、製造元と製造元部品番号の組み合わせは、1 つの製造部品に対して固有でなければなりません。

次の項目も参照してください。

- [製造元部品作成ウィザード](#) (58 ページ)
- [製造元名の自動検証](#) (61 ページ)
- [\[名前を付けて保存\] 機能を使用して製造元部品を作成する](#) (62 ページ)
- [製造オブジェクトを変更する](#) (64 ページ)

製造元部品作成ウィザード

製造元部品の作成プロセスは、ウィザードの指示に従って行います。

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [Java クライアントで製造元部品を作成する](#) (59 ページ)
- [Web クライアントで製造元部品を作成する](#) (60 ページ)



62 ページの「[\[名前を付けて保存\] 機能を使用して製造元部品を作成する](#)」も参照してください。

Java クライアントで製造元部品を作成する

Java クライアントを使用して製造元部品を作成および入力するには:

1. [ファイル]-[新規作成]-[製造元部品] の順に選択します。
2. [新規作成] ダイアログ ボックスで、[タイプ] のドロップダウン リストから作成する製造元部品のタイプ (サブクラス) を選択します。
3. 新規製造元部品の製造元を選択します。

[製造元名] フィールドに、製造元名の一部または全部を入力します。[Tab] キーを押すか、[検証] チェックマークをクリックします。

Java クライアント 、Web クライアント 

- 有効な一意の製造元名を入力した場合、その製造元名が選択され、[検証] チェックマークは無効になります。[Tab] キーを押して、次のステップに進みます。
- 有効な一意の製造元名を入力しなかった場合、解決のダイアログが表示されます。

解決のダイアログで目的の製造元をクリックし、[OK] をクリックします。

目的の製造元が検索結果に表示されない場合、新たな検索を実行するか、新規製造元を作成することができます。

- 検索 - 解決のダイアログで、検索方法を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、[検索] をクリックします。さらに、詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、ブックマークや最近開いた製造元 (ショートカット) を選択することもできます。(検索の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。) 検索結果で目的の製造元をクリックし、[OK] をクリックします。
- 作成 - 製造元部品に対して新規製造元を作成する必要がある場合は、[オブジェクトの選択] ダイアログ ボックスの [作成] リンクをクリックします。ダイアログ ボックスが開き、ここで [タイプ] ドロップダウン リストから製造元のタイプを選択し、製造元名を入力します。[OK] をクリックします。解決のダイアログが閉じて、新たに作成された製造元が選択されます。

詳細は、61 ページの「[製造元名の自動検証の使用方法](#)」を参照してください。

製造元部品の番号を入力します。

4. 必須フィールドを入力します。
5. [OK] をクリックします。

新しい製造元部品が [一般情報] タブに表示されます。

6. [製造元部品] タブに適宜情報を入力してください。



[使用箇所] タブおよび [履歴] タブには情報を入力しません。これらのタブは自動的に入力されます。

Web クライアントで製造元部品を作成する

Web クライアントを使用して製造元部品を作成するには:

1. [作成] - [製造元部品] の順に選択します。(製造元の中から [アクション] - [製造元部品の作成] を選択することもできます。)
2. [新規作成] ダイアログ ボックスで、[タイプ] ドロップダウン リストから作成する製造元部品のタイプ (サブクラス) を選択します。
3. 新規製造元部品の製造元を選択します。

[製造元名] フィールドに、製造元名の一部または全部を入力します。[Tab] キーを押すか、[検証] チェックマークをクリックします。

Java クライアント 、Web クライアント 



- 有効な一意の製造元名を入力した場合、その製造元名が選択され、[検証] チェックマークは無効になります。[Tab] キーを押して、次のステップに進みます。
- 有効な一意の製造元名を入力しなかった場合、解決のダイアログが表示されます。


解決のダイアログで目的の製造元をクリックし、[OK] をクリックします。

目的の製造元が検索結果に表示されない場合、新たな検索を実行するか、新規製造元を作成することができます。

- 検索 - 解決のダイアログで、検索方法を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、[検索] をクリックします。さらに、詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、ブックマークや最近開いた製造元 (ショートカット) を選択することもできます。(検索の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。)検索結果で目的の製造元をクリックし、[OK] をクリックします。
- 作成 - 製造元部品に対して新規製造元を作成する必要がある場合は、[オブジェクトの選択] ダイアログ ボックスの [作成] リンクをクリックします。ダイアログ ボックスが開き、ここで [タイプ] ドロップダウン リストから製造元のタイプを選択し、製造元名を入力します。[OK] をクリックします。解決のダイアログが閉じて、新たに作成された製造元が選択されます。

詳細は、61 ページの「[製造元名の自動検証の使用方法](#)」を参照してください。

4. 製造元部品の番号を入力します。
5. 必須フィールドを入力します。
6. [作成] ウィザードを使って製造元部品の各タブの情報を入力する場合、[ウィザードで作成  を継続] チェックボックスを選択し、[続行] ボタンをクリックします。画面の指示に従って、ウィザードを完了します。
7. 製造元部品をすぐに作成し、表示する場合は、[ウィザードで作成  を継続] チェックボックスを解除し、[完了] をクリックします。新しい製造元部品が [一般情報] タブに表示されます。[製造元部品] タブに適宜情報を入力してください。

注意 Agile PLM は、すべての [作成] ダイアログにおける、最近の [ウィザードで作成  を継続] チェックボックスの選択状態を記憶し、[作成] のダイアログ ボックスで選択をそのままにしておきます。

[使用箇所] タブおよび [履歴] タブには情報を入力しません。これらのタブは自動的に入力されます。

製造元名の自動検証

製造元部品を作成するたび、またはアイテムの [製造元] タブのテーブルへの追加または編集を行うたびに、Agile PLM では指定する製造元を簡易検索して選択するための自動検索/検証プロセスが実行されます。





このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [製造元名の自動検証の使用箇所](#) (61 ページ)
- [製造元名の自動検証の使用方法](#) (61 ページ)





製造元名の自動検証の使用箇所

Agile PLM では、製造元部品を作成するたび、または製造元部品情報を編集するたびに製造元名の自動検証機能が使用されます。

適切な権限がある場合、Agile PLM の次の機能を使用して製造元部品を作成することができます。

- オブジェクトの作成
 - Java クライアント: [ファイル] - [新規作成] - [製造元部品]、または  [その他] - [新規製造元部品] から選択
 - Web クライアント: [作成] - [製造元部品]、または製造元の中から [アクション] - [製造元部品の作成] を選択
- アイテム オブジェクトの [製造元] タブ、[追加] - [作成] ボタン 
- 変更オブジェクトの [対象アイテム] タブ、[製造元をレッドライン] タブ、[追加] - [作成] ボタン 
- 変更オブジェクトの [対象アイテム] タブ、製造元部品の一括変更プロセス: (Java クライアント) [製造元部品一括変更] 、(Web クライアント) [一括変更] - [製造元部品]

適切な権限がある場合、Agile PLM の次の機能を使用して製造元部品情報を編集することができます。

- アイテム オブジェクトの [製造元] タブ、[編集] ボタン 
- 変更オブジェクトの [対象アイテム] タブ、[製造元をレッドライン] タブ、[編集] ボタン: (Java クライアント) 、(Web クライアント) 
- 変更オブジェクトの [対象アイテム] タブ、製造元部品の一括変更プロセス: (Java クライアント) [製造元部品一括変更] 、(Web クライアント) [一括変更] - [製造元部品]

製造元名の自動検証の使用方法

製造元名の自動検証を使用する場合には、次のステップを実行します。

1. 作成または編集ダイアログの [製造元名] フィールドに、検索する製造元名の一部または全部を入力します。



有効な一意の製造元名を入力した場合、その製造元名が選択され、[検証] チェックマークは無効になります。[Tab] キーを押して、ダイアログの次のフィールドに移動します。

注意	[製造元名] フィールドを空白のままにすることもできます。解決のダイアログが表示されたら、検索オプションを使用して目的の製造元を検索するか、新規製造元を作成します。
-----------	--

たとえば、製造元名 **Motorola** を検索する場合、次のいずれかのテキスト文字列を入力して検索を開始することができます。ユーザーが入力した文字で始まる製造元名を求めて [先頭から一致する] 検索が実行されます。

mot
motorla
mo

注意 Agile では、テキスト文字列の末尾にアスタリスク文字 * が自動的に追加されます。

2. [製造元名] フィールドの外にカーソルを移動すると、検証プロセスが開始され、[検証] ダイアログが表示されます。次のいずれかの方法で、名前フィールドの外にカーソルを移動することができます。
 - [Tab] キーを押します。
 - [製造元名] フィールドで [検証] チェックマークをクリックします (Java クライアント 、Web クライアント )。
 - ダイアログで別のフィールドをクリックします。
 - [OK] (Java クライアント) または [保存] (Web クライアント) をクリックして、編集ダイアログを終了します。
 - [OK] (Java クライアント) または [続行] あるいは [完了] (Web クライアント) をクリックして、[作成] ダイアログを終了します。
3. 解決のダイアログで、検索結果の製造元名を選択して [OK] をクリックします。解決のダイアログが閉じて、選択した製造元名が作成または編集ダイアログの [製造元名] フィールドに表示されます。

目的の製造元名が検索結果に表示されない場合、次の処理を行うことができます。

- 新たな検索を実行します。

検索方式を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、[検索] をクリックします。さらに、詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、ブックマークや最近開いたアイテム (ショートカット) を選択することもできます。(検索の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。)
- 新規製造元オブジェクトを作成します。

解決のダイアログで [作成] ボタンをクリックして、製造元オブジェクトを作成します。56 ページの「[製造元を作成する](#)」を参照してください。

61 ページの「[製造元名の自動検証の使用箇所](#)」も参照してください。

[名前を付けて保存] 機能を使用して製造元部品を作成する

[名前を付けて保存] 機能により、既存の製造元部品と類似の製造元部品を簡単に作成することができます。

注意 一般に、クラスやサブクラス (タイプ) が元のオブジェクトと異なるオブジェクトを作成する場合は、[名前を付けて保存] は使用しないでください。クラスやサブクラスが違っていると、タブや定義されるフィールドが異なる場合があり、新しく作成したオブジェクトの一部のデータにアクセスできなくなることがあります。

Java クライアントで [名前を付けて保存] コマンドを使用して製造元部品を作成するには:

1. 既存の製造元部品を選択して開きます。

2. [ファイル]-[名前を付けて保存] の順に選択します。
3. 必要に応じて、リストから他の製造元部品タイプ (サブクラス) を選択します。
4. 新規製造元部品の製造元を選択します。

注意 同一の製造元を使用する場合は、[製造元名] フィールドを変更する必要はありません。

[製造元名] フィールドに、製造元名の一部または全部を入力します。[Tab] キーを押すか、[検証] チェックマークをクリックします。

Java クライアント 、Web クライアント 

- 有効な一意の製造元名を入力した場合、その製造元名が選択され、[検証] チェックマークは無効になります。[Tab] キーを押して、次のステップに進みます。
- 有効な一意の製造元名を入力しなかった場合、解決のダイアログが表示されます。

解決のダイアログで目的の製造元をクリックし、[OK] をクリックします。

目的の製造元が検索結果に表示されない場合、新たな検索を実行するか、新しい製造元を作成することができます。

- 検索 - 解決のダイアログで、検索方法を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、[検索] をクリックします。さらに、詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、ブックマークや最近開いた製造元 (ショートカット) を選択することもできます。(検索の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。)検索結果で目的の製造元をクリックし、[OK] をクリックします。
- 作成 - 製造元部品に対して新規製造元を作成する必要がある場合は、[オブジェクトの選択] ダイアログ ボックスの [作成] リンクをクリックします。ダイアログ ボックスが開き、ここで [タイプ] ドロップダウン リストから製造元のタイプを選択し、製造元名を入力します。[OK] をクリックします。解決のダイアログが閉じて、新たに作成された製造元が選択されます。

詳細は、61 ページの「[製造元名の自動検証の使用方法](#)」を参照してください。

新しい製造元部品番号を入力します。

5. 必須フィールドを入力します。
6. [OK] をクリックします。

新規製造元部品が [一般情報] タブの上部に表示されます。

7. その他のタブに必要な変更を加えます。

Web クライアントで [名前を付けて保存] コマンドを使用して製造元部品を作成するには:

1. 既存の製造元部品を選択して開きます。
2. [アクション]-[名前を付けて保存] の順に選択します。
3. 必要に応じて、リストから他の製造元部品タイプ (サブクラス) を選択します。
4. 新規製造元部品の製造元を選択します。

注意 同一の製造元を使用する場合は、[製造元名] フィールドを変更する必要はありません。

[製造元名] フィールドに、製造元名の一部または全部を入力します。[Tab] キーを押すか、[検証] チェックマークをクリックします。

Java クライアント 、Web クライアント 

- 有効な一意の製造元名を入力した場合、その製造元名が選択され、[検証] チェックマークは無効になります。[Tab] キーを押して、次のステップに進みます。
- 有効な一意の製造元名を入力しなかった場合、解決のダイアログが表示されます。

解決のダイアログで目的の製造元をクリックし、[OK] をクリックします。

目的の製造元が検索結果に表示されない場合、新たな検索を実行するか、新しい製造元を作成することができます。

- 検索 - 解決のダイアログで、検索方法を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、[検索] をクリックします。さらに、詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、ブックマークや最近開いた製造元 (ショートカット) を選択することもできます。(検索の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。) 検索結果で目的の製造元をクリックし、[OK] をクリックします。
- 作成 - 製造元部品に対して新規製造元を作成する必要がある場合は、[オブジェクトの選択] ダイアログ ボックスの [作成] リンクをクリックします。ダイアログ ボックスが開き、ここで [タイプ] ドロップダウン リストから製造元のタイプを選択し、製造元名を入力します。[OK] をクリックします。解決のダイアログが閉じて、新たに作成された製造元が選択されます。

詳細は、61 ページの「[製造元名の自動検証の使用方法](#)」を参照してください。

新しい製造元部品番号を入力します。

5. 必須フィールドを入力します。

6. [保存] をクリックします。

新規製造元部品が [一般情報] タブの上部に表示されます。

7. その他のタブに必要な変更を加えます。

59 ページの「[Java クライアントで製造元部品を作成する](#)」および 60 ページの「[Web クライアントで製造元部品を作成する](#)」も参照してください。

製造オブジェクトを変更する

必要な権限とライセンスを持つユーザーは、製造オブジェクトの情報を変更することができます。製造オブジェクトは変更管理プロセスを通過する必要があるため、すべての変更はすぐに適用されます。

注意 製造元部品番号または製造元名を変更すると、これらの変更は製造元または製造元部品が一覧されているアイテムの [製造元] タブと [使用箇所] タブなど製造元が一覧されているその他のタブに自動的に適用されます。

56 ページの「[製造元を作成する](#)」および 58 ページの「[製造元部品を作成する](#)」も参照してください。

製造オブジェクトを削除する

製造オブジェクトの削除の詳細は、22 ページの「[Agile オブジェクトを削除する](#)」を参照してください。

アイテムの [製造元] タブ

このセクションでは以下のトピックについて説明します。







- [\[製造元\] タブのボタン](#) (65 ページ)
- [\[製造元\] タブのフィールド](#) (65 ページ)

[製造元] タブには、関連する製造オブジェクトからの情報が表示されます。詳細は、9 ページの「[\[製造元\] タブ](#)」を参照してください。

67 ページの「[プレリナリ アイテムの製造データを使用する](#)」および 69 ページの「[\[レッドライン\] タブから製造データを変更する](#)」も参照してください。

[製造元] タブのボタン

次の表には、アイテムの [製造元] タブにあるボタンが一覧されています。

ボタン	説明
 編集 (Java クライアント)	編集モードで選択した行を表示させ、AML 行を編集することができます。編集可能なフィールドの形式は、テキスト ボックス、リスト ボックスなどです。
 編集 (Web クライアント)	
 削除 (Java クライアント)	選択した行をテーブルから削除します。
 削除 (Web クライアント)	
 [追加] - [作成] (Java クライアント)	製造元部品をテーブルの最後に追加します。対象となるのは、既存の製造元部品または追加中に作成する製造元部品です。(下のドロップダウン リストを使い、[検索] または [作成] のどちらかの追加方法を選択します。)アイテムに対して ECO または MCO が作成されていない場合に、このボタンを使用することができます。
[追加] - [新規作成] (Web クライアント)	
 [追加] - [検索]	

67 ページの「[プレリナリ アイテムの製造データを使用する](#)」も参照してください。

[製造元] タブのフィールド

次の表には、アイテムの [製造元] タブにあるデフォルトのフィールドが一覧されています。Agile 管理者によって追加フィールドが作成されている場合があります。

フィールド名	説明
製造元名	製造元の名前です。
製造元部品番号	部品の製造元が製造元部品に割り当てた番号です。
製造元部品説明	部品の製造元が製造元部品に付けた説明です。
製造元部品ライフサイクル フェーズ	製造元が、その部品に対してアクティブかどうかを示します。
推奨ステータス	その部品の製造元として推奨される製造元か、代替的に使われるべき製造元かを示します。

フィールド名	説明
拠点	その製造元部品を使用している拠点を一覧表示します。
参照メモ	製造元についてのメモを示します。
AML 分割 (Agile 管理者が有効にした場合にかぎり表示されます)	選択した拠点到製造元部品を配分する割合を決定します。

67 ページの「[プレリナリ アイテムの製造データを使用する](#)」、69 ページの「[\[レッドライン\] タブから製造データを変更する](#)」および 66 ページの「[拠点ごとに AML 情報を表示する](#)」も参照してください。

拠点ごとに AML 情報を表示する

特定の拠点の AML は、タブの上の [拠点] ドロップダウン リストから拠点を選択して表示させることができます。リストに含まれている拠点は、そのアイテムの [拠点] タブで指定されており、ユーザー プロファイルの [拠点] フィールドにも一覧されています。

拠点を選択すると、[製造元] タブには共通の AML に加え、選択した拠点の AML も表示されます。すべての拠点の AML を一括で表示させるには、[拠点] リストで [すべて] を選択します。

選択した拠点に関連するアイテムについてのみ、アクションを実行できます。たとえば、[拠点] ドロップダウン リストでサンフランシスコを選択すると、共通部分および AML のサンフランシスコの部分に該当する製造元部品がすべて表示されます。

[リビジョン] ドロップダウン リストと [拠点] ドロップダウン リストは、独立して機能します。詳細は、12 ページの「[アイテムのリビジョンを処理する](#)」を参照してください。

製造元部品を対応するアイテムに関連付ける

製造元と製造元部品を作成した後、Agile PLM システムでそれらを部品に関連付けます。これは、プレリナリ アイテムについてのみ、製造元部品を Agile 部品の [製造元] タブに追加することで行います。それ以外のアイテムは、MCO、ECO、または SCO で変更を行う必要があります。この作業によって、自社の部品と製造元の部品の間のリンクを確立し、システムで部品の使用を追跡できるようになります。

同じ製造元または複数の製造元から複数の製造元部品を一覧することができます。たとえば、アセンブリに使用する 2 つの部品を製造元が製造する場合、1 つの部品を「推奨」、もう 1 つの部品を「代替」としてマーク付けすることができます。(2 つの異なる製造元が 1 つの部品を供給する場合でも同じことができます。)

注意 ある製造元部品を特定の拠点に適用する場合は、その製造元部品を [製造元] タブに追加する前に、タブ上部にある [拠点] ドロップダウン リストからその拠点を選択します。

アイテムの状態 (およびユーザーのライセンスと権限) に応じて、次のいずれかの方法により [製造元] タブのデータを変更できます。

- アイテムの [製造元] タブに直接追加または変更を行います。これは保留中の ECO または MCO がないプレリナリ アイテムに対する方法です。67 ページの「[\[製造元\] タブに製造元部品を追加する](#)」を参照してください。

- ECO、MCO、または SCO を使用して [レッドライン] タブの製造データを変更します。これは保留中の ECO または MCO が不在リリース済みアイテムに対する方法です。72 ページの「[\[製造元のレッドライン\] タブに製造元部品を追加する](#)」を参照してください。

製造元オブジェクトを使用する際の重要な注意事項

製造オブジェクトがアイテムの [製造元] タブで使用されると、製造オブジェクトに加える変更はアイテムの [製造元] タブにも適用されます。製造オブジェクトは変更管理プロセスを通過する必要がないため、すべての変更はすぐに適用されます。これらの変更は「変更」の方法を使用しないため、ChangeCAST や Agile コンテンツ サービスによって ERP システムに送られません。Agile PLM と ERP システム間の問題を避けるため、アイテムの [製造元] タブで使用中の製造オブジェクトに変更を加える場合は、この点に注意する必要があります。

69 ページの「[\[レッドライン\] タブから製造データを変更する](#)」も参照してください。

プレリミナリ アイテムの製造データを使用する




次のセクションで、保留中リビジョンのない未リリース アイテムの [製造元] タブで直接データを変更する方法について説明します。


- [\[製造元\] タブに製造元部品を追加する](#) (67 ページ)
- [\[製造元\] タブから製造元部品を削除する](#) (68 ページ)
- [\[製造元\] タブの製造元部品を変更する](#) (69 ページ)

[製造元] タブに製造元部品を追加する




アイテムの [製造元] タブに製造元部品を追加することができます。


Java クライアントで [製造元] タブに製造元部品を追加するには

1. [製造元] タブで、[拠点] ドロップダウン リストから追加する製造元部品を選択します。
2. [追加] ボタンのドロップダウン リストで、[追加] - [作成]  または [追加] - [検索]  を選択します。
3. [追加] - [作成]  を選択した場合:
 - a. [新規作成] ダイアログ ボックスに必要な情報を入力します。56 ページの「[製造元を作成する](#)」を参照してください。
すでに存在する製造元部品の情報を入力すると、ステップ c で [OK] をクリックしたときに、既存の製造元部品を使用するかどうか尋ねるメッセージが表示されます。
 - b. このアイテムについて、製造元部品を関連付ける拠点をまだ選択していない場合は、選択します。アイテムを割り当てられたすべての拠点について、このアイテムにこの製造元部品を関連付ける場合は、[共通] を選択します。
 - c. [OK] をクリックします。

4. [追加] - [検索]  を選択した場合:
 - a. [オブジェクトの検索] ダイアログ ボックスで、既存の製造元部品を検索する検索方法を選択するか、またはブックマークされた製造元部品や最近開いた製造元部品 (ショートカット) を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力します。(検索の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイド およびスタート・ガイド』をご覧ください。)
 - b. このアイテムについて、製造元部品に関連付ける拠点をまだ選択していない場合は、選択します。アイテムを割り当てられたすべての拠点について、このアイテムにこの製造元部品に関連付ける場合は、[共通] を選択します。
 - c. [OK] をクリックします。

Web クライアントで [製造元] タブに製造元部品を追加するには


1. [製造元] タブで、[拠点] ドロップダウン リストから追加する製造元部品を選択します。
2. [追加] ボタンのドロップダウン リストで、[追加] - [新規作成]  または [追加] - [検索]  を選択します。
3. [追加] - [新規作成]  を選択した場合:
 - a. [新規作成] ダイアログ ボックスに必要な情報を入力します。56 ページの「[製造元を作成する](#)」を参照してください。

すでに存在する製造元部品の情報を入力すると、ステップ c で [OK] をクリックしたときに、既存の製造元部品を使用するかどうか尋ねるメッセージが表示されます。
 - b. このアイテムについて、製造元部品に関連付ける拠点をまだ選択していない場合は、選択します。アイテムを割り当てられたすべての拠点について、このアイテムにこの製造元部品に関連付ける場合は、[共通] を選択します。
 - c. [OK] をクリックします。
4. [追加] - [検索]  を選択した場合:
 - a. [製造元部品の追加] ダイアログ ボックスで、既存の製造元部品を検索する検索方法を選択するか、またはブックマークされた製造元部品や最近開いた製造元部品 (ショートカット) を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力します。(検索の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイド およびスタート・ガイド』をご覧ください。)
 - b. このアイテムについて、製造元部品に関連付ける拠点をまだ選択していない場合は、選択します。アイテムを割り当てられたすべての拠点について、このアイテムにこの製造元部品に関連付ける場合は、[共通] を選択します。
 - c. [OK] をクリックします。

69 ページの「[\[レッドライン\] タブから製造データを変更する](#)」も参照してください。


[製造元] タブから製造元部品を削除する

Java クライアントでプレリナリ状態にあるアイテムの [製造元] タブから製造元部品を削除するには:

1. [製造元] タブで、削除する製造元部品行を選択します。
2. [製造元] タブで [削除] ボタン  をクリックします。

注意 必ず [製造元] タブの [削除] ボタンを使用しています。[アイテム] ウィンドウの [削除] ボタンは使用しないでください。ウィンドウの [削除] ボタンを使用すると、アイテム全体が削除されます。

Web クライアントでプレリミナリ状態にあるアイテムの [製造元] タブから製造元部品を削除するには:

1. [製造元] タブで、削除する製造元部品行を選択します。
2. [製造元] タブで [削除] ボタン  をクリックします。


注意 必ず [製造元] タブの [削除] ボタンを使用しています。[アイテム] ウィンドウの [削除] ボタンは使用しないでください。ウィンドウの [削除] ボタンを使用すると、アイテム全体が削除されます。

69 ページの「[\[レッドライン\] タブから製造データを変更する](#)」も参照してください。


[製造元] タブの製造元部品を変更する

アイテムがプレリミナリ状態にあり、まだリリースされておらず、そのアイテムに対して保留中の ECO または MCO がない場合は、そのアイテムの [製造元] タブから製造元部品の情報を直接編集することができます。

Java クライアントで製造元部品の値を編集するには:

1. 編集するアイテムを開きます。
2. [製造元] タブで、編集する行を選択します。
3. [編集] ボタン  をクリックし、[編集] ダイアログ ボックスで必要に応じてデータを変更します。
開いている [編集] ダイアログ ボックスのナビゲーション ボタンを使用して、他の編集する行を選択することができます。
4. [OK] をクリックします。

Web クライアントで製造元部品の値を編集するには:

1. 編集するアイテムを開きます。
2. [製造元] タブで、編集する行を選択します。
3.  [編集] をクリックし、必要に応じてデータを変更します。
4. [保存] をクリックします。

69 ページの「[\[レッドライン\] タブから製造データを変更する](#)」も参照してください。

[レッドライン] タブから製造データを変更する

適切な権限があり、Agile システムのスマートルール設定で許可されている場合は、ECO、MCO、または SCO の [製造元のレッドライン] タブで AML 情報を変更することができます。

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [製造元データのレッドラインの概要](#) (70 ページ)
- [\[製造元のレッドライン\] タブ](#) (70 ページ)
- [\[製造元のレッドライン\] タブに製造元部品を追加する](#) (72 ページ)

- [\[レッドライン\] タブに存在しない製造元部品を追加する](#) (72 ページ)
- [\[レッドライン\] タブから製造元部品を削除する](#) (72 ページ)
- [\[製造元のレッドライン\] タブの製造元部品情報を編集する](#) (72 ページ)
- [\[製造元のレッドライン\] テーブルの変更を元に戻す](#) (73 ページ)

製造元データのレッドラインの概要

一部のシステムでは、Agile 管理者による設定に基づいて、ECO、SCO、および MCO からレッドラインを変更することができます。MCO では製造元部品データのレッドライン、ECO では製造元部品データと BOM および添付ファイルのレッドライン、SCO では特定の拠点にかぎり 製造元部品データと BOM のレッドラインを行うことができます。

対象アイテムのリビジョンは、MCO と SCO では展開されませんが、ECO では展開されます。

ECO または SCO から製造データをレッドラインする作業には、MCO からの場合と同じプロセスを使用します。ただし、製造データ、BOM、または添付ファイルをレッドラインする ECO が使用できるため、ECO レッドラインには [BOM のレッドライン] タブ、[製造元のレッドライン] タブ、および [添付ファイルのレッドライン] タブが含まれます。SCO レッドラインには、[BOM のレッドライン] タブおよび [製造元のレッドライン] タブが含まれます。

注意 複数の製造拠点から作成されたレッドライン変更が矛盾している場合、それらの矛盾するレッドラインは関連する拠点すべての BOM および製造元テーブルから削除されます。

変更の詳細は、109 ページの「[変更](#)」を参照してください。






[製造元のレッドライン] タブ

ECO、MCO、または SCO の [対象アイテム] タブから [製造元のレッドライン] タブを開きます。



Java クライアントでアイテムの AML のレッドラインを開くには:

1. アイテムの AML をレッドラインするための変更を開きます。
2. [対象アイテム] テーブルで、レッドラインするアイテムを選択します。

[表示] ドロップダウン リストには、[拠点を非表示] と [拠点を表示] の 2 つの設定があります。[拠点を非表示] を選択すると、そのアイテムは [対象アイテム] テーブルに一度だけ表示されます。[拠点を表示] を選択すると、そのアイテムは拠点ごとに一度、複数回表示されます。このテーブルで 1 つの行を選択してください。必要に応じて、[製造元のレッドライン] タブで異なる拠点の設定を選択することができます。
3. [対象アイテム] タブの下ウィンドウに、[製造元のレッドライン] タブが表示されます。
4. [拠点] ドロップダウン リストで、製造元部品情報をレッドラインする拠点を選択してください。そのアイテムの拠点に対して、すべての製造元部品情報をレッドラインするには [すべて] を選択します。
5. [製造元のレッドライン] テーブルで行を選択し、ボタンを使用して必要な変更を行ってください。詳細は、次の表を参照してください。

Java クライアントのボタン	アクション
製造元のレッドライン 	[製造元のレッドライン] ダイアログ ボックスで選択された行が表示され、編集可能なフィールドにレッドラインできるようになります。このテーブルで他の行を表示したり、編集したりするには、左上隅にあるボタンを使用します。完了したら、[OK] をクリックします。
 追加 - 作成  追加 - 検索	アイテムに製造元部品のレッドライン追加ができます。
削除 	[製造元のレッドライン] テーブルから選択した行をレッドライン削除します。
レッドライン取り消し 	選択した行からレッドラインを削除します。73 ページの「 [製造元のレッドライン] テーブルの変更を元に戻す 」を参照してください。






Web クライアントでアイテムの AML のレッドラインを開くには:

1. アイテムの AML をレッドラインするための変更を開きます。
2. 変更の [対象アイテム] タブで、表示しようとしているアイテムか、レッドラインを作成しようとしているアイテムの前にある [レッドラインを行う]  アイコンをクリックします。そのアイテムがすでにレッドラインされている場合は、 アイコンをクリックしてレッドラインを表示させるか、追加のレッドラインを作成します。

そのアイテムの [レッドライン] タブが表示されます。

3. このタブが表示されない場合は、[製造元のレッドライン] タブをクリックして表示させてください。

[製造元のレッドライン] テーブルで行を選択し、ボタンを使用して必要な変更を行ってください。詳細は、次の表を参照してください。


Web クライアントのボタン	アクション
 編集	編集モードで選択された行が表示され、編集可能なフィールドにレッドラインできるようになります。
 削除	[製造元のレッドライン] テーブルから選択した行をレッドライン削除します。
 レッドライン取り消し	選択した行からレッドラインを削除します。73 ページの「 [製造元のレッドライン] テーブルの変更を元に戻す 」を参照してください。
 追加 - 新規作成  追加 - 検索	アイテムに製造元部品のレッドライン追加ができます。

テーブルの行の各セルに赤いラインがある場合、これは製造元部品が [製造元] テーブルから削除されたことを示します。セルのいくつかにだけ短い赤いラインが表示されている場合は、製造元部品が変更されたことを示します。変更されたセルには古い値の上に赤いラインが引かれ、新しい値が赤で表示されています。



109 ページの「[変更](#)」と 129 ページの「[変更の対象アイテム](#)」も参照してください。

[製造元のレッドライン] タブに製造元部品を追加する

[製造元のレッドライン] タブに製造元部品を追加するには:

1. 70 ページの「[\[製造元のレッドライン\] タブ](#)」の手順に従います。
2. [製造元レッドライン] タブが表示されたら、[追加] ボタンのドロップダウン リストを使い、[追加] - [検索]  を選択して製造元部品を検索します。
3. 67 ページの「[\[製造元\] タブに製造元部品を追加する](#)」の説明に従って手順を続行します。

[レッドライン] タブに存在しない製造元部品を追加する


[追加] ボタンのドロップダウン リストを使って [追加] - [作成]  (Java クライアント) または [追加] - [新規作成]  (Web クライアント) を選択し、新規製造元部品を作成して [製造元] タブに追加します。このオプションを使用する場合、既存の製造元のリストから製造元を選択するか、または必要に応じて新しい製造元を作成することもできます。67 ページの「[\[製造元\] タブに製造元部品を追加する](#)」を参照してください。

[レッドライン] タブから製造元部品を削除する


製造元部品のレッドライン削除では、次のような動作が行われます。

- 選択した行の文字色が赤の場合、レッドライン削除でその行が削除されます。
- 選択した行の文字色が黒の場合、レッドライン削除でその行に赤いラインが引かれます。

Java クライアントで製造元部品を削除するには:

1. 削除する行を選択します。
2. [製造元のレッドライン] タブの [削除] ボタン  をクリックします。

Web クライアントで製造元部品を削除するには:

1. 削除する行を選択します。
2. [製造元のレッドライン] タブの  [削除] ボタンをクリックします。

70 ページの「[製造元データのレッドラインの概要](#)」も参照してください。

[製造元のレッドライン] タブの製造元部品情報を編集する

アイテムの承認済み製造元リスト (AML) はアイテム オブジェクト [製造元] タブの情報の行によって表されます。AML テーブルの各行が各製造元部品を表します。アイテムがまだリリースされていない場合、アイテム [製造元] タブのこのテーブルを編集できます。たとえば、製造元部品を追加または削除したり、Agile 管理者が有効にした編集可能なカスタム フィールドを含め、編集可能なフィールドを変更できます。割り当てられた役割と権限は、どの AML テーブルのフィールドを編集許可されているかを決定します。69 ページの「[\[製造元\] タブの製造元部品を変更する](#)」を参照してください。

アイテムがリリースされている場合、またはリビジョンを保留している場合、[製造元のレッドライン] タブを使用してアイテムの AML ([製造元] タブ) を変更する必要があります。ECO または MCO の [対象アイテム] タブから [製造元のレッドライン] タブを開きます。

[製造元のレッドライン] タブで、Agile 管理者が有効にした編集可能カスタム フィールドの変更を含め、未リリース アイテムの [製造元] タブで行うことを許可されたのと同じ変更を行えます。

Agile 管理者がそれらの変更を有効にしている場合、アイテム [製造元] タブには、読み取りフィールドも含まれます。このフィールドには、たとえば製造元住所フィールドや製造元部品の [ユーザー定義 1] フィールドなど、製造元オブジェクトまたは製造元部品オブジェクトから作成された追加情報が表示されます。アイテム [製造元] タブと [製造元のレッドライン] タブで、読み取りフィールドには製造元または製造元部品による属性データの読み取り専用コピーが含まれます。


注意 アイテム [製造元] タブや [製造元のレッドライン] タブを使用して読み取りフィールドを変更したり、製造元部品オブジェクトの属性を変更したりすることはできません。[製造元] タブと [製造元のレッドライン] タブは、アイテムの AML (アイテムと製造元部品の関係) を定義する場合にのみ使用されます。

製造元または製造元部品の属性を変更するには、製造元または製造元部品を開きそれを編集機能で変更する必要があります。64 ページの「[製造オブジェクトを変更する](#)」を参照してください。


読み取りフィールドおよび [製造元] タブの編集可能なフィールドの詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。

注意 割り当てられた役割と権限は、どの属性を編集許可されているかをも決定します。

Java クライアントで [レッドライン] タブのフィールドを編集するには

1. 編集する 1 つ以上の行を選択し、[製造元のレッドライン] ボタン  をクリックします。
2. [製造元のレッドライン] ダイアログ ボックスで、必要なフィールドの変更を行います。このテーブルで他の行を表示したり、編集したりするには、左上隅にあるボタンを使用します。
3. 完了したら、[OK] をクリックします。

Web クライアントで [レッドライン] タブのフィールドを編集するには:

1. 1 つ以上の行を選択して、[編集]  をクリックします。
これで行情報が編集モードになります。
2. フィールドで必要な変更を行います。
3. [保存] をクリックします。

Agile PLM により、以前の情報に赤い線が引かれ、新規情報が以前の情報の下に赤で入力されます。


109 ページの「[変更](#)」と 129 ページの「[変更の対象アイテム](#)」も参照してください。

[製造元のレッドライン] テーブルの変更を元に戻す

[レッドライン取り消し] ボタンを使用すると、[レッドライン] タブの変更を元に戻すことができます。[レッドライン取り消し] ボタンでは、選択した行から赤いエレメントが削除されます。


削除 (全体に赤いラインが引かれている行) を取り消すには:

1. 削除された行を選択します。
2. [レッドライン取り消し] ボタンをクリックします。

(Java クライアントの場合: )

変更 (Agile PLM で短い赤いラインが引かれた変更された値) を取り消すには:


1. 変更された行を選択します。
2. [レッドライン取り消し] ボタンをクリックします。

(Java クライアントの場合: )

69 ページの「[\[レッドライン\] タブから製造データを変更する](#)」も参照してください。

製造オブジェクトと AML を印刷する

Agile PLM システムから、オブジェクトのタブやその他のデータを印刷することができます。現在のタブまたはすべてのタブを印刷できます。添付ファイルは、ファイルが作成されたアプリケーションまたは **Viewer** から印刷します。

Java クライアントでは、オブジェクトを開いた状態で [印刷] ボタン  を使用します。

Web クライアントでは、オブジェクトを開いた状態で、[アクション] - [印刷] を選択します。

オブジェクトの印刷の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

部品構成表 (BOM)

扱うトピックは次のとおりです。

■ 部品構成表 (BOM) について	75
■ [BOM] タブ	75
■ BOM の共通および拠点別の部分	79
■ 拠点ごとに BOM を表示する	80
■ BOM のアイテムを開く	80
■ BOM のリビジョン表示	84
■ BOM テーブルの変更について	84
■ 参照指示を使用する	94
■ リリース済みアイテムの BOM をレッドラインする	104
■ BOM データを印刷する	108

部品構成表 (BOM) について

部品構成表 (BOM) には、親アセンブリを構成するサブアセンブリ、部品、および原料がすべて表示されます。この表には、アセンブリを製造するために必要な各部品の数量が示されます。部品構成表 (BOM) のアイテムは、単体のアイテムの場合も、複数のアイテムから成るアセンブリの場合もあります。

ドキュメントの場合、ご使用のシステムの設定により、BOM がある場合とない場合があります。

BOM アイテムは、製品の組立を行う拠点が複数でも 1 つでも、すべての製造拠点で利用される可能性があります。BOM の共通部分には、拠点間でアセンブリが共有するすべての部品が表示されます。各拠点は、拠点別のその他のオブジェクト、たとえばその拠点での組み立て方法に固有のアセンブリ手順を含むドキュメントを BOM テーブルに追加できます。[BOM] タブで [拠点を表示] を選択すると、複数の拠点で使用されている BOM アイテムは各拠点に対して 1 回ずつ、複数回 [BOM] タブに表示されます。

35 ページの「[拠点および分散型製造](#)」も参照してください。




[BOM] タブ

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [Agile 管理者が管理する内容について](#) (76 ページ)
- [\[BOM\] タブのボタン](#) (76 ページ)
- [\[BOM\] テーブルのフィールド](#) (78 ページ)

[BOM] タブには、BOM にあるすべてのアイテムが表示されます。

BOM テーブルには、BOM のアイテムがグラフィックを使用した階層図で表示されます。この階層図では、アイテム番号が表す内容がアイコンを使用して次のように区別されています。

-  部品
-  ドキュメント
-  アセンブリ

Agile 管理者が管理する内容について

Agile 管理者は、次の権限をユーザーに割り当てることができます。

- ディスカバリ権限 - Agile PLM データベースで検索または検出できる Agile オブジェクトを決定し、制限します。
- 読み取り権限 - 検出された Agile オブジェクトのうち、開いたり、読み取り可能なオブジェクトを決定、制限します。また開いたり、読み取り可能な Agile オブジェクトで、表示可能な特定のフィールドを決定し、制限します。
- 拠点 - BOM と AML で表示および修正できる、拠点別の情報を決定し、制限します。

アイテムに対するディスカバリ権限がない場合、Agile 管理者により選択されたスマートルールの設定によっては、そのアイテムが BOM テーブルに表示されない場合もあります。BOM テーブルの場合、スマートルールの設定は読み取り権限のないフィールドに対しても適用されます。

ディスカバリ権限のない BOM のアイテムや読み取り権限のない BOM テーブルのフィールドは、次のいずれかの方法で示されます。

- アイテム番号とリビジョンのみが BOM テーブルに表示されます。ディスカバリ権限がない場合はアイテムを開くことができません。
- アイテムの説明のみが BOM テーブルに表示されます。ディスカバリ権限がない場合はアイテムを開くことができません。
- アイテムは BOM テーブル内に表示されません。BOM テーブルの上部に、まだ表示されていないアイテムの数を示すメッセージが表示されます。

表示不可の拠点情報に対するインジケータはありません。

ディスカバリ権限、読みとり権限、または割り当てられている拠点について質問がある場合は、Agile 管理者にお問い合わせください。

80 ページの「[BOM のアイテムを開く](#)」も参照してください。


[BOM] タブのボタン

このセクションでは以下のトピックについて説明します。
















- [\[BOM\] タブのボタン \(Java クライアント\)](#) (77 ページ)
- [\[BOM\] タブのボタン \(Web クライアント\)](#) (77 ページ)

78 ページの「[\[BOM\] テーブルのフィールド](#)」も参照してください。

[BOM] タブのボタン (Java クライアント)

[BOM] タブから印刷、送信、エクスポートなどのアクティビティを実行することができます。[その他のアクション] メニュー ([その他] ボタン  をクリック) など、オブジェクト ウィンドウ上部にあるボタンを使います。または、アイテム ウィンドウを右クリックしてショートカット メニューを開き、希望のコマンドを選択します。

次の表では、Java クライアントに表示される [BOM] タブのボタンについて説明します。













ボタン	説明
	[ジャンプ]-[ジャンプ] ダイアログ ボックスで入力した条件に基づいて特定の BOM アイテムを検索し、ハイライト表示します。 [ジャンプ] 検索は、特定の BOM カラムおよび指定したレベル数に制限できます。たとえば、レベル 3 を指定するとレベル 1、2、および 3 を検索します。
	ツリーの展開またはすべて縮小 - メニューから選択します。BOM ですべてのサブアセンブリを展開または縮小します。展開すると、すべてのレベルの BOM が表示されます。
	[編集] - BOM の行を編集可能にします。見出し番号、数量、参照指示、または BOM メモを編集できます。まだリリースされておらず、保留中の変更のない初版段階のアイテムではこのボタンが利用可能です。
    	[追加] - BOM テーブルにアイテムまたは空白の行を追加します。選択したオプションに基づき、以下が表示されます。  [作成] 追加する際にアイテムを作成します。  [検索] 既存のアイテムを検索します。  [既知の番号の入力] 既存のアイテムの既知の番号を 1 つ、または複数入力します。  [空の行の追加] - BOM テーブルに空の行が追加されます。この行は、後で入力することができます。 デフォルトでは、新しいアイテムまたは行の見出し番号は 0、数量は 1 です。
	[削除] - 選択した行を BOM テーブルから削除します。
	[レッドラインの表示] - アイテムのこのリビジョンをリリースした変更を開き、[対象アイテム] タブおよび [レッドライン] タブを表示します。このボタンは保留中のリビジョンでは無効になります。
	[BOM アイテムの選択] - この記号の付いた空の行をダブル クリックし、アイテム番号を選択または作成して空の行に入力します。

78 ページの「[\[BOM\] テーブルのフィールド](#)」と 77 ページの「[\[BOM\] タブのボタン \(Web クライアント\)](#)」も参照してください。

[BOM] タブのボタン (Web クライアント)

次の表では、Web クライアントに表示される [BOM] タブのボタンについて説明します。


注意 [アクション] メニューを使用すると、印刷、電子メール送信、エクスポートなどの処理を行ったり、[BOM] タブからその他の操作を実行することができます。




ボタン	説明
 編集	選択した行が [編集] ページで表示され、BOM をレッドライン可能になります。編集可能なフィールドの形式は、テキスト ボックス、リスト ボックスなどです。
 削除	選択した行を BOM テーブルから削除します。
 追加  追加  追加  追加	<p>[追加] - BOM テーブルにアイテムまたは空白の行を追加します。選択したオプションに基づき、以下が表示されます。</p> <p> [作成] 追加する際にアイテムを作成します。</p> <p> [検索] 既存のアイテムを検索します。</p> <p> [既知の番号の入力] 既存のアイテムの既知の番号を 1 つ、または複数入力します。</p> <p> [空の行の追加] - BOM テーブルに空の行が追加されます。この行は、後で入力することができます。</p> <p>デフォルトでは、新しいアイテムまたは行の見出し番号は 0、数量は 1 です。</p>
多段階... 展開 縮小	<p>[多段階] - [展開] の順に選択すると、BOM のすべてのサブアセンブリが展開されます。すべてのレベルの BOM が表示されます。</p> <p>[多段階] - [縮小] の順に選択すると、展開されたすべての BOM レベルが縮小されます。BOM の最上位のみが表示されます。</p>
移動	<p>[ジャンプ] ダイアログ ボックスに入力した条件に基づいて、特定の BOM アイテムへ移動します。</p> <p>[ジャンプ] 検索は、特定の BOM カラムおよび指定したレベル数に制限できます。たとえば、レベル 3 を指定するとレベル 1、2、および 3 を検索します。</p>
	この記号をクリックして新しいアイテムを作成し、空の行に入力します。
 BOM ツリーの表示	<p>オブジェクト ページの左のナビゲーション ウィンドウに BOM ツリーを表示します。サブアセンブリを展開したり、縮小したりすることができ、アイテム番号をクリックすると、そのアイテムが開きます。このボタンは、[アイテム] タブの上に表示され、どのタブが表示されていても、常に表示されます。</p> <p>BOM ツリーの表示は、BOM テーブルに一致するように自動的に更新されます。たとえば、BOM テーブルを展開する場合、ナビゲーション ウィンドウの BOM ツリーは BOM ツリー管理を使用するまで縮小されたままになっています。</p>

78 ページの「[\[BOM\] テーブルのフィールド](#)」と 77 ページの「[\[BOM\] タブのボタン \(Java クライアント\)](#)」も参照してください。

BOM テーブルのフィールド

BOM テーブル フィールドやアイコンは、次の表に示すとおりに表示されます。

フィールド名	説明
	<p>このアイコンは、アイテムに添付ファイルがあることを示します。</p> <p>このアイコンをクリックし、[添付ファイル] タブを表示しながら BOM アイテムを開きます。</p>

フィールド名	説明
	このアイコンは、アイテムに製造データが含まれていることを示します。 このアイコンをクリックし、[製造元] タブを表示しながら BOM アイテムを開きます。
	このアイコンは、アイテムに保留中の変更があることを示します。 このアイコンをクリックし、[変更] タブを表示しながら BOM アイテムを開きます。
アイテム番号	[アイテム番号] フィールドには、アイテムの番号が表示されます。アイテム番号をクリックしてアイテムのページを開きます。
	このアイコンは、アイテムに未終了の PSR があることを示します。 このアイコンをクリックし、[品質] タブを表示しながら BOM アイテムを開きます。
アイテムの説明	[アイテムの説明] フィールドには、アイテムの説明が表示されます。
アイテム リビジョン	[アイテム リビジョン] フィールドには、BOM アイテムのリビジョン番号が表示されます。デフォルトでは、最新のリリース済みリビジョンが表示されます。
数量	[数量] フィールドには、アセンブリまたはサブアセンブリで使用するアイテムの数量が表示されます。
見出し番号	[見出し番号] フィールドには、Agile BOM 内でのアイテムの検索に使用される社内番号が表示されます。
参照指示	[参照指示] フィールドには参照指示が表示されます。
拠点	[拠点] フィールドは、どの製造拠点にそのアイテムが関連付けられているかを表示します。複数の拠点に関連付けられているアイテムは、拠点ごとに BOM に一覧表示されます。
BOM メモ	[BOM メモ] フィールドには、アイテムについてのメモが表示されます。

注意 [開始日] の日付は、[タイトル ブロック] タブの [リビジョン リリース日] フィールドの日付とは異なります。リビジョン リリース日は、アイテムの現在のリビジョンをリリースした ECO (設計変更) がリリースされた日付です。

BOM の共通および拠点別の部分

会社が分散式製造を行っている場合、BOM テーブルには共通部分と拠点別部分の両方が含まれる場合があります。アイテムの [拠点] タブにリストされた拠点は、アイテムを BOM テーブルの共通または拠点別部分に追加できるかどうかを判断します。

BOM テーブルの共通部分に表示されるようにするためには、アイテムの [拠点] タブに、親アイテム アセンブリの [拠点] タブに表示されているすべての拠点が含まれている必要があります。たとえば、親アセンブリ 4444 は、その [拠点] タブに「インド」と「サン ホゼ」という拠点を含んでいるとします。この場合、BOM テーブルの共通部分に追加されたアイテムも、その [拠点] タブに「インド」と「サン ホゼ」が含まれている必要があります。これらのアイテムがそれぞれの [拠点] タブにその他の拠点を含んでいても、そのことが原因でアセンブリ 4444 BOM テーブルの共通部分から禁じられることはありません。

同じように、BOM テーブルの拠点別部分に追加されたアイテムは、それぞれの [拠点] タブに最低限その拠点を含んでいる必要があります。たとえば、BOM テーブルの「India」拠点別部分に含まれるようにするには、アイテムの [拠点] タブに少なくとも「India」が含まれていなければなりません。これらのアイテムがそれぞれの [拠点] タブにその他の拠点を含んでいても、そのことが原因でアセンブリ 4444 BOM テーブルの「India」部分から禁じられることはありません。

BOM のトップ レベルに表示されるアイテムは、これらのルールに準拠している必要があります。サブアセンブリの BOM テーブルに表示されるアイテムは、それぞれの親アイテムの拠点リストに一致する必要がありますが、しかしトップ アセンブリ アイテムの拠点リストと一致する必要はありません。

重要 BOM テーブルを作成または変更しているとき ([検索] または [既知の番号の入力] による追加)、適切な拠点が追加または変更されたアイテムの [拠点] タブに関連づけられていない場合、そのアイテムに正しい拠点の関連付けがないことを告げる警告が表示されます。警告を受け入れ、アイテムを追加するかアクションをキャンセルしてください。

子アイテムの拠点関連付けを追加してから、アセンブリ アイテムをリリースする必要があります。アセンブリがリリースされると、アイテムは BOM テーブルにおける適切な拠点関連性について検証されます。Agile システム スマートルール設定によっては、拠点の関連性が正しくなければ、設計変更や拠点変更をリリースできなくなる可能性があります。122 ページの「[拠点別の有効日と破棄日](#)」も参照してください。

[追加]>[作成] (Java クライアント) または [追加]>[新規作成] (Web クライアント) を使用している場合、適切な拠点の関連付けは作成プロセスの間自動的に追加されます。

35 ページの「[拠点および分散型製造](#)」も参照してください。

拠点ごとに BOM を表示する

タブの上の [拠点] ドロップダウン リストから拠点を選択すると、特定の製造拠点に対する BOM を表示できます。リストに表示される拠点は、そのアイテムの [拠点] タブで指定された拠点です。(製造拠点の詳細は、35 ページの「[拠点および分散型製造](#)」を参照してください。)

拠点を選択すると、[BOM] タブには共通の BOM に加え、選択した拠点の BOM も表示されます。すべての拠点の BOM を一括で表示させるには、[拠点] リストの [すべて] を選択します。

拠点到色を割り当てると、BOM テーブルの行を異なる色で表示し、各拠点を別の拠点と区別することができます。拠点到色は、拠点到 [一般情報] タブで割り当てます。

BOM テーブルに表示されているアイテムについてのみ、アクションを実行できます。たとえば、[拠点] ドロップダウン リストでサンフランシスコを選んだ場合、BOM の共通部分のアイテムと、BOM のサンフランシスコの部分のアイテムがすべて表示され、BOM の共通部分と BOM のサンフランシスコの部分を変更することができます。ただし、BOM の香港の部分は、表示されていないため変更できません。

[リビジョン] ドロップダウン リストと [拠点] ドロップダウン リストは、独立して機能します。詳細は、12 ページの「[アイテムのリビジョンを処理する](#)」を参照してください。

BOM のアイテムを開く

通常、BOM にリストされているすべてのアイテムは、その行をダブル クリックするか (Java クライアント)、またはアイテム番号をクリックすると (Web クライアント) 開くことができます。アイテムを開くとアイテムのページが表示されます。

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [\[BOM\] タブから部品、アセンブリ、ドキュメントを開く](#) (81 ページ)
- [アセンブリを展開、縮小する](#) (81 ページ)
- [BOM ジャンプを使用する](#) (82 ページ)

[BOM] タブから部品、アセンブリ、ドキュメントを開く

Java クライアント:

BOM にあるアイテムは、その行をダブル クリックすると開きます。


Web クライアント:


BOM にあるアイテムは、アイテム番号をクリックすると開きます。

保留中のリビジョンの部品構成表 (BOM) を表示するには、タブの上の [リビジョン] ドロップダウン リストから、保留中のリビジョン (「リビジョン (B)」のように括弧でくくられているもの) を選択します。

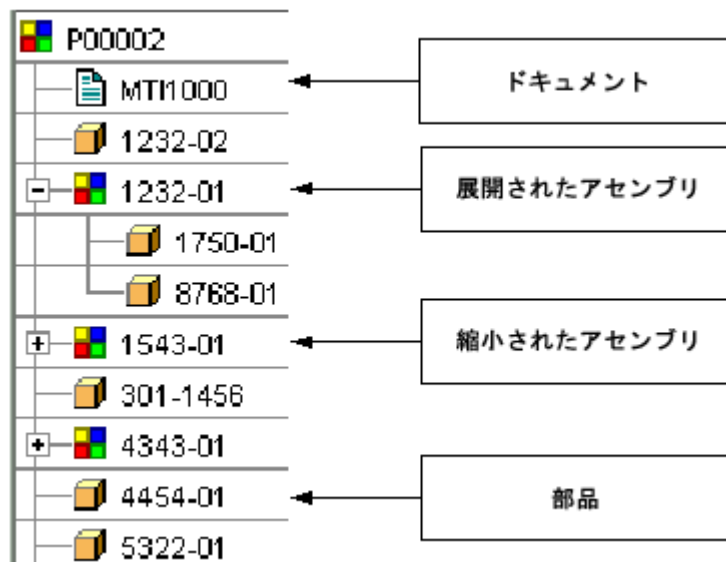
同一アイテムの他のリビジョンの表示の詳細は、12 ページの「[アイテムのリビジョンを処理する](#)」を参照してください。

アセンブリを展開、縮小する

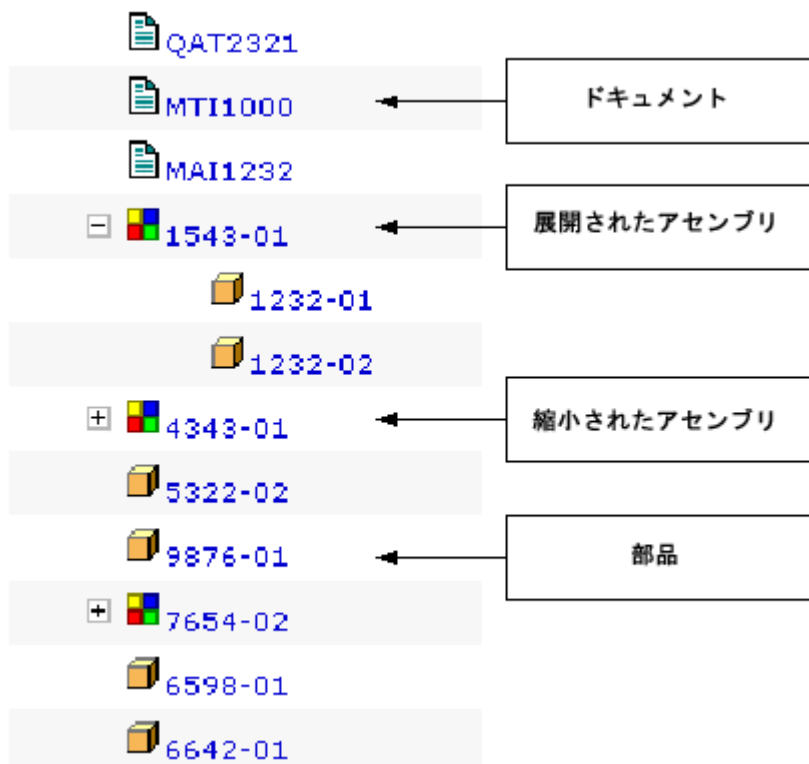
アセンブリまたはサブアセンブリを展開するには、アイテム番号の前の  をクリックします。

アセンブリまたはサブアセンブリを縮小するには、アイテム番号の前の  をクリックします。

BOM ツリーの詳細、Java クライアント



BOM ツリーの詳細、Web クライアント




80 ページの「[BOM のアイテムを開く](#)」も参照してください。

BOM ジャンプを使用する

[BOM ジャンプ] 機能により、BOM ツリーの特定アイテムを検索できます。

Java クライアントで [BOM ジャンプ] 機能を使用するには、

1. アイテムの [BOM] タブをクリックして表示します。
2. 特定のアセンブリに検索範囲を限定する場合は、必要に応じて BOM を展開し、[BOM] テーブルで目的のアセンブリを選択します。それ以外の場合は、次のステップに進みます。
3. [ジャンプ] ボタンをクリックします。 
4. [ジャンプ] ダイアログ ボックスで、検索を定義します。
 - a. 検索したいテキストを入力します。[ジャンプ] 検索は、その属性フィールドに指定したテキストを含む任意のアイテムを検出します。数字と句読点を含め、任意の文字の種類を使用できます。
 - b. ドロップダウン リストで、検索したい BOM テーブルのカラムを選択します。すべてのカラムまたは 1 つの特定カラムを選択できます。
 - c. テキストの大文字小文字を区別して検索するには、[大文字小文字を区別する] にチェックマークを付けます。
 - d. 検索したい BOM レベルの数を選択します。数を入力するか、[すべてのレベル] にチェックマークを付けます。
 - e. ステップ 2 でアセンブリを選択した場合は、[レベルを制限して検索] を選択して検索範囲を選択し

たアセンブリに限定します。アセンブリを選択しなかった場合、このチェックボックスは無効化されています。

5. 検索を開始するには、[検索] をクリックします。

検索結果は、検索結果ダイアログ ボックスに表示されます。まだ展開されていない場合、オブジェクトウィンドウの BOM テーブルは展開されて検索条件ダイアログ ボックスで指定されたレベル数を表示します。

検索結果は次の方法でソートできます。

- カラム ヘッダをドラッグ & ドロップして、カラムが表示される順序を変更します。
 - 追加: [利用可能なカラム] ドロップダウン リストで、表示するカラムをさらに選択します。たとえば、拠点でアイテムをソートできるように結果テーブルに [拠点] カラムを追加します。
 - 表示されたカラムを削除するには、削除: [表示されたカラム] ドロップダウン リストを使用します。
6. 検索条件を変更して検索を再び実行したい場合、[条件] をクリックします。検索結果ダイアログ ボックスが閉じ、最後に指定した設定で検索条件ダイアログボックスが表示されます。検索を定義し直すには、前述のステップ 4 に移動します。
 7. 検索結果テーブルで目的のアイテムを検索します。[次へ] および [前へ] ボタンを使用して、検索結果リストをスクロールアップしたりスクロールダウンします。アイテムの行をクリックして選択することもできます。検索結果テーブルで選択したアイテムがハイライト表示されます。同時に、そのアイテムはオブジェクト ウィンドウの BOM テーブルにもハイライト表示されます。検索結果テーブルで異なるアイテムを選択するときには常に、そのアイテムが BOM テーブルにハイライト表示されます。
 8. 目的のアイテムが見つかったら、検索結果ダイアログボックスで [閉じる] をクリックします。検索結果テーブルで選択した最後のアイテムは、オブジェクトウィンドウの BOM テーブルでハイライト表示されたままになっています。

Web クライアントで [BOM ジャンプ] 機能を使用するには、

1. [BOM] タブで [ジャンプ] ボタンをクリックします。
 2. [BOM のアイテムに移動] ダイアログ ボックスで、検索を定義します。
 - a. 検索したいテキストを入力します。[ジャンプ] 検索は、その属性フィールドに指定したテキストを含む任意のアイテムを検出します。数字と句読点を含め、任意の文字の種類を使用できます。
 - b. ドロップダウン リストで、検索したい BOM テーブルのカラムを選択します。すべてのカラムまたは 1 つの特定カラムを選択できます。
 - c. テキストの大文字小文字を区別して検索するには、[大文字小文字を区別する] にチェックマークを付けます。
 - d. 検索したい BOM レベルの数を選択します。数を入力するか、[すべてのレベル] にチェックマークを付けます。
 3. 検索を開始するには、[次を検索] をクリックします。検索条件に一致する最初のアイテムが BOM テーブルでハイライト表示されます。
 4. [次を検索] および [前を検索] ボタンを使って BOM テーブルをスクロールアップまたはスクロールダウンすると、検索条件に一致するアイテムがハイライト表示されます。
 5. 目的のアイテムを見つけたら、[BOM のアイテムに移動] ダイアログ ボックスで [閉じる] をクリックします。BOM テーブルでハイライト表示された最後のアイテムはハイライト表示されたままになっています。
- 80 ページの「[BOM のアイテムを開く](#)」も参照してください。

BOM のリビジョン表示

BOM テーブルの [リビジョン] フィールドに表示されるリビジョン番号 (または文字) は、親アイテムのリリース日 (すでにリリースされている場合) を確認し、その日付以前の子アイテムの最新リビジョンを検索して分析することにより算出されます。親アイテムがリリースされていない場合、子アイテムの最新のリビジョンが検索されます。詳細は、182 ページの「[BOM 上のリビジョン表示の詳細](#)」を参照してください。

注意 子アイテムが未リリースかリリース済みかによって、親アイテムの BOM に表示される子アイテムのリビジョンが異なることに注意してください。

ECO の影響を受けるアイテムの BOM

アイテムに対して ECO を作成する場合、Agile PLM では、その ECO の影響を受けるアイテムの新しいリビジョンが作成されます。新しいリビジョンには、レッドラインに基づいて更新された BOM があります。

たとえば、次のような操作を行う例を考慮してください。

1. 現在使用されている 1.0GB ディスクを 2.1GB ハード ディスクで置き換えることにより部品 #1000~02 を変更する ECO を作成します。
2. ECO をリリースします。
3. アイテム #1000~02 の BOM を確認します。

ECO がリリースされると、変更されたアイテムが、アイテム #1000~02 の新しいリビジョンとして表示されます。この新しいリビジョンには ECO による変更が適用されています。

109 ページの「[変更](#)」、129 ページの「[変更の対象アイテム](#)」も参照してください。

BOM テーブルの変更について

アイテムがまだリリースされておらず保留中の変更がない場合、直接 BOM テーブルを変更 (追加、削除、または編集) することができます。

アイテムがリリース済みの状態にあるか、またはアイテムに保留中の MCO がある場合、アイテムに対して ECO を記述し、BOM をレッドラインする必要があります。(アイテムにすでに保留中の ECO がある場合、別の ECO を作成することなく BOM をレッドラインすることができます。)¹⁰⁴ ページの「[リリース済みアイテムの BOM をレッドラインする](#)」を参照してください。

次の表に、アイテムの BOM テーブルをプレリミナリ アイテムおよびリリース済み量産アイテムとして変更する方法を示します。

フェーズ 1	フェーズ 2	フェーズ 3	フェーズ 4
部品_123 ライフサイクル = プレリミナリ リビジョン = 初版	部品_123 ライフサイクル = プレリミナリ リビジョン = (A) ECO_001	部品_123 ライフサイクル = 製造 リビジョン = A ECO_001	部品_123 ライフサイクル = 製造 リビジョン = (B) ECO_005

保留中の変更なし	保留中の ECO_001 はまだリリースされていません。保留中リビジョン (A) を作成します。	ECO_001 は部品_123 をリリースします。	ECO_005 は部品_123 の保留中リビジョン (B) を作成します。
部品_123 はまだリリースされていません。BOM テーブルを 85 ページの「 プレリミナリ アイテムの BOM テーブルにアイテムを追加する 」の説明に基づいて変更できます。	ECO_001 で BOM をレッドラインして部品_123 の BOM テーブルを変更します。	部品_123 はリリース済み量産アイテムであるため、部品_123 の BOM テーブルは変更できません。	部品_123 はリリース済み量産アイテムです。変更を作成し、BOM をレッドラインして、BOM にすべての変更を加える必要があります。

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [プレリミナリ アイテムの BOM で拠点別の部分を変更する](#) (85 ページ)
- [プレリミナリ アイテムの BOM テーブルにアイテムを追加する](#) (85 ページ)
- [プレリミナリ アイテムの BOM テーブルを変更する](#) (93 ページ)
- [アイテムを BOM テーブルから削除する](#) (94 ページ)

プレリミナリ アイテムの BOM で拠点別の部分を変更する

分散型の製造を行っている場合、BOM の各製造拠点の部分を個別に変更できます。BOM の拠点別のアイテムを変更するには、[拠点] ドロップダウン リストから拠点を選択し、変更または編集する拠点別のアイテムを選択します。93 ページの「[プレリミナリ アイテムの BOM テーブルを変更する](#)」を参照してください。アイテムを BOM に追加する場合は、拠点を選択します。85 ページの「[プレリミナリ アイテムの BOM テーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

注意 リリース済みアイテムの BOM の拠点別の部分を変更する場合、リビジョンの変更は必要なく、SCO で変更できます。リリース済みアイテムの BOM の共通部分を変更する場合は、リビジョンの変更が必要で、ECO でのみ変更が可能です。リリース済みアイテムの BOM の変更の詳細は、109 ページの「[変更の対象アイテム](#)」と 129 ページの「[変更](#)」を参照してください。

プレリミナリ アイテムの BOM テーブルにアイテムを追加する

アイテムを BOM タブに追加するにはいくつか方法があります。次のいずれかを実行します。

- アイテムの番号を入力します。86 ページの「[BOM テーブルに追加するアイテムの番号を入力する](#)」を参照してください。
- 利用可能な検索方法を使い、追加したいアイテムを検索します。86 ページの「[BOM テーブルに追加するアイテムの検索](#)」を参照してください。
- 新規アイテムを作成します。92 ページの「[存在しないアイテムを BOM テーブルに追加する](#)」を参照してください。

- 空白の行を追加し、後からこの行に対しアイテムを選択します。88 ページの「[BOM テーブルに空の行を追加する](#)」を参照してください。
 - 空の行を編集して、一時アイテム番号またはアイテムの説明などの BOM 行の詳細を入力します。89 ページの「[空の行を編集する](#)」を参照してください。
 - 使用したいアイテムを選択して、空の行を完成させます。90 ページの「[BOM テーブルで空の行を完了する](#)」を参照してください。

84 ページの「[BOM テーブルの変更について](#)」も参照してください。

BOM テーブルに追加するアイテムの番号を入力する

BOM テーブルに追加するアイテムの番号が分かっている場合、[既知の番号の入力] オプションを使用することができます。このプロセスは、Java クライアントと Web クライアントで非常に似ています。

注意 存在しないアイテム番号を入力すると、警告が表示されます。警告を受け入れると、存在しないアイテム番号のプレースホルダ行が追加されます。88 ページの「[BOM テーブルに空の行を追加する](#)」も参照してください。

BOM テーブルにアイテムを 1 つ、または複数追加するには:

1. [BOM] タブをクリックします。
2. 拠点別アイテムを BOM タブに追加する場合は、アイテムの [拠点] ドロップダウン リストで拠点を選択します。BOM の共通部分にアイテムを追加するには、[すべて] を選択します。
3. [追加] ドロップダウン メニュー ボタンをクリックし、[既知の番号の入力] オプションを選択します。ダイアログが表示されます。
4. [アイテム番号] フィールドで、希望のアイテム番号を入力します。各番号は別々の行に入力します。
たとえば、P00002 と入力した後、Enter キーを押し、カーソルを次の行へ移動します。そして、P00044 と入力します。
5. [拠点へ追加] のドロップダウン リストで、希望の拠点を選択してください。BOM の共通部分にアイテムを追加するには、[共通] を選択します。
すでにアイテムの [拠点] ドロップダウン リストで拠点を選択している場合、ダイアログでは事前を選択された状態となっています。
6. [追加] をクリックします。
アイテムが BOM テーブル内に表示されます。
7. 別の拠点にアイテムを追加するには、アイテムの [拠点] ドロップダウン リストで目的の拠点を選択して手順を繰り返します。

BOM テーブルにアイテムを追加する他の方法については、85 ページの「[プレリミナリ アイテムの BOM テーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

BOM テーブルに追加するアイテムの検索

保存された検索を使用するか、または簡易検索や詳細検索を定義し、BOM テーブルに追加するアイテムを検索することができます。また、[ブックマーク] フォルダや [最近訪れたところ] フォルダでアイテムを選択できます。

1 つまたは複数のアイテムを検索し、Java クライアントの BOM テーブル追加するには:

アイテムを BOM に追加すると、選択したアイテムの下に追加されます。

1. [BOM] タブをクリックします。
2. 拠点別アイテムを [BOM] タブに追加する場合は、アイテムの [拠点] ドロップダウン リストで拠点を選択します。BOM の共通部分にアイテムを追加するには、[すべて] を選択します。
3. [追加] ドロップダウン メニュー ボタンをクリックし、[検索] オプションを選択します。[BOM の追加] ダイアログが表示されます。
4. アイテムを追加した後、すぐにアイテム情報を編集するには、[追加後、行を編集] がチェックされていることを確認します。
5. 既存のアイテムを 1 つまたは複数検索します。[BOM を追加] ダイアログ ボックスで、検索方法を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、[検索] をクリックします。さらに、詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、ブックマークや最近開いたアイテム (ショートカット) を選択することもできます。(検索の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。)
6. これらの検索結果で、アイテムを [選択されたアイテム] リストへ移動し、アイテムを選択します。
その他のアイテムを検索および選択するために、複数の検索を実行することができます。
7. [拠点] フィールドでまだ拠点を選択していない場合は、選択します。BOM の共通部分に選択されたアイテムを追加するには、[共通] を選択します。すでにアイテムの [拠点] ドロップダウン リストで拠点を選択している場合、ダイアログでは拠点が事前選択された状態となっています。
8. [OK] をクリックします。
9. [追加後、行を編集] がチェックされている場合、[追加された行の編集] ダイアログでアイテム情報を編集し、[OK] をクリックします。
[選択されたアイテム] リストのすべてのアイテムは、BOM に追加されます。[BOM] タブの [拠点] 欄には、関連拠点として、選択された拠点が自動的に入力されます。BOM の [共通] 部分にアイテムを追加した場合、[拠点] 欄は空欄となり、アイテムが拠点別ではなく、すべての拠点に対して共通であることを意味します。
10. 別の拠点にアイテムを追加するには、アイテムの [拠点] ドロップダウン リストで目的の拠点を選択して手順を繰り返します。

注意 アイテムが、拠点別の BOM プロパティで [不可] に設定されたサブクラスに属している場合、そのアイテムの BOM テーブルに拠点別の行を追加することはできません。質問がある場合は、Agile 管理者にお問い合わせください。

1 つまたは複数のアイテムを検索し、Web クライアントの BOM テーブルに追加するには:

1. [BOM] タブをクリックします。
2. 拠点別アイテムを [BOM] タブに追加する場合は、アイテムの [拠点] ドロップダウン リストで拠点を選択します。
3. [追加] ドロップダウン メニュー ボタンをクリックし、[検索] オプションを選択します。
[BOM アイテムの追加] ウィザードが表示されます。
4. 既存のアイテムを 1 つまたは複数検索します。[BOM アイテムを追加] ダイアログ ボックスで、検索方法を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、[検索] をクリックします。さらに、詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、ブックマークや最近開いたアイテム (ショートカット) を選択することもできます。(検索の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。)

- これらの検索結果で、アイテムを [選択済み] リストへ移動し、アイテムを選択します。
その他のアイテムを検索および選択するために、複数の検索を実行することができます。
- [拠点へ追加] フィールドでまだ拠点を選択していない場合は、選択します。BOM の共通部分に選択されたアイテムを追加するには、[共通] を選択します。すでにアイテムの [拠点] ドロップダウン リストで拠点を選択している場合、ダイアログでは拠点が事前に選択された状態となっています。
- [OK] をクリックします。
- [追加後、行を編集] がチェックされている場合、表示されたダイアログでアイテム情報を編集し、[保存] をクリックします。

[選択済み] リストのすべてのアイテムは、BOM に追加されます。[BOM] タブの [拠点] 欄には、関連拠点として、選択された拠点が自動的に入力されます。BOM の [共通] 部分にアイテムを追加した場合、[拠点] 欄は空欄となり、アイテムが拠点別ではなく、すべての拠点に対して共通であることを意味します。
- 別の拠点にアイテムを追加するには、アイテムの [拠点] ドロップダウン リストで目的の拠点を選択して手順を繰り返します。

BOM テーブルにアイテムを追加する他の方法については、85 ページの「[プレリミナリ アイテムの BOM テーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

BOM テーブルに空の行を追加する

プレースホルダーとして、BOM テーブルに空の行を追加し、後で追加するオブジェクトのタイプを指定して、[BOM メモ] フィールドを編集します。

たとえば、あるユーザーがコンピュータに関する BOM を作成していると仮定します。しかし、そのユーザーはどの電源コードを使用すれば良いかわかりません。BOM に空の行を追加して、空の行を編集することになります。彼は見出し番号、参照指示、数量を指定します。[BOM メモ] フィールドに、BOM に入れる必要がある電源コードのタイプについてメモを入力します。後で、BOM を再び表示したユーザーは空の行に気づきます。そこで BOM の行に必要な情報の入力を完了するには、適切なアイテム番号を選択しなければならないことを思い出します。90 ページの「[BOM テーブルで空の行を完了する](#)」も参照してください。

Java クライアントの BOM テーブルに空の行を追加するには:

BOM に空の行を追加する場合、選択した行の上に追加されます。

- [BOM] タブをクリックします。
- BOM の拠点別の部分に空の行を追加するには、アイテムの [拠点] ドロップダウン リストから拠点を選択します。BOM の共通部分に空の行を追加するには、アイテムの [拠点] ドロップダウン リストから [すべて] を選択します。(アイテムまたは空の行は、追加する拠点に関連付けてください。詳細は、44 ページの「[拠点をアイテムに関連付ける](#)」を参照してください)。

注意 アイテムが、拠点別の BOM プロパティで [不可] に設定されたサブクラスに属している場合、そのアイテムの BOM テーブルに拠点別の行を追加することはできません。質問がある場合は、Agile 管理者にお問い合わせください。

- [追加] ドロップダウン メニュー ボタンをクリックし、[空の行の追加] オプションを選択します。

BOM テーブルの該当するセクションに、デフォルトの見出し番号と数量で空の行が追加されます。デフォルトの見出し番号は 0 です。デフォルトの数量は Agile 管理者により設定されます。

Web クライアントの BOM テーブルに空の行を追加するには:

- [BOM] タブをクリックします。

2. BOM の拠点別の部分に空の行を追加するには、アイテムの [拠点] ドロップダウン リストから拠点を選択します。BOM の共通部分に空の行を追加するには、アイテムの [拠点] ドロップダウン リストから [すべて] を選択します。(アイテムまたは空の行は、追加する拠点に関連付けてください。詳細は、44 ページの「[拠点をアイテムに関連付ける](#)」を参照してください)。

注意 アイテムが、拠点別の BOM プロパティで [不可] に設定されたサブクラスに属している場合、そのアイテムの BOM テーブルに拠点別の行を追加することはできません。質問がある場合は、Agile 管理者にお問い合わせください。

3. [追加] ドロップダウン メニュー ボタンをクリックし、[空の行] オプションを選択します。
BOM テーブルの該当するセクションに空の行が追加されます。デフォルトでは、見出し番号は 0、数量は 1 です。


BOM テーブルにアイテムを追加する他の方法については、85 ページの「[プレリミナリ アイテムの BOM テーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

空の行を編集する


BOM 行を編集するのと同じ方法で空の行を編集することも可能で、これにより一部の BOM テーブル フィールドを入力してから追加したいオブジェクトを指定します。たとえば、数量、見出し番号、参照指示、および Agile 管理者が定義した追加カスタム フィールドを入力できます。

以下の指示に従うことによって、一時アイテム番号またはアイテムの一時説明を表示することもできます。

Java クライアントを使用して空の行を編集するには (一時アイテム番号またはアイテム説明の入力または編集を含む)

1. 変更する空の行を含む 1 つ以上の BOM 行を選択し、[編集] ボタン  をクリックします。
[編集] ウィンドウが表示されます。
2. テーブルで変更を加えます。
3. 空の行に一時説明を入力するには、[BOM 説明] フィールド フィールドに、一時アイテム説明として使用したいテキストを入力します。
空の行の [アイテム説明] フィールドは編集できません。ただし、Agile は変更を保存するときアイテムの一時説明として [BOM 説明] のテキストを使用します。
4. 一時アイテム番号を入力するには、[アイテム番号] フィールドに、Agile データベースに存在しない番号を入力します。
5. 完了したら、[OK] をクリックします。
一時アイテム番号を入力すると、Agile はアイテム番号が存在しないという警告を含む [警告とエラー] ダイアログ ボックスを表示します。一時アイテム番号を指定し終わったら、[承認] チェックボックスをチェックし、[OK] をクリックします。
BOM 説明フィールドに一時説明のテキストを入力した場合、そのテキストは空の行の [アイテム説明] フィールドにも表示されます。

Web クライアントを使用して空の行を編集するには (一時アイテム番号またはアイテム説明の入力または編集を含む)

1. 変更する空の行を含む 1 つ以上の BOM 行を選択し、 [編集] ボタンをクリックします。
これで [BOM] タブが編集モードになります。編集可能なフィールドの形式は、テキスト ボックス、リスト ボックスなどです。

2. 必要な変更を加えます。
3. 空の行に一時説明を入力するには、[BOM 説明] フィールド フィールドに、一時アイテム説明として使用したいテキストを入力します。

空の行の [アイテム説明] フィールドは編集できません。ただし、Agile は変更を保存するときアイテムの一時説明として [BOM 説明] のテキストを使用します。
4. 一時アイテム番号を入力するには、[アイテム番号] フィールドに、Agile データベースに存在しない番号を入力します。
5. 入力完了したら、[保存] をクリックします。

一時アイテム番号を入力すると、Agile はアイテム番号が存在しないという警告を含む [警告とエラー] ダイアログ ボックスを表示します。一時アイテム番号を指定し終わったら、[承認] チェックボックスをチェックし、[保存] をクリックします。

BOM 説明フィールドに一時説明のテキストを入力した場合、そのテキストは空の行の [アイテム説明] フィールドにも表示されます。

BOM テーブルにアイテムを追加する方法の詳細は、85 ページの「[プレリミナリ アイテムの BOM テーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

BOM テーブルの空の行を完成する

下記の手順を使用して BOM テーブルの空の行を完成することができます。次の条件が適用されます。

- アイテムに保留中の変更没有な場合は、アイテムの BOM テーブルで BOM 空白行置換を実行することができます。
- 設計変更がリリースされていない場合は、設計変更の [BOM のレッドライン] タブで BOM 空白行置換を実行することができます。
- BOM テーブルの編集プロセス外で、一時的な BOM 行置換 (名前の付けられている空白の BOM 行) を実行することができます。
 - メイン メニューの [作成] などから、一時的な名前でアイテムを作成する場合
 - 既存のアイテムの名前を、一時 BOM アイテムと同じ名前に変更する場合
 - [名前を付けて保存] 機能を使用して、既存のアイテムに一時 BOM アイテムと同じ名前を付けて新規アイテムを作成する場合

Java クライアントを使用して BOM テーブルの空の行を完成するには:

1. BOM テーブルで空の行をダブルクリックすると、この記号が表示されます。 ?
2. [一時アイテムの置換] ダイアログ ボックスで、使用する方法を選択します。

新しいアイテムを作成する

- a. [一時アイテムの置換] ダイアログ ボックスで、[新規アイテムの作成] を選択し、[OK] をクリックします。
- b. [新規] ダイアログ ボックスで、[タイプ] ドロップダウン リストのアイテム タイプを選択し、必須フィールドに入力し、[OK] をクリックします。自動採番が必要ない場合、[新規] ダイアログの [番号] フィールドに一時番号が保存されます。この一時番号を使用することも、置換することもできます。自動採番が必要な場合、一時番号が自動採番で自動的に置換されます。


アイテムを検索する

- a. [一時アイテムの置換] ダイアログボックスで、[アイテムの検索] を選択し、[OK] をクリックします。
 - b. [オブジェクトの選択] ダイアログ ボックスで、検索方法を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、[検索] をクリックします。さらに、詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、ブックマークや最近開いたアイテム (ショートカット) を選択することもできます。(検索の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。)
- 望むアイテムが見つかるまで、複数の検索を実行することができます。
- c. これらの検索結果で、アイテムを [選択されたオブジェクト] リストへ移動し、1 つのアイテムを選択したら [OK] をクリックします。

アイテムと置換する

- a. [一時アイテムの置換] ダイアログ ボックスで、[アイテムと置換] を選択します。
- b. 既存アイテムのアイテム番号を入力し、[OK] をクリックします。

Web クライアントを使用して BOM テーブルの空の行を完成するには

1. BOM テーブルの空の行でこの記号  をクリックします。
2. [一時アイテムの置換] ダイアログ ボックスで、使用する方法を選択します。

新しいアイテムを作成する

- a. [一時アイテムの置換] ダイアログボックスで、[新規アイテムの作成] を選択し、[OK] をクリックします。
- b. [新規アイテムの作成] ダイアログ ボックスで、[タイプ] ドロップダウン リストのアイテム タイプを選択し、必須フィールドに入力し、[OK] をクリックします。自動採番が必要ない場合、新規ダイアログ [番号] フィールドに一時番号が保存されます。この一時番号を使用することも、置換することもできます。自動採番が必要な場合、一時番号が自動採番で自動的に置換されます。

置換アイテムを検索する

- a. [一時アイテムの置換] ダイアログボックスで、[置換アイテムの検索] を選択し、[OK] をクリックします。
- b. [アイテムの検索] ダイアログ ボックスで、検索方法を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、[検索] をクリックします。さらに、詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、ブックマークや最近開いたアイテム (ショートカット) を選択することもできます。(検索の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。)
- c. 望むアイテムが見つかるまで、複数の検索を実行することができます。
- d. これらの検索結果で、アイテムを [選択されたオブジェクト] リストへ移動し、1 つのアイテムを選択したら [OK] をクリックします。

アイテムと置換する


- a. [一時アイテムの置換] ダイアログ ボックスで、[アイテムと置換] を選択します。
- b. 既存アイテムのアイテム番号を入力し、[OK] をクリックします。

BOM テーブルにアイテムを追加する方法の詳細は、85 ページの「[プレリミナリ アイテムの BOM テーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

存在しないアイテムを BOM テーブルに追加する


まだ作成されていないアイテムを BOM に追加することができます。

Java クライアントを使用して BOM テーブルに存在しないアイテムを追加するには:


1. [BOM] タブをクリックします。
2. 拠点別アイテムを BOM タブに追加する場合は、アイテムの [拠点] ドロップダウン リストで拠点を選択します。BOM の共通部分にアイテムを追加するには、[すべて] を選択します。
3. [追加] ドロップダウン メニュー ボタンをクリックし、[作成] オプションを選択します。[新規作成] ダイアログが開きます。
4. [新規作成] ダイアログ ボックスで、[タイプ] ドロップダウン リストを使用して、作成するアイテムのタイプ (サブクラス) を選択します。
5. アイテムに番号を割り当てます。これには、提供された自動採番号を使用するか、または [自動採番] ボタン  を押して次の番号を使用するか、または番号を入力します。
6. [拠点へ追加] のドロップダウン リストで、希望の拠点を選択してください。BOM の共通部分にアイテムを追加するには、[共通] を選択します。

すでにアイテムの [拠点] ドロップダウン リストで拠点を選択している場合、ダイアログでは事前を選択された状態となっています。

7. 必須フィールドを入力します。
8. [OK] をクリックします。

注意 新しいアイテムを作成した後でそのアイテムが必要でなくなった場合は、[オブジェクト] ウィンドウの [削除] ボタン  を使用してデータベースからそのアイテムを削除する必要があります。BOM からのアイテムの削除の詳細は、94 ページの「[アイテムを BOM テーブルから削除する](#)」を参照してください。

Web クライアントを使用して BOM テーブルに存在しないアイテムを追加するには:

1. [BOM] タブをクリックします。
2. 拠点別アイテムを BOM タブに追加する場合は、アイテムの [拠点] ドロップダウン リストで拠点を選択します。BOM の共通部分にアイテムを追加するには、[すべて] を選択します。
3. [追加] ドロップダウン メニュー ボタンをクリックし、[新規作成] オプションを選択します。[新規作成] ダイアログが開きます。
4. [新規作成] ダイアログ ボックスで、[タイプ] ドロップダウン リストを使用して、作成するアイテムのタイプ (サブクラス) を選択します。
5. アイテムに番号を割り当てます。これには、提供された自動採番号を使用するか、または [自動採番] ボタン  を押して次の番号を使用するか、または番号を入力します。
6. [拠点へ追加] のドロップダウン リストで、希望の拠点を選択してください。BOM の共通部分にアイテムを追加するには、[共通] を選択します。

すでにアイテムの [拠点] ドロップダウン リストで拠点を選択している場合、ダイアログでは事前を選択された状態となっています。

7. 必須フィールドを入力します。
8. [OK] をクリックします。

注意 新しいアイテムを作成した後でそのアイテムが必要でなくなった場合は、[アクション] メニューの [削除] コマンドを使用してデータベースからそのアイテムを削除する必要があります。BOM からアイテムの削除の詳細は、94 ページの「[アイテムを BOM テーブルから削除する](#)」を参照してください。


BOM テーブルにアイテムを追加する他の方法については、85 ページの「[プレリナリ アイテムの BOM テーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

プレリナリ アイテムの BOM テーブルを変更する

リリースされておらず、保留中の変更のないアイテムの BOM テーブルは直接変更できます。

新しいアイテムを作成して [BOM] タブをクリックすると、オブジェクト ウィンドウに空白の [BOM] タブが表示されます。

Java クライアントのプレリナリ アイテムの BOM テーブルにあるアイテムを変更するには:

1. 未リリースのアイテムを開きます。
2. [BOM] タブをクリックします。
3. BOM の拠点別の部分にある BOM 情報が必要な場合、[拠点] ドロップダウン リストから拠点を選択します。
4. 変更するアイテムを 1 つまたは複数選択します。
[編集] ボタン  をクリックします。
[編集] ウィンドウが表示されます。
5. テーブルで変更を加えます。
完了したら、[OK] をクリックします。


Web クライアントのプレリナリ アイテムの BOM テーブルにあるアイテムを変更するには:

1. 未リリースのアイテムを開きます。
2. [BOM] タブをクリックします。
3. BOM の拠点別の部分にある BOM 情報が必要な場合、[拠点] ドロップダウン リストから拠点を選択します。
4. 変更するアイテムを 1 つまたは複数選択します。
5. [編集] ボタンをクリックします。
これで [BOM] タブが編集モードになります。編集可能なフィールドの形式は、テキスト ボックス、リスト ボックスなどです。
6. 必要な変更を加えます。
入力が完了したら、[保存] をクリックします。

85 ページの「[プレリナリ アイテムの BOM テーブルにアイテムを追加する](#)」も参照してください。

アイテムを BOM テーブルから削除する

Java クライアントで BOM テーブルからアイテムを削除するには:

1. 現在表示されていない BOM の拠点別の部分からアイテムを削除するには、[拠点] ドロップダウン リストから拠点 (または [すべて]) を選択して、拠点別の行を表示します。
2. BOM テーブルから削除するアイテムを 1 つまたは複数選択します。
3. [BOM] タブで [削除] ボタン  をクリックします。
BOM テーブルからアイテムが削除されます。

注意 必ず [製造元] タブの [削除] ボタンを使用しています。[アイテム] ウィンドウの [削除] ボタンは使用しないでください。ウィンドウの [削除] ボタンを使用すると、アイテム全体が削除されます。

Web クライアントで BOM テーブルからアイテムを削除するには:

1. 現在表示されていない BOM の拠点別の部分からアイテムを削除するには、[拠点] ドロップダウン リストから拠点 (または [すべて]) を選択して、拠点別の行を表示します。
2. BOM テーブルから削除するアイテムを 1 つまたは複数選択します。
3. [BOM] タブの [削除] ボタンをクリックします。
BOM テーブルからアイテムが削除されます。

注意 必ず [製造元] タブの [削除] ボタンを使用しています。[アイテム] ウィンドウの [削除] ボタンは使用しないでください。ウィンドウの [削除] ボタンを使用すると、アイテム全体が削除されます。

85 ページの「[プレリナリ アイテムの BOM テーブルにアイテムを追加する](#)」も参照してください。

参照指示を使用する

参照指示は、コンポーネントを指すラベル システムとしてコンピュータ産業で広く使用されています。企業で参照指示を使用している場合、Agile BOM で参照指示を割り当て、編集することができます。

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [参照指示を表示する](#) (94 ページ)
- [参照指示を追加する](#) (96 ページ)
- [参照指示を削除する](#) (102 ページ)
- [参照指示を変更する](#) (103 ページ)

参照指示を表示する

参照指示は、展開表示 (R1, R2, R3) または縮小表示 (R1-R3) で [BOM] テーブルに表示されます。Agile 管理者は、Agile システムで使用する参照指示の表示方法を選択するために、次のシステム プリファレンスを設定します。

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [\[参照指示の範囲の展開縮小を許可する\] プリファレンス設定](#) (95 ページ)
- [Java クライアントで参照指示を表示する](#) (95 ページ)
- [Web クライアントで参照指示を表示する](#) (96 ページ)

[参照指示の範囲の展開縮小を許可する] プリファレンス設定

[参照指示の範囲の展開縮小を許可する] システム プリファレンスにより、[参照指示] フィールドで表示される参照指示の範囲は、展開または縮小のいずれかとなります。たとえば、参照指示 R1、R2、R3、R4、R5 の範囲は次のように表示されます。

- 展開: R1, R2, R3, R4, R5

各参照指示は、[参照指示] フィールドに表示されます。

- 縮小: R1-R5

3 つ、またはそれ以上の参照指示は、シーケンス (R1) の最初の参照指示で表され、その後に参照指示範囲のインジケータ文字 (- ハイフン文字) およびシーケンスの最後の参照指示 (R5) で表されます。ハイフン文字はデフォルトの参照指示文字ですが、Agile 管理者は適宜別の文字を起用することもできます。

参照指示に先行ゼロが含まれる場合、縮小モードでは、参照指示は先行ゼロの数に基づいてグループにまとめて表示されます。たとえば、次の 100 個の参照指示は、

R0001, R0002, R0003, R0004, ...R0099, R0100

縮小モードでは次のように表示されます。

R0001-R0009, R0010-R0099, R0100

96 ページの「[参照指示を追加する](#)」および 94 ページの「[参照指示を表示する](#)」も参照してください。

Java クライアントで参照指示を表示する

たくさんの参照指示を表示する場合、Java クライアントは 1 行の参照指示を表示し、次に省略記号 (...) を表示し、[参照指示] フィールドにその他の参照指示があることを示します。

[参照指示] フィールドにすべての参照指示を表示するには:

[BOM] テーブルで [参照指示] フィールド セルをクリックします。

ドロップダウン ウィンドウが表示されます。参照指示の全リストはこのウィンドウに表示されます。必要に応じて、ページにスクロール バーが表示されます。

システム プリファレンスの [展開/閉じる] 設定にかかわらず、このウィンドウでは参照指示が展開モードで表示されます。各参照指示はウィンドウに表示されます。

75 ページの「[部品構成表 \(BOM\)](#)」および 96 ページの「[参照指示を追加する](#)」も参照してください。

Web クライアントで参照指示を表示する

たくさんの参照指示を表示する場合、Web クライアントは [参照指示] セルに複数行の参照指示を表示し、セルのスクロール バーによりすべての参照指示を閲覧することができます。

[参照指示] フィールドにすべての参照指示を表示するには:

[BOM] テーブルの [参照指示] セルでスクロール バーを使用し、上下にスクロールして参照指示を表示します。また、[参照指示] 列の幅をサイズ変更することもできます。

参照指示は、[展開/閉じる] のシステム プリファレンス設定に基づき表示されます。

75 ページの「[部品構成表 \(BOM\)](#)」および 96 ページの「[参照指示を追加する](#)」も参照してください。

参照指示を追加する

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [参照指示入力形式のガイドライン](#) (97 ページ)
- [参照指示の先行ゼロ](#) (97 ページ)
- [複数セグメントの参照指示入力形式のガイドライン](#) (98 ページ)
- [参照指示フィールドを編集する](#) (101 ページ)
- [重複した参照指示と拠点](#) (101 ページ)

参照指示は個別に、または複数を一度に入力、削除、変更することができます。参照指示の数が少ない場合は、個別に入力することができます (たとえば R1, R2, R3)。多数の参照指示を入力する必要がある場合は、Rx-Ry というフォーマットを使用することができます。ここで x と y は任意の数字ですが、その差は 5000 以下でなければなりません (たとえば、R6-R2055)。

参照指示は BOM 行につき 5000 に制限されています。5000 以上の参照指示が必要な場合、別の見出し番号 (同じアイテム番号) で BOM に重複アイテムを追加し、追加参照指示を定義してください。

参照指示は、現在のアイテムへの編集が完了するまでは並べ替えられません。

[数量] フィールドの数字が参照指示の数字と一致しない場合、参照指示と数量が一致しないという内容のメッセージが表示されます。

数量が整数でない場合、[数量] フィールドの値はテキスト文字として扱われ、数量と参照指示の数字が一致するかどうかは検証されません。小数 (7.8 など) は整数でないため、テキスト エントリと見なされます。

各参照指示に指定できる長さは、最小 1 文字、最大 19 文字です。

参照指示の重複は、同じ固有の BOM 行では許可されません。同じ参照指示を 2 回入力すると (A1、A1 など)、1 つの参照指示 A1 として解決されます。

固有の BOM 行は、固有の見出し番号によって定義されます。BOM テーブルの複数の行に同じ見出し番号が付けられている場合、このような BOM テーブル行に対して [参照指示の重複] スマートルールは無視されます。ただし、複数の BOM 行で [見出し番号] が空白の場合、これらの行はすべて見出し番号が 0 であるものとして [参照指示の重複] スマートルールが検証されます。[参照指示の重複] スマートルールの詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。

102 ページの「[参照指示を削除する](#)」および 103 ページの「[参照指示を変更する](#)」も参照してください。

参照指示入力形式のガイドライン

参照指示を入力する際は、次のルールが適用されます。

- 範囲の入力 - 参照指示を入力するときは、システム プリファレンスの [参照指示の範囲の展開縮小を許可] 設定にかかわらず、常に範囲を使用することができます。プリファレンスが [展開] に設定されている場合、編集を保存した後、参照指示は展開形式で表示されます。例:

次を入力します。R1-R5

展開表示: R1, R2, R3, R4, R5

縮小表示: R1-R5

注意 参照指示フィールドを編集するときは、既存の参照指示は常に [展開] 形式で表示され、BOM テーブル行が編集モードになります。同じ編集セッションで、[参照指示] 編集フィールドから離れ、再度 [参照指示] 編集フィールドに戻った場合、前に入力した範囲は [展開] 形式で表示されます。

詳細は、95 ページの「[\[参照指示の範囲の展開縮小を許可する\] プリファレンス設定](#)」を参照してください。

- 異なる文字で始まる参照指示のグループを追加するには、各文字グループをカンマで区切ります。たとえば、A1、A2、A3、B4、B5、B6、B7、C8、C9、C10 という 10 個の指示を入力する場合、以下のように入力します。

A1-A3,B4-B7,C8-C10

94 ページの「[参照指示を使用する](#)」および 96 ページの「[参照指示を追加する](#)」も参照してください。

参照指示の先行ゼロ

個別の参照指示や参照指示の範囲を入力する際は、先行ゼロを使用することができます。たとえば、次のようになります。

R001, R002, R010

B001-B100

- 範囲内の各セグメントに含まれる数字の数は一致する必要がありません。例:

R0001-R100

- 範囲の各セグメントに含まれる数字の数が一致しない場合、最初のセグメントの数字の数がその範囲のすべての参照指示に使用されます。前述の例では、範囲は次のように保存されます。

R0001, R0002, R0003, R0004, ...R0099, R0100

編集モードを終了すると、参照指示は [参照指示の範囲の展開縮小を許可する] システム プリファレンス設定に基づいて表示されます。詳細は、95 ページの「[\[参照指示の範囲の展開縮小を許可する\] プリファレンス設定](#)」を参照してください。

94 ページの「[参照指示を使用する](#)」および 96 ページの「[参照指示を追加する](#)」も参照してください。

複数セグメントの参照指示入力形式のガイドライン

注意 これらのルールは、次のように接尾辞を使用する場合に適用されます。

参照指示は最大 3 つの部分に分割されます。

<接頭辞> <数字> <接尾辞>

- 接頭辞 - 範囲インジケータ (たとえば、デフォルトの範囲インジケータである [- ハイフン]) や区切り文字 (たとえば、参照指示リストを区切るために使用する [, カンマ]) として定義されていないすべての文字を使用できます。
- 数字 - 数字以外は使用できません (0~9)。
- 接尾辞 - 範囲インジケータや区切り文字として設計されていないすべての文字で、"0" (ゼロ) で始まらないものを使用できます。

最後の文字列のみが参照指示の<番号>として認められます。たとえば、次のようになります。

A10B30D

<接頭辞> = A10B <番号> = 30 <接尾辞> = D

前述の条件を満たしていることを前提とし、セグメント化された参照指示には、セグメントを分ける文字が含まれていることもあります。Agile 管理者がハイフン以外の文字を範囲インジケータとして選択した場合、ハイフンを使用することもできます。どの文字がセグメント化された参照指示で使えるのか、Agile 管理者にお問い合わせください。例:

A*10*B30D

<接頭辞> = A*10B* <番号> = 30 <接尾辞> = D

注意 Agile 管理者がハイフン以外の文字を範囲インジケータとして選択した場合、ハイフンを使用することもできます。どの文字がセグメント化された参照指示で使えるのか、Agile 管理者にお問い合わせください。

94 ページの「[参照指示を使用する](#)」および 96 ページの「[参照指示を追加する](#)」も参照してください。

複数セグメントの参照指示の範囲を入力する

範囲を入力する際、開始範囲指示と終了範囲指示の形式が評価され、形式に互換性があり、範囲が有効であることが確認されます。

複数セグメントの範囲を入力する場合、開始範囲指示と終了範囲指示における接頭辞と接尾辞はともに同じである必要があります。(詳細は、以下のステップ 3 を参照してください。)

数字セグメントは、97 ページの「[参照指示の先行ゼロ](#)」で説明されているように、先行ゼロを使用する場合があります。

Agile では、次のルールを使用して、複数セグメントの範囲の数字部分と入力された範囲の有効性を評価します。

1. Agile では、右から左にスキャンして開始範囲指示と終了範囲指示の両方における最初の整数を検索することで、数字セグメントを特定します。
2. 開始範囲の数字と終了範囲の数字を検証して、両者の形式が同じであることを確認します。
 - a. 両者の数字は、最後の指示と桁数 (文字数) が同じです。
 - b. 終了範囲指示の数字は開始範囲指示の数字よりも大きくなります。
3. Agile では、接頭辞と接尾辞が一致することを確認します。
 - a. 整数の右の文字列 (接尾辞) は、開始範囲指示と終了範囲指示で同じになります。
 - b. 整数の左の文字列 (接頭辞) は、開始範囲指示と終了範囲指示で同じになります。

オプションで、終了範囲指示の接頭辞を省略することができます。この場合、開始範囲指示と同じ接頭辞が使用されます。これにより、両方の接頭辞が同じでなくてはならないというルールをクリアします。次の 2 つの範囲は同じです。

A1B1C - A1B3C

<接頭辞> = A1 <番号> = 1 <接尾辞> = C

-

<接頭辞> = A1 <番号> = 3 <接尾辞> = C

A1B1C - 3C

<接頭辞> = A1 <番号> = 1 <接尾辞> = C

-

<接頭辞> = <開始範囲指示の接頭辞を使用> <番号> = 3 <接尾辞> = C












次の表に、有効な複数セグメントの参照指示の範囲を例示します。範囲インジケータはハイフン記号です。

入力された範囲:	保存された参照指示:
A1B*A3B	A1B*A3B
A*07*FG - A*10*FG	A*07*FG, A*08*FG, A*09*FG, A*10*FG
A*001*TT - A*3*TT	A*001*TT, A*002*TT, A*003*TT
A*07 - A*10	A*07, A*08, A*09, A*10
A*001 - A*3	A*001, A*002, A*003
A1B1 - A1B3	A1B1, A1B2, A1B3
A1B1C - A1B3C	A1B1C, A1B2C, A1B3C
A1B1C - 3C	A1B1C, A1B2C, A1B3C
A1B1CD - A1B3CD	A1B1CD, A1B2CD, A1B3CD
A1B1CD - 3CD	A1B1CD, A1B2CD, A1B3CD
A1B1C1 - A1B1C3	A1B1C1, A1B1C2, A1B1C3




94 ページの「[参照指示を使用する](#)」および 96 ページの「[参照指示を追加する](#)」も参照してください。










[BOM のレッドライン] タブのボタン

次の表では、Java クライアントに表示される [BOM のレッドライン] タブのボタンについて説明します。

ボタン	使用方法
	[BOM のレッドライン] - [BOM のレッドライン] ウィンドウに選択した行が表示され、編集可能なフィールドを変更できます。
   	<p>[追加] - [BOM のレッドライン] テーブルにアイテムまたは空白の行を追加します。選択したオプションに基づき、以下が表示されます。</p> <p> [作成] 追加する際にアイテムを作成します。</p> <p> [検索] 既存のアイテムを検索します。</p> <p> [既知の番号の入力] 既存のアイテムの既知の番号を 1 つ、または複数入力します。</p> <p> [空の行の追加] - [BOM のレッドライン] テーブルに空の行が追加され、この行を後から入力することができます。</p> <p>デフォルトでは、新しいアイテムまたは行の見出し番号は 0、数量は 1 です。</p> <p>85 ページの「プレリミナリ アイテムの BOM テーブルにアイテムを追加する」を参照してください。</p>
	[削除] - 選択した行を [BOM のレッドライン] テーブルから削除します。
	[レッドライン取り消し] - 選択した行からレッドラインを削除します。107 ページの「 [BOM のレッドライン] テーブルの変更を取り消す 」を参照してください。

次の表では、Web クライアントに表示される [BOM のレッドライン] タブのボタンについて説明します。


ボタン	使用方法
 編集	[編集] ボタンを使用すると、[編集] ページに選択した行が表示され、編集可能なフィールドを変更できます。
 削除	[削除] ボタンを使用すると、選択した行が [BOM のレッドライン] テーブルから削除されます。
 レッドライン取り消し	[レッドライン取り消し] ボタンを使用すると、レッドラインが選択した行から消去されます。107 ページの「 [BOM のレッドライン] テーブルの変更を取り消す 」を参照してください。

ボタン	使用方法
 追加	<p>[追加] - [BOM のレッドライン] テーブルにアイテムまたは空白の行を追加します。選択したオプションに基づき、以下が表示されます。</p> <p> [作成] 追加する際にアイテムを作成します。</p> <p> [検索] 既存のアイテムを検索します。</p> <p> [既知の番号の入力] 既存のアイテムの既知の番号を 1 つ、または複数入力します。</p> <p> [空の行の追加] - [BOM のレッドライン] テーブルに空の行が追加され、この行を後から入力することができます。</p> <p>デフォルトでは、新しいアイテムまたは行の見出し番号は 0、数量は 1 です。</p> <p>85 ページの「プレミナリ アイテムの BOM テーブルにアイテムを追加する」を参照してください。</p>
 追加	
 追加	
 追加	
 追加	

BOM のレッドライン作業の詳細は、104 ページの「[リリース済みアイテムの BOM をレッドラインする](#)」を参照してください。

参照指示フィールドを編集する

Java クライアントで参照指示を追加するには:

1. 以下の手順に従って変更するアイテムを選択します。複数のアイテムを選択できます。
2. [編集] ボタン  をクリックします。
[編集] ウィンドウが表示されます。
3. 変更する [参照指示] フィールドをクリックします。ドロップダウン編集ウィンドウが表示されます。
4. このウィンドウに参照指示を入力します。行に必要な変更を加えます。

注意 必要に応じて、[数量] フィールドの数値を変更します。

5. 完了したら、[OK] をクリックします。

Web クライアントで参照指示を追加するには:

1. 編集する 1 つまたは複数の行を選択します。
2. [編集] ページを表示するには、[BOM] タブの [編集] をクリックします。
3. [参照指示] フィールドに参照指示を入力します。行に必要な変更を加えます。

注意 必要に応じて、[数量] フィールドの数値を変更します。

4. 編集が完了したら、[保存] をクリックします。

94 ページの「[参照指示を使用する](#)」および 96 ページの「[参照指示を追加する](#)」も参照してください。

重複した参照指示と拠点

同じ参照指示は、[参照指示の重複] スマートルールの設定にかかわらず、BOM の拠点別の部分では複数で使用することができます。(『管理者ガイド』をご覧ください。)たとえば、参照指示 B22 は、BOM の「インド」部分の部品 123 に使用することができ、また、BOM の「サン ホゼ」部分の部品 556 にも使用することができます。

スマートルールが「不可」に設定されている場合、同じ参照指示を BOM の共通部分および拠点別部分で使用することはできません。たとえば、参照指示 C55 を BOM の共通部分の部品 333 と BOM の「Milpitas」部分の部品 678 で使用することはできません。また、同じ参照指示を BOM の同じ拠点別部分で 2 度以上使用することはできません。たとえば、参照指示 D46 を BOM の「ミルピタス」部分の部品 989 と、同じく BOM 「ミルピタス」部分の部品 765 で使用することはできません。


94 ページの「[参照指示を使用する](#)」および 96 ページの「[参照指示を追加する](#)」も参照してください。

参照指示を削除する

参照指示は個別に、または一度に複数を削除することができます。

注意 必ずキーボードの Delete キーを使用するようにして、[BOM] タブの [削除] ボタンは使用しないでください。BOM の [削除] ボタンをクリックすると、アイテム全体が BOM から削除されます。

Java クライアントで参照指示を削除するには:

1. 行をクリックして変更するアイテムを選択します。
2. [編集] ボタン  をクリックします。
[編集] ウィンドウが表示されます。
3. 変更する [参照指示] フィールドをクリックします。ドロップダウン編集ウィンドウが表示されます。
4. 参照指示を選択します。
1 つの参照指示を選択するには、Shift キーと矢印キーを使用します。隣接する複数の参照指示を選択するには、Ctrl + Shift キーと矢印キーを使用します。
5. キーボードの Delete キーを押します。
6. 編集が完了したら、[OK] をクリックします。

Web クライアントで参照指示を削除するには:

1. 編集する 1 つまたは複数の行を選択します。
2. [編集] ページを表示するには、[BOM] タブの [編集] をクリックします。
3. [参照指示] フィールドをクリックします。
4. 参照指示を選択します。
1 つの参照指示を選択するには、その参照指示をダブルクリックするか、Shift キーと矢印キーを使用します。隣接する複数の参照指示を選択するには、Ctrl + Shift キーと矢印キーを使用します。
5. キーボードの Delete キーを押します。
6. 編集が完了したら、[保存] をクリックします。


注意 必ずキーボードの Delete キーを使用するようにして、[BOM] タブの [削除] ボタンは使用しないでください。BOM の [削除] ボタンをクリックすると、アイテム全体が BOM から削除されます。

94 ページの「[参照指示を使用する](#)」および 96 ページの「[参照指示を追加する](#)」も参照してください。

参照指示を変更する

参照指示は個別に、または複数を一度に変更することができます。

Java クライアントで参照指示を変更するには:

1. 変更するアイテムを 1 つまたは複数選択します。
2. [編集] ボタン  をクリックします。
[BOM の編集] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. 変更する [参照指示] フィールドをクリックします。ドロップダウン編集ウィンドウが表示されます。
4. 参照指示を選択します。
 - 1 つの参照指示を選択するには、参照指示のリストにカーソルを置いて **Shift** キーと矢印キーを使用します。
 - 隣接する複数の参照指示を選択するには、**Ctrl + Shift** キーと矢印キーを使用します。
 - 参照指示を追加するには、ポインタを参照指示リストの最後に合わせます。

注意 参照指示を追加する場合に、カーソルはリストの任意の場所に置くことができます。リストは変更が保存された後で並び替えられるため参照指示をリストの特定の場所に挿入する必要はありません。

5. 変更した参照指示を入力します。
6. 完了したら、[OK] をクリックします。

Web クライアントで参照指示を変更するには:

1. 編集する 1 つまたは複数の行を選択します。
2. [編集] ページを表示するには、[BOM] タブの [編集] をクリックします。
3. [参照指示] フィールドをクリックします。
4. 参照指示を選択します。
 - 1 つの参照指示を選択するには、その参照指示をダブルクリックするか、**Shift** キーと矢印キーを使用します。
 - 隣接する複数の参照指示を選択するには、**Ctrl + Shift** キーと矢印キーを使用します。
 - 参照指示を追加するには、カーソルを参照指示リストの最後に合わせます。

注意 参照指示を追加する場合に、カーソルはリストの任意の場所に置くことができます。リストは変更が保存された後で並び替えられるため参照指示をリストの特定の場所に挿入する必要はありません。

5. 変更した参照指示を入力します。
 6. [保存] をクリックします。
- 94 ページの「[参照指示を使用する](#)」および 96 ページの「[参照指示を追加する](#)」も参照してください。

リリース済みアイテムの BOM をレッドラインする

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [BOM レッドラインの概要](#) (104 ページ)
- [\[BOM のレッドライン\] タブ](#) (104 ページ)
- [レッドライン BOM テーブルにアイテムを追加する](#) (105 ページ)
- [レッドライン BOM テーブルからアイテムを削除する](#) (106 ページ)
- [レッドライン BOM テーブルのアイテム情報を編集する](#) (106 ページ)
- [\[BOM のレッドライン\] テーブルの変更を取り消す](#) (107 ページ)

BOM レッドラインの概要

アイテムがリリースされているか、またはそれに対する保留中の変更がある場合、アイテムの変更を作成し、それをレッドラインして [BOM] テーブルを変更します。BOM のレッドラインには、ECO または SCO を使用します。

- アイテムの最新リリース済みリビジョンの BOM の共通部分または拠点別の部分を変更するには、ECO を使用します。ECO を使用するとアイテムの新しいリビジョンが作成されます。
- 最新リリース済みリビジョンの BOM の拠点別の部分を変更するには、SCO を使用します。SCO を使用した場合、アイテムの新しいリビジョンは作成されません。SCO の詳細は、122 ページの「[拠点毎変更](#)」を参照してください。

保留中の変更があるアイテムを [対象アイテム] タブに追加する場合、Agile PLM はそのアイテムに別の保留中の変更があることを示し、その変更を [対象アイテム] タブに追加するかどうかを確認するメッセージが表示されます。変更アイテムを追加することを選択した場合、[対象アイテム] テーブルからアイテムを開くことができます。保留中の変更を表示するには [変更] タブをクリックします。

注意 BOM テーブルのアイテムにディスカバリ権限がない場合、そのアイテムをレッドラインすることはできません。BOM テーブルのアイテムを検出できないアイテムで置き換えることはできません。

適切な権限があれば、レッドラインされた BOM を変更することができます。詳細は、以下のセクションを参照してください。

- [レッドライン BOM テーブルのアイテム情報を編集する](#) (106 ページ)
- [レッドライン BOM テーブルにアイテムを追加する](#) (105 ページ)

注意 [BOM のレッドライン] テーブルに存在しないアイテムを追加することができます。85 ページの「[プレリミナリ アイテムの BOM テーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

- [レッドライン BOM テーブルからアイテムを削除する](#) (106 ページ)

[BOM のレッドライン] タブ

ECO または SCO の [対象アイテム] タブから [BOM のレッドライン] タブを開きます。


Java クライアントでアイテムの [BOM のレッドライン] タブを開くには:


1. アイテムの BOM をレッドラインする ECO または SCO を開きます。
2. 変更の [対象アイテム] タブをクリックします。
3. [対象アイテム] テーブルで、レッドラインを表示または作成するアイテムの行をクリックします。
[対象アイテム] テーブルのレッドライン ウィンドウに [BOM のレッドライン] タブ、[製造元のレッドライン] タブ、[添付ファイルのレッドライン] タブ (ECO のみ) が表示され、それぞれにアイテムの BOM データ、製造元データ、添付ファイルが表示されます。

注意 使用中の Agile PLM システムで [製造元] タブを使用していない場合、またはドキュメントに [BOM] タブがない場合、それらの [レッドライン] タブはレッドライン ウィンドウに表示されません。

4. 表示されていない場合、[BOM のレッドライン] タブを表示します。

Web クライアントでアイテムの [BOM のレッドライン] タブを開くには:

1. アイテムの BOM をレッドラインする ECO または SCO を開きます。
2. 変更の [対象アイテム] タブをクリックします。
3. レッドラインを作成するアイテムの前にあるアイコン  をクリックします。

アイテムがすでにレッドラインされていると、アイコン  がアイテムの行の前に表示されます。既存のレッドラインを表示または変更するには、このアイコンをクリックします。

[レッドライン] ページに [BOM のレッドライン] タブ、[製造元のレッドライン] タブ、[添付ファイルのレッドライン] タブ (ECO のみ) が表示され、それぞれにアイテムの BOM データ、製造元データ、添付ファイルが表示されます。

注意 使用中の Agile PLM システムで [製造元] タブを使用していない場合、またはドキュメントに [BOM] タブがない場合、それらの [レッドライン] タブはレッドライン ページに表示されません。

4. 表示されていない場合は、[BOM のレッドライン] タブをクリックして表示させてください。
 - テーブルの行の各セルに赤いラインがある場合、これは BOM からアイテムが削除されたことを示します。
 - 数個のセルに表示される短い赤いラインは、アイテムは変更されたが、削除はされていないことを示します。たとえば、[数量] と [見出し番号] セルのみのレッドラインされている場合は、BOM アイテムの [数量] と [見出し番号] が変更され、ほかの値はそのままであることを意味します。
 - 変更されたセルには古い値の上に赤いラインが引かれ、新しい値が赤で表示されています。たとえば、[数量] セルで、レッドラインのある数字 7(7) と数字 10(10) は、古い数量は 7 で、新しい数量は 10であることを示します。

他の BOM レッドライン作業については、104 ページの「[リリース済みアイテムの BOM をレッドラインする](#)」を参照してください。

レッドライン BOM テーブルにアイテムを追加する

Java クライアントの [BOM のレッドライン] テーブルにアイテムを追加するには:

1. [追加] ドロップダウン メニューをクリックし、追加オプションの 1 つを選択します。[作成]、[既知の番号の入力]、[検索]、または [空の行の追加] のオプションがあります。
2. [BOM のレッドライン] テーブルにアイテムを追加することは、BOM テーブルにアイテムを追加するこ

と似ています。ダイアログの入力方法の詳細は、次をご覧ください。

- 92 ページの「[存在しないアイテムを BOM テーブルに追加する](#)」
- 86 ページの「[BOM テーブルに追加するアイテムの番号を入力する](#)」
- 86 ページの「[BOM テーブルに追加するアイテムの検索](#)」
- 88 ページの「[BOM テーブルに空の行を追加する](#)」および 90 ページの「[BOM テーブルの空の行を完成する](#)」

Web クライアントの [BOM のレッドライン] テーブルにアイテムを追加するには:

1. [追加] ドロップダウン メニューをクリックし、追加オプションの 1 つを選択します。[新規作成]、[検索]、[既知の番号の入力]、または [空の行] のオプションがあります。
2. [BOM のレッドライン] テーブルにアイテムを追加することは、BOM テーブルにアイテムを追加することと似ています。ダイアログの入力方法の詳細は、次をご覧ください。
 - 92 ページの「[存在しないアイテムを BOM テーブルに追加する](#)」
 - 86 ページの「[BOM テーブルに追加するアイテムの番号を入力する](#)」
 - 86 ページの「[BOM テーブルに追加するアイテムの検索](#)」
 - 88 ページの「[BOM テーブルに空の行を追加する](#)」および 90 ページの「[BOM テーブルの空の行を完成する](#)」


他の BOM レッドライン作業については、104 ページの「[リリース済みアイテムの BOM をレッドラインする](#)」を参照してください。

レッドライン BOM テーブルからアイテムを削除する


行およびアイテムを削除するには、[BOM のレッドライン] タブのボタンを使用します。

- 選択した行の文字色が赤い (その行が BOM でレッドラインされていることを示す) 場合は削除されます。
- 選択した行の文字色が黒い場合は、赤いラインが追加され、BOM からレッドライン削除されます。

Java クライアントの [BOM のレッドライン] テーブルからアイテムを削除するには

1. 削除する 1 つまたは複数の行を選択します。
2. [BOM のレッドライン] タブで [削除] ボタン  をクリックします。

Web クライアントの [BOM のレッドライン] テーブルからアイテムを削除するには:

1. 削除する 1 つまたは複数の行を選択します。
2. [BOM のレッドライン] タブで [削除] ボタン  をクリックします。

他の BOM レッドライン作業については、104 ページの「[リリース済みアイテムの BOM をレッドラインする](#)」を参照してください。

レッドライン BOM テーブルのアイテム情報を編集する

[BOM のレッドライン] タブで、Agile 管理者が有効にした編集可能なカスタム フィールドを含め、編集可能な [BOM] タブ フィールドを変更できます。編集可能な [BOM] フィールドは通常、親アイテム (レッドラインしているアイテム BOM) と子アイテム (BOM テーブルに表示されるアイテム) 間の関係を説明し定義します。たとえば、[数量]、[見出し番号]、および [参照指示] フィールドはアセンブリ (親アイテム) と BOM アイテム (子アイテム) 間の関係を定義します。

[BOM のレッドライン] タブの情報を変更するとき、Agile PLM は新しい情報を古い情報の下に、赤で表示します。

[BOM メモ] フィールドをレッドラインすると、テキストの追加、置換、または編集ができます。[BOM メモ] フィールドに新しいテキストとレッドラインされたテキストが表示されます。

[BOM のレッドライン] テーブルは、[拠点]、[アイテムの説明]、[アイテムのリビジョン] フィールドを変更できません。

[BOM のレッドライン] テーブルの参照指示のレッドラインは、BOM テーブルの参照指示の編集と同じです。詳細は、94 ページの「[参照指示を使用する](#)」を参照してください。新しい参照指示は赤で表示されます。削除された参照指示には赤い線が付けられています。

注意 [BOM のレッドライン] タブを使って、BOM テーブルに一覧表示されたアイテムの属性を変更することはできません。[BOM のレッドライン] タブを使って、編集不能な BOM テーブル フィールドを変更することはできません。


Agile 管理者が有効にしている場合、アイテム [BOM] タブは読み取りフィールドを含めることも可能で、それにより BOM テーブル、たとえば子アイテムの [ユーザー定義 1] フィールドに一覧表示されたアイテムから作成された追加情報を表示できます。読み取りフィールドには、子アイテムからの属性データの読み取り専用コピーが含まれます。[BOM] タブの読み取りフィールドは [BOM] タブで編集することも、[BOM のレッドライン] タブで編集することもできません。

BOM テーブルに一覧表示されたアイテムの属性を変更するには、それが保留中リビジョンがないプレリミナリ アイテムである場合、そのアイテムを開き [編集] 機能を使用して変更できます。26 ページの「[未リリース アイテムを編集する](#)」を参照してください。BOM テーブルに一覧表示されたアイテムがリリースされている場合、設計変更を使ってアイテムを変更する必要があります。27 ページの「[リリース済みアイテムを編集する](#)」を参照してください。

読み取りフィールドおよび [BOM] タブの編集可能なフィールドの詳細は、『Agile PLM 管理者ガイド』を参照してください。

割り当てられた役割と権限は、どの属性を編集許可されているかをも決定します。

Java クライアントの [BOM のレッドライン] テーブルのフィールドを編集するには:

1. 編集する行を選択して [編集] ボタン  をクリックします。
[BOM のレッドライン] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. 変更を行います。
3. 完了したら、[OK] をクリックします。


Web クライアントの [BOM のレッドライン] テーブルのフィールドを編集するには:

1. 変更する行を選択し、[編集] をクリックします。
2. 各フィールドの内側をクリックして必要な変更を行います。
3. [保存] をクリックします。

他の BOM レッドライン作業については、104 ページの「[リリース済みアイテムの BOM をレッドラインする](#)」を参照してください。

[BOM のレッドライン] テーブルの変更を取り消す

[レッドライン取り消し] ボタンを使用すると、[BOM のレッドライン] タブの変更を元に戻すことができます。赤いエレメントが選択した行から削除されます。

注意 Java クライアントでは、[レッドラインの取り消し] ボタンはこのアイコンで示されます。 

削除 (全体に赤いラインが引かれている行) を取り消すには:

1. 削除された行を選択します。複数の行を選択することができます。
2. [レッドラインの取り消し] をクリックします。

変更 (Agile PLM で短い赤いラインが引かれた変更された値) を取り消すには:

1. 変更された行を選択します。
2. [レッドラインの取り消し] をクリックします。


新しく追加されたアイテムを元に戻す ([BOM のレッドライン] テーブルから削除する) には:

1. 追加された行を選択します。
2. [レッドラインの取り消し] をクリックします。

他の BOM レッドライン作業については、104 ページの「[リリース済みアイテムの BOM をレッドラインする](#)」を参照してください。

BOM データを印刷する

Agile PLM システムから、オブジェクトのタブやその他のデータを印刷することができます。現在のタブまたはすべてのタブを印刷できます。添付ファイルは、ファイルが作成されたアプリケーションまたは Viewer から印刷します。

Java クライアントでは、オブジェクトを開いた状態で [印刷] ボタン  を使用します。

Web クライアントでは、オブジェクトを開いた状態で、[アクション] - [印刷] を選択します。

オブジェクトの印刷の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

Java クライアントでは、[BOM] タブのデータのみを印刷するには、[印刷] ボタン ドロップダウン メニューから [BOM] を選択します。印刷する BOM レベルや AML を含めるかどうかなど、[BOM の印刷オプション] ダイアログへの入力を完了します。

Web クライアントで、Web ブラウザから BOM 情報を印刷することができます。アイテムの [BOM] タブに移動して、[アクション] - [印刷] を選択します。現在の [BOM] タブまたはすべてのタブを印刷できます。BOM を印刷する際、印刷する BOM レベルや AML を含めるかどうかなど、必要な [BOM の印刷オプション] を選択します。

155 ページの「[製品レポートとプロセス レポートを使用する](#)」も参照してください。

変更

扱うトピックは次のとおりです。

■ 変更クラス	109
■ 変更オブジェクト	110
■ ワークフロー ルーティング受信トレイ	120
■ 変更と製造拠点	120
■ 変更とアイテムのリビジョンとの関係	123
■ 変更を作成する	124
■ 変更を修正する	124
■ Agile 変更管理ワークフロー	125
■ ECO、MCO、SCO によってレッドラインする	125
■ 変更を削除する	126
■ 変更のタブを印刷する	127
■ ルーティング管理者: 変更分析者とコンポーネント エンジニア	127

変更クラス







Agile PLM では、次のクラスまたはタイプの変更を使用できます。

- ECO (設計変更) などの変更クラス
- ECR (設計変更依頼) などの設計変更依頼クラス
- MCO (製造元変更) などの製造元依頼クラス
- SCO (拠点毎変更) などの拠点毎変更クラス
- 期限付き設計変更クラス
- 出荷停止クラス

変更サブクラス

各 Agile クラスには、少なくとも 1 つのデフォルト サブクラスがあります。Agile 管理者はこれらの変更クラスおよびサブクラスの一部、またはすべての使用を決定し、追加のサブクラスを新規に作成できます。たとえば、変更クラスに ECO、機械系 ECO、ソフトウェア系 ECO などを設定できます。

各変更サブクラスの目的を次の表に示します。対応する変更アイコンも一覧表示されています。これらのアイコンは [カバー ページ] の変更番号の横と、検索結果の各変更の横に表示されます。

変更タイプ	目的
ECO 	ECO (設計変更) は、特定のアイテムに対する変更が必要であり、その作業を行うことをユーザーに通知します。ECO は、BOM と AML の共通部分と拠点別の部分に影響します。また、ECO では新規アイテムをリリースしたり、BOM、製造元データ、添付ファイルをレッドラインしたりすることができます。126 ページの「 ECO によってレッドラインする 」を参照してください。
ECR 	ECR (設計変更依頼) はアイテムに対する変更を依頼する際に使用します。アイテムについて最新でないリリース済みのリビジョンに対する ECR を作成することができます。ECR にはレッドライン機能はありません。
MCO 	MCO (製造元変更) は特定のアイテムの製造データに変更が必要であるということをユーザーに通知します。MCO は、AML の共通部分と拠点別の部分に影響します。MCO ではアイテムの製造元データのレッドライン、新規アイテムのリリース、アイテムのライフサイクル フェーズの変更ができます。126 ページの「 MCO によってレッドラインする 」を参照してください。
SCO 	SCO (拠点毎変更) は、特定のアイテムに対する変更が必要であり、その作業を行うことをユーザーに通知します。SCO は、BOM と AML の拠点別の部分のみに影響し、共通部分には影響しません。アイテムについて最新でないリリース済みのリビジョンに対する SCO を作成することができます。SCO では、BOM や AML のレッドラインを行うことができます。
期限付き設計変更 	期限付き設計変更はある部品から別の部品に一定期間切り替える際に使用します。アイテムについて最新でないリリース済みのリビジョンに対する期限付き設計変更を作成することができます。期限付き設計変更にはレッドライン機能はありません。
出荷停止 	出荷停止はアイテムの出荷または使用を停止するようユーザーに警告します。最新でないリリース済みリビジョンのアイテムに対して出荷停止を作成できます。出荷停止にはレッドライン機能はありません。

変更のサブクラスを変更する方法の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』のワークフローの章を参照してください。

変更オブジェクト

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [\[カバー ページ\] タブ](#) (111 ページ)
- [\[対象アイテム\] タブ](#) (114 ページ)
- [\[ワークフロー\] タブ](#) (115 ページ)
- [\[関係\] タブ](#) (117 ページ)
- [\[添付ファイル\] タブ](#) (118 ページ)
- [\[履歴\] タブ](#) (118 ページ)

Java クライアントで変更を表示した場合、変更に関する情報がオブジェクト ウィンドウ内のタブに表示されます。

Web クライアントで変更を表示した場合、変更に関する情報が右側のウィンドウのタブに表示されます。

次の表に変更のタブとデフォルトのフィールドを示します。

Agile 管理者はタブやセクションを追加できます。これらは、デフォルトでは [ユーザー定義 1]、[ユーザー定義 2] という名前になっています。これらのタブやセクションには、管理者が定義したカスタム フィールドが含まれています。

タブ名	タブ情報の内容
カバー ページ	変更の一般情報、Agile 管理者が定義した固有のフィールド。
対象アイテム	変更の対象となるアイテム。ECO にはレッドラインされた BOM、AML、ファイル フォルダが含まれます。SCO には、レッドラインされた拠点の BOM と AML が含まれます。MCO には、レッドラインされた AML が含まれます。
ワークフロー	変更の承認者とオブザーバ、そのレビュー結果。
関係	[関係] タブを使用すると、現在の変更オブジェクトと他の Agile オブジェクト (送信可能なオブジェクトとライフサイクル オブジェクト) の間に関係と依存を作成できます。関係の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』を参照してください。
添付ファイル	添付ファイルと URL
履歴	変更に対して実行されたすべてのアクション

[カバー ページ] タブ

変更の [カバー ページ] タブには、従来の一般的な ECO フォームに記載されていたような情報が表示されます。フィールドには Agile PLM によって入力されるものと、ユーザーが入力するものがあります。

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [\[カバー ページ\] タブのフィールド](#) (112 ページ)
- [\[カバー ページ\] タブのステータス](#) (113 ページ)

Java クライアントで [カバー ページ] タブのフィールドを編集するには:

フィールドを変更し、[保存] をクリックします。

Web クライアントで [カバー ページ] タブのフィールドを編集するには:

[編集] ボタンをクリックし、フィールドを変更し、[保存] ボタンをクリックします。

フィールドは、編集できないことがあります。次の 3 つの場合には、フィールドの編集はできません。

- 変更がすでにリリースされている。
- フィールドを変更するための十分な権限がない。
- [ステータス]、[リリース日]、[最終完成日] などのワークフロー ステータスで変更が実施される過程で、フィールドへの自動入力が行われる。

変更オブジェクトのすべてのタブの詳細は、110 ページの「[変更オブジェクト](#)」を参照してください。

[カバー ページ] タブのフィールド

次の表に [カバー ページ] タブのフィールドと表示される情報をまとめます。[カバー ページ] タブのフィールドは、変更のタイプによって異なります。

Web クライアントでは、[カバー ページ] に [ユーザー定義 1] と [ユーザー定義 2] と呼ばれるセクションをデフォルトで追加することができます。Java クライアントでは、これらは別々のタブとなります。Agile 管理者は、これらのセクションが有効かどうか、何と呼ばれるかを決定します。

フィールド	入力方法	目次
番号	作成時に自動入力	変更の作成時に割り当てられる番号
ステータス	作成時に自動入力、変更がワークフローを通過する間に更新	変更のステータス。113 ページの「 [カバー ページ] タブのステータス 」を参照してください。ワークフローが選択されていない場合、このフィールドの値は「未割当」です。
変更タイプ	作成時に自動入力	変更の作成時に選択した変更のタイプ。
変更カテゴリ	通常は手動入力 (デフォルトの使用が可能)。	Agile 管理者により定義されたカテゴリ (ドロップダウン リストから選択可能)。
変更の説明	通常は手動入力 (デフォルトの使用が可能)。	最大バイト数は Agile 管理者が設定します。スペースと改行 (2 バイト) を含め、1023 バイトまでの入力が可能です。
変更の理由	通常は手動入力 (デフォルトの使用が可能)。	最大バイト数は Agile 管理者が設定します。スペースと改行 (2 バイト) を含め、1023 バイトまでの入力が可能です。
理由コード	通常は手動入力 (デフォルトの使用が可能)。	Agile 管理者により定義されたコード (ドロップダウン リストから選択可能)。
ワークフロー	変更が未割当ステータスから次のステータスに切り替えられた時、自動入力 (1 つのワークフローのみが変更に応用されている場合) 変更複数のワークフローが適用されている場合は、手動でワークフローを選択する。ワークフローは、変更のステータス タイプが「保留」であるかぎりいつでも変更が可能。 [ワークフロー] ドロップダウン リストで空白のフィールドを選択すると、変更は「未割当」のステータスに切り替わる。	この変更を、変更管理プロセスで処理をするために使用するワークフローの名前

フィールド	入力方法	目次
[変更分析者] または [コンポーネント エンジニア]	ワークフローによる自動入力が可能。変更分析者またはコンポーネント エンジニアのアドレス帳から手動での選択も可能。	デフォルトのルーティング マネージャ。 デフォルトの変更分析者またはコンポーネント エンジニアに通知を送るようにワークフローが定義されている場合、このフィールドのユーザーが変更に関する通知を受信します。このフィールドを空白のままにすると、リストのすべての変更分析者に通知が送信されます。ワークフローの通知定義が空白の場合、通知は送信されません。
作成者	通常は作成時に自動入力 (Agile 管理者が設定するデフォルト値)	変更を作成したユーザー (ドロップダウン リストからの選択が可能)
作成日	通常は作成時に自動入力	変更が作成された日付
リリース日	リリース時に自動入力	変更がリリースされた日付
最終完了日	変更のステータスが「完了」タイプに移行した際に自動入力	変更のステータスが「完了」タイプに移行した日付。
製品ライン	通常は手動入力 (デフォルトの使用が可能)。	Agile 管理者により定義された製品ライン (ドロップダウン リストから選択可能)。
開始日	手動	期限付き設計変更のみ。期限付き設計変更が有効となる日付。
終了日	手動	期限付き設計変更のみ。期限付き設計変更が有効でなくなる日。
再開日	手動	出荷停止のみ。出荷停止が有効でなくなり、会社がアイテムの出荷を再開できる日。

期限付き設計変更の [カバー ページ] タブには、[開始日] フィールドと [終了日] フィールドがあります。出荷停止の [カバー ページ] タブには、[再開日] フィールドという独自のフィールドがあります。

MCO の [カバー ページ] タブには、[変更分析者] フィールドのかわりに [コンポーネント エンジニア] フィールドがあります。

変更オブジェクトのすべてのタブの詳細は、110 ページの「[変更オブジェクト](#)」を参照してください。

[カバー ページ] タブのステータス

変更の右上にあるラベルは、変更のステータスを示します。各ワークフローのステータス名は、Agile 管理者によって設定されます。

注意 企業のワークフローやステータスは、Agile 管理者によって作成されカスタマイズされている場合があります。次の表に、Agile のデフォルトのワークフロー ステータスを 12 種類紹介します。

ステータス名	ステータスの定義
未割当 (「ステータス タイプなし」)	この変更割り当てられているワークフローはありません。作成者は変更を作成中である可能性があります。[ワークフロー] タブにステータスは表示されません。
保留中 (「保留中」ステータス タイプ)	作成者は変更を作成中である可能性があります。この変更はまだ承認されていません (作成中の可能性もあります)。
提出済み (「提出済み」ステータス タイプ)	この変更は、変更分析者の間で送信され、レビューおよび分析されています。
CCB (「レビュー」ステータス タイプ)	この変更は、承認を受けるために変更管理委員会 (CCB) のメンバーに送付されています。
リリース済み (「リリース済み」ステータス タイプ)	この変更は CCB メンバーによってサインオフされ、リリースされました。
終了 (「完了」ステータス タイプ)	この ECR は、承認および実施済みです。
期限切れ (「完了」ステータス タイプ)	この期限付き設計変更は期限を過ぎています。
実施 (「完了」ステータス タイプ)	この ECO または SCO は新しい図面に導入されたか、組み込まれています。
中断 (「中断」ステータス タイプ)	この変更は、コンポーネント エンジニアが情報を収集している間、中断されています。
再開 (「完了」ステータス タイプ)	この変更によって出荷停止状態が解除されます。対象アイテムの製造を再開できます。
キャンセル (「キャンセル」ステータス タイプ)	この変更は根本的な欠陥があったか、数人から却下されたため、キャンセルされました。
検収済み (「完了」ステータス タイプ)	この製造元部品は外部検査に合格したか、品質保証を受けています。この部品は設計ドキュメントまたは仕様について検証済みです (MCO のみ)。

[ワークフロー] タブには、変更が通過してきたすべてのステータスと、変更管理プロセスが完了するまでの残りのステータスが表示されます。[ワークフロー] タブを参照してください。

適切な権限がある場合、[ワークフロー] タブまたは [次のステータス] ボタンで、変更を別のステータスに切り替えることができます。詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』のワークフローに関する章をご覧ください。

変更オブジェクトのすべてのタブの詳細は、110 ページの「[変更オブジェクト](#)」を参照してください。

[対象アイテム] タブ

[対象アイテム] タブには、変更の影響を受けるアイテムのリストが表示されます。十分な権限を持つユーザーは、[対象アイテム] タブに入力し、BOM、製造データ、添付ファイルのレッドラインに使用できます。

注意 アイテムのディスカバリ権限および読み取り権限がない場合、アイテムは [対象アイテム] タブには表示されません。表示されないアイテムの数を示すメッセージが表示されます。

[対象アイテム] タブのアイテムを開くには:

- **Java** クライアントで、対象アイテム行をダブルクリックします。アイテムが開き、[タイトル ブロック] タブが手前に表示されます。
または、アイテム行を右クリックして [開く] を選択し、タブを選択します。アイテムが開き、選択したタブが最前面に表示されます。
- **Web** クライアントで、アイテム番号をクリックします。アイテムが開き、[タイトル ブロック] タブが手前に表示されます。

変更に関連するリビジョンは、[リビジョン] のドロップダウン メニューで選択します。

変更オブジェクトのすべてのタブの詳細は、110 ページの「[変更オブジェクト](#)」を参照してください。

[対象アイテム] タブの取り扱いの詳細は、129 ページの「[変更の対象アイテム](#)」を参照してください。

[ワークフロー] タブ

[ワークフロー] タブには、変更が通過してきたすべてのステータスと、完了するまでの残りのステータスが表示されます。また、各承認プロセスで行われた承認と却下もすべて表示されます。

たとえば、変更が作成者に戻され、修正の後で 2 度目の承認プロセスに再提出されたとすると、[ワークフロー] タブには、変更に対して最初の承認プロセスと 2 度目の承認プロセスで行われた承認や却下が表示されます。

変更がワークフローのどの段階を進んでいるかによって、[ワークフロー] タブには最大で次の 3 つのセクションが表示されます。

- [\[ワークフローの概要\] セクション](#) (115 ページ)
- [\[要約\] テーブル](#) (116 ページ)
- [\[サインオフ履歴\] テーブル](#) (116 ページ)

変更オブジェクトのすべてのタブの詳細は、110 ページの「[変更オブジェクト](#)」を参照してください。

117 ページの「[ユーザー アクション タイムスタンプ](#)」も参照してください。

[ワークフローの概要] セクション

[ワークフロー] タブの上部のセクション (ワークフローが割り当てられているすべての変更に対して表示可能) には、割り当てられているワークフローの名前およびワークフローのフロー チャートが、変更の現在のステータスがハイライトされた状態で表示されます。

フロー チャートの一部のステータスはリンクになっています。リンクには下線が引かれています。変更のステータスをこれらのいずれかに切り替えるには、そのリンクをクリックして [通知] フィールドにデータを入力します。この操作を行うには適切な権限が必要です。

Java クライアントでは、黄色の背景色のステータスが現在のステータスを示します。

Web クライアントでは、オレンジの背景色のステータスが現在のステータスを示します。

115 ページの「[\[ワークフロー\] タブ](#)」、117 ページの「[ユーザー アクション タイムスタンプ](#)」も参照してください。

[要約] テーブル

[要約] テーブル ([レビュー] または [リリース] ステータスの変更で表示可能) には、現在のステータスのサインオフ情報を示すリストが表示されます。このテーブルにはデフォルトで次の欄が表示されます。Agile 管理者によってテーブルが変更されている場合があります。

- [アクション]- レビューにより実行されたアクション。
- [必須]- レビューが必須レビュー (承認者) かそうでないか (オブザーバ) を示します。
- [レビュー]- 変更をレビューしたユーザー。これは承認者またはオブザーバのいずれかで、個々のユーザー、またはユーザー グループを指定できます。
- [サインオフ ユーザー]- 変更を実際に承認または却下したユーザーの名前。
- [ローカル クライアント タイム]- アクションの日時。
- [サインオフ コメント]- レビュー (承認者とオブザーバ) によるコメント。





115 ページの「[ワークフロー タブ](#)」と 117 ページの「[ユーザー アクション タイムスタンプ](#)」も参照してください。



[サインオフ履歴] テーブル

[ワークフロー] タブの [履歴] テーブルには、変更に関する過去のワークフローとサインオフの情報が表示されます。このテーブルにはデフォルトで次の欄が表示されます。Agile 管理者によってテーブルが変更されている場合があります。

- [ワークフロー]- 変更が使用するワークフローの名前。
- [ワークフロー ステータス]- ステータスの名前。
- [アクション]- レビューにより実行されたアクション。
- [必須]- レビューが必須レビュー (承認者) かそうでないか (オブザーバ) を示します。
- [レビュー]- 変更をレビューしたユーザー。これは承認者またはオブザーバのいずれかで、個々のユーザー、またはユーザー グループを指定できます。
- [サインオフ ユーザー]- 変更を実際に承認または却下したユーザーの名前。
- [ステータス変更者]- ステータスを切り替えたユーザーの名前。
- [ローカル クライアント タイム]- アクションの日時。
- [サインオフ コメント]- レビュー (承認者とオブザーバ) によるコメント。

[承認者/オブザーバの追加] アクションおよび [承認者/オブザーバの削除] アクションは、各ワークフローの [アドホック承認者/オブザーバ] プロパティの設定で管理します。さらに、承認者およびオブザーバを追加または削除するための適切な権限が必要です。Agile 管理者から適切な権限を与えられていない場合、[ワークフロー] タブのボタンは使用できず、アクションは実行できません。

Java クライアントでは、[承認者/オブザーバの追加]  ボタンと [承認者/オブザーバの削除]  ボタンは [ワークフロー] タブの左上に表示されます。承認者やオブザーバを追加するには、ダイアログで  をクリックして必要なワークフロー ステータスを選択します。承認者やオブザーバを削除するには、ダイアログで  をクリックして必要なステータスを選択します。

Web クライアントでは、[承認者/オブザーバの追加]  ボタンと [承認者/オブザーバの削除]  ボタンは [ワークフロー] タブの左上に表示されます。実行するアクションのボタンをクリックし、ウィザードの手順に従います。

115 ページの「[\[ワークフロー\] タブ](#)」と 117 ページの「[ユーザー アクション タイムスタンプ](#)」も参照してください。

ユーザー アクション タイムスタンプ

Agile PLM では、変更に対して実行されたアクションの日付と時刻が 2 種類の方法で記録されます。

- [ローカル クライアント タイム]- タイム スタンプを表示しているユーザーのローカル クライアント コンピュータに表示されている日付と時刻です。ローカル クライアント タイムはタイム スタンプ表示のデフォルトの方法です。

たとえば、ある承認者がニューヨーク (東部標準時) で正午に変更を承認した場合、別のユーザーがカリフォルニアでその変更の [ワークフロー] タブを表示すると、変更が承認された時刻は午前 9 時 (太平洋標準時) と表示されます。

- [ユーザー アクション タイム]- アクションが実行されたコンピュータの日付と時刻です。[ユーザー アクション タイム] はオプションです。

ある承認者がニューヨークで正午に変更を承認した場合、別のユーザーがカリフォルニアでその変更の [ワークフロー] タブを表示すると以下のように表示されます。

- [ローカル クライアント タイム] のカラムでは、承認者は午前 9 時 (太平洋標準時) に変更を承認しています。
 - [ユーザー アクション タイム] のカラムでは、承認者は正午 (東部標準時) に変更を承認しています。
- 承認者がその変更の [ワークフロー] タブを表示すると、以下のように表示されます。
- [ローカル クライアント タイム] のカラムでは、承認者は正午 (東部標準時) に変更を承認しています。
 - [ユーザー アクション タイム] のカラムでは、承認者は正午 (東部標準時) に変更を承認しています。

[ローカル クライアント タイム] は、[ワークフロー] タブおよび [履歴] タブに常に表示されます。[ユーザー アクション タイム] はオプションです。Agile 管理者が指定している場合のみ、変更の [ワークフロー] タブと Agile オブジェクトの [履歴] タブに表示されます。

115 ページの「[\[ワークフロー\] タブ](#)」も参照してください。

[関係] タブ

変更オブジェクトの [関係] タブを使用すると、変更オブジェクトと他の送信可能なオブジェクトおよびライフサイクル オブジェクトの間に関係と依存を作成できます。[ルール] 列には、他のオブジェクトのワークフロー ステータスまたはライフサイクル フェーズが現在の変更オブジェクトのワークフロー進行にどのように影響するか、または現在の変更オブジェクトのワークフロー進行がオブジェクトのワークフロー進行にどのように影響するかを定義するルールが表示されます。

関係にルールが指定されていない場合、現在の変更オブジェクトまたは関係オブジェクトのワークフロー進行やライフサイクル ステータスが制限されたり、影響を受けたりすることはありません。ルールが指定されていない関係を使用すると、現在の変更オブジェクトと関連はあるが、依存関係はない変更オブジェクトを記録できます。

関係およびこのタブの使用の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』のビジネス オブジェクトの使用に関する章をご覧ください。

変更オブジェクトのすべてのタブの詳細は、110 ページの「[変更オブジェクト](#)」を参照してください。

[添付ファイル] タブ

[添付ファイル] タブはすべてのオブジェクトにあります。[添付ファイル] タブでは、ファイル フォルダ オブジェクト内のファイルと URL を参照することによって、ファイルと URL をオブジェクトに添付できます。[添付ファイル] タブでは、適切な権限があれば、添付ファイルの表示、コピー (取り出し)、または印刷が可能です。

添付された個々のファイルは、ファイル フォルダ オブジェクトに保存され、複数のオブジェクトに添付することができます。ファイル フォルダ オブジェクトのファイルには、図面、スキャンした画像、ドキュメント、表示できないファイル、圧縮ファイルなどがあります。

フォルダ オブジェクトの使用、および [添付ファイル] タブの詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

注意 アイテムに関連するファイルは、そのアイテムに影響を与える変更の [添付ファイル] タブではなく、そのアイテムの [添付ファイル] タブで参照してください。

変更オブジェクトのすべてのタブの詳細は、110 ページの「[変更オブジェクト](#)」を参照してください。

[履歴] タブ

[履歴] タブには、そのオブジェクトに対して実行されたアクションの要約 (アクションの説明、アクションを実行したユーザー、日付、その他) が表示されます。

注意 オブジェクトの読み取り権限がない場合、[履歴] タブのフィールドの内容を表示することはできません。177 ページの「[ディスカバリ権限と読み取り権限の詳細について](#)」を参照してください。

[履歴] タブには、変更に対して実行されたアクションの要約が表示されます。以下はその内容です。

- 変更の現在のステータス
- 変更の次のステータス
- アクションの説明
- アクションを実行したユーザー
- アクションを実行した日時 (ローカル クライアント タイム)
- ユーザー アクション タイム (オプション。117 ページの「[ユーザー アクション タイムスタンプ](#)」を参照)
- アクションの対象オブジェクト
- 対象アイテムのコンポーネントの見出し番号
- アクションの詳細
- ユーザーからのコメント
- 通知ユーザー

変更のステータスが「未割当」または「保留中」の場合、次のアクションが [履歴] タブに記録されます。

- 変更の作成
- サブクラスの変更
- [関係] タブおよび [添付ファイル] タブでのアクション

注意 [保留中] ステータスに留まっている変更へのアクションは、[関係] タブおよび [添付ファイル] タブへの変更についてのみ記録されます。[履歴] タブへの記録には、変更は [提出済み] や [レビュー] などの [保留中] 以外のステータスである必要があります。

変更が [保留中] ステータス以外のステータスになると、次のタイプのアクションが記録されます。

- [対象アイテム] タブでのアイテムの変更または削除
- [対象アイテム] タブの [レッドライン] タブにおけるアイテムのレッドライン
- 変更の [添付ファイル] タブでの添付ファイルの追加、取り出し、チェックイン、またはチェックアウト
- 承認者の追加または削除
- 承認および却下
- 催促の通知
- エスカレーションの通知
- タブでのフィールドの変更
- ステータスの変更
- 自動昇格の失敗
- ステータスの検索条件を満たさないステータス変更の試行
- サブクラス変更
- コメント
- 送信
- 印刷
- 確認通知
- 名前を付けて保存
- 共有

変更が「保留中」タイプのステータスを終了した後に変更の日付フィールドを変更すると、[履歴] タブの [詳細] 欄には、Agile アプリケーション サーバがインストールされているコンピュータのローカルの日付と時刻が記録されます。Agile PLM では、たとえば 2003/08/02 15:00:23 (GMT - 07:00) (yyyy/MM/dd) (グリニッジ標準時) のような形式を使用します。


[履歴] タブと [ワークフロー] タブのコメントは異なります。[ワークフロー] タブの [コメント] には、オンライン承認プロセスでの承認者とオブザーバからのコメントが入力されます。[履歴] タブの [コメント] には、適切な権限のあるユーザーはいつでもコメントを入力できます。

変更オブジェクトのすべてのタブの詳細は、110 ページの「[変更オブジェクト](#)」を参照してください。

ワークフロー ルーティング受信トレイ

Agile ワークフロー ルーティング受信トレイで、提出された Agile の変更を表示することができます。

Java クライアントでワークフロー ルーティング受信トレイを表示するには:

メニュー バーで、[受信トレイ] ボタン  の下の小さな下矢印をクリックし、[ワークフロー ルーティング] を選択します。

Web クライアントでワークフロー ルーティング受信トレイを表示するには:

メニュー バーで、[ホーム] ボタンをクリックします (または、[受信トレイ] ボタンが表示されている場合はこれをクリックします)。ユーザー プロファイルの [推奨される受信トレイ ビュー] の設定により、[ワークフロー ルーティング] ページが表示されるか、または [受信トレイ] の下の [ワークフロー ルーティング] をクリックしてこれを表示します。

また、ナビゲーション ウィンドウのショートカット セクションから受信トレイを開くこともできます。

127 ページの「[変更分析者とコンポーネント エンジニア](#)」も参照してください。

送信可能なオブジェクトの使用の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』を参照してください。

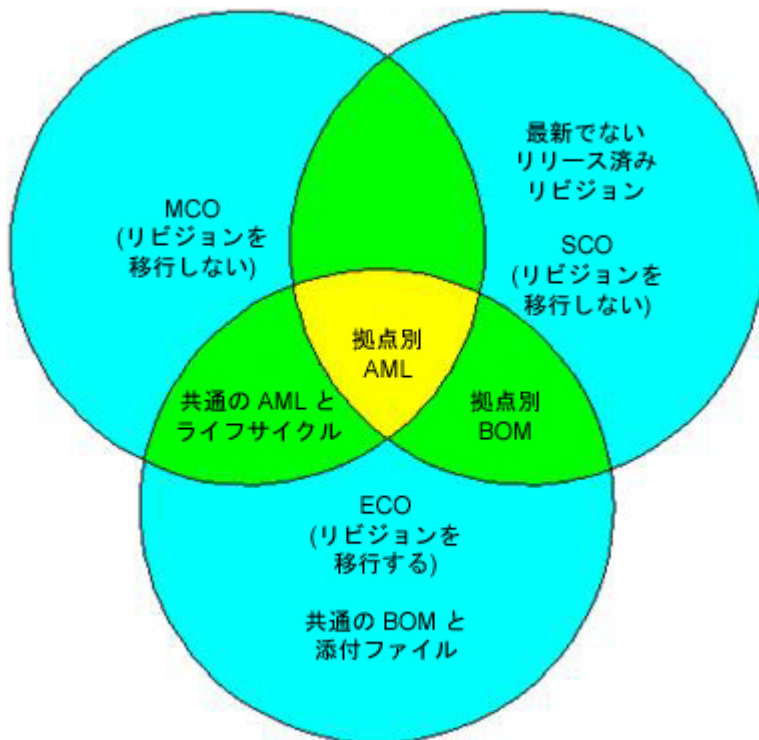
変更と製造拠点

変更は拠点別の情報に影響します。変更に対象アイテムを追加する前に、変更を適用する製造拠点を指定してください。拠点に関する一般情報は、35 ページの「[拠点および分散型製造](#)」を参照してください。

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [変更によって影響を受ける拠点の情報](#) (121 ページ)
- [拠点と ECO](#) (121 ページ)
- [拠点と MCO](#) (122 ページ)
- [拠点毎変更](#) (122 ページ)

[対象アイテム] タブの取り扱いの詳細は、129 ページの「[変更の対象アイテム](#)」を参照してください。



変更によって影響を受ける拠点の情報

変更管理の影響を受けるデータは次のとおりです。

- BOM の拠点別の部分
- AML の拠点別の部分
- 対応策
- 有効日
- アイテムのリリース後にリリースされた拠点の関連付け

前述のデータはすべてリリースされる前に直接編集できます。データがリリースされた後では、BOM データと AML データは、ECO、MCO、または SCO を通じてレッドラインできます。新しいアイテムのリビジョンは必要ありませんが、その変更が ECO を使用して行われている場合は作成されます。

120 ページの「[変更と製造拠点](#)」も参照してください。

拠点と ECO

ECO は拠点に関連する次のアクションの実行に使用できます。

- アイテムの共通または拠点別の BOM を変更します。
- アイテムの共通または拠点別の AML を変更します。

- 拠点別対応策を変更します。
- 拠点別アイテムの有効日と破棄日を変更します。

120 ページの「[変更と製造拠点](#)」も参照してください。

拠点と MCO

MCO は、アイテムの共通または拠点別の AML の変更、またはアイテムのライフサイクル フェーズの変更に使用できます。

MCO はすべての拠点で使用できます。たとえば、拠点別の情報について、矛盾する 2 つの MCO があると仮定します。最初の MCO がリリースされた時、保留中の MCO は新しくリリースされた MCO に対してリベースされます。同様に、保留中 MCO に保留中 MCO または SCO について、矛盾する拠点別レッドラインがある場合、ECO または SCO がリリースされると、保留中 MCO は新たにリリースされた ECO または SCO にリベースされます。

120 ページの「[変更と製造拠点](#)」も参照してください。

拠点毎変更

SCO (拠点毎変更) を使用すると、親アイテムのリビジョンを変更せずに、アイテムの拠点別の変更を行うことができます。

また SCO では、有効日と破棄日、アイテムの以前のリビジョンの対応策を拠点ごとに変更することができます。これにより、有効日の変更の提案、レビュー、承認のための明確なプロセスを使用して、有効日の変更された理由を記録することが可能になります。

注意 SCO を使用して、アイテムの以前のリビジョンに対する変更をレッドラインすることはできません。すべてのレッドライン変更は、アイテムの最新のリリース済みリビジョンに対して行う必要があります。

SCO を使って、次のことを実行できます。

- 最新のリビジョンに対するアイテムの拠点別 BOM の変更。
- 最新のリビジョンに対するアイテムの拠点別 AML の変更。
- 拠点別対応策の変更。この変更には最新のリビジョンと最新でないリビジョンが含まれます。
- 拠点別アイテムの有効日と破棄日を変更します。この変更には最新のリビジョンと最新でないリビジョンが含まれます。

SCO で複数の拠点を対象にすることはできますが、[対象アイテム] タブの各行は 1 つの拠点のみに適用されます。アイテムが重複することはできません。たとえば、拠点 A にアイテム P001 を追加する場合、拠点 B に P001 を追加することはできません。BOM または AML の拠点共通の部分の変更に SCO を使用することはできません。また、ECO によってリリースされていないアイテムの BOM の変更に SCO を使用することはできません。つまり、SCO はプレリミナリ BOM の変更には使用できません。

120 ページの「[変更と製造拠点](#)」も参照してください。

拠点別の有効日と破棄日

SCO を使用して、アイテムの新しいリビジョンを作成せずに、アイテムの有効日と破棄日を拠点別に追加することができます。(新しいリビジョンを作成する場合は、ECO を使用します。)

アイテムが、SCO の [対象アイテム] タブに追加される場合、システムは各 BOM アイテムが [拠点] タブに拠点を一覧表示しているかどうかを確認します。Agile スマートルール設定によっては、拠点が一覧表示されていない場合、SCO はリリースされないことがあり、SCO をリリースするためには拠点をアイテムに追加する必要があります。

注意 SCO をリリースすると、アイテムと BOM の情報が拠点の ERP システムに送信されます。ERP システムによっては、SCO が最新リビジョン以外のアイテムのリビジョンを対象とする場合、ERP システムに異なった現在のリビジョンが作成される場合があります。

SCO の [対象アイテム] タブにアイテムを追加するとき、ECO リリース済みアイテム リビジョンを選択します。SCO [対象アイテム] タブの対応策および有効日と破棄日は、初めはそのリビジョンの最新の有効日および破棄日と同じになるように設定されています。(最新の有効日および破棄日は、ECO リリース済みリビジョンまたは ECO リリース済みリビジョンに基づいて以前リリースされた SCO から取り込まれます。)その後、拠点別対応策および拠点別有効日と破棄日を指定できます。拠点別対応策および ECO リリース済みアイテム リビジョンの有効日と破棄日が SCO [対象アイテム] タブにアイテムを追加した後に変更される場合は、これらのフィールドは SCO [対象アイテム] タブで自動的に更新されません。かわりに、拠点別対応策および有効日と破棄日は SCO にそのまま残ります。

注意 異なる ECO リリース済みアイテム リビジョンを選択することで SCO [対象アイテム] タブをリベースする場合、SCO [対象アイテム] タブ行の対応策および有効日と破棄日もリベースされ、新たに選択した ECO リリース済みリビジョンと同じになるように設定されます。

120 ページの「[変更と製造拠点](#)」と 122 ページの「[拠点毎変更](#)」も参照してください。

変更とアイテムのリビジョンとの関係

このセクションでは、アイテムのどのリビジョンが変更による影響を受けるかについて Agile PLM が決定に使用するルールを説明し、追加のガイドラインを提供します。アイテム リビジョンの詳細は、12 ページの「[アイテムのリビジョンを処理する](#)」を参照してください。

ECO のリビジョンのみのアイテム

- 保留中またはリリース済みの SCO は、リリース済み ECO によって作成されたリビジョンのみに基づきます。
- その ECO に基づく保留中またはリリース済みの SCO がある場合、ECO は未リリースにできません。

ECO リビジョンのあるアイテムに関する MCO



- 新規 ECO を作成し、リリースした際に、そのアイテムの以前のリビジョンに対して保留中の MCO が存在する場合、その MCO は新しい ECO のリビジョンに基づいて変更され、新しいリビジョンからの内容を継承します。
- その MCO に基づくリリース済みの SCO がある場合、MCO は未リリースにできません。


初期 MCO リビジョンのみのアイテム

アイテムが ECO によりリリースされる前に、アイテムに対して MCO がリリースされると (初期 MCO リビジョン、または空白リビジョンとも呼ばれます)、保留中の SCO は空白リビジョンに基づくことができません。

変更を作成する

変更を作成するには、適切な権限が必要です。

Java クライアントでは、[ファイル]-[新規作成]-[変更] コマンド、または [新規オブジェクト] ボタン  を使って変更を作成することができます。または、[その他のアクション] メニュー (オブジェクト ウィンドウ上部で [その他] ボタン  をクリック) およびショートカット メニューを右クリックして、[名前を付けて] コマンドから作成することもできます。

Web クライアントでは、[作成]  -[変更] コマンド、または [アクション]-[名前を付けて保存] コマンドによって、変更を作成できます。

注意 拠点毎変更 (SCO) については、[対象アイテム] テーブルにアイテムを追加する際に、選択された拠点がアイテムの [拠点] タブに一覧表示されていない場合は、そのアイテムの [拠点] タブに追加するよう求めるメッセージが表示されます。後で SCO をキャンセル、またはそのアイテムを [対象アイテム] テーブルから削除する場合、新しい拠点の割り当ては、そのアイテムの [拠点] タブに残ります。

Web クライアントでは、変更を作成する際に、作成ウィザードによって、変更の [対象アイテム] テーブルにアイテムを追加できます。変更作成ウィザードをキャンセルして、SCO の作成を完了しない場合、新しい拠点の割り当ては、そのアイテムの [拠点] タブに残ります。

変更とその他のオブジェクトの作成方法の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

注意 一度変更を作成すると、その変更は削除するまで残ります。変更を新しく作成し、後で必要なくなった場合は必ず削除 (ソフト削除してからハード削除) してください。削除しないと、その変更がデータベースに残り、番号が再利用できません。詳細は、126 ページの「[変更を削除する](#)」を参照してください。

124 ページの「[変更を修正する](#)」も参照してください。

拠点毎変更 (SCO) での名前を付けて保存

SCO オブジェクトを作成するために拠点毎変更 (SCO) 以外の変更オブジェクトから [名前を付けて保存] を実行したり、SCO 以外の変更オブジェクトを作成するために SCO オブジェクトから [名前を付けて保存] を実行することはできません。拠点毎変更 (SCO) は拠点固有情報にのみ影響し、他のタイプの変更 (ECO や MCO など) は拠点固有情報には制限されないため、SCO を [名前を付けて保存] によって作成できるのは他の SCO からのみになります。拠点毎変更は拠点固有でのみ使用可能であるため、[名前を付けて保存] 機能を使用する際、他の変更タイプとは非互換になります。

変更を修正する

適切な権限があれば、編集可能フィールドを修正できます。ただし、修正が可能なのは Agile 管理者によって編集可能に設定されたフィールドのみです。

変更を編集するには

1. [カバー ページ] タブでは、次の操作を行います。
 - Java クライアントでは、適切なフィールドを修正します。[カバー ページ] タブの入力が完了したら、[保存] をクリックします。

- Web クライアントでは、[編集] をクリックして、[カバー ページ] タブを編集モードにします。適切なフィールドを修正します。完了したら、[保存] をクリックします。
2. [対象アイテム] タブでは、対象アイテムの削除、追加、および行の編集ができます。(詳細は、137 ページの「[\[対象アイテム\] タブにアイテムを追加する](#)」を参照してください。)
 3. [関係] タブでは、関係の追加、編集または削除、および関係ルールの追加、編集または削除を行うことができます。(詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。)
 4. [添付ファイル] タブでは、ファイル フォルダ オブジェクトでファイルと URL への参照を追加および削除できます。(詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。)

[ワークフロー] タブまたは [履歴] タブの情報は、自動的に入力されるため編集できません。

124 ページの「[変更を作成する](#)」も参照してください。

Agile 変更管理ワークフロー

Agile ワークフローは、変更管理プロセスを通して変更が使用するステータスの順序です。ワークフローの名前、ステータスの数と名前、各ステータスを定義するプロパティは、Agile 管理者が指定します。

127 ページの「[変更分析者とコンポーネント エンジニア](#)」も参照してください。

変更とその他の Agile オブジェクトをワークフローを通して送付する方法の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

ECO、MCO、SCO によってレッドラインする

レッドラインを行うと、オブジェクトに対して加えられた変更が赤で表示されます。ECO、MCO、SCO はレッドライン機能を持つ唯一の変更です。これらの変更は、リリース済みアイテムを修正する場合に作成します。これらの変更タイプの機能の詳細は、109 の「[変更クラス](#)」を参照してください。

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [ECO によってレッドラインする](#) (126 ページ)
- [MCO によってレッドラインする](#) (126 ページ)
- [SCO によってレッドラインする](#) (126 ページ)

製造データのレッドラインに際しては、企業の方針により、ECO を使用してアイテムのリビジョンを先に進める場合と、MCO を使用してアイテムのリビジョンを先に進めない場合があります。

BOM のレッドラインの詳細は、104 ページの「[リリース済みアイテムの BOM をレッドラインする](#)」を参照してください。

AML のレッドラインの詳細は、69 ページの「[\[レッドライン\] タブから製造データを変更する](#)」を参照してください。

添付ファイルのレッドラインの詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

ECO によってレッドラインする

ECO を使用して BOM と AML のデータと添付ファイルをレッドラインできます。

ECO では、新規アイテムのリリースや以前リリースしたアイテムの変更を行います。ECO (設計変更) を作成すると、変更によって修正されるアイテムのプレリミナリ リビジョンが作成されます ([対象アイテム] タブにリストされるアイテム)。ECO がリリースされると、修正されたアイテムのプレリミナリ リビジョンがリリース済みのリビジョンに変換されます。

MCO をレッドラインする

MCO を使用して AML データをレッドラインできます。

MCO は体裁も機能も ECO と同様です。ただし、MCO では ECO とは異なり、アイテムのリビジョンは変更されません。その代わり、[リビジョン] ドロップダウン リストの対応するリビジョン番号の横に MCO 番号が表示されます。たとえば、アイテムのリビジョン B に対して保留中の MCO、M12345 がある場合、[リビジョン] ドロップダウン リストにそのリビジョンが「(B) M12345」と表示されます。

MCO は以下の目的で使用できます。

- リビジョンを付けずに新しいアイテムをリリースする (ライフサイクル フェーズは選択可能)
- リビジョンを変更せずにアイテムのライフサイクル フェーズを変更する
- アイテムの製造データをレッドライン (追加、変更、または削除) する ([製造元] タブ)

SCO によってレッドラインする

SCO を使用して、最新のリリース済みリビジョンについてののみ、拠点別の BOM と AML をレッドラインできます。

SCO は体裁も機能も ECO と同様です。ただし、SCO では ECO とは異なり、アイテムのリビジョンは変更されません。その代わり、[リビジョン] ドロップダウン リストの対応するリビジョン番号の横に SCO 番号が表示されます。たとえば、アイテムのリビジョン B に対して保留中の SCO、S12345 がある場合、[リビジョン] ドロップダウン リストにそのリビジョンが「(B) S12345」と表示されます。

変更を削除する

変更オブジェクトの削除の詳細は、22 ページの「[Agile オブジェクトを削除する](#)」を参照してください。


変更の削除を取り消す

ソフト削除された変更はデータベースには存在しているため、必要な権限があり、[対象アイテム] タブにアイテムが 1 つもなければ、削除を取り消すことができます。

変更とその他のオブジェクトの削除取り消し方法の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

変更のタブを印刷する

Agile PLM システムから、オブジェクトのタブやその他のデータを印刷することができます。現在のタブまたはすべてのタブを印刷できます。添付ファイルは、ファイルが作成されたアプリケーションまたは **Viewer** から印刷します。

Java クライアントでは、オブジェクトを開いた状態で [印刷] ボタン  を使用します。

Web クライアントでは、オブジェクトを開いた状態で、[アクション]-[印刷] を選択します。

オブジェクトの印刷の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

[対象アイテム] タブを印刷すると、レッドライン情報も含められます。

ルーティング管理者: 変更分析者とコンポーネントエンジニア

注意 ルーティング管理者タスクの実行方法については、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の第 8 章「ワークフローを使用してオブジェクトを送付する」をご覧ください。

変更のルーティングと承認の処理を監視するユーザーは、ルーティング管理者と呼ばれます。さらに、変更に関するルーティング管理者は変更分析者と呼ばれ、MCO (製造元変更) に関するルーティング管理者はコンポーネント エンジニアと呼ばれます。変更の [カバー ページ] タブの [変更分析者] フィールド、または [コンポーネント エンジニア] フィールドには、その変更に関するルーティング管理者が一覧表示されます。これらのフィールドは (ワークフロー設定で **Agile** 管理者によって指定されたとおり)、自動的に入力されるか、またはユーザーによってドロップダウン リストから手動で選択されます。

ルーティング管理者は、変更を評価して割り当て、割り当てられた変更オブジェクトに関して電子メールによる通知を受信します。ルーティング管理者のタスクを実行するには、特定の役割と権限が必要です。役割の割り当てについて質問がある場合は、Agile 管理者にお問い合わせください。

次に、デフォルトの **Agile** ワークフローを使用した変更に対する変更管理プロセスの一般的な例を示します。

1. 変更 (ECO、MCO など) が作成され、ワークフローが選択されます。
2. 変更が変更分析者 (ECO の場合) またはコンポーネント エンジニア (MCO の場合) に提出されます。
3. 変更分析者またはコンポーネント エンジニアは、変更を次のステータスに切り替え、指定の承認者 (変更管理委員会のメンバー) とオブザーバに変更をルーティングします。
4. 変更管理委員会 (CCB) のメンバーが変更を承認または却下し、その承認または却下は、変更の [ワークフロー] タブに記録されます。
5. すべての承認者が変更を承認した場合、変更は [リリース済み] ステータスに自動的に昇格します (次のステータス)。

注意 変更をいつ自動昇格するかは、ワークフローの設定やスマートルールの設定などの Agile 管理者設定によって制御されます。これらの設定によって、入力が必要な必須フィールド、承認者の必須アクション、自動昇格するために満たすべきその他の条件が決定されます。

変更を却下した承認者が存在する場合、変更分析者またはコンポーネント エンジニアに通知され、次のいずれかのアクションが実行されます。

- ステータスを「キャンセル」に切り替えて、変更をキャンセルする。
- ステータスを「保留」に切り替えて、変更を作成者に差し戻す。
- 却下の意見がある場合でも変更をリリースする。

ワークフローの設定によっては、承認者が変更を却下したときに、変更を指定のステータスに自動的に切り替えることができます。

変更の使用と管理方法の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「ワークフローを使用してオブジェクトを送付する」の関する章をご覧ください。

125 ページの「[Agile 変更管理ワークフロー](#)」も参照してください。

変更の対象アイテム

扱うトピックは次のとおりです。

■ [対象アイテム] タブ	129
■ 製造拠点別の対象アイテム	136
■ ECO (設計変更) または SCO (拠点毎変更) の部品の処分を表示する	137
■ [対象アイテム] タブにアイテムを追加する	137
■ 対象アイテム テーブルを使用する	145
■ [対象アイテム] タブからアイテムを削除する	149
■ [対象アイテム] タブの行を編集する	150
■ 対象アイテムのレッドラインを表示する	153

[対象アイテム] タブ

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [\[対象アイテム\] タブのボタン](#) (130 ページ)
- [\[対象アイテム\] タブのフィールド](#) (132 ページ)

変更の [対象アイテム] タブには、変更により影響されるアイテムのリストが表示されます。1 つのアイテムが複数の製造拠点に属する場合は、デフォルトの対象アイテム行の値が各拠点の行のデフォルト値になります。十分な権限を付与されているユーザーが [対象アイテム] タブで実行できるアクションは以下のとおりです。

- 変更の影響を受けるアイテムをリストに表示し、保留時のリビジョンを設定する (ECO)
- 変更によって影響されるアイテムのリビジョンを指定する (SCO、ECR、期限付き設計変更、出荷停止)

注意 ECO と MCO はアイテムの最新リリースのリビジョンにのみ影響を与えます。

- [対象アイテム] タブのアイテムを表示する
- 対象アイテムの [BOM のレッドライン] タブ データを作成、表示、変更する (ECO および SCO)
- 対象アイテムの [製造元のレッドライン] タブを作成、表示、変更する (SCO および MCO、スマートルールで許可するように設定されている場合は ECO)
- [添付ファイルのレッドライン] タブを使用してアイテムの添付ファイルにレッドラインを追加する (ECO のみ)
- 既存部品の処分を指定する (ECO、MCO、SCO、ECR、期限付き設計変更、および出荷停止)

読み取り権限を持つユーザーは、以下の操作を行うことができます。

- 対象アイテムを開く
- 対象アイテムをレッドラインする (ECO、MCO、および SCO)
- 既存部品の処分を表示する (ECO、MCO、および SCO) (既存部品フィールドが表示されるまで右側にスクロールする必要があります)

注意 アイテムのディスカバリ権限がない場合、アイテムは [対象アイテム] タブには表示されません。表示されないアイテムの数を示すメッセージが表示されます。読み取り権限によっては、[対象アイテム] タブのすべてのフィールドを表示できない場合があります。

[対象アイテム] タブのアイテムを開くには:

- **Java** クライアントで、対象アイテム行をダブルクリックします。アイテムが開き、[タイトル ブロック] タブが手前に表示されます。













または、アイテム行を右クリックして [開く] を選択し、タブを選択します。アイテムが開き、選択したタブが最前面に表示されます。

- **Web** クライアントで、アイテム番号をクリックします。アイテムが開き、[タイトル ブロック] タブが手前に表示されます。













変更に関連するリビジョンは、[リビジョン] のドロップダウン メニューで選択します。

[対象アイテム] タブのボタン

以下に示す Java クライアントの [対象アイテム] タブのボタンは、権限や使用状況によって、有効になったり無効になったりします。

ボタン	説明
対象アイテムの編集 	編集モードで選択した (チェックした) アイテムを表示します。
削除 	[対象アイテム] テーブルから選択したアイテムを削除します。
  	追加 - 選択したアイテムの下にアイテムを追加します。選択したオプションに基づき、以下が表示されます。  [作成] 追加する際にアイテムを作成します。  [検索] 既存のアイテムを検索します。  [既知の番号の入力] 既存のアイテムの既知の番号を 1 つ、または複数入力します。
行を下方へコピー、行を上方へコピー  	選択した最初の行 ([行を下方へコピー] の場合) または最後の行 ([行を上方へコピー] の場合) の各カラムの値をコピーし、選択した他の全行の対応するセルに値を貼り付けます。151 ページの「 Java クライアントの [行を上方へコピー] ボタンおよび [行を下方へコピー] ボタン 」を参照してください。
BOM 一括変更 	あるアイテムの変更を、そのアイテムを使用する複数の BOM に適用します。
製造元部品一括変更 	あるアイテムの変更を、そのアイテムを使用する複数の AML に適用します。
[表示] ドロップダウンリスト	[拠点を表示] を選択すると、各対象アイテムの拠点固有の情報を表示できます。各アイテムは、テーブル内の複数の行に表示されます。アイテムのデフォルトまたは一般的な表示として一度 ([拠点] フィールドは空白)、アイテムに関連付けられた拠点ごとに一度 ([拠点] フィールドには適切な拠点名)、それぞれ表示されます。 [拠点を非表示] を選択すると、アイテムのデフォルトまたは一般情報のみを表示できます。各アイテムはテーブル内に一度だけ表示され、[拠点] フィールドは空白になります。

以下に示す Web クライアントの [対象アイテム] タブのボタンは、権限や使用状況によって、有効になったり無効になったりします。

ボタン	説明
 編集	編集モードで選択した (チェックした) アイテムを表示します。
 削除	[対象アイテム] テーブルから選択したアイテムを削除します。
 追加  追加  追加	<p>追加 - 選択したアイテムの下にアイテムを追加します。選択したオプションに基づき、以下が表示されます。</p> <p> [作成] 追加する際にアイテムを作成します。</p> <p> [検索] 既存のアイテムを検索します。</p> <p> [既知の番号の入力] 既存のアイテムの既知の番号を 1 つ、または複数入力します。</p>
一括変更	あるアイテムの変更を、そのアイテムを使用する複数の BOM または AML に適用します。
 	<p>上方へコピー 下方へコピー</p> <p>([編集] モードでのみ表示されます。上へコピー、または下へコピーできる各属性のとなりに表示されます。)</p> <p>ボタンがクリックされたフィールドの値を、選択した行の列の上 ([上方へコピー]) または下 ([下方へコピー]) のフィールドへコピーします。</p> <p>152 ページの「Web クライアントで [対象アイテム] タブの行を編集する」を参照してください。</p>
 	<p>コピー 貼り付け</p> <p>[編集] モードでのみで表示されます。1 つの行から別の行にデータをコピーして貼り付けることができます。</p> <p>カラム ヘッダ チェックボックスまたは [コピー] ボタン メニュー選択を使って、コピーするカラムを選択します。行をチェックし、[コピー] をクリックします。別の行をチェックし、[貼り付け] をクリックします。</p>
[表示] ドロップダウン リスト	<p>[拠点を表示] を選択すると、各対象アイテムの拠点固有の情報を表示できます。各アイテムは、テーブル内の複数の行に表示されます。アイテムのデフォルトまたは一般的な表示として一度 ([拠点] フィールドは空白)、アイテムに関連付けられた拠点ごとに一度 ([拠点] フィールドには適切な拠点名)、それぞれ表示されます。</p> <p>[拠点を非表示] を選択すると、アイテムのデフォルトまたは一般情報のみを表示できます。各アイテムはテーブル内に一度だけ表示され、[拠点] フィールドは空白になります。</p>

[対象アイテム] タブのフィールド

次の表に、各変更クラスにおける [対象アイテム] タブのフィールドを示します。

[対象アイテム] タブのフィールド	ECO	MCO	SCO	ECR	出荷停止	期限付き 設計変更
拠点	✓	✓	✓			
アイテム番号	✓	✓	✓	✓	✓	✓
旧リビジョン	✓					
旧ライフサイクル フェーズ	✓	✓				
破棄日	✓		✓			
新規リビジョン	✓					
リビジョン			✓	✓	✓	✓
有効日	✓		✓			
ライフサイクル フェーズ	✓	✓		✓	✓	✓
機能の変更	✓					
古いアイテムの説明 (有効な場合のみ表示されます)	✓					
アイテムの説明	✓	✓	✓	✓	✓	✓
注文中	✓		✓			
在庫	✓		✓			
作業進行中	✓		✓			
完了した製品	✓		✓			
フィールド	✓					

注意 必須フィールドへの入力、変更がリリースされる前に完了する必要があります。([オーバーライド] 権限を持つユーザーは、必須フィールドに入力せずに変更をリリースできます。)必須フィールドは Agile 管理者が決定しますが、ECO の [新規リビジョン] フィールドは常に必須フィールドであり、オーバーライドできません。ステータス検証またはリリースの検証を実行すると、すべての必須フィールドへの入力、完了しているかどうかを確認できます。検証の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』のワークフローに関する章をご覧ください。必須フィールドについて質問がある場合は、システム管理者に問い合わせてください。

[対象アイテム] テーブルの [拠点] フィールド

[拠点] フィールドには、対象アイテムが追加された製造拠点が表示されます。[拠点] フィールドが空白の場合、行に表示されるアイテムの情報は、そのアイテムに割り当てられた全拠点間で共通の情報になります。

古いアイテムの説明とアイテムの説明

リリース済みアイテムの [説明] フィールドが、設計変更の [対象アイテム] タブでのみ変更可能となるよう Agile 管理者により設定されている場合、対象アイテムのテーブルには [古いアイテムの説明] フィールドと [アイテムの説明] フィールド ([新しいアイテムの説明] という名前がついている場合もあります) の両方が表示されます。

お使いの Agile システムが、アイテムの [説明] フィールドの設計変更の修正向けに設定されている場合、[古いアイテムの説明] フィールドは、[対象アイテム] タブにアイテムが追加されると、自動的に入力されます。[対象アイテム] タブの [古いアイテムの説明] フィールドは変更できません。ただし、適切な権限があれば、対象アイテムのテーブル ([新規]) の [アイテムの説明] フィールドに新しい説明を入力できます。この説明は、アイテムの保留中リビジョンの [説明] フィールドに表示されます。

リリース済み設計変更の [アイテムの説明] フィールド (または [新しいアイテムの説明] フィールド) を使用してアイテムの [説明] フィールドを変更することはできません。リリース済みアイテム [説明] フィールドの変更は、適切な変更アイテム権限でアイテムの [タイトル ブロック] タブを使用してのみ行うことができます。[対象アイテム] タブのアイテムの設計変更がリリースされた後は、リリース済み設計変更の変更権限を持っている場合でもリリース済み設計変更の [アイテムの説明] フィールドを変更することはできないため、このフィールドを使用してアイテムの [説明] フィールドを変更することはできません。

アイテムの [説明] フィールドの変更の詳細は、27 ページの「[リリース済みアイテムの \[説明\] フィールドを編集する](#)」を参照してください。

重要 アイテムの [説明] フィールドは MCO から変更できません。MCO は新規アイテム リビジョンを作成しません。MCO は ECO リビジョンまたは初版リビジョンから、そのベースとなっている [説明] フィールドを使用します。

リビジョン

[リビジョン] フィールドは、アイテムのどのリビジョンが変更によって影響を受けるかを示します。次の表は、それぞれの種類の Agile の変更によってどのアイテム リビジョンが影響を受けるかを説明します。

変更クラス	編集可否	アイテムが [対象アイテム] テーブルに追加されたときのデフォルトのリビジョン
設計変更 (ECO)	いいえ	<p>アイテムが設計変更の [対象アイテム] テーブルに追加されるとき、アイテムの最新リリースのリビジョンが [旧リビジョン] フィールドに表示されます。</p> <p>[ECO 対象アイテム] テーブルの [旧リビジョン] フィールドを編集することはできません。</p> <p>設計変更はアイテムの最新リリースのリビジョンに常に影響を与えます。アイテムがリリースされていない場合、設計変更はアイテムの初版リビジョンに影響を与えます。ECO はアイテムの新しいリビジョンを作成するため、[対象アイテム] テーブルの [新規リビジョン] フィールドの新しいリビジョン番号や文字を指定する必要があります。</p> <p>注意: 設計変更は、新しいアイテム リビジョンを作成できる唯一の Agile 設計変更オブジェクトです。</p> <p>ECO の詳細は、145 ページの「ECO (設計変更) に関する特記事項」を参照してください。</p>
製造元変更 (MCO)	—	<p>製造元変更はアイテムの最新リリースのリビジョンに常に影響を与えます。アイテムがリリースされていない場合、MCO はアイテムの初版リビジョンに影響を与えます。</p> <p>MCO の場合、MCO の基準となるアイテム リビジョン番号は [対象アイテム] タブに表示されません。</p> <p>MCO の詳細は、146 ページの「MCO (製造元変更) に関する特記事項」を参照してください。</p>
拠点変更依頼 (SCO)	はい	<p>アイテムが拠点毎変更の [対象アイテム] テーブルに追加されるとき、アイテムの最新リリースのリビジョンが [リビジョン] フィールドに表示されます。</p> <p>[SCO 対象アイテム] テーブル [リビジョン] フィールドを編集して、異なるアイテム リビジョンを選択することができます。</p> <p>SCO はアイテムのどのリリースされたリビジョンにも影響を与えることがあります。SCO はアイテムの初版リビジョンに影響を与えることはできません。</p> <p>SCO の [対象アイテム] テーブルに含めることのできるアイテム リビジョンは 1 つだけです。</p>
設計変更依頼 (ECR)	はい	<p>アイテムが設計変更依頼の [対象アイテム] テーブルに追加されているとき、[リビジョン] フィールドは空になります。[リビジョン] フィールドが空のとき、ECR はもっとも最近リリースされたリビジョンに影響を与えます。このフィールドで選択できるのは、リリース済みリビジョンのみです。保留中リビジョンはフィールドに表示されません。アイテムがリリースされていない場合、設計変更依頼はアイテムの初版リビジョンに影響を与えます。</p> <p>ECR の [対象アイテム] テーブルの [リビジョン] フィールドを編集して、異なるアイテム リビジョンを選択することができます。</p>

変更クラス	編集可否	アイテムが [対象アイテム] テーブルに追加されたときの デフォルトのリビジョン
期限付き設計変更	はい	<p>アイテムが期限付き設計変更の [対象アイテム] テーブルに追加されているとき、[リビジョン] フィールドは空になります。[リビジョン] フィールドが空のとき、期限付き設計変更はアイテムの最新リリースのリビジョンに影響を与えます。アイテムがリリースされていない場合、期限付き設計変更はアイテムの初版リビジョンに影響を与えます。</p> <p>期限付き設計変更の [対象アイテム] テーブルの [リビジョン] フィールドを編集して、異なるアイテム リビジョンを選択することができます。</p>
出荷停止	はい	<p>アイテムが出荷停止の [対象アイテム] テーブルに追加されているとき、[リビジョン] フィールドは空になります。[リビジョン] フィールドが空のとき、出荷停止はアイテムの最新リリースのリビジョンに影響を与えます。アイテムがリリースされていない場合、出荷停止はアイテムの初版リビジョンに影響を与えます。</p> <p>出荷停止の [対象アイテム] テーブルの [リビジョン] フィールドを編集して、異なるアイテム リビジョンを選択することができます。</p>

破棄日および有効日

[破棄日] フィールドは、対象アイテムの新しいリビジョンではなく、前のリビジョンに適用されます。破棄日は旧リビジョンが破棄される日付です。

[有効日] フィールドは、新しいリビジョンに適用され、新しいリビジョンが有効になる日付が反映されます。

ライフサイクル フェーズおよび旧ライフサイクル フェーズ

[ライフサイクル フェーズ] には、デフォルトで以下のエントリがあります (Agile 管理者により追加できます)。

- [停止] - 一時的に使用されておらず、再開される可能性がある状態。
- [破棄] - 永久的に廃止となったアイテム。
- [パイロット] - 量産準備プロジェクトとして、限られた数量のみ初回生産されている状態。
- [製造] - 通常の生産用にリリースされた状態。
- [試作品] - 試験用に非常に限られた数量のみ生産されている状態。

[旧ライフサイクル フェーズ] フィールドは、アイテムを [対象アイテム] タブに追加すると、自動的に入力されます。[対象アイテム] タブの [古いライフサイクル フェーズ] フィールドは変更できません。

アイテムがリリースされると、これを [対象アイテム] タブに追加したときに、[ライフサイクル フェーズ] フィールドにはアイテムの現在のライフサイクル フェーズが自動的に入力されます。この後、[ライフサイクル フェーズ] フィールドを変更することができます。アイテムがリリースされなかった場合、これを [対象アイテム] タブに追加すると、最初は [古いライフサイクル フェーズ] フィールドと [ライフサイクル フェーズ] フィールドは空欄となっています。この後、[ライフサイクル フェーズ] フィールドを変更することができます。

注意 [対象アイテム] テーブルの [ライフサイクル フェーズ] フィールドを空欄にして設計変更をリリースすると、[旧ライフサイクル フェーズ] を使用してリリース済みオブジェクトのライフサイクル フェーズが決定されます。

製造拠点別の対象アイテム

設計変更 (たとえば ECO) の場合、[対象アイテム] タブの [表示] ドロップダウン リストから [拠点を表示] を選択すると、特定の製造拠点の対象アイテムを表示および使用できます。テーブルの各アイテムは展開され、そのアイテムに関連付けられた拠点ごとに 1 行が表示されます。表示されるのは、アクセスできる拠点です。

たとえば、香港拠点向けの部品番号 P345 を使用するには、[拠点] フィールドの拠点名が「Hong Kong」になっている部品 P345 の行を選択します。

拠点毎変更 (SCO) の場合、[対象アイテム] テーブルにアイテムを追加する際に適切な拠点を選択すると、特定の製造拠点のアイテムを表示および使用できます。SCO に対して指定した変更は、そのアイテム用に選択した拠点のみに適用されます。

拠点別の値が許可されるフィールド

[対象アイテム] テーブルの以下のフィールドには、拠点ごとに異なる値を含むことができます。

- [対応策] フィールド: 注文中、作業進行中、完了した製品、在庫、フィールド
- 有効日
- 破棄日

[対象アイテム] テーブルの以下のフィールドには、拠点ごとに異なる値を含めることができません。

- アイテムの説明
- 古いアイテムの説明
- ライフサイクル フェーズ
- 旧ライフサイクル フェーズ
- 旧リビジョン
- 新規リビジョン

Agile 管理者は、[拠点別のフィールド] プロパティを使用して、拠点ごとに異なる値を [対象アイテム] テーブル内の他のフィールドに含めるかどうかを指定します。

拠点別の有効日と破棄日


特定の拠点の有効日および破棄日を変更または設定する場合、その ECO に対して他の処理が行われていなければ、アイテムを [対象アイテム] タブに追加して新しいリビジョンを作成します。その変更のためだけに新しいリビジョンを作成したくない場合は、SCO を作成してから、その SCO の [対象アイテム] タブで拠点の有効日および破棄日を変更します。

ECO (設計変更) または SCO (拠点毎変更) の部品の処分を表示する

[対象アイテム] テーブルの ECO (設計変更) および SCO (拠点毎変更) には、変更によって影響を受ける既存部品の取り扱いを指定する以下のフィールドがあります。[注文中]、[在庫]、[作業進行中]、[完了した製品]。ECO には、[フィールド] (「フィールド内」用に) もあります。これらの各フィールドには、Agile 管理者によって定義された処分タイプのリストが表示されることがあります。処分とは、使用、廃棄、手直しなどです。

[対象アイテム] タブにアイテムを追加する

[対象アイテム] タブにアイテムを追加するには、[追加] ボタンを使用します。

Java クライアントで、[その他のアクション] メニューの [変更を作成] コマンドを使って開いているアイテムから変更を作成し (オブジェクト ウィンドウの [その他] ボタン  をクリック)、ショートカット メニューを右クリックするとします。すると、[対象アイテム] タブに自動的にこのアイテムが追加されます。

Web クライアントでは、[アクション|変更を作成] を使用し、開いているアイテムから変更を作成すると、そのアイテムは自動的に [対象アイテム] タブに追加されます。

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [対象アイテム追加ウィザードを使用する](#) (137 ページ)
- [一括変更を実行する](#) (138 ページ)
- [ECO \(設計変更\) に関する特記事項](#) (145 ページ)
- [MCO \(製造元変更\) に関する特記事項](#) (146 ページ)
- [\[対象アイテム\] タブからアイテムを削除する](#) (149 ページ)

注意 別のユーザーによってロックされているアイテムは追加できません。ユーザーによってアイテムが変更されたが、その変更が保存されていない場合、そのアイテムはロックされます。この場合、アイテムを保存すればロックは解除されます。

対象アイテム追加ウィザードを使用する

注意 ヒント: いずれのクライアントでも、[対象アイテム] アイテムの [追加] ボタンを使用する簡単な方法は、1 回クリックするだけです。ダイアログ ボックスが表示され、分かればアイテム番号を入力します。このダイアログ ボックスで、[作成] または [検索] リンクをクリックし、これらのアイテム方法を使用します。SCO に対象アイテムを追加する場合は、[作成] リンクは使用できません。

Java クライアントで [対象アイテム] タブにアイテムを追加するには:

変更を開き、[対象アイテム] タブを選択します。

1. [追加] ドロップダウン メニューをクリックし、追加オプションの 1 つを選択します。[検索]、[既知の番号の入力]、または [作成] のオプションがあります。

注意 SCO に対象アイテムを追加する場合は、[作成] オプションは使用できません。

2. 選択したメニューに基づき、以下のいずれかを実行します。

- 検索 - 1 つ以上の既存アイテムを検索します。[対象アイテムの追加] ダイアログ ボックスで、検索方法を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、[検索] をクリックします。さらに、詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、ブックマークや最近開いたアイテム (ショートカット) を選択することもできます。(検索の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。) 検索結果で目的のアイテムをクリックし、[OK] をクリックします。[検索された対象アイテム] リストのすべてのアイテムは、[対象アイテム] テーブルに追加されます。
- 既知の番号の入力 - 1 つ以上の番号を入力し、[追加] をクリックします。
- 作成 - [タイプ] ドロップ ダウン リストからタイプを選択します。適切な場合は、オブジェクトの番号を入力してください。[OK] をクリックします。

注意 SCO に対象アイテムを追加する場合は、[拠点に追加] ドロップダウン リストから拠点を選択します。

アイテムを [対象アイテム] テーブルに追加することは、BOM テーブルにアイテムを追加することと似ています。ダイアログの入力方法の詳細は、86 ページの「[BOM テーブルに追加するアイテムの検索](#)」、86 ページの「[BOM テーブルに追加するアイテムの番号を入力する](#)」および 92 ページの「[存在しないアイテムを BOM テーブルに追加する](#)」を参照してください。

Web クライアントで [対象アイテム] タブにアイテムを追加するには:

1. 変更を開き、[対象アイテム] タブを選択します。
2. [BOM] タブで [追加] ボタンをクリックし、追加オプションの 1 つを選択します。[検索]、[既知の番号の入力]、または [新規作成] のオプションがあります。

注意 SCO に対象アイテムを追加する場合は、[新規作成] オプションは使用できません。

3. 選択したメニューに基づき、以下のいずれかを実行します。
 - 検索 - 1 つ以上の既存アイテムを検索します。[対象アイテムの追加] ダイアログ ボックスで、検索方法を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、[検索] をクリックします。さらに、詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、ブックマークや最近開いたアイテム (ショートカット) を選択することもできます。(検索の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。) 検索結果で目的のアイテムをクリックし、[OK] をクリックします。[選択済み] リストのすべてのアイテムは、[対象アイテム] テーブルに追加されます。
 - 既知の番号の入力 - 1 つ以上の番号を入力し、[追加] をクリックします。
 - 新規作成 - [タイプ] ドロップダウン メニューから、タイプを選択します。適切な場合は、オブジェクトの番号を入力してください。[OK] をクリックします。

注意 SCO に対象アイテムを追加する場合は、[拠点に追加] ドロップダウン リストから拠点を選択します。

アイテムを [対象アイテム] テーブルに追加することは、BOM テーブルにアイテムを追加することと似ています。ダイアログの入力方法の詳細は、86 ページの「[BOM テーブルに追加するアイテムの検索](#)」86 ページの「[BOM テーブルに追加するアイテムの番号を入力する](#)」および 21 ページの「[追加コマンドでアイテムを作成する](#)」を参照してください。

一括変更を実行する

複数の BOM にあるアセンブリのアイテムを、自動的に一度で追加、置換または削除できる ECO を作成することができます。同様に、複数のアセンブリの AML ([製造元] タブ) にある製造元部品を、自動的に一度で置換、削除できる ECO または MCO を作成することができます。一括変更と呼ばれるこれらの変更は、一括変更ウィザードを利用して作成します。

次のセクションは、一括変更機能の使い方を説明しています。

- [BOM 一括変更の概要](#) (139 ページ)
- [Java クライアント BOM 一括変更ウィザード](#) (139 ページ)
- [Web クライアント BOM 一括変更ウィザード](#) (141 ページ)
- [製造元部品 \(AML\) 一括変更の概要](#) (142 ページ)
- [Java クライアント製造元部品一括変更ウィザード](#) (143 ページ)
- [Web クライアント製造元部品一括変更ウィザード](#) (144 ページ)

BOM 一括変更の概要

BOM 一括変更は、ECO でのみ可能です。ECO からの BOM 一括変更ウィザードでは、最初のウィザード手順で 2 つの処理が実行できます。

- アイテムを複数のアセンブリに追加する。
- 複数のアセンブリからアイテムを置換または削除する。
 複数のアセンブリからアイテムを置換または削除するオプションを選択した場合、BOM 一括変更ウィザードでは、次の処理を実行できます。
 - 特定のアイテムを使用するアセンブリのすべて、または一部から、そのアイテムを削除し、その結果影響を受けるアセンブリの BOM を一括変更によって自動的にレッドラインする。
 - 特定のアイテムを使用するアセンブリのすべて、または一部で、そのアイテムを他のアイテムと入れ替え、その結果影響を受けるアセンブリの BOM を一括変更によって自動的にレッドラインする。
 - アセンブリを選択して [対象アイテム] タブに追加し、それらの BOM を手動でレッドラインする。



Java クライアント BOM 一括変更ウィザード


Java クライアント BOM 一括変更ウィザードを使用すると、複数のアセンブリに対する変更を一度に指定できます。次の 2 つの BOM 一括変更オプションがあります。

- アイテムを複数のアセンブリに追加する。
- 複数のアセンブリからアイテムを置換または削除する。

2 つの手順は多少異なりますが、ウィザードの各ダイアログでプロセスが段階的に指示されます。両方の手順については以下で説明します。




アイテムを複数のアセンブリに追加するには (Java クライアント):

1. 保留中または未割当の変更から、[対象アイテム] タブをクリックして前面に表示します。(既存の変更を使用するか、新しい変更を作成します。)
2. [BOM 一括変更] ボタン  をクリックします。
 BOM 一括変更ウィザードが開きます。
3. [アイテムを複数のアセンブリに追加する] オプションを選択し、[次へ] をクリックします。
4. 次のウィザードのダイアログでは、複数のアセンブリに追加するアイテムを指定します。アイテム番号を入力するか、 をクリックしてアイテムを検索します。[オブジェクトを選択] のダイアログ ボックスで、[作成] リンクをクリックし、新規アイテムを作成します。アイテム番号を指定したら、[次へ] をクリックします。

5. 次のウィザード ダイアログでは、この一括変更を適用するアセンブリを指定します。[追加] ボタン  をクリックして、ステップ 4 で選択したアイテムを追加するアセンブリを検索します。アセンブリを指定したら、[完了] をクリックします。

レッドラインされたアセンブリが [対象アイテム] テーブルに追加されます。[BOM のレッドライン] タブで変更を確認できます。

複数のアセンブリからアイテムを置換または削除するには (Java クライアント):

1. 保留中または未割当の変更から、[対象アイテム] タブをクリックして前面に表示します。(既存の変更を使用するか、新しい変更を作成します。)
 2. [BOM 一括変更] ボタン  をクリックします。
BOM 一括変更ウィザードが開きます。
 3. [複数のアセンブリからアイテムを置換または削除] を選択し、[次へ] をクリックします。
 4. 次のウィザード ダイアログでは、レッドライン (置換、削除、または変更) するアイテムをそのアイテムを使用するアセンブリで指定します。アイテム番号を入力するか、 をクリックしてアイテムを検索します。アイテム番号を指定したら、[次へ] をクリックします。
 5. 次のウィザード ダイアログでは、この一括変更を適用するアセンブリを指定します。ステップ 4 で指定されたアイテムを使用するアセンブリ リストから、対象とするアセンブリを選択し、[次へ] をクリックします。
 6. 次のウィザード ダイアログで、実行するアクションを指定します。オプションは次のとおりです。
 - 選択したすべてのアセンブリの <アイテム> を、<アイテム> に置換する。
つまり、ステップ 5 で選択したアセンブリで、ステップ 4 で選択したアイテムをここで指定するアイテムに置換します。アイテム番号を入力するか、 をクリックしてアイテムを検索します。
入力後、[次へ] をクリックします。
レッドラインされたアセンブリ (ステップ 5 で選択した) が [対象アイテム] テーブルに追加されます。[BOM のレッドライン] タブで変更内容を表示できます。
 - 選択したすべてのアセンブリから <アイテム> を削除する。
つまり、ステップ 4 で選択したアイテムを、ステップ 5 で選択したアセンブリから削除します。
[次へ] をクリックします。
レッドラインされたアセンブリ (ステップ 5 で選択した) がまだ [対象アイテム] テーブルにない場合は、[対象アイテム] テーブルに追加されます。[BOM のレッドライン] タブで変更内容を表示できます。
 - 選択したアセンブリを [対象アイテム] テーブルに追加し、BOM を自分でレッドラインする。
ステップ 5 で選択したアセンブリを [対象アイテム] テーブルに追加しますが (まだ [対象アイテム] テーブルにない場合)、アセンブリに対するレッドライン変更は行いません。
[完了] をクリックします。
レッドラインされたアセンブリ (ステップ 5 で選択した) がまだ [対象アイテム] テーブルにない場合は、[対象アイテム] テーブルに追加されます。アセンブリに対するレッドライン変更は行われません。[対象アイテム] テーブルでアセンブリを選択し、[BOM のレッドライン] タブでレッドラインを変更します。
- アセンブリは、前述のステップ 6 で選択されたオプションに基づき、[対象アイテム] テーブルに追加されます。



Web クライアント BOM 一括変更ウィザード

Web クライアント BOM 一括変更ウィザードを使用すると、複数のアセンブリに対する変更を一度に指定できます。次の 2 つの BOM 一括変更オプションがあります。

- アイテムを複数のアセンブリに追加する。
- 複数のアセンブリからアイテムを置換または削除する。


2 つの手順は多少異なりますが、ウィザードの各ページでプロセスが段階的に指示されます。両方の手順については以下で説明します。

アイテムを複数のアセンブリに追加するには (Web クライアント):

1. 保留中または未割当の変更から、[対象アイテム] タブをクリックして前面に表示します。(既存の変更を使用するか、新しい変更を作成します。)
2. [一括変更] ボタンをクリックし、メニューから BOM を選択します。
3. [アクションの選択] ウィザード ページで、[アイテムを複数のアセンブリに追加] を選択し、[次へ] をクリックします。
4. [追加するアイテムの識別] ウィザードで、複数のアセンブリに追加するアイテムを指定します。アイテム番号を入力するか、 をクリックしてアイテムを検索します。[オブジェクトを検索] のダイアログボックスで、[作成] リンクをクリックし、新規アイテムを作成します。アイテム番号を指定したら、[次へ] をクリックします。
5. [追加するアイテムの識別] (アイテム番号) ウィザード ページで、この一括変更が影響を及ぼすアセンブリを指定します。[追加] ボタン  をクリックして、ステップ 4 で選択したアイテムを追加するアセンブリを検索します。アセンブリを指定したら、[完了] をクリックします。

レッドラインされたアセンブリが [対象アイテム] テーブルに追加されます。[BOM のレッドライン] タブで変更を確認できます。

複数のアセンブリからアイテムを置換または削除するには (Web クライアント):

1. 保留中または未割当の変更から、[対象アイテム] タブをクリックして前面に表示します。(既存の変更を使用するか、新しい変更を作成します。)
2. [一括変更] ボタンをクリックし、メニューから BOM を選択します。
3. [アクションの選択] ウィザード ページで、[複数のアセンブリからアイテムを置換または削除する] を選択し、[次へ] をクリックします。
4. [置換または削除するアイテムの特定] ウィザード ページで、レッドライン (置換、削除、または変更) するアイテムを、そのアイテムを使用するアセンブリで指定します。アイテム番号を入力するか、 をクリックしてアイテムを検索します。アイテム番号を指定したら、[次へ] をクリックします。
5. 次のウィザード ダイアログでは、この一括変更を適用するアセンブリを指定します。ステップ 4 で指定されたアイテムを使用するアセンブリ リストから、対象とするアセンブリを選択し、[次へ] をクリックします。
6. [変更アクションの選択] ウィザード ダイアログで、実行するアクションを指定します。オプションは次のとおりです。
 - 選択したすべてのアセンブリの [アイテム番号] を [アイテム番号] で置換する。
 つまり、ステップ 4 で選択したアセンブリで、ステップ 5 で選択したアイテムをここで指定するアイテムに置換します。アイテム番号を入力するか、[検索] をクリックしてアイテムを検索します。

入力完了したら、[完了] をクリックします。

レッドラインされたアセンブリ (ステップ 4 で選択した) がまだ [対象アイテム] テーブルにない場合は、[対象アイテム] テーブルに追加されます。[BOM のレッドライン] タブで変更内容を表示できます。

- 選択したすべてのアセンブリからアイテム番号を削除する。

つまり、ステップ 4 で選択したアイテムを、ステップ 5 で選択したアセンブリから削除します。

[完了] をクリックします。

レッドラインされたアセンブリ (ステップ 4 で選択した) がまだ [対象アイテム] テーブルにない場合は、[対象アイテム] テーブルに追加されます。[BOM のレッドライン] タブで変更内容を表示できます。

- 選択したアセンブリを [対象アイテム] テーブルに追加し、BOM を手動でレッドラインする。

ステップ 5 で選択したアセンブリを [対象アイテム] テーブルに追加しますが (まだ [対象アイテム] テーブルにない場合)、アセンブリに対するレッドライン変更は行いません。

[完了] をクリックします。

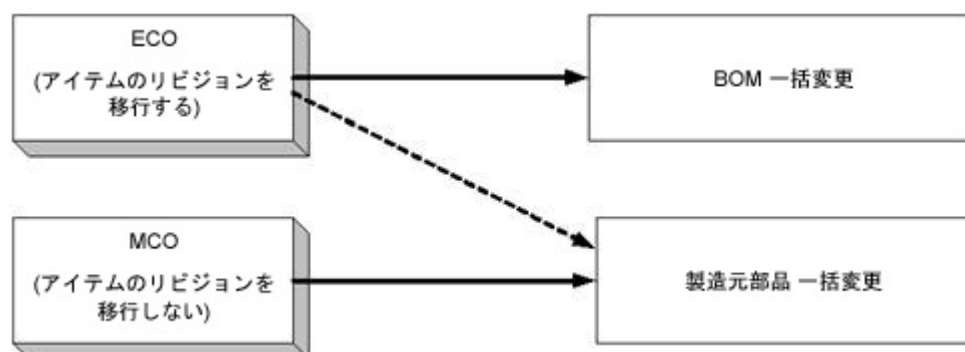
アセンブリ (ステップ 4 で選択した) は [対象アイテム] テーブルに追加され、アセンブリに対するレッドライン変更は行われません。[対象アイテム] テーブルでアセンブリを選択し、[BOM のレッドライン] タブでレッドラインを変更します。

アセンブリは、前述のステップ 6 で選択されたオプションに基づき、[対象アイテム] テーブルに追加されます。

製造元部品 (AML) 一括変更の概要

製造元部品一括変更は、ECO (AML 機能付) または MCO から実行できます。これによって自動的に複数のアイテムの [製造元] タブの製造元部品が一度に置換または削除されます。製造元部品一括変更は、[製造元部品の一括変更] ウィザードで作成されます。

MCO では、リビジョンを移行せずに製造データを一括変更する際に使用できます。ECO は、リビジョンを移行して製造データを一括変更する際に使用できます。企業の方針に従って、製造データをレッドラインする際にアイテムのリビジョンを展開するかどうかに応じて ECO (設計変更) と MCO (製造元変更) を使い分けてください。






ECO または MCO から製造元部品一括変更ウィザードを使用すると、以下を実行できます。

- 製造元部品が使用されているすべてまたは一部の部品から製造元部品を削除し、製造元部品一括変更により影響されるアセンブリの [製造元] タブを自動的にレッドラインする。
- 製造元部品が使用されているすべてまたは一部の部品の製造元部品を置換し、製造元部品一括変更により影響されるアセンブリの [製造元] タブを自動的にレッドラインする。
- 単に選択した製造元部品を [製造元] タブに追加し、後から手動でレッドラインする。

Java クライアント製造元部品一括変更ウィザード

複数のアイテムから製造元部品を置換または削除するには (Java クライアント):

1. リリースされていない変更から、[対象アイテム] タブをクリックして前面に表示します。(既存の変更を使用するか、新しい変更を作成します。)
2. [製造元部品一括変更] ボタン  をクリックします。
製造元部品一括変更ウィザードが開きます。
3. ウィザードの最初のダイアログでは、レッドライン (置換、削除、または変更) する製造元部品をその製造元部品を使用するアイテムで指定します。製造元名と製造元部品番号を入力するか、 をクリックして必要な製造元部品を検索します。製造元部品を指定したら、[次へ] をクリックします。
4. 次のウィザード ダイアログでは、この一括変更を適用するアイテムを指定します。ステップ 3 で指定された製造元部品を使用するアイテム リストから、対象とするアイテムを選択し、[次へ] をクリックします。
5. 次のウィザード ダイアログで、実行するアクションを指定します。オプションは次のとおりです。
 - 選択したすべてのアセンブリの <製造元部品> を指定する <製造元部品> に置換する。
つまり、ステップ 4 で選択したアイテムで、ステップ 3 で選択した製造元部品をここで指定する製造元部品に置換します。製造元名と製造元部品番号を入力するか、 をクリックして必要な製造元部品を検索します。
製造元名の選択の詳細は、61 ページの「[製造元名の自動検証の使用方法](#)」を参照してください。
入力後、[次へ] をクリックします。
レッドラインされたアイテム (ステップ 4 で選択した) がまだ [対象アイテム] テーブルにない場合は、[対象アイテム] テーブルに追加されます。[製造元のレッドライン] タブで変更内容を確認できます。
 - 選択したすべてのアセンブリから <製造元部品> を削除する。
つまり、ステップ 3 で選択した製造元部品を、ステップ 4 で選択したアイテムから削除します。
[次へ] をクリックします。
レッドラインされたアイテム (ステップ 4 で選択した) がまだ [対象アイテム] テーブルにない場合は、[対象アイテム] テーブルに追加されます。[製造元のレッドライン] タブで変更内容を確認できます。
 - 対象アイテム テーブルに選択したアセンブリを追加する。
ステップ 4 で選択したアイテムを [対象アイテム] テーブルに追加しますが (まだ [対象アイテム] テーブルにない場合)、アイテムに対するレッドライン変更は行いません。
[完了] をクリックします。

アイテム (ステップ 4 で選択した) は [対象アイテム] テーブルに追加され、アイテムに対するレッドライン変更は行われません。[対象アイテム] テーブルでアイテムを選択し、[製造元のレッドライン] タブでレッドラインを変更します。

アイテムは、前述のステップ 5 で選択したオプションに基づき、[対象アイテム] テーブルに追加されます。

Web クライアント製造元部品一括変更ウィザード

複数のアイテムから製造元部品を置換または削除するには (Web クライアント):

1. リリースされていない変更から、[対象アイテム] タブをクリックして前面に表示します。(既存の変更を使用するか、新しい変更を作成します。)
2. [一括変更] ボタンをクリックし、メニューから [製造元部品] を選択します。
一括変更ウィザードが開きます。
3. [製造元部品の識別] ウィザード ページで、レッドライン (置換、削除、または変更) する製造元部品をその製造元部品を使用するアイテムで指定します。製造元名と製造元部品番号を入力するか、[検索] をクリックして必要な製造元部品を検索します。製造元部品を指定したら、[次へ] をクリックします。
4. [一括変更を行うアイテムを指定] ウィザード ページで、この一括変更の対象となるアイテムを指定します。ステップ 3 で指定された製造元部品を使用するアイテム リストから、対象とするアイテムを選択し、[次へ] をクリックします。
5. [アクションの選択] ウィザード ページで、実行するアクションを指定します。オプションは次のとおりです。

- 対象アイテム テーブルに選択したアセンブリを追加する。

ステップ 4 で選択したアイテムを [対象アイテム] テーブルに追加しますが (まだ [対象アイテム] テーブルにない場合)、アイテムに対するレッドライン変更は行いません。

[次へ] をクリックします。

アイテム (ステップ 4 で選択した) は [対象アイテム] テーブルに追加され、アイテムに対するレッドライン変更は行われません。[対象アイテム] テーブルでアイテムを選択し、[製造元のレッドライン] タブでレッドラインを変更します。

- 選択したすべてのアセンブリの [製造元部品番号] <製造元部品> を、[製造元部品番号] <製造元部品> に置換する。

つまり、ステップ 4 で選択したアイテムで、ステップ 3 で選択した製造元部品をここで指定する製造元部品に置換します。製造元名と製造元部品番号を入力するか、[検索] をクリックして必要な製造元部品を検索するか新しい製造元部品を作成します。

製造元名の選択の詳細は、61 ページの「[製造元名の自動検証の使用方法](#)」を参照してください。

入力後、[次へ] をクリックします。

レッドラインされたアイテム (ステップ 4 で選択した) がまだ [対象アイテム] テーブルにない場合は、[対象アイテム] テーブルに追加されます。[製造元のレッドライン] タブで変更内容を確認できます。

- 選択したすべてのアセンブリから [製造元部品番号] <製造元部品> を削除する。

つまり、ステップ 3 で選択した製造元部品を、ステップ 4 で選択したアイテムから削除します。

[完了] をクリックします。

レッドラインされたアイテム (ステップ 4 で選択した) がまだ [対象アイテム] テーブルにない場合は、[対象アイテム] テーブルに追加されます。[製造元のレッドライン] タブで変更内容を確認できます。

アセンブリは、前述のステップ 5 で選択したオプションに基づき、[対象アイテム] テーブルに追加されます。

対象アイテム テーブルを使用する

アイテムが [対象アイテム] テーブルに追加されると、Agile 変更の各タイプを完了するために追加ステップが必要となります。次のセクションでは、これらのステップをまとめています。


- [ECO \(設計変更\) に関する特記事項](#) (145 ページ)
- [MCO \(製造元変更\) に関する特記事項](#) (146 ページ)
- [SCO \(拠点毎変更\) に関する特記事項](#) (147 ページ)
- [ECR \(設計変更依頼\) に関する特記事項](#) (148 ページ)
- [期限付き設計変更に関する特記事項](#) (148 ページ)
- [出荷停止に関する特記事項](#) (149 ページ)

ECO (設計変更) に関する特記事項

ECO を完了する基本ステップは、以下のとおりです。

1. [対象アイテム] タブに対して変更したいアイテムを追加します。
137 ページの「[\[対象アイテム\] タブにアイテムを追加する](#)」を参照してください。
2. 146 ページの「[ECO \(設計変更\) のリリースに必要なフィールド](#)」で説明したように、必須フィールドを含め、[対象アイテム] タブ フィールドを編集します。
150 ページの「[\[対象アイテム\] タブの行を編集する](#)」を参照してください。
3. BOM データまたは製造データを含むリリース済みアイテムを追加する場合、レッドライン ウィンドウ (Java クライアント) またはページ (Web クライアント) にアイテムの BOM データ、製造データ、および添付ファイル (ファイル フォルダ オブジェクト内で参照) をレッドラインできます。
- 104 ページの「[リリース済みアイテムの BOM をレッドラインする](#)」を参照してください。
 - 69 ページの「[\[レッドライン\] タブから製造データを変更する](#)」を参照してください。
 - 添付ファイルのレッドラインの詳細は、『Viewer の補足』を参照してください。添付ファイルの詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

注意 [変更の作成] コマンドを使用して開いているアイテムから ECO を作成する場合、Agile PLM はアイテムを [対象アイテム] テーブルに追加し、リリースされたアイテムの場合、BOM または製造元データをレッドラインするように自動的に指示します。

Java クライアントで、[変更の作成] コマンドは [その他のアクション] メニュー (オブジェクト ウィンドウ 上部の [詳細] ボタン  をクリック) および右クリック ショートカット メニューで利用できます。Web クライアントで、アイテム [アクション] メニューから [アクション|変更の作成] を使用します。

ECO (設計変更) のリリースに必要なフィールド

必須フィールドは、ワークフローのステータスごとに設定します。検証機能を使用すると、必須フィールドへの入力完了しているかどうかを確認できます。

ワークフローで定義される必須フィールドだけでなく、以下の [対象アイテム] タブのフィールドも、Agile PLM で ECO をリリースする前に入力を完了している必要があります。

- 新規リビジョン
- アイテム番号

注意 [アイテム番号] フィールドは、[対象アイテム] タブにアイテムを追加すると、自動的に入力されます。



ECO のリリースに必要なフィールドの入力を完了するには:

[新規リビジョン] フィールドに新しいリビジョンの番号を入力します。

[新規リビジョン] フィールドを空白のままにすると、Agile PLM はアイテムの [リビジョン] フィールドに疑問符 (?) を表示します。

対象アイテムの [リビジョン] フィールドが空白の ECO をリリースすることはできません。

注意 他のタブにも入力の必要な必須フィールドがあります。ワークフローの設定により、システムでのフィールドは異なります。

Java クライアントでは、オブジェクト ウィンドウ ツールバーの [リリースの検証] ボタン  を使用すると、すべての必須フィールドへの入力完了しているかどうかを確認できます。[ステータスの検証] ボタン  を使用すると、ステータスの必須フィールドへの入力完了しているかどうかを確認できます。

Web クライアントでは、[アクション] メニューの [リリースの検証] コマンドを使用すると、すべての必須フィールドへの入力完了しているかどうかを確認できます。[アクション] メニューの [ステータスの検証] コマンドを使用すると、ステータスの必須フィールドへの入力完了しているかどうかを確認できます。

リリース済みの変更の [対象アイテム] タブの [新規リビジョン] フィールドは、適切な変更権限があっても変更できません。リリース済み変更の [対象アイテム] タブの [ライフサイクル フェーズ] を変更する適切な権限がない場合、MCO を使ってそのリビジョン レベルを変更せずにアイテムのライフサイクル フェーズを変更することができます。詳細は、126 ページの「[MCO によってレッドラインする](#)」を参照してください。

MCO (製造元変更) に関する特記事項

MCO を完了する基本ステップは、以下のとおりです。


1. [対象アイテム] タブに対して変更したいアイテムを追加します。
137 ページの「[\[対象アイテム\] タブにアイテムを追加する](#)」を参照してください。
2. 必須フィールドを含め、[対象アイテム] タブ フィールドを編集します。MCO により、新しいライフサイクル フェーズを選択することができます。

150 ページの「[\[対象アイテム\] タブの行を編集する](#)」を参照してください。

3. 製造データのあるリリース済みアイテムを追加した場合、製造データをレッドラインします。


69 ページの「[\[レッドライン\] タブから製造データを変更する](#)」を参照してください。

注意 [変更の作成] コマンドを使用して開いているアイテムから MCO を作成する場合、Agile PLM はアイテムを [対象アイテム] テーブルに追加し、リリースされたアイテムの場合、製造元データをレッドラインするように自動的に指示します。

Java クライアントで、[変更の作成] コマンドは [その他のアクション] メニュー (オブジェクト ウィンドウ 上部の [詳細] ボタン  をクリック) および右クリック ショートカット メニューで利用できます。Web クライアントで、MCO (製造元変更) のリリースに必要なフィールドを使用します。

ワークフローで定義される必須フィールドだけでなく、[対象アイテム] タブの [アイテム番号] フィールドも、Agile PLM で ECO をリリースする前に入力完了している必要があります。このフィールドは、[対象アイテム] タブにアイテムを追加すると、自動的に入力されます。

注意 他のタブにも入力の必要な必須フィールドがあります。ワークフローの設定により、システムでのフィールドは異なります。

Java クライアントでは、オブジェクト ウィンドウ ツールバーの [リリースの検証] ボタン  を使用すると、すべての必須フィールドへの入力が完了しているかどうかを確認できます。

Web クライアントでは、[アクション] メニューの [リリースの検証] コマンドを使用すると、すべての必須フィールドへの入力が完了しているかどうかを確認できます。

SCO (設計変更) に関する特記事項

SCO を完了する基本ステップは、以下のとおりです。

1. [対象アイテム] タブに対して変更したいアイテムを追加します。

137 ページの「[\[対象アイテム\] タブにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

注意 保留中の変更を含むリリース済みアイテムを追加する場合、Agile PLM はアイテムに保留中の変更があるというメッセージを表示します。

2. 必須フィールドを含め、[対象アイテム] タブ フィールドを編集します。最新および最新でないリビジョンの両方に対して、拠点別対応策および拠点別アイテムの有効日と破棄日を変更できます。



122 ページの「[拠点毎変更](#)」を参照してください。

3. アイテムの最新リリースのリビジョンを SCO に追加した場合、最新リリースされたリビジョンに対してのみ、拠点別 BOM と AML データをレッドラインできます。

- 125 ページの「[ECO、MCO、SCO によってレッドラインする](#)」を参照してください。
- 104 ページの「[リリース済みアイテムの BOM をレッドラインする](#)」を参照してください。
- 69 ページの「[\[レッドライン\] タブから製造データを変更する](#)」を参照してください。

注意 アイテムの最新リリースのリビジョンのみが、SCO でレッドラインできます。

他のタブにも入力の必要な必須フィールドがあります。ワークフローの設定により、システムでのフィールドは異なります。

Java クライアントでは、オブジェクト ウィンドウ ツールバーの [リリースの検証] ボタン  を使用すると、すべての必須フィールドへの入力完了しているかどうかを確認できます。[ステータスの検証] ボタン  を使用すると、ステータスの必須フィールドへの入力完了しているかどうかを確認できます。

Web クライアントでは、[アクション] メニューの [リリースの検証] コマンドを使用すると、すべての必須フィールドへの入力完了しているかどうかを確認できます。[アクション] メニューの [ステータスの検証] コマンドを使用すると、ステータスの必須フィールドへの入力完了しているかどうかを確認できます。

ECR (設計変更依頼) に関する特記事項

ECR を完了する基本ステップは、以下のとおりです。

1. [対象アイテム] タブにアイテムを追加します。

137 ページの「[\[対象アイテム\] タブにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

既知の番号の入力によって追加しているとき、番号を入力するとき、スペースの後にリビジョンを入力できます。例:


1000-02 A
P003872 D

注意 保留中の変更を含むリリース済みアイテムを追加する場合、Agile PLM はアイテムに保留中の変更があるというメッセージを表示します。

2. [対象アイテム] タブの、Agile システムで定義されたリビジョン フィールドとカスタム フィールドを編集します

150 ページの「[\[対象アイテム\] タブの行を編集する](#)」を参照してください。

注意 他のタブにも入力の必要な必須フィールドがあります。ワークフローの設定により、システムでのフィールドは異なります。

Java クライアントでは、オブジェクト ウィンドウ ツールバーの [リリースの検証] ボタン  を使用すると、すべての必須フィールドへの入力完了しているかどうかを確認できます。

Web クライアントでは、[アクション] メニューの [リリースの検証] コマンドを使用すると、すべての必須フィールドへの入力完了しているかどうかを確認できます。

期限付き設計変更に関する特記事項

期限付き設計変更を完了する基本ステップは、以下のとおりです。

1. [対象アイテム] タブにアイテムを追加します。

137 ページの「[\[対象アイテム\] タブにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

既知の番号の入力によって追加しているとき、番号を入力するとき、スペースの後にリビジョンを入力できます。例:


1000-02 A
P003872 D

注意 保留中の変更を含むリリース済みアイテムを追加する場合、Agile PLM はアイテムに保留中の変更があるというメッセージを表示します。

2. [対象アイテム] タブの、Agile システムで定義されたリビジョン フィールドとカスタム フィールドを編集します。

150 ページの「[\[対象アイテム\] タブの行を編集する](#)」を参照してください。

注意 他のタブにも入力が必要な必須フィールドがあります。ワークフローの設定により、システムでのフィールドは異なります。

Java クライアントでは、オブジェクト ウィンドウ ツールバーの [リリースの検証] ボタン  を使用すると、すべての必須フィールドへの入力完了しているかどうかを確認できます。

Web クライアントでは、[アクション] メニューの [リリースの検証] コマンドを使用すると、すべての必須フィールドへの入力完了しているかどうかを確認できます。

出荷停止に関する特記事項

出荷停止を完了する基本ステップは、以下のとおりです。

1. [対象アイテム] タブにアイテムを追加します。

137 ページの「[\[対象アイテム\] タブにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

既知の番号の入力によって追加しているとき、番号を入力するとき、スペースの後にリビジョンを入力できます。例:


1000-02 A
P003872 D

注意 保留中の変更を含むリリース済みアイテムを追加する場合、Agile PLM はアイテムに保留中の変更があるというメッセージを表示します。

2. [対象アイテム] タブの、Agile システムで定義されたリビジョン フィールドとカスタム フィールドを編集します。

150 ページの「[\[対象アイテム\] タブの行を編集する](#)」を参照してください。

注意 他のタブにも入力が必要な必須フィールドがあります。ワークフローの設定により、システムでのフィールドは異なります。

Java クライアントでは、オブジェクト ウィンドウ ツールバーの [リリースの検証] ボタン  を使用すると、すべての必須フィールドへの入力完了しているかどうかを確認できます。


Web クライアントでは、[アクション] メニューの [リリースの検証] コマンドを使用すると、すべての必須フィールドへの入力完了しているかどうかを確認できます。


[対象アイテム] タブからアイテムを削除する

[対象アイテム] タブからアイテムを削除する場合、その変更で定義された保留中の変更リビジョンのアイテムの添付ファイルはすべて失われます。これは、リリースされていないアイテムや、一度変更されたアイテムなどを含め、すべての保留中リビジョンで適用されます。アイテムに保留ステータスの変更が 1 つだけある場合、その変更からアイテムを削除すると、アイテムは変更のないプレリナリ アイテムに戻り、最新の変更で追加された添付ファイルは失われます。


[対象アイテム] タブからアイテムを削除すると、その変更で作成されたアイテムのレッドラインはすべて削除および廃棄されます。その変更で作成された保留中リビジョンに追加された添付ファイルはすべて、アイテムから削除されます。Agile PLM では、レッドラインまたは添付ファイルを削除する前に警告が表示されます。アイテムの削除を完了するには、警告を受け入れてください。


Java クライアントで [対象アイテム] タブからアイテムを削除するには:

1. 必要に応じて、[表示] ドロップダウン リストの [拠点を表示] を選択してテーブルを展開し、アイテムに割り当てられた各拠点のアイテム行を表示します。
2. 削除するアイテムの行をクリックして選択します。(複数のアイテムを選択できます。)
3. [削除] ボタン  をクリックします。

注意 [対象アイテム] タブからアイテムを削除するには、[対象アイテム] タブの [削除] ボタンを使用してください。オブジェクト ウィンドウ ツールバー (Java クライアント) の [削除]  ボタンまたはオブジェクトの [アクション] メニューの削除コマンド (Web クライアント) を使用すると、変更全体が削除されます。

Web クライアントで [対象アイテム] タブからアイテムを削除するには:

1. 必要に応じて、[表示] ドロップダウン リストの [拠点を表示] を選択してテーブルを展開し、アイテムに割り当てられた各拠点の行を表示します。
2. 削除するアイテムのボックスをチェックします。(複数のアイテムを選択できます。)
3.  [削除] ボタンをクリックします。

注意 [対象アイテム] タブからアイテムを削除するには、[対象アイテム] タブの [削除] ボタンを使用してください。オブジェクト ウィンドウ ツールバー (Java クライアント) の [削除]  ボタンまたはオブジェクトの [アクション] メニューの削除コマンド (Web クライアント) を使用すると、変更全体が削除されます。

[対象アイテム] タブの行を編集する

特定の拠点に関連付けられた行などの、[対象アイテム] テーブルの行を編集することができます。また、行と行の間で情報をコピーして貼り付けることができます。


注意 MCO、ECR、期限付き設計変更、出荷停止からアイテムの説明を編集することはできません。アイテムの説明は、最新のリリース済み ECO から継承されます。

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [Java クライアントで \[対象アイテム\] タブの行を編集する](#) (150 ページ)
- [Web クライアントで \[対象アイテム\] タブの行を編集する](#) (152 ページ)

Java クライアントで [対象アイテム] タブの行を編集する



Java クライアントで対象アイテムの情報を編集するには:



1. 必要に応じて、[表示] ドロップダウン リストの [拠点を表示] を選択してテーブルを展開し、アイテムに割り当てられた各拠点の行を表示します。
2. 編集する行をクリックして選択します。複数の行を選択するには、Ctrl キーまたは Shift キーを押しながらクリックします。
3. [編集] ボタン  をクリックします。

[対象アイテムの編集] ダイアログ ボックスが表示されます。

4. 必要な変更を加えます。
5. 完了したら、[OK] をクリックします。


Java クライアントの [行を上方へコピー] ボタンおよび [行を下方へコピー] ボタン

1 つの列内でフィールドのグループを選択した場合、[行を上方へコピー] ボタン  を使用すると、選択したフィールドの中で最下部にあるフィールドの内容を、その上部に選択してあるすべてのフィールドにコピーできます。[行を下方へコピー] ボタン  を使用すると、選択したフィールドの中で最上部にあるフィールドの内容を、その下部に選択してあるすべてのフィールドにコピーできます。Ctrl キーを押しながらクリックすると、隣接していないフィールドを選択できます。Shift キーを押しながらクリックすると、隣接したフィールドを選択できます。

一度に複数の列で上方および下方へのコピーを実行できます。ある列のフィールドを選択した後に、Ctrl キー (隣接していない列の場合) や Shift キー (隣接した列の場合) を押しながらクリックして、複数の追加の列を選択できます。[行を上方へコピー] ボタン  は、各列で選択されているフィールドの中で最下部にあるフィールドの内容を、各列で選択されているすべてのフィールドにコピーします。[行を上方へコピー] ボタン  は、各列で選択されているフィールドの中で最上部にあるフィールドの内容を、各列で選択されているすべてのフィールドにコピーします。

注意 編集可能なすべてのテーブルでは、編集モードで [上方へコピー] および [下方へコピー] を使用できます。固有な識別子データまたは他の固有データを必要とする属性には、[上方へコピー] および [下方へコピー] 機能はありません。例として、[対象アイテム] タブの [アイテム番号]、[アイテム製造元] タブの [製造元名] と [製造元部品番号]、アイテムの [BOM] タブの [アイテム番号] と [見出し番号] があります。



Java クライアントで行と行の間で情報をコピーするには:

1. 必要に応じて、[表示] ドロップダウン リストの [拠点を表示] を選択してテーブルを展開し、アイテムに割り当てられた各拠点の行を表示します。
2. 編集する行をクリックして選択します。複数の行を選択するには、Ctrl キーまたは Shift キーを押しながらクリックします。
3. [編集] ボタン  をクリックします。
[対象アイテムの編集] ダイアログ ボックスが表示されます。

4. 入力するフィールドをクリックして選択します。Shift キーや Ctrl キーを押しながらクリックすると、入力する各列のフィールドを選択したり追加のカラムを選択したりすることができます。[行を上方へコピー] および [行を下方へコピー] アクションは、[対象アイテム] テーブル内の各列で選択されている (ハイライト表示されている) フィールドによって定義されます。

ソース行とターゲット行の両方をハイライトする必要があります。最上行または最下行はソース行です。

[対象アイテム] テーブルの最上行または最下行を編集する場合は、[行を上方へコピー] ボタンおよび [行を下方へコピー] ボタンを使用して、テーブル内の残りの行を完成させることもできます。

5. [行を上方へコピー]  または [行を下方へコピー]  ボタンをクリックして、選択した [対象アイテム] テーブルのフィールドに入力します。
6. 完了したら、[OK] をクリックします。

Web クライアントで [対象アイテム] タブの行を編集する



Web クライアントで対象アイテムの情報を編集するには:



1. 必要に応じて、[表示] ドロップダウン リストの [拠点を表示] を選択してテーブルを展開し、アイテムに割り当てられた各拠点の行を表示します。
2. 編集するアイテムの行を選択します。(複数のアイテム、および各アイテムに対して複数の拠点の行を選択できます。)
3. [編集] をクリックします。編集可能な列内に、テキスト ボックス、ドロップダウン リスト、カレンダー ボタンが表示されます。
4. 変更を加え、[保存] をクリックして変更を保存するか、または [キャンセル] をクリックして変更をキャンセルします。



Web クライアントの [行を上方へコピー] ボタンおよび [行を下方へコピー] ボタン

Web クライアントで行と行の間で情報をコピーするには:

1. 必要に応じて、[表示] ドロップダウン リストの [拠点を表示] を選択してテーブルを展開し、アイテムに割り当てられた各拠点の行を表示します。
2. 編集するアイテムの行を選択します。(複数のアイテム、および各アイテムに対して複数の拠点の行を選択できます。)
3. [編集] をクリックします。編集可能な列内に、テキスト ボックス、ドロップダウン リスト、カレンダー ボタンが表示されます。

[行を下方へコピー] と [行を上方へコピー] ボタン   のセットが、行間でコピーすることができる各フィールドのとなりに表示されます。

4. セル値のコピー先であるターゲット行を選択 (ハイライト) します。
5. [下方へコピー]  ボタンをクリックし、このセルのコンテンツをハイライトした行の現在のセルよりも下にある列のすべてのセルへコピーします。
6. [上方へコピー]  ボタンをクリックし、このセルのコンテンツをハイライトした行の現在のセルよりも上にある列のすべてのセルへコピーします。








注意 空のセルのとなりの [下方へコピー]  または [上方へコピー]  をクリックすると、現在のセルよりも下のセル (下方にコピー) または上のセル (上方へコピー) は消去されます。空のセルは上または下の列へコピーされます。

7. 対象アイテムの編集が完了したら、[保存] ボタンをクリックします。

Web クライアントのコピー/貼り付けボタン



Web クライアントで行と行の間で情報をコピーするには:

1. 必要に応じて、[表示] ドロップダウン リストの [拠点を表示] を選択してテーブルを展開し、アイテムに割り当てられた各拠点の行を表示します。
2. 編集するアイテムの行を選択します。(複数のアイテム、および各アイテムに対して複数の拠点の行を選択できます。)

3. [編集] をクリックします。編集可能な列内に、テキスト ボックス、ドロップダウン リスト、カレンダー ボタンが表示されます。
カラム ヘッダにはチェックボックスが付いたため、コピーまたは貼り付ける情報を指定できます。
4. 情報をコピーする行をクリックします。行の色が変わり、選択されていることを示します。(行の選択を解除するには、もう一度その行をクリックします)。
5.  [コピー] ボタンをクリックします。選択した行は、点線で輪郭が付けられます。これは、その行が情報をコピーしようとしている行であることを示します。
 [コピー] ボタン メニュー選択を使用することができます。  [コピー] ボタン メニューには次のメニュー コマンドがあります。
 - すべてのカラムを選択
 - すべてのカラムの選択を解除
 - コピーをキャンセル
6. 情報を貼り付ける行をクリックします。Shift または Ctrl キーと矢印キーを使用して、複数の行を選択できます。
7. データを貼り付けるカラムのチェックボックスを選択します。すべてのカラムの選択/選択解除を切り替えるには、 [コピー] ボタンをクリックし [すべてのカラムを選択] または [すべてのカラムの選択を解除] を選択します。
8. 情報を貼り付けるには、 [貼り付け] ボタンをクリックします。
9. 異なる行から情報を貼り付けるには、 [コピー] ボタンをクリックし [コピーをキャンセル] を選択します。これにより、コピー/貼り付けクリップボードがクリアされます。
コピー操作をキャンセルするには、 [コピー] ボタンをクリックし [コピーをキャンセル] を選択します。
10. 対象アイテムの編集が完了したら、[保存] ボタンをクリックします。

対象アイテムのレッドラインを表示する

Java クライアントでは、対象アイテムに BOM、AML または添付ファイルがある場合、[対象アイテム] テーブル内の該当する行をクリックすると、その [レッドライン] タブを表示することができます。選択したアイテムの [レッドライン] タブは、[対象アイテム] タブ内の下部に表示されます。

Web クライアントでは、対象アイテムに BOM、AML、または添付ファイルがある場合、[対象アイテム] テーブル内の該当する行で  ボタンまたは  ボタンをクリックすると、そのレッドラインのページを表示することができます。

- [BOM のレッドライン] タブの詳細は、104 ページの「[リリース済みアイテムの BOM をレッドラインする](#)」を参照してください。
- [製造元のレッドライン] タブの詳細は、69 ページの「[\[レッドライン\] タブから製造データを変更する](#)」を参照してください。
- [フォルダのレッドライン] タブの詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

製品レポートとプロセス レポートを使用 する

扱うトピックは次のとおりです。

■ Agile レポートについて	155
■ 製品レポートとプロセス レポートについて	155
■ Agile 製品レポート	157
■ Agile プロセス レポート	168

Agile レポートについて

レポートには、プロダクト レコードの値を表示することができます。レポートは、これらの情報を取り出して有意義な形にまとめることで、ビジネス プロセスに関するヒントを提供し、情報に基づく意思決定を促進します。Agile PLM の堅牢なレポート プラットフォームでは、次の処理を実行できます。

- ビジネスのパフォーマンスを、標準のデフォルト レポートを使用して評価し監視する。この標準レポートによって、製品ライフサイクル管理のビジネス プロセスにおける最善の処理が明らかになります。
- Agile のカスタム レポート機能を利用してレポートを設定し、自分のニーズに合った情報を取得する。
- Agile PLM アプリケーション以外で作成されたものも含め、すべての関連レポートを、Agile の外部レポート機能を利用して 1 箇所からアクセスする。

すべてのタイプ、または Agile レポートの使用の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」を参照してください。次の情報が含まれます。

- 役割と権限のレポートに対する影響
- レポート オブジェクト タブ
- レポート レイアウトの作成と変更
- カスタムおよび外部レポートの作成
- レポートの実行、スケジューリング、保存、削除
- レポート出力ウィンドウ

この章では、Agile Product Collaboration に含まれる Agile 標準レポートを説明しています。製品レポートとプロセス レポートについてです。

製品レポートとプロセス レポートについて

標準レポートには、ビジネス プロセスの解析に通常必要となる情報が提供されます。製品レポートとプロセス レポートは、Product Collaboration のデフォルトの標準レポートです。検索条件を選択し、結果として表示する項目を指定します。標準レポートはそのまま実行できますが、デフォルトのレイアウトを変更したり自分専用

のレイアウトを作成したりすることもできます。Agile 製品レポートおよびプロセス レポートは、Agile Web クライアントまたは Java クライアントから実行できます。

製品レポートとプロセス レポートにアクセスする

Java クライアントで製品レポートにアクセスするには:

1. 左のウィンドウの [分析とレポート] タブを選択し、レポート フォルダを表示します。
2. [標準レポート] フォルダを開き、[製品レポート] フォルダまたは [プロセス レポート] フォルダを見つけてみます。
3. [製品レポート] フォルダまたは [プロセス レポート] フォルダを開き、希望のレポートをダブルクリックします。Web クライアントが開き、選択したレポート ページを開きます。

Web クライアントで製品レポートにアクセスするには:

1. 左のウィンドウの [分析とレポート] タブを選択し、レポート フォルダを表示します。
2. [標準レポート] フォルダを開き、[製品レポート] フォルダまたは [プロセス レポート] フォルダを見つけてみます。
3. [製品レポート] フォルダまたは [プロセス レポート] フォルダを開き、希望のレポートをクリックします。レポート ページがナビゲーション ウィンドウに表示されます。

製品レポート

[製品レポート] フォルダには以下のレポートがあります。

- [アセンブリ コスト \(アイテム マスター\) レポート](#) (157 ページ)
- [BOM 比較レポート](#) (159 ページ)
- [BOM 展開レポート](#) (160 ページ)
- [統合 BOM レポート](#) (161 ページ)
- [有効な BOM 展開レポート](#) (163 ページ)
- [アイテムの状況レポート](#) (164 ページ)
- [アイテム製造元レポート](#) (164 ページ)
- [製造元 BOM レポート](#) (165 ページ)
- [使用箇所レポート](#) (167 ページ)

特定の製品レポートの詳細は、157 ページの「[Agile 製品レポート](#)」を参照してください。

プロセス レポート

[プロセス レポート] フォルダには以下のレポートがあります。

- [変更状況レポート](#) (168 ページ)
- [変更バックログ レポート](#) (169 ページ)
- [変更サイクル時間レポート](#) (171 ページ)
- [変更メトリックス レポート](#) (172 ページ)

□ [変更パッケージ レポート](#) (173 ページ)

□ [IP 転送レポート](#) (175 ページ)

特定の製品レポートの詳細は、168 ページの「[Agile プロセス レポート](#)」を参照してください。

Agile 製品レポート

ナビゲーション ウィンドウの [標準レポート] の下にある [製品レポート] フォルダには、Product Collaboration レポートが表示されます。

レポート	表示内容...
部品構成表 (BOM) レポート	
アセンブリ コスト (アイテム マスター) レポート (157 ページ)	アセンブリ コスト レポートは、指定されたアセンブリの部品構成表 (BOM) に基づいて、BOM と各サブアセンブリのコストを算出します。
BOM 比較レポート (159 ページ)	BOM 比較レポートは、2 つまたはそれ以上の部品構成表 (BOM) の比較結果を表示します。
BOM 展開レポート (160 ページ)	BOM 展開レポートは、指定されたアセンブリの部品構成表 (BOM) を、指定された階層まで表示します。
統合 BOM レポート (161 ページ)	統合 BOM レポートは、指定されたアセンブリの部品構成表 (BOM) を単階層の部品表にまとめ、各アイテムの合計数量を算出します。
有効な BOM 展開レポート (163 ページ)	有効な BOM 展開レポートは、ある一定期間中に有効な指定アセンブリの部品構成表 (BOM) を表示します。
アイテムの状況レポート (164 ページ)	アイテム状況レポートは、一定期間中に処理されたアイテムを表示します。
使用箇所レポート (167 ページ)	使用箇所レポートは、コンポーネントまたはサブアセンブリの使用箇所を、指定された階層まで表示します。
製造元レポート	
アイテム製造元レポート (164 ページ)	アイテム製造元レポートは、検索条件と一致するすべてのアイテムをリストで表示し、各アイテムの製造元を示します。(AML サーバ ライセンスが必要です。)
製造元 BOM レポート (165 ページ)	製造元 BOM レポートは、BOM 展開レポートを実行し、部品構成表 (BOM) の各アイテムの製造元を表示します。(AML サーバ ライセンスが必要です。)


アセンブリ コスト (アイテム マスター) レポート

このレポートでは、各コンポーネントとアセンブリのコストと数量が確認され、コストの合計を計算してコスト ロールアップが生成されます。このレポートには、BOM 展開レポートのデータに加えて、以下の 3 つの列も表示されます。


- 単品コスト
- 合計コスト

□ アセンブリ コスト

アセンブリ コスト レポートを実行するには

1. [製品レポート] フォルダにある [アセンブリ コスト レポート] を選択します。[アセンブリ コスト レポート] ページが表示されます。
2.  [実行] ボタンをクリックします。[レイアウトと環境設定の選択] ページが表示されます。希望するレイアウトをドロップダウン リストから選択するか、[レイアウト マネージャ] を使用して新しいレイアウトを作成します。レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。[次へ] をクリックします。
3. レポートに記載するアイテムを選択します。[追加] をクリックし、[アイテムの追加] ウィザードを開きます。アイテムは、[検索] または [詳細検索] を選択して検索できます。また、保存された検索やショートカットを使用することもできます ([マイ ブックマーク] リストや [最近訪れたところ] リスト)。[検索結果] ウィンドウで希望のアイテムを選択すると、[選択されたアイテム] リストにアイテムが表示されます。[OK] をクリックして、ウィザードを閉じます。
4. デフォルトでは、最近リリースされたアイテム リビジョンのほとんどは、レポート ウィザードの [レポート] ページの [選択されたアイテム] で選択されています。別のリビジョンを選択するには、テーブルの [リビジョン] 欄にあるドロップダウン リストを使用します。
5. アイテムの複数リビジョンを選択する場合、またはアイテムの拠点別リビジョンを選択する場合、次の手順で行います。
 - a. テーブルで 1 つのアイテムを選択し、[複数のリビジョンを選択] ボタンをクリックします。一度に展開できるアイテムは 1 つだけです。

注意 展開されていないアイテムは、[リビジョン] の欄にドロップ ダウン リストがあります。

- b. 表示されたダイアログ ボックスで、アイテム リビジョンを展開したい拠点を選択します。共通 BOM のリビジョンを展開するには、[すべての拠点] を選択します。[OK] をクリックします。
会社が [拠点] サーバ ライセンスを所有していない場合、このステップは省略されます。
 - c. [複数のリビジョンを選択] を完了すると、選択された各拠点に対するアイテムのすべてのリビジョンは、テーブルの個別の行に表示されます。たとえば、「インド」拠点に対して「リビジョン B」、「香港」拠点に対して「リビジョン B」と両方が表示されます。
会社が [拠点] サーバ ライセンスを所有していない場合、アイテムのすべてのリビジョンは表示され、各リビジョンはテーブルの個別の行に記載されます。
 - d. [レポートのアイテムを選択] テーブルに表示されたすべてのリビジョンを含めたくない場合は、不要な行を選択し、[削除] をクリックします。
 - e. リビジョンを展開するアイテムごとに、ステップ a からステップ d を繰り返します。
6. また、 ボタンをクリックし、アイテムのタイプをリストから選択して指定します。
 7. [コスト フィールド] および [オプション] ドロップダウン リストから値を選択します。選択肢には、[部品コストのみ]、[アセンブリ レベル コストのみ]、および [アセンブリ レベル コストとロールアップ コスト] があります。
 8. [完了] をクリックし、レポートを実行して表示します。

レポート レイアウト フィールド	説明
レベル	BOM レベル、たとえば 0、1、2、3。
単品コスト	レポート ウィザードの [コスト フィールド] で選択された部品コスト。

レポート レイアウト フィールド	説明
合計コスト	個別コスト * この行の合計数量 (数量)
アセンブリ コスト	アセンブリのコスト。
選択されたレイアウトで指定されたアイテム フィールド	レイアウトにより、レポートには選択されたアイテムの [タイトル ブロック]、[ユーザー定義 1] または [BOM] タブからの任意の属性を含むことができます。 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。


BOM 比較レポート

BOM (部品構成表) 比較レポートは、2 つまたはそれ以上の部品構成表 (BOM) の比較結果を表示します。このレポートでは、選択されたアイテムの第 1 レベルの BOM と、レポート内の他のアイテムの BOM が比較され、双方に共通しないコンポーネントが表示されます。

比較の結果、違いのあったアイテムのみがレポートにリスト表示されます。共通するコンポーネントはリストに表示されません。見出し番号と参照指示情報の違いを示すため、1 つのアイテムが複数回表示されることもあります。

BOM はアイテム番号ごと、または見出し番号ごとに比較できます。比較結果は、アイテム番号順または見出し番号順に並べられます。

BOM 比較レポートを実行するには

- [製品レポート] フォルダにある [BOM 比較レポート] を選択します。[BOM 比較レポート] ページが表示されます。
-  [実行] ボタンをクリックします。[レイアウトと環境設定の選択] ページが表示されます。希望するレイアウトをドロップダウン リストから選択するか、[レイアウト マネージャ] を使用して新しいレイアウトを作成します。レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。[次へ] をクリックします。
- レポートに記載するアイテムを選択します。[追加] をクリックし、[アイテムの追加] ウィザードを開きます。アイテムは、[検索] または [詳細検索] を選択して検索できます。また、保存された検索やショートカットを使用することもできます ([マイ ブックマーク] リストや [最近訪れたところ] リスト)。[検索結果] ウィンドウで希望のアイテムを選択すると、[選択されたアイテム] リストにアイテムが表示されます。[OK] をクリックして、ウィザードを閉じます。
- デフォルトでは、最近リリースされたアイテム リビジョンのほとんどは、レポート ウィザードの [レポート] ページの [選択されたアイテム] で選択されています。別のリビジョンを選択するには、テーブルの [リビジョン] 欄にあるドロップダウン リストを使用します。
- アイテムの複数リビジョンを選択する場合、またはアイテムの拠点別リビジョンを選択する場合、次の手順で行います。
 - テーブルで 1 つのアイテムを選択し、[複数のリビジョンを選択] ボタンをクリックします。一度に展開できるアイテムは 1 つだけです。


注意 展開されていないアイテムは、[リビジョン] の欄にドロップ ダウン リストがあります。

- 表示されたダイアログ ボックスで、アイテム リビジョンを展開したい拠点を選択します。共通 BOM のリビジョンを展開するには、[すべての拠点] を選択します。[OK] をクリックします。

会社が [拠点] サーバ ライセンスを所有していない場合、このステップは省略されます。

- c. [複数のリビジョンを選択] を完了すると、選択された各拠点に対するアイテムのすべてのリビジョンは、テーブルの個別の行に表示されます。たとえば、「インド」拠点に対して「リビジョン B」、「香港」拠点に対して「リビジョン B」と両方が表示されます。

会社が [拠点] サーバ ライセンスを所有していない場合、アイテムのすべてのリビジョンは表示され、各リビジョンはテーブルの個別の行に記載されます。


- d. [レポートのアイテムを選択] テーブルに表示されたすべてのリビジョンを含めたくない場合は、不要な行を選択し、[削除] をクリックします。
 - e. リビジョンを展開するアイテムごとに、ステップ a からステップ d を繰り返します。
6. レポートに記載するアイテム タイプを指定します。
デフォルトでは、すべてのアイテム タイプが選択されています。レポートにすべてのアイテム タイプを記載したい場合、このリストを変更する必要はありません。記載するアイテムを指定する場合は、 ボタンをクリックします。[選択された値] リストから、レポートに記載するアイテム タイプを [利用可能な値] リストへと移動します。完了したら、[OK] をクリックします。
 7. 比較するアイテムの照合に使用する属性を選択します。アイテム番号または見出し番号
 8. [完了] をクリックし、レポートを実行して表示します。

レポート レイアウト フィールド	説明
比較データ	レポートには、[レポートのアイテムを選択] ウィザード ページで選択された各アイテム リビジョンに対し、1 つの欄が含まれます。
選択されたレイアウトで指定されたアイテム フィールド	レイアウトにより、レポートには選択されたアイテムの [タイトル ブロック]、[ユーザー定義 1] または [BOM] タブからの任意の属性を含むことができます。 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。


BOM 展開レポート

BOM 展開レポートは、指定されたアセンブリの部品構成表 (BOM) のアイテムを、指定された階層まで表示します。

BOM 展開レポートを実行するには

1. [製品レポート] フォルダにある [BOM 展開レポート] を選択します。[BOM 比較レポート] ページが表示されます。
2.  [実行] ボタンをクリックします。[レイアウトと環境設定の選択] ページが表示されます。希望するレイアウトをドロップダウン リストから選択するか、[レイアウト マネージャ] を使用して新しいレイアウトを作成します。レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。[次へ] をクリックします。
3. レポートに記載するアイテムを選択します。[追加] をクリックし、[アイテムの追加] ウィザードを開きます。アイテムは、[検索] または [詳細検索] を選択して検索できます。また、保存された検索やショート

カットを使用することもできます ([マイ ブックマーク] リストや [最近訪れたところ] リスト)。[検索結果] ウィンドウで希望のアイテムを選択すると、[選択されたアイテム] リストにアイテムが表示されます。[OK] をクリックして、ウィザードを閉じます。


4. デフォルトでは、最近リリースされたアイテム リビジョンのほとんどは、レポート ウィザードの [レポート] ページの [選択されたアイテム] で選択されています。別のリビジョンを選択するには、テーブルの [リビジョン] 欄にあるドロップダウン リストを使用します。
 5. アイテムの複数リビジョンを選択する場合、またはアイテムの拠点別リビジョンを選択する場合、次の手順で行います。
 - a. テーブルで 1 つのアイテムを選択し、[複数のリビジョンを選択] ボタンをクリックします。一度に展開できるアイテムは 1 つだけです。
- 注意** 展開されていないアイテムは、[リビジョン] の欄にドロップ ダウン リストがあります。
- b. 表示されたダイアログ ボックスで、アイテム リビジョンを展開したい拠点を選択します。共通 BOM のリビジョンを展開するには、[すべての拠点] を選択します。[OK] をクリックします。
- 会社が [拠点] サーバ ライセンスを所有していない場合、このステップは省略されます。
- c. [複数のリビジョンを選択] を完了すると、選択された各拠点に対するアイテムのすべてのリビジョンは、テーブルの個別の行に表示されます。たとえば、「インド」拠点に対して「リビジョン B」、「香港」拠点に対して「リビジョン B」と両方が表示されます。
- 会社が [拠点] サーバ ライセンスを所有していない場合、アイテムのすべてのリビジョンは表示され、各リビジョンはテーブルの個別の行に記載されます。
- d. [レポートのアイテムを選択] テーブルに表示されたすべてのリビジョンを含めたくない場合は、不要な行を選択し、[削除] をクリックします。
 - e. リビジョンを展開するアイテムごとに、ステップ a からステップ d を繰り返します。
6. 対象とする BOM 階層の深さ (階層数) を指定します。また、 ボタンをクリックし、アイテムのタイプをリストから選択して指定します。
 7. [完了] をクリックし、レポートを実行して表示します。

レポート レイアウト フィールド	説明
レベル	BOM レベル、たとえば 0、1、2、3。
選択されたレイアウトで指定されたアイテム フィールド	レイアウトにより、レポートには選択されたアイテムの [タイトル ブロック]、[ユーザー定義 1] または [BOM] タブからの任意の属性を含むことができます。 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。


統合 BOM レポート

統合 BOM レポートは、指定されたアセンブリの部品構成表 (BOM) を単階層の部品表にまとめ、各アイテムの合計数量を算出します。このレポートには、指定したアセンブリのすべての部品の要約が、すべての階層について表示されます。また、アセンブリ全体での合計数量も表示されます。

統合 BOM レポートを実行するには

1. [製品レポート] フォルダにある [統合 BOM レポート] を選択します。[統合 BOM レポート] ページが表示されます。
2.  [実行] ボタンをクリックします。[レイアウトと環境設定の選択] ページが表示されます。希望するレイアウトをドロップダウン リストから選択するか、[レイアウト マネージャ] を使用して新しいレイアウトを作成します。レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。[次へ] をクリックします。
3. レポートに記載するアイテムを選択します。[追加] をクリックし、[アイテムの追加] ウィザードを開きます。アイテムは、[検索] または [詳細検索] を選択して検索できます。また、保存された検索やショートカットを使用することもできます ([マイ ブックマーク] リストや [最近訪れたところ] リスト)。[検索結果] ウィンドウで希望のアイテムを選択すると、[選択されたアイテム] リストにアイテムが表示されます。[OK] をクリックして、ウィザードを閉じます。
4. デフォルトでは、最近リリースされたアイテム リビジョンのほとんどは、レポート ウィザードの [レポート] ページの [選択されたアイテム] で選択されています。別のリビジョンを選択するには、テーブルの [リビジョン] 欄にあるドロップダウン リストを使用します。
5. アイテムの複数リビジョンを選択する場合、またはアイテムの拠点別リビジョンを選択する場合、次の手順で行います。
 - a. テーブルで 1 つのアイテムを選択し、[複数のリビジョンを選択] ボタンをクリックします。一度に展開できるアイテムは 1 つだけです。

注意 展開されていないアイテムは、[リビジョン] の欄にドロップ ダウン リストがあります。

- b. 表示されたダイアログ ボックスで、アイテム リビジョンを展開したい拠点を選択します。共通 BOM のリビジョンを展開するには、[OK] をクリックします。
会社が [拠点] サーバ ライセンスを所有していない場合、このステップは省略されます。
 - c. [複数のリビジョンを選択] を完了すると、選択された各拠点に対するアイテムのすべてのリビジョンは、テーブルの個別の行に表示されます。たとえば、「インド」拠点に対して「リビジョン B」、「香港」拠点に対して「リビジョン B」と両方が表示されます。
会社が [拠点] サーバ ライセンスを所有していない場合、アイテムのすべてのリビジョンは表示され、各リビジョンはテーブルの個別の行に記載されます。
 - d. [レポートのアイテムを選択] テーブルに表示されたすべてのリビジョンを含めたくない場合は、不要な行を選択し、[削除] をクリックします。
 - e. リビジョンを展開するアイテムごとに、ステップ a からステップ d を繰り返します。
6. 対象とする BOM 階層の深さ (階層数) を指定します。
レポートに記載するアイテム タイプを指定します。デフォルトでは、すべてのアイテム タイプが選択されています。レポートにすべてのアイテム タイプを記載したい場合、このリストを変更する必要はありません。記載するアイテムを指定する場合は、 ボタンをクリックします。[選択された値] リストから、レポートに記載するアイテム タイプを [利用可能な値] リストへと移動します。完了したら、[OK] をクリックします。
 7. [完了] をクリックし、レポートを実行して表示します。


レポート レイアウト フィールド	説明
合計数量	アセンブリ全体の各特定アイテムの合計数量 (BOM)


レポート レイアウト フィールド	説明
選択されたレイアウトで指定されたアイテム フィールド	レイアウトにより、レポートには選択されたアイテムの [タイトル ブロック]、[ユーザー定義 1] または [BOM] タブからの任意の属性を含むことができます。 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。

有効な BOM 展開レポート

有効な BOM 展開レポートでは、BOM に記載された部品のリビジョン リリース日に基づいてデータが表示されます。

有効な BOM 展開レポートを実行するには

- [製品レポート] フォルダにある [有効 BOM 比較レポート] を選択します。[有効 BOM 比較レポート] ページが表示されます。
-  [実行] ボタンをクリックします。[レイアウトと環境設定の選択] ページが表示されます。希望するレイアウトをドロップダウン リストから選択するか、[レイアウト マネージャ] を使用して新しいレイアウトを作成します。レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。[次へ] をクリックします。
- レポートに記載するアイテムを選択します。[追加] をクリックし、[アイテムの追加] ウィザードを開きます。アイテムは、[検索] または [詳細検索] を選択して検索できます。また、保存された検索やショートカットを使用することもできます ([マイ ブックマーク] リストや [最近訪れたところ] リスト)。[検索結果] ウィンドウで希望のアイテムを選択すると、[選択されたアイテム] リストにアイテムが表示されます。[OK] をクリックして、ウィザードを閉じます。
- 各行について、1 つの拠点、またはすべての拠点をドロップダウン リストから選択できます。[次へ] をクリックします。[階層とタイプの選択] ページが表示されます。
- 対象とする BOM 階層の深さ (階層数) を指定します。

レポートに記載するアイテム タイプを指定します。デフォルトでは、すべてのアイテム タイプが選択されています。レポートにすべてのアイテム タイプを記載したい場合、このリストを変更する必要はありません。記載するアイテムを指定する場合は、 ボタンをクリックします。[選択された値] リストから、レポートに記載するアイテム タイプを [利用可能な値] リストへと移動します。完了したら、[OK] をクリックします。

分類タイプを選択します。[BOM 構造の保持] または [分類アイテム タイプ] のいずれかを選択します。[次へ] をクリックします。
- [日付範囲の選択] ページで、開始日と終了日を選択します。

レポートには、開始日から終了日までの間にリリースされたすべての BOM コンポーネントが表示されます。
- [完了] をクリックし、レポートを実行して表示します。




デフォルトのフィールド	説明
レベル	BOM レベル、たとえば 0、1、2、3。

デフォルトのフィールド	説明
選択されたレイアウトで指定されたアイテム フィールド	<p>レイアウトにより、レポートには選択されたアイテムの [タイトル ブロック]、[ユーザー定義 1]、[変更] または [BOM] タブからの任意の属性を含むことができます。</p> <p>レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。</p>

アイテムの状況レポート

アイテム状況レポートは、一定期間中に処理されたアイテムを表示します。

アイテムの状況レポートを実行するには

1. [製品レポート] フォルダにある [アイテムの状況レポート] を選択します。[アイテムの状況レポート] ページが表示されます。
2.  [実行] ボタンをクリックします。[レイアウトと環境設定の選択] ページが表示されます。希望するレイアウトをドロップダウン リストから選択するか、[レイアウト マネージャ] を使用して新しいレイアウトを作成します。レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。[次へ] をクリックします。
3. 対象とする期間の開始日と終了日を指定します。[次へ] をクリックします。
4. [アイテム ライフサイクル フェーズ] フィールドの横にある  ボタンをクリックして、対象とするライフサイクルを選択します。[拠点] フィールドのとなりの  をクリックし、希望の拠点を選択します。
5. [完了] をクリックし、レポートを実行して表示します。



レポート レイアウト フィールド	説明
拠点	<p>リストされたアイテムに関連する拠点名です。</p> <p>リストされた拠点は、レポート ウィザードで選択された拠点により決定されます。</p>
選択されたレイアウトで指定されたアイテム フィールド	<p>レイアウトにより、レポートにはリストされたアイテムの [タイトル ブロック] または [ユーザー定義 1] タブからの任意の属性を含むことができます。</p> <p>レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。</p>

アイテム製造元レポート

アイテム製造元レポートは、検索条件と一致するすべてのアイテムをリストで表示し、各アイテムの製造元を示します。

アイテム製造元レポートを実行するには

1. [製品レポート] フォルダにある [アイテム製造元レポート] を選択します。[アイテム製造元レポート] ページが表示されます。


2.  [実行] ボタンをクリックします。[レイアウトと環境設定の選択] ページが表示されます。希望するレイアウトをドロップダウン リストから選択するか、[レイアウト マネージャ] を使用して新しいレイアウトを作成します。レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。[次へ] をクリックします。
3. リストまたはパーソナル検索のリストから検索条件を使用する場合は、[保存された検索] をクリックします。新しい検索条件を作成する場合は、[詳細検索] をクリックします。
4. [推奨ステータス]、[製造元部品ライフサイクル ステータス]、および [拠点] (オプション) フィールドの横にある  ボタンをクリックして、リストから値を選択します。
5. [完了] をクリックし、レポートを実行して表示します。



レポート レイアウト フィールド	説明
アイテム属性	
レポートにリストされた各アイテムについて、選択されたレイアウトで指定されたアイテム フィールド	レイアウトにより、レポートにはリストされたアイテムの [タイトル ブロック] または [ユーザー定義 1] タブからの任意の属性を含むことができます。 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。
製造元部品の属性	
リストされた各アイテムにおいて、製造元部品情報は選択されたレイアウトが示すとおりです。	レイアウトにより、各アイテムの製造元部品情報には、リストされたアイテムの [製造元] タブ、製造元部品の [一般情報] タブの属性、製造元の [一般情報] タブの属性などを含むことができます。 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。

製造元 BOM レポート

製造元 BOM レポートは、BOM 展開レポートを実行し、部品構成表 (BOM) の各アイテムの製造元を表示します。製造元データは、製造元のライフサイクル ステータスまたは製造元部品のライフサイクル ステータスでフィルタすることができます。

製造元 BOM レポートを実行するには

1. [製品レポート] フォルダにある [製造元 BOM レポート] を選択します。[製造元 BOM レポート] ページが表示されます。
2.  [実行] ボタンをクリックします。[レイアウトと環境設定の選択] ページが表示されます。希望するレイアウトをドロップダウン リストから選択するか、[レイアウト マネージャ] を使用して新しいレイアウトを作成します。レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。[次へ] をクリックします。
3. レポートに記載するアイテムを選択します。[追加] をクリックし、[アイテムの追加] ウィザードを開きます。アイテムは、[検索] または [詳細検索] を選択して検索できます。また、保存された検索やショートカットを使用することもできます ([マイ ブックマーク] リストや [最近訪れたところ] リスト)。[検索結果] ウィンドウで希望のアイテムを選択すると、[選択されたアイテム] リストにアイテムが表示されます。[OK] をクリックして、ウィザードを閉じます。

4. デフォルトでは、最近リリースされたアイテム リビジョンのほとんどは、レポート ウィザードの [レポート] ページの [選択されたアイテム] で選択されています。別のリビジョンを選択するには、テーブルの [リビジョン] 欄にあるドロップダウン リストを使用します。
 5. アイテムの複数リビジョンを選択する場合、またはアイテムの拠点別リビジョンを選択する場合、次の手順で行います。
 - a. テーブルで 1 つのアイテムを選択し、[複数のリビジョンを選択] ボタンをクリックします。一度に展開できるアイテムは 1 つだけです。
- 注意** 展開されていないアイテムは、[リビジョン] の欄にドロップ ダウン リストがあります。
- b. 表示されたダイアログ ボックスで、アイテム リビジョンを展開したい拠点を選択します。共通 BOM のリビジョンを展開するには、[すべての拠点] を選択します。[OK] をクリックします。
- 会社が [拠点] サーバ ライセンスを所有していない場合、このステップは省略されます。
- c. [複数のリビジョンを選択] を完了すると、選択された各拠点に対するアイテムのすべてのリビジョンは、テーブルの個別の行に表示されます。たとえば、「インド」拠点に対して「リビジョン B」、「香港」拠点に対して「リビジョン B」と両方が表示されます。
- 会社が [拠点] サーバ ライセンスを所有していない場合、アイテムのすべてのリビジョンは表示され、各リビジョンはテーブルの個別の行に記載されます。
- d. [レポートのアイテムを選択] テーブルに表示されたすべてのリビジョンを含めたくない場合は、不要な行を選択し、[削除] をクリックします。
 - e. リビジョンを展開するアイテムごとに、ステップ a からステップ d を繰り返します。
6. 対象とする BOM 階層の深さ (階層数) を指定します。また、 ボタンをクリックし、アイテムのタイプをリストから選択して指定します。
 7. [推奨ステータス]、[製造元部品ライフサイクル ステータス]、および [拠点] (表示された場合) フィールドの横にある  ボタンをクリックして、使用する値を選択します。
 8. [完了] をクリックし、レポートを実行して表示します。



レポート レイアウト フィールド	説明
アイテム属性	
レベル	BOM レベル、たとえば 0、1、2、3。
レポートにリストされた各アイテムについて、選択されたレイアウトで指定されたアイテム フィールド	<p>レイアウトにより、レポートにリストされたアイテムの [タイトル ブロック]、[ユーザー定義 1] または [BOM] タブからの任意の属性を含むことができます。</p> <p>レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。</p>
製造元部品の属性	
リストされた各アイテムにおいて、製造元部品情報は選択されたレイアウトが示すとおりです。	<p>レイアウトにより、各アイテムの製造元部品情報には、リストされたアイテムの [製造元] タブ、製造元部品の [一般情報] タブの属性、製造元の [一般情報] タブの属性などを含むことができます。</p> <p>レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。</p>

使用箇所レポート

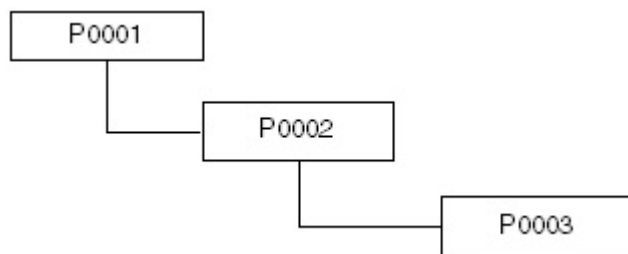
使用箇所レポートには、コンポーネントまたはサブアセンブリの使用箇所が、指定した階層まで表示されます。このレポートには、アセンブリの最上位階層、すべての階層、または中間の任意の階層を表示できます。

注意 レポートに記載されるアイテムは、指定したコンポーネントまたはサブアセンブリが、最新のリリース済みリビジョンの BOM に含まれているアイテムのみです。

使用箇所レポートを実行するには

1. [製品レポート] フォルダにある [使用箇所レポート] を選択します。[使用箇所レポート] ページが表示されます。
2.  [実行] ボタンをクリックします。[レイアウトと環境設定の選択] ページが表示されます。希望するレイアウトをドロップダウン リストから選択するか、[レイアウト マネージャ] を使用して新しいレイアウトを作成します。レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。[次へ] をクリックします。
3. レポートに記載するアイテムを選択します。[追加] をクリックし、[アイテムの追加] ウィザードを開きます。アイテムは、[検索] または [詳細検索] を選択して検索できます。また、保存された検索やショートカットを使用することもできます ([マイ ブックマーク] リストや [最近訪れたところ] リスト)。[検索結果] ウィンドウで希望のアイテムを選択すると、[選択されたアイテム] リストにアイテムが表示されます。[OK] をクリックして、ウィザードを閉じます。
4. 対象とする BOM 階層の深さ (階層数) を指定します。また、 ボタンをクリックし、アイテムのタイプをリストから選択して指定します。

[最終アイテムのみを対象] チェックボックスは、指定されたアイテムを含むアイテムが複数ある場合に、どのアイテムをレポートに記載するかを決定します。下図のアイテム P0003 に関する使用箇所レポートでは、チェックボックスをオンにすると P0001 のみが記載され、オフにすると P0001 と P0002 が記載されます。



5. [完了] をクリックし、レポートを実行して表示します。

デフォルトのフィールド	説明
レベル	BOM レベル、たとえば 0、1、2、3。

デフォルトのフィールド	説明
選択されたレイアウトで指定されたアイテム フィールド	<p>レイアウトにより、レポートにはリストされたアイテムの [タイトル ブロック]、[ユーザー定義 1] または [BOM] タブからの任意の属性を含むことができます。</p> <p>レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。</p>

Agile プロセス レポート

Agile プロセス レポートでは、変更と転送に関する情報が提供されます。ナビゲーション ウィンドウの [標準 レポート] の下にある [プロセス レポート] ノード フォルダには、以下のレポートが表示されます。


レポート	表示内容...
変更プロセス レポート	
変更状況レポート (168 ページ)	変更状況レポートは、一定期間中に処理された変更を表示します。
変更バックログ レポート (169 ページ)	変更バックログ レポートには、一定期間中に、指定ステータスから別の指定ステータスに移行しなかった変更の記録が表示されます。
変更サイクル時間レポート (171 ページ)	変更サイクル時間レポートでは、指定した変更が、指定した期間内に、あるステータスから別のステータスに移行する際に要した時間が計算されます。たとえば、この 1 年間に変更が「提出済み」から「リリース済み」に移行する際に要した平均時間が、月ごとに製品ライン別にまとめて表示されます。
変更メトリックス レポート (172 ページ)	変更メトリックス レポートには、指定期間中に指定ステータスに移行した変更の記録が表示されます。
変更パッケージ レポート (173 ページ)	変更パッケージ レポートには、変更に関する情報が見やすい形式で表示されます。
IP 転送レポート	
IP 転送レポート (175 ページ)	IP 転送レポートには、Agile 転送命令により指定された宛先に送られたオブジェクトと、その送信日時が表示されます。(Agile コンテンツ サービス サーバ ライセンスが必要です。)

変更状況レポート


変更状況レポートは、一定期間中に処理された変更を表示します。レポートに記載するワークフローを選択します (たとえば、[デフォルトの設計変更] または [すべての変更ワークフロー])。また、レポートに記載するステータス移行を選択します。たとえば、[デフォルトの設計変更] ワークフローと [リリース済み] ステータス タイプを選択した場合、レポートには [デフォルトの設計変更] ワークフローを使用したすべての設計変更、および特定期間中に [リリース済み] ステータス タイプに移行された設計変更がリストされます。

変更状況レポートを実行するには

1. [プロセス レポート] フォルダにある [変更状況レポート] を選択します。[変更状況レポート] ページが表示されます。

2.  [実行] ボタンをクリックします。[レイアウトと環境設定の選択] ページが表示されます。希望するレイアウトをドロップダウン リストから選択するか、[レイアウト マネージャ] を使用して新しいレイアウトを作成します。レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。[次へ] をクリックします。

注意 価格変更に対してこのレポートを実行するには、価格変更に適用できるレイアウトを選択します。(Agile が提供するデフォルトのレイアウトは、[変更用デフォルト レイアウト] と [PCO 用デフォルト レイアウト] です。)このレポートに対して新しいレイアウトを作成すると、[レイアウト タイプ] を選択できます。[変更] または [価格変更] のいずれかを選択します。新規レイアウトに対して選択する名前は、レイアウトが変更に応用されるか、価格変更に応用されるかを示すものにしてください。

3. 対象とする期間の開始日と終了日を指定します。[次へ] をクリックします。
4. ドロップダウン リストからワークフローを選択します。[ステータスの変更] フィールドの横にある  ボタンをクリックして、対象とするステータスを [利用可能な値] リストから選択します。

注意 [すべての選択ワークフロー] を選択した場合、ステータス タイプは [ステータス変更] 選択のダイアログ ボックスに表示されます。このため、ワークフローに適用するステータス タイプを選択することができます (たとえば、[リリース済み] ステータス タイプ)。ただし、特定のワークフロー (たとえば、[すべての設計変更]) を選択した場合、このワークフローに適用される特定のステータス名は、[ステータス変更] 選択ダイアログ ボックスに表示されます。


5. [完了] をクリックして、レポートを表示します。

レポート レイアウト フィールド	説明
メイン ヘッダの属性	
ステータス	ステータスは、ウィザードの [ステータス変更] での選択に基づいています。
ステータス日	選択されたステータスに変更が入力された日。
レポートにリストされた各変更について、選択されたレイアウトで指定された変更フィールド	<p>レイアウトにより、レポートにはリストされた変更の [カバー ページ] または [ユーザー定義 1] タブからの任意の属性を含むことができます。</p> <p>レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。</p>
[対象アイテム] の属性	
各変更オブジェクトのステータス移行の行で、選択されたレイアウトで指定されたとおりの、変更の [対象アイテム] タブからのアイテム情報	<p>レイアウトにより、レポートにはリストされた変更の [対象アイテム] タブからの任意の属性を含むことができます。</p> <p>レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。</p>

変更バックログ レポート

変更バックログ レポートには、一定期間中に、指定ステータスから別の指定ステータスに移行しなかった変更の記録が表示されます。

変更バックログ レポートを実行するには

1. [プロセス レポート] フォルダにある [変更バックログ] を選択します。[変更バックログ レポート] ページが表示されます。
2.  [実行] ボタンをクリックします。[レイアウトと環境設定の選択] ページが表示されます。希望するレイアウトをドロップダウン リストから選択するか、[レイアウト マネージャ] を使用して新しいレイアウトを作成します。レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。[次へ] をクリックします。

注意 価格変更に対してこのレポートを実行するには、価格変更に適用できるレイアウトを選択します。(Agile が提供するデフォルトのレイアウトは、[変更用デフォルト レイアウト] と [PCO 用デフォルト レイアウト] です。)このレポートに対して新しいレイアウトを作成すると、[レイアウト タイプ] を選択できます。[変更] または [価格変更] のいずれかを選択します。新規レイアウトに対して選択する名前は、レイアウトが変更に応用されるか、価格変更に応用されるかを示すものにしてください。

3. 利用可能な検索リストの検索条件を使用する場合は、[保存された検索] をクリックします。新しい検索条件を作成する場合は、[詳細検索] をクリックします。または、[すべての変更] を選択し、すべての変更を含めることもできます。[次へ] をクリックします。
4. レポートに関する他の設定を指定します。
 - 対象とする期間
 - ワークフロー
 - 開始ステータス (指定期間内にこのステータスにあったか、このステータスに移行した変更が含まれます) と、終了ステータス (指定期間内にこのステータスに移行していなかった変更が含まれます)

たとえば、開始ステータス = 「保留中」、終了ステータス = 「リリース済み」と選択した場合、レポートは特定された期間内に「保留中」ステータスにある、または「保留中」ステータスに移行した変更をカウントしますが、これらの変更は「リリース済み」ステータスには移行されません。これらの変更は、「提出」タイプまたは「レビュー」タイプのステータスの可能性があります。ワークフローを通して「リリース済み」ステータスへ移行されていません。

 - レポートで使用する時間単位
 - データをグループ化してトレンドを評価する方法

変更または価格変更を表示して空の列を除外するには、チェックボックスをオンにします。
5. [完了] をクリックして、レポートを表示します。


レポート レイアウト フィールド	説明
メイン ヘッダの属性	
提出日からの日数	「提出」タイプ ステータスに変更が入力されてからの日数
現在のステータスである日数	変更が現在のステータスになってからの日数
中断日	「中断」タイプ ステータスに変更が入力された日。
提出日	「提出」タイプ ステータスに変更が入力された日。

レポート レイアウト フィールド	説明
レポートにリストされた各変更について、選択されたレイアウトで指定された変更フィールド	レイアウトにより、レポートにはリストされた変更の [カバー ページ] または [ユーザー定義 1] タブからの任意の属性を含むことができます。 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。
[対象アイテム] の属性	
各変更オブジェクトのステータス移行の行で、選択されたレイアウトで指定されたとおりの、変更の [対象アイテム] タブからのアイテム情報	レイアウトにより、レポートにはリストされた変更の [対象アイテム] タブからの任意の属性を含むことができます。 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。

変更サイクル時間レポート

変更サイクル時間レポートでは、指定した変更が、指定した期間内に、あるステータスから別のステータスに移行する際に要した時間が計算されます。たとえば、この 1 年間に変更が「提出済み」から「リリース済み」に移行する際に要した平均時間 (日数) が、週ごとに製品ライン別にまとめて表示されます。

変更サイクル時間レポートを実行するには

- [プロセス レポート] フォルダにある [変更サイクル時間レポート] を選択します。[変更サイクル時間レポート] ページが表示されます。
-  [実行] ボタンをクリックします。[レイアウトと環境設定の選択] ページが表示されます。希望するレイアウトをドロップダウン リストから選択するか、[レイアウト マネージャ] を使用して新しいレイアウトを作成します。レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。[次へ] をクリックします。

注意 価格変更に対してこのレポートを実行するには、価格変更に適用できるレイアウトを選択します。(Agile が提供するデフォルトのレイアウトは、[変更用デフォルト レイアウト] と [PCO 用デフォルト レイアウト] です。)このレポートに対して新しいレイアウトを作成すると、[レイアウト タイプ] を選択できます。[変更] または [価格変更] のいずれかを選択します。新規レイアウトに対して選択する名前は、レイアウトが変更に適用されるか、価格変更に適用されるかを示すものにしてください。

- 利用可能な検索リストの検索条件を使用する場合は、[保存された検索] をクリックします。新しい検索条件を作成する場合は、[詳細検索] をクリックします。または、[すべての変更] を選択し、すべての変更を含めることもできます。[次へ] をクリックします。
- レポートに関する他の設定を指定します。
 - 対象とする期間
 - ワークフロー
 - 開始ステータス (指定期間内にこのステータスにあったか、このステータスに移行した変更が含まれます) と、終了ステータス (指定期間内にこのステータスに移行された変更が含まれます)
 - レポートで使用する時間単位
 - データをグループ化してトレンドを評価する方法

変更または価格変更を表示して空の列を除外するには、チェックボックスをオンにします。


5. [完了] をクリックして、レポートを表示します。

デフォルトのフィールド	説明
メイン ヘッダの属性	
提出日からの日数	「提出」タイプ ステータスに変更が入力されてからの日数
現在のステータスである日数	変更が現在のステータスになってからの日数
ステータス開始日	レポート ウィザードで選択された開始ステータスに変更が入力された日。
ステータス終了日	レポート ウィザードで選択された終了ステータスに変更が入力された日。
番号日	[ステータス開始日] と [ステータス終了日] の間の日数
レポートにリストされた各変更について、選択されたレイアウトで指定された変更フィールド	<p>レイアウトにより、レポートにはリストされた変更の [カバー ページ] または [ユーザー定義 1] タブからの任意の属性を含むことができます。</p> <p>レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。</p>
[対象アイテム] の属性	
各変更オブジェクトの行で、選択されたレイアウトで指定されたとおりの、変更の [対象アイテム] タブからのアイテム情報	<p>レイアウトにより、レポートにはリストされた変更の [対象アイテム] タブからの任意の属性を含むことができます。</p> <p>レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。</p>

変更メトリックス レポート

変更メトリックス レポートには、指定期間中に指定ステータスに移行した変更の記録が表示されます。

変更メトリックス レポートを実行するには

- [プロセス レポート] フォルダにある [変更メトリックス レポート] を選択します。[変更メトリックス レポート] ページが表示されます。
-  [実行] ボタンをクリックします。[レイアウトと環境設定の選択] ページが表示されます。希望するレイアウトをドロップダウン リストから選択するか、[レイアウト マネージャ] を使用して新しいレイアウトを作成します。レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。[次へ] をクリックします。

注意 価格変更に対してこのレポートを実行するには、価格変更に適用できるレイアウトを選択します。(Agile が提供するデフォルトのレイアウトは、[変更用デフォルト レイアウト] と [PCO 用デフォルト レイアウト] です。)このレポートに対して新しいレイアウトを作成すると、[レイアウト タイプ] を選択できます。[変更] または [価格変更] のいずれかを選択します。新規レイアウトに対して選択する名前は、レイアウトが変更に応用されるか、価格変更に応用されるかを示すものにしてください。

3. 利用可能な検索リストの検索条件を使用する場合は、[保存された検索] をクリックします。新しい検索条件を作成する場合は、[詳細検索] をクリックします。または、[すべての変更] を選択し、すべての変更を含めることもできます。[次へ] をクリックします。
4. レポートに関する他の設定を指定します。
 - 対象とする期間
 - ワークフロー
 - ステータスタイプ (ある一定期間中にこのステータスに移行した変更を含みます)
 - レポートで使用する時間単位
 - データをグループ化してトレンドを評価する方法


変更または価格変更を表示して空の列を除外するには、チェックボックスをオンにします。
5. [完了] をクリックして、レポートを表示します。

レポート レイアウト フィールド	説明
メイン ヘッダの属性	
日付	レポート ウィザードで選択したステータスに変更が入力された日。
レポートにリストされた各変更について、選択されたレイアウトで指定された変更フィールド	レイアウトにより、レポートにはリストされた変更の [カバー ページ] または [ユーザー定義 1] タブからの任意の属性を含むことができます。 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。
[対象アイテム] の属性	
各変更オブジェクトの行で、選択されたレイアウトで指定されたとおりの、変更の [対象アイテム] タブからのアイテム情報	レイアウトにより、レポートにはリストされた変更の [対象アイテム] タブからの任意の属性を含むことができます。 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。



変更パッケージ レポート

変更パッケージ レポートには、変更に関する情報が見やすい形式で表示されます。

変更パッケージ レポートを実行するには

1. [プロセス レポート] フォルダにある [変更パッケージ レポート] を選択します。[変更パッケージ レポート] ページが表示されます。
2.  [実行] ボタンをクリックします。[レイアウトと環境設定の選択] ページが表示されます。希望するレイアウトをドロップダウン リストから選択するか、[レイアウト マネージャ] を使用して新しいレイアウトを作成します。レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。[次へ] をクリックします。

注意 Agile PLM は、各変更タイプに対してデフォルトのレイアウトを用意しています。このレポートに対して新しいレイアウトを作成すると、[レイアウト タイプ] を選択できます。レイアウト タイプは、特定クラスのすべて変更に対して (たとえば、設計変更) 選択することもでき、または変更のサブクラスの特定タイプ (たとえば ECO) に対して設定することもできます。判別しやすいように、新しいレイアウトに対して選択する名前は、選択されたレイアウト タイプを表すようにしてください。

- レポートに記載するアイテムを選択します。[追加] をクリックし、[アイテムの追加] ウィザードを開きます。アイテムは、[検索] または [詳細検索] を選択して検索できます。また、保存された検索やショートカットを使用することもできます ([マイ ブックマーク] リストや [最近訪れたところ] リスト)。[検索結果] ウィンドウで希望のアイテムを選択すると、[選択されたアイテム] リストにアイテムが表示されます。[OK] をクリックして、ウィザードを閉じます。[次へ] をクリックします。
- [テーブル] フィールドの横にある  をクリックして、レポートに記載するテーブルを指定します。[拠点] フィールドの横にある  をクリックして、レポートに記載する拠点を指定します。
- [完了] をクリックして、レポートを表示します。

レポート レイアウト ページと フィールド	説明
カバー ページ 対象アイテム ワークフロー 添付ファイル 履歴	レポート レイアウトに含むことのできる変更オブジェクトのタブ。レイアウトにより、レポートには変更のタブからの任意の属性を含むことができます。 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章をご覧ください。 [すべての変更パッケージ] レイアウトには、次のタブを含むことができます。一部の変更タイプは、追加情報を含むこともできます (下記の説明を参照)。
対象アイテム.BOM	変更の対象アイテムの [BOM のレッドライン] タブで表示される BOM レッドラインをリストします。レイアウトにより、レポートにはこのタブからの任意の属性を含むことができます。 設計変更および拠点変更でのみ使用可能です。
対象アイテム.製造元	変更の対象アイテムの [製造元のレッドライン] タブで表示される製造元レッドラインをリストします。レイアウトにより、レポートにはこのタブからの任意の属性を含むことができます。 設計変更、拠点変更、および製造元依頼でのみ使用可能です。
対象アイテム.添付ファイル	変更の対象アイテムの [フォルダのレッドライン] タブで表示される添付ファイルをリストします。アイテムの保留中リビジョンに対する添付ファイルのリスト。レイアウトにより、レポートにはこのタブからの任意の属性を含むことができます。 設計変更にのみ使用できます。

IP 転送レポート

注意 Agile コンテンツ サービス (ACS) と転送依頼に関する情報は、『管理者ガイド』の ACS 設定に関する章と『ACS User Guide』をご覧ください。

このレポートには、転送依頼により指定された宛先に送られたオブジェクトと、その送信日時が表示されます。

このレポートの実行方法の詳細は、『ACS User Guide』の「転送依頼の操作」の章をご覧ください。

パワー ユーザーのためのヘルプ

扱うトピックは次のとおりです。

▪ [ディスカバリ] 権限と [読み取り] 権限の詳細について	177
▪ 部品とドキュメントの区別	178
▪ アイテムのサブクラスを変更する	179
▪ ワークフローの条件基準について	180
▪ BOM 上のリビジョン表示の詳細	182
▪ スマート オブジェクト URL を使用した Agile オブジェクトへの簡易アクセス	183

[ディスカバリ] 権限と [読み取り] 権限の詳細について

注意 ディスカバリ警告メッセージの詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。

[ディスカバリ] 権限によって、Agile 管理者は次のような方法でオブジェクトのディスカバリを制限することができます。

- あるグループのユーザーが検索できるオブジェクトを制限する。これらのオブジェクトは、検索条件を満たしていても、結果テーブルに表示されません。Agile 管理者は、検索結果ページの警告メッセージを表示するかどうかなを選択することができます。
- あるグループのユーザーが次のテーブルにあるオブジェクトを表示できないよう制限する。
- 対象アイテム
 - 使用箇所
 - 製造元
 - 変更
 - 拠点
 - ユーザーのアドレス帳

Agile 管理者は警告メッセージを表示するかどうかなを選択することができます。

- あるグループのユーザーが [BOM] タブにあるオブジェクトを表示できないよう制限する。Agile 管理者は警告メッセージを表示するかどうかなを選択することができます。[BOM] タブでは、Agile 管理者はアイテム番号だけを表示するか、アイテムの説明だけを表示するかを選択することもできます。これにより、ユーザーに完全な BOM が表示されますが、ディスカバリ権限のないアイテムへのアクセスは認められません。
- レポートの実行を制限する。

一連のユーザーは特定のオブジェクトまたはフィールドを表示できなくなりますが、ディスカバリ権限や読み取り権限設定の異なる他のユーザーはこれらのオブジェクトやフィールドを表示することができます。

オブジェクトの作成者は、そのオブジェクトに対するディスカバリ権限がなくても、常に作成したオブジェクトの読み取り、ディスカバリが可能です。

ディスカバリ権限と読み取り権限は Agile 管理者が割り当てます。ディスカバリ権限と読み取り権限について質問がある場合は、Agile 管理者に問い合わせてください。

表示不可能なフィールドを表示する

注意 Agile 管理者は、特定のフィールドの読み取りを制限する読み取り権限マスクを作成できます。フィールド レベルでの読み取り権限によって、フィールドレベルでの読み取り権限マスクを有効にするかどうかを決定します。フィールドレベルでの読み取り権限を含む役割を持っている場合、特定のフィールドの内容を表示できないことがあります。このセクションでは、表示できないフィールドを表示させる方法について説明します。詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。

フィールドについて適切な読み取り権限がない場合、フィールドに「権限がありません」と表示されます。

読み取りできないフィールドのコピーが別のオブジェクトやテーブルに表示された場合、そこにも「権限がありません」と表示されます。たとえば、変更の [説明] フィールドに対する読み取り権限がない場合に、変更がテーブルに記載されていると、テーブルの [説明] フィールドに「権限がありません」と表示されます。以下に、オブジェクトが記載されるテーブルの例を示します。

- 検索結果
- 変更履歴
- 製造元
- 使用箇所
- 対象アイテム
- 検証の結果

[BOM] テーブルについては、ディスカバリ不可能なアイテムの [BOM] テーブルでの表示方法を決定するスマートルールが読み取り不可能なフィールドにも適用されます。76 ページの [「Agile 管理者が管理する内容について」](#) を参照してください。

部品とドキュメントの区別

一般に、ドキュメントが製品の一部として出荷されるか製品に関連するコストがある場合、部品オブジェクトとして作成します。ドキュメントが社内の文書、手順、または参考資料である場合、ドキュメントはドキュメント オブジェクトとして作成します。

ただし、ドキュメントを部品として作成するほうが適している場合もあります。次の 3 つの例では、ドキュメントを部品オブジェクトとして作成する場合と、ドキュメント オブジェクトとして作成する場合を示します。

例 1: ドキュメントが部品を管理するドキュメントである (部品と同じ番号が付いている) 場合、部品オブジェクトとして作成します。

たとえば、設計図面番号 123 が部品番号 123 を規定、記述する (したがってドキュメントが部品を管理する) 場合、部品 123 を作成し、設計図面は添付ファイルとして追加します。

部品番号がドキュメント番号と同じでなければならない場合に、この方法を使用します。この場合、Agile PLM データベースにおいてドキュメントは個別のドキュメント オブジェクトとして存在しません。

前述の例に対し、図面番号と部品番号が同じでなくてもかまわない場合、ドキュメント オブジェクト (たとえばドキュメント番号 222) を作成し、設計図面をその [添付ファイル] タブに追加 (適切なファイル フォルダ オブジェクト内で設計図面を参照) します。さらに部品オブジェクト (たとえば部品 444) を作成します。ドキュメント 222 を部品 444 の [BOM] タブに追加し、数量に 0 または REF を入力します。0 を見出し番号として入力します。これにより、ドキュメント オブジェクトは [BOM] タブの一番上に表示され、参照しやすくなります。

例 2: ドキュメントに対して製品に関連するコストがある場合、または製品の一部として出荷される場合、部品オブジェクトとして作成します。

製品とともに出荷されるドキュメントの例としてマニュアルがあります。マニュアルには、バインダ、バインダのラベル、バインダのタブ、印刷ドキュメント自体が入った BOM が含まれる場合があります。

ドキュメントが製品とともに顧客に出荷される場合、BOM がなくても部品オブジェクトとして作成します。このようなドキュメントには、保証書、手順説明書、アセンブリ手順、印刷されたソフトウェア ライセンス契約書などがあります。

印刷コストなど、ドキュメント自体に関連するコストがある場合、部品オブジェクトとして作成します。ドキュメント部品を [BOM] タブに追加し、数量 1 を入力すると、ドキュメント部品オブジェクトのコストは、コストを計算するすべてのレポートに入ります。(レポート実行の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。)

例 3: ドキュメントについて以下の条件に該当する場合、ドキュメント オブジェクトとして作成します。

- ドキュメント番号を部品番号と同じにする必要がない。
- ドキュメントは製品の一部として出荷されない。
- ドキュメントに製品に関連するコストがない。

このようなドキュメントの例としては、製造プロセス (品質保証手順、試験手順、製造手順書) や参照資料 (仕様書または設計図面) があります。

社内のドキュメント オブジェクトはすべてドキュメントとして作成します。

注意 Agile PLM は柔軟性が高いため、ドキュメントを作成する際に必ずしもこれらの例で示されている方法を使用する必要はありません。ただし、ドキュメントを部品オブジェクトまたはドキュメントオブジェクトとして作成する際には、必ず社内の規約やガイドラインに従ってください。質問がある場合は、Agile 管理者にお問い合わせください。

ドキュメント オブジェクトを作成した後で部品オブジェクトに変更する場合、ドキュメント オブジェクト (適切な権限がある場合) をハード削除して、データベースから削除しアイテム番号を解放します。これで、同じアイテム番号を使用して、アイテムを部品オブジェクトとして作成することができます。詳細は、22 ページの「[Agile オブジェクトを削除する](#)」を参照してください。

アイテムのサブクラスを変更する

Agile 管理者が追加サブクラスを作成した場合、適切な権限があれば、アイテムのサブクラスを変更することができます。たとえば、あるドキュメントのサブクラスを含有基準からデータ シートに変更することができます。

注意 アイテムのサブクラスを変更すると、データ フィールドも変更され、[ユーザー定義 2] タブに関する以前の情報はクリアされます。

アイテムのサブクラスを変更するには:

1. 変更の [タイトル ブロック] タブで、[部品タイプ] ドロップダウン リストから新規サブクラスを選択します。
2. [ユーザー定義 2] が表示され、データがある場合、ユーザー定義 2 のデータがクリアされることを知らせる警告メッセージが表示されます。
 - [はい] (Java クライアント) または [OK] (Web クライアント) をクリックすると [ユーザー定義 2] のクリアを実行し、サブクラスの変更を続行します。
 - [いいえ] (Java クライアント) または [キャンセル] (Web クライアント) をクリックすると、サブクラスの変更プロセスがキャンセルされ、アイテムは変更されません。オブジェクト画面またはウィンドウで、[キャンセル] をクリックし、変更内容を破棄して編集モードを終了します。
3. Agile 管理者によって新規サブクラスに自動採番スキームが割り当てられている場合、Agile PLM では新規サブクラスに新規自動採番を選択するかを尋ねるメッセージが表示されます。
 - [はい] (Java クライアント) または [OK] (Web クライアント) をクリックすると、サブクラスは変更されますが、現在の番号は維持されます。

新規サブクラスに自動採番スキームが割り当てられていない、または自動採番が必要ない場合、プロセスは完了し、サブクラスが変更され、番号は変更されません。
 - [いいえ] (Java クライアント) または [キャンセル] (Web クライアント) をクリックすると、既存の番号を拒否します。手動で番号を選択または入力するには、オブジェクト ページまたはウィンドウの [保存] をクリックします。
4. 前述のステップで既存の番号を拒否した場合、手動で新しい番号を選択する必要があります。設定したシステムに基づき、以下のいずれかを実行します。
 - 新規サブクラスに 1 つの自動採番ソースが指定されている場合、[自動採番] ボタンをクリックし、新規番号を割り当てます。オブジェクト ウィンドウまたはページの [保存] をクリックし、プロセスを完了します。
 - 自動採番が不要な場合、番号を入力することができます。オブジェクト ウィンドウまたはページの [保存] をクリックし、プロセスを完了します。
 - 使用中のシステムに自動採番が必須で、新規サブクラスに対して複数の自動採番ソースが指定されている場合は、[自動採番] ボタンを使い、自動採番ソースの 1 つを選択します。オブジェクト ウィンドウまたはページの [保存] をクリックし、プロセスを完了します。

注意 アイテムが使用中の場合、アイテムがロックされていることを知らせるダイアログ ボックスが表示されることがあります。[OK] をクリックすると、サブクラスの変更プロセスがキャンセルされます。

5. Agile PLM では [番号] フィールドに新規番号が表示され、アイテムの [履歴] タブにイベントを入力します。

ワークフローの条件基準について

条件基準は、各変更で使用されるワークフローを検索するときに使用します。Agile PLM では、各変更とその有効なワークフロー リストが照合されます。

Agile 管理者が再利用の条件リストから条件基準を選択します。再利用の条件は、詳細検索のようなデータベース クエリです。再利用の条件は、Agile 管理者によって作成および定義されます。

再利用の条件の例は以下のとおりです。

- すべての MECO - MECO (機械系 ECO) であるすべての変更を検索します。
- Scorpio ECO - 変更の [製品ライン] フィールドに「Scorpio」を含むすべての ECO を検索します。
- Libra プロジェクト - [製品ライン] フィールドに「Libra」を含むアイテムが [対象アイテム] タブに存在するすべての変更を検索します。

各ワークフローに再利用の条件リストを指定することにより、Agile 管理者は特定のワークフローを使用できる変更を限定することができます。たとえば、Agile 管理者が「一般用」というワークフローを作成し、その条件基準として前述の 3 つの再利用の条件 (すべての MECO、Scorpio ECO、Libra プロジェクト) を選択したとします。

例 1: MECO (機械系 ECO) である変更を作成した場合、一般用ワークフローの条件基準の 1 つ (すべての MECO) に一致します。変更の [カバー ページ] タブの [ワークフロー] ドロップダウン リストに一般用ワークフローが表示されます。

例 2: ECO の [製品ライン] フィールドに「Scorpio」を含む ECO で変更を作成した場合、一般用ワークフローの条件基準の 1 つ (Scorpio ECO) に一致します。変更の [カバー ページ] タブの [ワークフロー] ドロップダウン リストに一般用ワークフローが表示されます。

例 3: 変更を作成し、[製品ライン] フィールドに「Libra」を含むアイテムを [対象アイテム] タブに追加した場合、Agile PLM では各対象アイテムの [対象アイテム] タブにある [製品ライン] フィールドを確認します。ワークフローの条件基準タイプ設定に応じて、変更の [カバー ページ] タブの [ワークフロー] ドロップダウン リストに一般用ワークフローが表示されます。

- 一部 - 1 つまたは複数 (すべてではない) の対象アイテムが対象アイテムに基づいた再利用の条件 (この場合 Libra プロジェクト) に一致する必要があります。
- すべて - 検索条件として複数の対象アイテム ベースの再利用の条件を使用する場合、各対象アイテムは少なくとも 1 つの再利用の条件に一致する必要があります。ただし、各対象アイテムが対応する再利用の条件に一致する必要はありません。
- 同一 - すべての対象アイテムが対象アイテムに基づいた再利用の条件 (この場合 Libra プロジェクト) に一致する必要があります。

注意 [対象アイテム] タブにアイテムを追加し、変更のタブのフィールドにデータを入力する際、[カバー ページ] タブの [ワークフロー] ドロップダウン リストは、そのときに適用される条件基準によって異なります。ワークフローの条件基準について質問がある場合は、システム管理者にお問い合わせください。

Java クライアントで変更オブジェクトを編集する場合、[更新] ボタンをクリックして変更オブジェクトを保存および更新すると、[ワークフロー] ドロップダウン リストにワークフローの正しいリストが表示されます。

Web クライアントで [カバー ページ] タブを編集する場合、[検証] ボタンをクリックして変更オブジェクトを保存して更新すると、[ワークフロー] ドロップダウン リストにワークフローの正しいリストが表示されます。

検索条件タイプ設定は、ワークフローの各ステータスにも適用されます。ワークフローと条件基準タイプの詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。

BOM 上のリビジョン表示の詳細

Agile PLM は、親アイテムのリリース日 (すでにリリースされている場合) を確認し、その日付以前の子アイテムの最新リビジョンを検索して分析することにより、BOM テーブルの [リビジョン] フィールドに表示されるリビジョン番号 (または文字) を算出します。親アイテムがリリースされていない場合、子アイテムの最新のリビジョンが検索されます。

子アイテムのリビジョンは、次の 3 つの基準に従って分析されます。

- ライフサイクル フェーズ (プレリミナリまたはその他)
- 子アイテムのリリース済みリビジョンがあるかどうか
- 子アイテムのリリース済みリビジョンがないかどうか

注意 Agile PLM では、アイテムのリリース済みバージョンがない場合 (アイテムがリリースされなかった場合)、未リリースアイテムの保留中リビジョンがあるかどうかにかかわらず、初版リビジョンが最新リビジョンと考えられます。13 ページの「[初版リビジョン](#)」を参照してください。


選択した親アイテムのリビジョンによって、表示される子アイテムのリビジョンは最新リビジョンである場合とない場合があります。以下に子アイテムのどのリビジョンが表示されるかを説明します。

- 親アイテムのリビジョンが最新の場合、子アイテムの最新リビジョンが表示されます。つまり、親アイテムの BOM には、親アイテムのリビジョンのリリース以降に子アイテムに加えられた変更が反映されます。これは、親アイテムの次のリビジョンがリリースされるまで継続します。
- 親アイテムリビジョンが以前のリビジョンの場合、表示される子アイテムのリビジョンは、親アイテムの次のリビジョンの直前の時点における最新バージョンとなります。
- 各子アイテムについて、表示されるリビジョンに該当するライフサイクル フェーズが表示されます。

親リビジョンのリリースとしてのリビジョン番号がない場合、子アイテムの [リビジョン] フィールドが空白になっていることがあります。これには以下の原因が考えられます。

- 子アイテムが現時点までにリリースされていない場合、最新の親リビジョンを表示している場合、または
- 次の親バージョンまでの間にリリースされていない場合、過去の親アイテムリビジョンを表示している場合。

注意 子アイテムが未リリースかリリース済みかによって、親アイテムの BOM に表示される子アイテムのリビジョンが異なることに注意してください。

注意 子アイテムの保留中リビジョンは、親アイテム BOM テーブルに表示されません。ただし、保留変更を持つすべての子アイテムは、[BOM] テーブルの親アイテムの行で、 アイコンで表示されます。

表示されたリビジョンに関連する設計変更 (ECO) または製造元変更 (MCO) 番号は、BOM テーブルの [アイテム リビジョン] 列に表示されます。ECO 番号は、表示されたリビジョンをリリースした ECO です。MCO 番号は、もとなつたリビジョンとともに表示されます。

拠点毎変更 (SCO) は ECO リリース済みリビジョンに基づいており、BOM テーブルに表示されるリビジョンには SCO で定義された内容を含めることができますが、SCO 番号は BOM テーブルには表示されません。

アイテム リビジョンの詳細は、12 ページの「[アイテムのリビジョンを処理する](#)」を参照してください。

スマート オブジェクト URL を使用した Agile オブジェクトへの簡易アクセス

Agile オブジェクトまたは Agile 添付ファイルへのポインタとなる簡易アクセス URL を生成できます。

これらの簡易アクセス URL を他のアプリケーションまたはファイル (表計算ファイル、Word ファイル、会社のイントラネット Web ページまたは WIKI ページ、あるいは電子メール) に貼り付けることができます。

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- [Agile 生成の簡易アクセス オブジェクト URL](#) (183 ページ)
- [ユーザー生成スマート オブジェクト URL のフォーマット](#) (183 ページ)
- [簡易アクセス オブジェクト URL を使用する](#) (184 ページ)

簡易アクセス URL を使用した添付ファイルへの簡易アクセスの詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

Agile 生成の簡易アクセス オブジェクト URL

Web クライアントで、Web クライアントの [アクション] メニューから Agile PLM オブジェクトへの簡易アクセス URL を生成できます。

Agile PLM オブジェクトへの簡易アクセス URL を生成するには:

1. Agile PLM の Web クライアントにログインして、目的のオブジェクトを開きます。
2. [アクション] メニューで [URL をクリップボードにコピー] を選択します。
3. URL がクリップボードにコピーされます。URL を他のアプリケーションまたはファイル (Word ファイル、表計算ファイル、電子メールなど) に貼り付けることができます。

ユーザー生成スマート オブジェクト URL のフォーマット

Agile のスマート オブジェクト URL 機能は、電子メール、表計算、文書、WIKIなどを介した有効なコラボレーションを可能にするように設計されています。ユーザーが手動で、または自動ツールにより、Agile の特定オブジェクトにポイントする読み取り可能な URL を生成できます。次のフォーマットを使用すると、Agile にログインせずにオブジェクトの URL を生成できます。自動ツールでも、このフォーマットを使用してオブジェクトの URL を生成できます。

スマート オブジェクト URL は Web クライアントから使用可能なオブジェクトに使用できます。

スマート オブジェクト URL のフォーマット

Agile オブジェクトにポイントする URL は、次のフォーマットを使用します。

<http://server:port/VirtualPath/object/ObjectType/ObjectName>

次の表で、スマート オブジェクト URL のパラメータを定義します。

パラメータ	説明
<a href="http://server:port/<VirtualPath>/object/<ObjectType>/<ObjectName>">http://server:port/<VirtualPath>/object/<ObjectType>/<ObjectName>	
server port VirtualPath	Server、port および VirtualPath は Agile PLM インスタンスを識別します。
object	テキスト "object" は URL がオブジェクト URL であることを示します。
ObjectType	ObjectType は、ECO、部品、製造元、ファイル フォルダ、プログラム、操作、ディスカッションなど、オブジェクトのサブクラス (タイプ) を指します。
ObjectName	<p>ObjectName はオブジェクトの固有な識別子を指します。オブジェクト クラスにより、固有な識別子はオブジェクト番号または名前になります。</p> <p>注意 製造元部品は、製造元名と製造元部品番号の 2 つのパラメータによって固有に識別されるオブジェクトの特別なクラスです。このため、特定の製造元部品を指す URL は次のフォーマットを使用します。</p> <p>http://server:port/VirtualPath/object/ObjectType/MfrName/MfrPart Number</p>

Agile PLM は URL に追加されている特殊タグ (%20 など) を識別および処理して、オブジェクトの固有な識別子の特殊文字 (空白およびアスタリスク "*" などその他の特殊文字) を処理します。たとえば、次の URL は、

<http://server:port/VirtualPath/object/Manufacturer/Philips%20Semiconductor>

製造元 "Philips Semiconductor" として解決されます。

簡易アクセス オブジェクト URL を使用する

ユーザーが簡易アクセス オブジェクト URL をクリックする場合、URL が Agile 生成簡易アクセス URL またはユーザー生成スマート オブジェクト URL のどちらであっても、ユーザーの操作は同じです。

1. ユーザーが URL をクリックすると、Agile PLM ログイン画面がブラウザに表示されます。
2. ユーザーはログイン情報を入力します。
3. ログインに成功すると、リンクで指定されたオブジェクトが検索されます。

(オブジェクトが見つからない場合、エラーが表示され、ユーザーのホーム ページに戻ります。)

オブジェクトが見つかった場合、ユーザーにオブジェクトの読み取り権限があるかどうかを確認され、[タイトル ページ] などオブジェクトの最初のタブが表示されます。